

Oracle® Hyperion Profitability and Cost Management

Administrator's Guide

リリース 11.1.2.4

著作権情報

Oracle® Hyperion Profitability and Cost Management Administrator's Guide, 11.1.2.4

Copyright © 2008, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

著者: EPM 情報開発チーム

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS:

Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

ドキュメントのアクセシビリティについて	9
ドキュメントのフィードバック	10
第I項. Profitability and Cost Managementの概要	11
第1章. 概要	13
Profitability and Cost Managementのアクセシビリティ	14
Profitabilityタイプ	14
追加の製品コンポーネント	16
管理タスク	16
Profitability and Cost Managementの起動	17
第2章. セキュリティの管理およびユーザーの認可	19
ユーザーの設定およびプロビジョニングについて	19
セキュリティの役割の割当て	20
Profitability and Cost Managementの変更点の監査	29
出力ログ・ファイル	32
Oracle Diagnostic Logging (ODL)ファイル	33
第II項. 標準Profitabilityアプリケーションの操作	35
第3章. 標準Profitabilityについて	37
標準Profitabilityの製品アーキテクチャの理解	37
標準Profitabilityでのデータベースの操作	38
第4章. Profitability and Cost Managementの標準的なディメンションおよびメンバーの操 作	41
標準的なProfitabilityのディメンションとメタデータについて	41
ディメンション・タイプ	43
メジャー・ディメンション	43
AllocationTypeディメンション	52
別名ディメンション	53
ビジネス・ディメンション	55
POVディメンション	56
属性ディメンション	56
ディメンション・ソート順および密度の設定	57
第5章. Performance Management Architectを使用した標準Profitabilityアプリケーシ ョンおよびディメンションの管理	61
標準Profitabilityアプリケーションおよびディメンションの操作	61
Essbaseのディメンション設定の最適化	62
メタデータのインポート	63
Profitability and Cost Managementのディメンション・プロパティおよびメンバー・プロパティ	64
階層タイプ・プロパティの設定	70

標準Profitabilityアプリケーションの作成	71
標準Profitabilityのディメンションの選択	72
標準Profitabilityアプリケーションの設定の変更	77
Performance Management Architectでの標準Profitabilityアプリケーションの検証とデプロイ	82
データの同期	86
第6章. 標準Profitabilityのインポート・ステージング表	87
インポート・ステージング表の使用	87
標準Profitabilityのインポート・データベース表の作成	88
HPM_STG_STAGE	88
HPM_STG_POV	89
HPM_STG_DRIVER	91
HPM_STG_DRIVER_SEL	94
HPM_STG_DRIVER_EXCEP	96
HPM_STG_ASSIGNMENT	97
HPM_STG_ASGN_RULE_SEL	99
第7章. 標準Profitabilityのモデル定義データのエクスポート	103
HPM_EXP_STAGE	103
HPM_EXP_POV	104
HPM_EXP_DRIVER	105
HPM_EXP_DRIVER_SEL	107
HPM_EXP_DRIVER_EXCEP	108
HPM_EXP_ASSIGNMENT	109
HPM_EXP_ASGN_RULE_SEL	111
第III項. 詳細Profitabilityアプリケーションの操作	113
第8章. 詳細Profitabilityの製品アーキテクチャの理解	115
第9章. 詳細Profitabilityデータベースの操作	117
第10章. 製品スキーマ	119
第11章. 詳細Profitabilityのモデル・データ・スキーマ	121
製品スキーマへのモデル・データ・スキーマ表権限の付与	121
モデル・データ・スキーマの表構造要件	122
データベース・ビューの登録	122
第12章. 詳細Profitability and Cost Managementのディメンションとメタデータの操作	125
詳細Profitabilityのディメンションとメタデータについて	125
詳細Profitabilityのディメンション・タイプ	126
別名ディメンション	127
ビジネス・ディメンション	128
POVディメンション	129
属性ディメンション	130
ディメンション・ソート順および密度の設定	130

第13章. Performance Management Architectを使用した詳細Profitabilityアプリケーションおよびディメンションの管理	133
アプリケーションおよびディメンションの操作	133
Essbaseの詳細Profitabilityディメンション設定の最適化	134
詳細Profitabilityのメタデータのインポート	135
詳細Profitability and Cost Managementのディメンション・プロパティおよびメンバー・プロパティ	136
詳細Profitabilityアプリケーションの作成	141
Performance Management Architectでの詳細Profitabilityアプリケーションの検証とデプロイ	151
第14章. 詳細Profitabilityの計算	157
計算前および計算後のカスタム・スクリプト	157
データ転送を行うためのODBCデータ・ソースの作成	160
高度な計算オプション	160
その他のプロセス・タイプ	161
第15章. 詳細Profitabilityのステージング表のインポート	163
詳細Profitabilityのインポート・データベース表の作成	164
HPM_STGD_POV	164
HPM_STGD_DRIVER	165
HPM_STGD_DRIVER_SEL	167
HPM_STGD_DRIVER_EXCEP	168
HPM_STGD_ASGN_RULE_SEL	169
HPM_STGD_CALCRLU_SNGLSRC	171
HPM_STGD_CALCRLU_CALCMSRS	173
HPM_STGD_CALCRLU_MULTISRC	175
第16章. 詳細Profitabilityのモデル定義データのエクスポート	179
HPM_EXPD_STAGE	179
HPM_EXPD_POV	181
HPM_EXPD_DRIVER	182
HPM_EXPD_DRIVER_SEL	184
HPM_EXPD_DRIVER_EXCEP	184
HPM_EXPD_ASGN_RUL_SEL	185
HPM_EXPD_CALCRLU_SNGLSRC	186
HPM_EXPD_CALCRLU_CALCMSRS	187
HPM_EXPD_CALCRLU_MULTISRC	189
詳細Profitabilityアプリケーションの統計の生成	190
第IV項. 管理元帳アプリケーションの操作	193
第17章. 管理元帳Profitabilityアプリケーションのアーキテクチャの理解	195
管理元帳のアーキテクチャについて	195
第18章. 管理元帳のディメンションの理解	197
管理元帳のディメンションについて	197

管理元帳のシステム・ディメンション	198
ビジネス・ディメンション	200
POVディメンション	201
属性ディメンション	202
別名ディメンション	202
ディメンション・ソート順および密度の設定	204
第19章. その他のアプリケーション管理タスクの実行	207
Performance Management Architectによる管理元帳Profitabilityアプリケーションの管理	207
ウィザードを使用した管理元帳アプリケーションの検証とデプロイ	214
第V項. 付録	215
付録A. インストール後の最初のProfitability and Cost Managementアプリケーションの作成	217
最初のアプリケーションの作成について	217
最初のアプリケーションを作成する手順	217
付録B. Profitabilityアプリケーション機能を使用したProfitability and Cost Managementアプリケーションの作成	221
Profitability and Cost ManagementのためのEssbaseマスター・アプリケーションの作成	222
Essbaseマスター・アプリケーションの構築	229
Essbaseマスター・アプリケーションからのProfitability and Cost Managementアプリケーションの作成	230
アプリケーションの編集	232
アプリケーションの再登録	233
アプリケーションの複製	234
ディメンションの更新	234
アプリケーションの削除	236
「ジョブ・ライブラリ」のタスクの表示	236
付録C. Profitability and Cost Managementへのデータのインポート	239
ステージング表について	239
インポート構成の作成	240
インポート構成の変更	243
インポート構成の削除	243
インポート構成の実行	244
インポートしたデータの確認	244
付録D. EPM Systemライフサイクル管理を使用したデータの移行	247
ライフサイクル管理について	247
ライフサイクル管理に対するデフォルトのタイムアウト設定の変更	248
付録E. Profitability and Cost Managementコンポーネントのバックアップ	251
付録F. Essbase命名規則	253
生成された計算スクリプトの命名規則	253

アプリケーションとデータベースのEssbase命名規則	254
ディメンション、メンバーおよび別名のEssbase命名規則	255
属性計算ディメンションのEssbase命名規則	258

ドキュメントのアクセシビリティについて

Oracleのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility ProgramのWeb サイト <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc> を参照してください。

Access to Oracle Support

Oracleサポート・サービスでは、My Oracle Supportを通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> か、聴覚に障害のあるお客様は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> を参照してください。

ドキュメントのフィードバック

このドキュメントへのフィードバックをお送りください: epmdoc_ww@oracle.com

次のソーシャル・メディア・サイトでEPM情報開発をフォローできます:

LinkedIn - http://www.linkedin.com/groups?gid=3127051&goback=.gmp_3127051

Twitter - <http://twitter.com/hyperionepminfo>

Facebook - <http://www.facebook.com/pages/Hyperion-EPM-Info/102682103112642>

Google+ - <https://plus.google.com/106915048672979407731/#106915048672979407731/posts>

YouTube - <http://www.youtube.com/user/OracleEPMWebcasts>

パート I

Profitability and Cost Managementの概要

目次

ドキュメントのアクセシビリティについて	9
ドキュメントのフィードバック	10
1. 概要	13
2. セキュリティの管理およびユーザーの認可	19

1

概要

この項の内容:

Profitability and Cost Managementのアクセシビリティ	14
Profitabilityタイプ	14
追加の製品コンポーネント	16
管理タスク	16
Profitability and Cost Managementの起動	17

Oracle Hyperion Profitability and Cost Managementは、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspaceからアクセスする分析アプリケーションで、費用分解、消費ベースの費用計算およびシナリオ再生を使用することにより、コストと収益を正確に測定、配賦および管理し、事業区分の収益性を計算し、収益性を測定するために使用します。

Profitability and Cost Managementは、EPM Workspaceの一部であり、様々なコンポーネントを使用してアプリケーションを構築および管理します:

- EPM Workspaceを使用して、Profitability and Cost Managementにアクセスし、アプリケーションを構築するための他のコンポーネントを管理し、セキュリティおよび製品レポートを制御します。Profitabilityアプリケーションのタイプについては、[14ページのProfitabilityタイプ](#)を参照してください。
- Oracle Hyperion Shared Servicesを使用して、ユーザー・アカウントを作成および管理します。これには、ユーザーがアクセスできるモデルを決定するセキュリティの役割の定義が含まれます。
- Oracle Hyperion EPM ArchitectおよびProfitabilityアプリケーションを使用して、Profitability and Cost Managementで使用される共有ディメンション、ローカル・ディメンションおよびメンバーを構築して管理します。ディメンション・ライブラリを介して、Oracle Hyperion Planningなどの他のアプリケーションにすでに存在する共有ディメンションおよび共有メンバーを使用してアプリケーションを構築できます。

Performance Management Architectを使用することにより、ディメンションはアプリケーション内に共有またはローカルとして存在できます:

- 共有ディメンションは、Performance Management Architectの共有ライブラリ内に存在し、複数のアプリケーションで使用できます。
- ローカル・ディメンションは、Profitability and Cost Managementなどの1つのアプリケーション内にのみ存在する、分離された独立ディメンションです。これらのディメンションは、これらが作成されているアプリケーションに対してのみ使用されます。

このガイドでは、モデルのアプリケーションとディメンションを管理するためにPerformance Management Architectを使用すると仮定します。ただし、Performance Management Architectを使用するかわりに、Profitabilityアプリケーションを使用できます([221ページの付録B「Profitabilityアプリケーション機能を使用したProfitability and Cost Managementアプリケーションの作成」](#))。

- Oracle Essbaseまたはリレーショナル・データベースを使用して、アプリケーション・アウトラインを作成し、計算スクリプトを格納および実行します。
- Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Systemライフサイクル管理を使用して、製品環境およびオペレーティング・システム間でアプリケーション、マルチディメンショナル・データベース、リポジットまたは個別アーチファクトを移行します。
- Oracle Hyperion Reporting and Analysis, Oracle Hyperion Financial Reporting, Oracle Hyperion Web Analysis、またはMicrosoft Excelなどのサードパーティの製品を使用して、計算結果のレポートを作成します。

Profitability and Cost Managementのアクセシビリティ

Profitability and Cost Managementには、主要な機能を対象としたキーボード・ショートカットが用意されています。

アクセシビリティ機能については、*Oracle Hyperion Profitability and Cost Managementアクセシビリティガイド*に記載されています。これらの機能は、Profitability and Cost Managementに固有のものです。

Profitabilityタイプ

Profitability and Cost Managementには、収益性の評価で使用される2つの異なるタイプのアプリケーションがあります。

- [14ページの標準Profitability](#)
- [15ページの詳細Profitability](#)
- [15ページの管理元帳Profitability](#)

標準Profitability

標準Profitabilityでは、プロセスのあらゆる段階における原価および収益の資金フローに従って、資金の拠出元と用途を決定する標準拠出金分析に重点が置かれます。

標準Profitability and Cost Managementモデルを使用すると、モデル全体の直接のコントリビューション・データを監視および制御できます。原価および収益の両方について入力金額、原価と収益のフロー、資金の最終的な宛先を追跡することによって、リソースを最大限に活用し収益性を簡単に示すことができますようにします。計算結果は個々のコスト・センターまたは勘定科目に転記されます。

標準Profitabilityモデルのデータは、Essbaseのマルチディメンショナル・データベースとリレーショナル・データベースの両方に格納されます。Performance Management Architectでモデルを作成し、ディメンションおよびディメンション・メンバーを使用して組織内の勘定科目、活動および操作の階層を定義します。AllocationTypeディメンションは、Performance Management Architectからインポートされます。このディメンションを使用して、費用および収益を正しく配賦したり、直接配賦および配賦システムを保管します。

標準Profitabilityの操作の詳細は、[37ページの第3章「標準Profitabilityについて」](#)を参照してください。

詳細Profitability

詳細Profitabilityでは、収益性分析のために、プールまたはレートをシングル・ステップで単一のソースから宛先に配賦します。詳細Profitabilityは、アーティファクト・ストレージのモデル、計算、レポート・ビューにリレーショナル・データベースを利用します。

詳細Profitability and Cost Managementモデルは、ユーザー定義のスキーマを利用してリレーショナル表を既存のデータおよび関連する参照表に編成し、そのデータを拡張します。詳細Profitabilityモデルのデータは、リレーショナル・データベースのみに格納されます。

Performance Management Architectでモデルを作成し、ビジネス・ディメンション、別名、メジャーなどを組織で定義します。Profitability and Cost Managementでは、詳細Profitabilityモデルを構築できるように、データがアプリケーションにマッピングされます。アプリケーションはきわめて大きなボリュームでも処理できます。

アプリケーションは階層構造を使用せず、ソースと宛先の単一の組合せの間におけるフローですべての配賦を処理します。配賦は、標準Profitabilityの場合のようにAllocationTypeを作成するのではなく、制限されたMeasuresDetailedディメンションを通じて処理されます。MembersDetailedディメンションには、すべての配賦を処理する限られたメンバーが含まれます。

詳細Profitabilityの操作の詳細は、[115ページの第8章「詳細Profitabilityの製品アーキテクチャの理解」](#)を参照してください。

管理元帳Profitability

管理元帳アプリケーションは、管理レポートの計算およびレポートの分野には豊富な経験を持つがEssbaseとスクリプト構文またはプログラミング言語には多くの経験を持たないアナリストが使用するために設計されています。

標準Profitabilityアプリケーションと同様に、管理元帳アプリケーションのデータはEssbaseマルチディメンショナル・データベースとリレーショナル・データベースの両方に格納されます。Performance Management Architectでアプリケーションを作成し、ディメンションおよびディメンション・メンバーを使用して組織内の勘定科目、活動および操作の階層を定義します。

アプリケーションがデプロイされた後で、特定の原価と収益の配賦への資金のフローを示すモデルを構築します。配賦のソースと宛先の範囲はどちらもProfitability and Cost Managementユーザー・インタフェースを使用して計算ルールとして定義されます。標準および詳細Profitabilityアプリケーション・タイプと同様に、視点(POV)は、モデルの特定のインスタンスを表し、POVを使用して異なるバージョンのモデルを表示または計算することができます。たとえば、異なる月または四半期の値を表示する、予算と実績を比較する、または様々な変更が最終損益に与える影響を測定するためにシナリオを作成することなどが可能です。

管理元帳モデルには、ステージまたはレイヤーの概念はありません。すべての構造は、POVの下のルール・セットおよびルールの構成によって制御されます。POVごとに、計算ルールはデータベースの同一または類似のリージョンに対して実行される、また、同時または類似の時刻に実行されるグループに編成されます。これらのグループはルール・セットと呼ばれます。これらは計算ルールが実行される順序を決定します。計算ルールは、POVまたはルール・セット・レベルからデフォルト・メンバーの選択を継承できるため、ユーザーはデータベースのリージョンを一度定義すれば、それを毎回指定しなくても何度も使用できます。これらのデフォルトは「コンテキスト」と呼ばれます。

すべての配賦が計上されたことを確認するために、作成したモデルは検証され、計算が貸借一致されます。検証後に、データベースをデプロイしてからモデルを計算し、結果を分析します。詳細は、*Oracle Hyperion Profitability and*

Cost Management ユーザーズ・ガイドおよびこのマニュアルの第4部「管理元帳アプリケーションの操作」を参照してください。

追加の製品コンポーネント

Profitability and Cost Managementを使用して、モデルを作成し、配賦を実行します。Profitability and Cost Managementの機能と柔軟性を拡張するには、16ページの表 1 に示されている製品を使用します。

表1 Profitability and Cost Managementの製品コンポーネント

製品	説明
Essbase	標準Profitabilityの場合のみ、Profitability and Cost Managementアプリケーションのデータを格納および計算します。
Oracle Essbase Administration Services	標準Profitabilityの場合のみ、Essbase Administration Services Consoleを使用してEssbase サーバーに接続します。 複数のEssbaseアプリケーションおよびデータベースを設計、開発、維持および管理するために使用します。
Performance Management Architectまたは Profitability and Cost ManagementのProfitabilityアプリケーション機能	ディメンションおよびアプリケーションを管理します。
EPM Workspace	Profitability and Cost Managementおよび他の製品に移動し、アプリケーションを管理します
Shared Services	Profitability and Cost Managementの外部システムからユーザーをプロビジョニングします Profitability and Cost Managementアプリケーションを移行します
Oracle Smart View for Office	Profitability and Cost Managementのデータを Microsoft Excelスプレッドシートに入力してレポートを作成します
Financial Reporting	Webまたは印刷配布用のレポートおよびチャートを作成します
Web Analysis	Webクライアントを使用して分析用のアド・ホックのレポートおよびチャートを作成します

管理タスク

Profitability and Cost Management管理者またはadmin役割を使用すると、次のタスクを実行できます：

- Shared Servicesを使用して、ユーザー・アカウントを作成および管理します。
- Shared Servicesの認証のためユーザーをプロビジョニングします。

- 共有ライブラリおよびProfitability and Cost Managementのディメンションとメンバーを、Performance Management ArchitectまたはProfitability and Cost ManagementのProfitabilityアプリケーション機能で管理します。
- マルチディメンショナルのEssbaseデータベースの生成。
- モデル・ステージ、ドライバおよび視点(POV)を作成、更新および削除します。
- ドライバの選択、割当て、割当てルール、および割当てルールの選択を作成、更新および削除します。
- 計算ルールを作成、更新および削除します。
- モデルを計算および再計算します。
- モデル・データを表示および変更します。
- トレース配賦を表示します。
- Profitability and Cost Managementのモデル・コンポーネントのバックアップおよび復元を行います。
- ライフサイクル管理ユーティリティを使用して、環境間でアプリケーションを転送します。ある環境(開発またはテスト環境など)から別の環境(本番環境など)へデータのレベルを上げます。
- ビジネス・オブジェクトに加えられた変更を監視します。

Profitability and Cost Management管理者は、EPM Workspaceを介してモデル・メタデータおよびデータも管理します。

次の項を参照してください:

- [41ページの第4章「Profitability and Cost Managementの標準的なディメンションおよびメンバーの操作」](#)
- [125ページの第12章「詳細Profitability and Cost Managementのディメンションとメタデータの操作」](#)

Profitability and Cost Managementの起動

Profitability and Cost Managementは、EPM Workspaceを介してのみアクセスできます。

▶ Profitability and Cost Managementにアクセスするには:

1. 次のアプリケーションが構成および実行されていることを確認します:

- EPM Workspace
- Shared Services
- Performance Management Architect (LinuxまたはUNIXで実行している場合、Performance Management Architectは適用できません)
- Essbase (標準Profitabilityの場合のみ)
- Profitability and Cost Management

手順については、*Oracle Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイド*および*Oracle Enterprise Performance Management Systemインストール概要*を参照してください。

2. Webブラウザで、EPM WorkspaceのWebページにアクセスします。

デフォルトでは、このURLは`http://server name:19000/workspace/`です。ここで、server nameはOracle HTTP Server (OHS)サーバー名です。

3. EPM Workspaceのユーザー名とパスワードを入力します。



注:

ユーザー名とパスワードは両方とも大/小文字が区別されます。

4. 「ログオン」をクリックします。

EPM Workspaceのメイン・ページが表示されます。

5. 「ナビゲート」、「アプリケーション」、「**Profitability**」の順に選択し、表示するアプリケーションを選択します。

2

セキュリティの管理 およびユーザーの認可

この項の内容:

ユーザーの設定およびプロビジョニングについて	19
セキュリティの役割の割当て	20
Profitability and Cost Managementの変更点の監査	29
出力ログ・ファイル	32
Oracle Diagnostic Logging (ODL)ファイル	33

ユーザーの設定およびプロビジョニングについて

Profitability and Cost Managementを操作する前に、管理者は、ユーザーとグループを設定し、それぞれに適したセキュリティの役割を割り当てる必要があります。セキュリティの役割ごとに指定される権限により、ユーザーまたはグループがアクセスできる機能およびデータが決まります。構成時に、*Oracle Enterprise Performance Management System*インストールおよび構成ガイドの説明に従って、認証モードとしてShared Servicesを選択します。

セキュリティとユーザー・プロビジョニングの管理については、2つのガイドがあります:

- セキュリティに関する技術情報については、*Oracle Enterprise Performance Management System*ユーザー・セキュリティ管理ガイドを使用します:
 - SSL (一方向、双方向、SSLオフロード、SSLの終了)
 - シングル・サインオン
 - デフォルトのEPM SystemのSSO
 - セキュリティ・エージェント
 - カスタム・ログイン
 - カスタム認証モジュール
 - EPM System保護のガイドライン
- ユーザー・プロビジョニングの設定および管理方法の詳細は、*Oracle Enterprise Performance Management System*ユーザー・セキュリティ管理ガイドを使用します:
 - Oracle Hyperion Shared Services Console
 - ユーザー・ディレクトリ
 - アプリケーションおよびアプリケーション・グループ
 - 委任されたユーザー管理
 - ネイティブ・ディレクトリの管理
 - プロビジョニングの管理

○EPM Systemのプロビジョニング

EPM Workspaceを介してProfitability and Cost Managementのユーザーおよびグループを作成、管理およびプロビジョニングします。プロビジョニング・プロセスでは、Shared ServicesとProfitability and Cost Managementの両方が構成されて実行されている必要があります。外部認証を使用すると、アプリケーション間の通信がシームレスになり、ユーザーを簡単かつ正確にプロビジョニングできるようになります。

次の手順は、ユーザーとグループを設定およびプロビジョニングするためのプロセスの概要を示します：

1. EPM Workspaceで、「ナビゲート」、「管理」、「**Shared Services Console**」の順に選択してShared Servicesの画面にアクセスします。



注：

初めてログオンする場合、製品の管理者(*admin*)ユーザーが自動的に作成されます。

2. *admin*役割が割り当てられているユーザーをプロビジョニング・マネージャの役割に設定します。『Oracle Enterprise Performance Management Systemユーザー・セキュリティ管理ガイド』を参照してください。
3. ユーザーを作成します。『Oracle Enterprise Performance Management Systemユーザー・セキュリティ管理ガイド』を参照してください。
4. 適切なセキュリティの役割を使用してユーザーをプロビジョニングし、必要なプロジェクトおよびアプリケーションにアクセスします。



注意

ユーザーがEPM WorkspaceにアクセスしてProfitability and Cost Managementの外部でタスクを実行する必要がある場合、ライフサイクル管理など、EPM Workspaceの役割を使用して選択したユーザーをプロビジョニングすることも必要です。

5. 必要に応じて、グループを作成します。グループ内のグループをプロビジョニングできます。『Oracle Enterprise Performance Management Systemユーザー・セキュリティ管理ガイド』を参照してください。
6. EPM Workspaceにログオンし、Profitability and Cost Managementを開きます。
7. ユーザーがProfitability and Cost Managementにログオンでき、プロビジョニングされたプロジェクトおよびアプリケーションを表示できることを確認します。

ユーザーとグループを設定およびプロビジョニングする手順の詳細は、Oracle Enterprise Performance Management Systemユーザー・セキュリティ管理ガイドを参照してください。

セキュリティの役割の割当て

Profitability and Cost Managementでは、各ユーザーIDはセキュリティの役割に割り当てられています。

- 管理者(*admin*)はShared Servicesへのログオン時のデフォルトのセキュリティの役割)
- パワー・ユーザー
- 対話型ユーザー

- 表示ユーザー

割り当てられたセキュリティの役割は、ユーザーが使用可能なアクセス・レベルと権限を決定します。ユーザーには複数の役割を付与できます。特定のアクションに対する権限は、アクションが開始される時点でチェックされます。



注:

Shared Services Consoleでは、少なくとも1人のユーザーにプロビジョニング・マネージャの役割を手動で割り当てる必要があります。プロビジョニング・マネージャの役割を使用すると、ユーザーは、そのアプリケーションの他のユーザーにセキュリティの役割を割り当てることができます。『Oracle Enterprise Performance Management Systemユーザー・セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

ユーザーをグループに割り当てるには、このユーザーが存在し、セキュリティの役割が割り当てられている必要があります。ユーザーのグループにアクセス・レベルが割り当てられると、そのグループのすべてのメンバーに同等のセキュリティ・アクセス権が付与されます。特定ユーザーに必要なアクセス権によっては、割り当てられたセキュリティのレベル設定を変更して、アクセス権の範囲を変更できます。たとえば、パワー・ユーザーのセキュリティ権限を持つグループに割り当てられた表示ユーザーは、より高いセキュリティ・レベルになります。

21ページの表 2で説明されているように、ユーザーがタスクフローの開始や監視を行う場合は、追加のShared Servicesの役割が必要です。



注意

ユーザーがEPM Workspaceのアプリケーション作成者、Lifecycle Managementによるステージング表のインポートまたはエクスポート、またはPerformance Management Architectのディメンション・エディタなどの他の製品にアクセスする必要がある場合、これらのセキュリティの役割は個別に割り当てる必要があります。『Oracle Enterprise Performance Management Systemユーザー・セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

以下の項で詳細に説明しているセキュリティ役割の詳細は、Profitability and Cost Managementに固有です。すべてのセキュリティの役割の詳細については、Oracle Enterprise Performance Management Systemユーザー・セキュリティ管理ガイドを参照してください。

標準Profitabilityのセキュリティの役割

表2 標準Profitability and Cost Managementのセキュリティの役割

セキュリティの役割	役割のタイプ	説明
管理者(admin)	パワー	<ul style="list-style-type: none"> • ユーザー・アカウントとセキュリティ役割の作成および維持のほか、Shared Servicesを使用したユーザーのプロビジョニング • Essbaseデータベースの生成 • アプリケーション・プリファレンスの設定と維持

セキュリティの役割	役割のタイプ	説明
		<ul style="list-style-type: none"> • 共通ディメンションとメンバーの選択を目的とした、Performance Management Architectを使用したモデル・データベースの構築 • ステージ、ドライバ、POV、ドライバ選択、割当て、アプリケーション・プリファレンスなどのモデルにおける要素の作成および維持 • POVコピー、計算、検証、データ入力、トレース配賦の実行 • Essbaseへのデプロイと計算スクリプトの生成 <p>注意</p> <p>Profitability and Cost Managementの管理者には、Essbase ASOおよびBSOのデプロイメントを実行するために、Essbaseのアクセス権限も割り当てられている必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • データのインポートおよびエクスポート • ライフサイクル管理ユーティリティを使用した、開発またはテスト環境から本番環境などの別の環境へのデータのレベル上げ。 • Profitability and Cost Managementのモデル・コンポーネントのバックアップおよび復元。 • ビジネス・オブジェクトに加えられた変更を監視します。 • 問合せを作成、編集、コピー、削除および起動します。 • Performance Management ArchitectのかわりにProfitability アプリケーションを使用して、新しいProfitability and Cost Managementアプリケーションを作成および管理します。
パワー・ユーザー	パワー	<ul style="list-style-type: none"> • ステージ、ドライバ、POV、ドライバ選択、割当て、アプリケーション・プリファレンスなどのモデルにおける要素の作成および維持。

セキュリティの役割	役割のタイプ	説明
		<ul style="list-style-type: none"> • POVコピー、計算、検証、データ入力、トレース割当ての実行。 • データのインポートおよびエクスポート • Essbaseへのデプロイと計算スクリプトの生成。 <p>注意</p> <p>Profitability and Cost Managementのパワー・ユーザーには、データをEssbaseに入力したり、Essbase ASOおよびBSOのデプロイメントを実行したりするためにEssbaseのアクセス権限(アプリケーションの作成やアプリケーション・マネージャなど)も割り当てられている必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 問合せを作成、編集、コピー、削除および起動します。 <p>注:</p> <p>パワー・ユーザーは、タスクの実行に特定のセキュリティ役割を必ずしも必要としません。たとえば、パワー・ユーザーが「計算」画面から計算を実行する場合、このアクションによってタスクフローが内部で作成されて実行されます。パワー・ユーザーは、「タスクフローの管理」タスクから直接このタスクにアクセスする場合以外は、このタスクの実行に「タスクフローの管理」役割を必要としません。</p>
対話型ユーザー	対話型	<ul style="list-style-type: none"> • すべてのモデリング画面の表示 • データ入力画面でのデータの表示および変更 • トレース配賦の表示 • 問合せを起動します。
表示ユーザー	対話型	<p>次の関数に対して表示のみのアクセス権を持ちます:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 配賦のトレース • アプリケーション・プリファレンス

セキュリティの役割	役割のタイプ	説明
		<ul style="list-style-type: none"> モデル・ステージ、ドライバ、および POV
タスクフローの管理	Shared Servicesの役割	<p>タスクフローの作成と編集に必要。</p> <p>詳細は、<i>Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System ユーザー・セキュリティ管理ガイド</i>を参照してください。</p>
タスクフローの実行	Shared Servicesの役割	<p>ユーザーによるタスクフローの実行と表示のみを可能にするために必要。この役割を割り当てられたユーザーは、タスクフローの作成や編集を行うことはできません。</p> <p>詳細は、<i>Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System ユーザー・セキュリティ管理ガイド</i>を参照してください。</p>

詳細Profitabilityのセキュリティの役割

表3 詳細Profitability and Cost Managementのセキュリティの役割

セキュリティの役割	役割のタイプ	説明
管理者(<i>admin</i>)	管理者	<ul style="list-style-type: none"> アプリケーション・プリファレンスの設定と維持 共通ディメンションとメンバーの選択を目的とした、Performance Management Architectを使用したモデル・データベースの構築 レポート・ビューを作成してリレーショナル・データベースにデプロイ 次の機能を作成、読取り(表示)、更新、削除: <ul style="list-style-type: none"> ○ステージ ○ドライバ ○POV ○ドライバの関連付け ○割当て ○アプリケーション・プリファレンス ○計算ルール ○ジョブ・ライブラリおよびステータス

セキュリティの役割	役割のタイプ	説明
		<ul style="list-style-type: none"> ○表登録 • 次のタスクを実行: <ul style="list-style-type: none"> ○POVコピー ○検証 ○デプロイ ○計算 ○ジョブの停止 • ライフサイクル管理ユーティリティを使用した、開発またはテスト環境から本番環境などの別の環境へのデータのレベル上げ。 • データのインポートおよびエクスポート • Profitability and Cost Managementのモデル・コンポーネントのバックアップおよび復元。 • ビジネス・オブジェクトに加えられた変更を監視します。 • Essbaseレポート用データベースをデプロイ、更新および置換し、データを転送します。 <p>注意</p> <p>Profitability and Cost Managementの管理者には、Essbase ASOのデプロイメントを実行するために、Essbaseのアクセス権限も割り当てられている必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Performance Management ArchitectのかわりにProfitability アプリケーションを使用して、新しいProfitability and Cost Managementアプリケーションを作成および管理します。
パワー・ユーザー	パワー	<ul style="list-style-type: none"> • ユーザー・アカウントとセキュリティ役割の作成および維持のほか、Shared Servicesを使用したユーザーのプロビジョニング • レポート・ビューを作成してリレーショナル・データベースにデプロイ

セキュリティの役割	役割のタイプ	説明
		<ul style="list-style-type: none"> • 次の機能を作成、読取り(表示)、更新、削除: <ul style="list-style-type: none"> ○ステージ ○ドライバ ○POV ○ドライバの関連付け ○割当て ○アプリケーション・プリファレンス ○計算ルール ○ジョブ・ライブラリおよびステータス ○表登録 • 次のタスクを実行: <ul style="list-style-type: none"> ○POVコピー ○検証 ○計算 ○ジョブの停止 ○Essbaseレポート用データベースをデプロイ、更新および置換し、データを転送します。 ○デプロイ <p style="margin-left: 20px;">注意</p> <p style="margin-left: 20px;">Profitability and Cost Managementのパワー・ユーザーには、データをEssbaseに入力したり、Essbase ASOのデプロイメントを実行したりするためにEssbaseのアクセス権限(アプリケーションの作成やアプリケーション・マネージャなど)も割り当てられている必要があります。</p> <p>注:</p> <p>パワー・ユーザーは、タスクの実行に特定のセキュリティ役割を必ずしも必要としません。たとえば、パワー・ユーザーが「計算」画面から計算を実行する場合、このアクションによってタスクフローが内部で作成されて実行されます。パワー・ユーザーは、「タスクフローの管理」タスクから直接このタスクにアクセス</p>

セキュリティの役割	役割のタイプ	説明
		する場合以外は、このタスクの実行に「タスクフローの管理」役割を必要としません。
対話型ユーザー	対話型	次の機能を表示(読取り): <ul style="list-style-type: none"> • ステージ • ドライバ • POV • ドライバの関連付け • 割当て • アプリケーション・プリファレンス • 計算ルール • ジョブ・ライブラリおよびステータス • 表登録
表示ユーザー	対話型	次の機能を表示(読取り): <ul style="list-style-type: none"> • ステージ • ドライバ • POV • ドライバの関連付け • 割当て • アプリケーション・プリファレンス • ジョブ・ライブラリおよびステータス • 表登録
タスクフローの管理	Shared Servicesの役割	タスクフローの作成と編集に必要。 詳細は、 <i>Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System ユーザー・セキュリティ管理ガイド</i> を参照してください。
タスクフローの実行	Shared Servicesの役割	ユーザーによるタスクフローの実行と表示のみを可能にするために必要。この役割を割り当てられたユーザーは、タスクフローの作成や編集を行うことはできません。 詳細は、 <i>Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System ユーザー・セキュリティ管理ガイド</i> を参照してください。

管理元帳Profitabilityのセキュリティの役割

表4 標準Profitability and Cost Managementのセキュリティの役割

セキュリティの役割	役割のタイプ	説明
管理者(<i>admin</i>)	パワー	<ul style="list-style-type: none"> • ユーザー・アカウントとセキュリティ役割の作成および維持のほか、Shared Servicesを使用したユーザーのプロビジョニング • Essbaseデータベースの生成 • Profitability and Cost Managementアプリケーションの作成と管理 • Performance Management ArchitectのかわりにProfitabilityアプリケーションを使用して、新しいProfitability and Cost Managementアプリケーションを作成および管理します。 • アプリケーション・プリファレンスの設定と維持 • 共通ディメンションとメンバーの選択を目的とした、Performance Management Architectを使用したモデル・データベースの構築 • モデル内の要素(POV、ルールおよびルール・セットなど)の作成と維持 • POVコピー、計算、検証、データ入力、トレース配賦の実行 • Essbaseへのデプロイとモデルの計算 <p>注意</p> <p>Profitability and Cost Managementの管理者には、Essbase ASOのデプロイメントを実行するために、Essbaseのアクセス権限も割り当てられている必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • アーティファクトのインポートとエクスポート • ライフサイクル管理ユーティリティを使用した、開発またはテスト環境から本番環境などの別の環境へのデータのレベル上げ

セキュリティの役割	役割のタイプ	説明
		<ul style="list-style-type: none"> Profitability and Cost Managementのモデル・コンポーネントのバックアップおよび復元 ビジネス・オブジェクトに加えられた変更の監視 問合せを作成、編集、コピー、削除および起動 モデル・バランシングとモデル検証の実行
パワー・ユーザー	パワー	<ul style="list-style-type: none"> モデル内の要素(POV、ルールおよびルール・セットなど)の作成と維持 POVコピー、計算、検証、データ入力、トレース割当ての実行。 アーティファクトのインポートとエクスポート Essbaseへのデプロイとモデルの計算 問合せを作成、編集、コピー、削除および起動 モデル・バランシングとモデル検証の実行
対話型ユーザー	対話型	<ul style="list-style-type: none"> すべてのモデリング画面の表示 ルール・セットとルールの使用 ルール貸借一致の表示 トレース配賦の表示 問合せの定義と実行
表示ユーザー	対話型	<p>次の関数に対して表示のみのアクセス権を持ちます:</p> <ul style="list-style-type: none"> 配賦のトレース ルール貸借一致

Profitability and Cost Managementの変更点の監査

Shared Services Consoleの監査確認を使用してアクティビティおよび変更点を監視してから、結果が詳細に記載された監査レポートを生成できます。

使用可能な監査レポートには、次の3つのタイプがあります:

- セキュリティ・レポート
- アーティファクト・レポート
- 構成レポート

監査レポートには、選択した監査領域に関するアクティビティの詳細が記載されています。これには、次の情報が含まれます:

- 日付
- アプリケーション
- ユーザー
- アーティファクトのタイプと名前
- 実行されたタスク

レポートを生成するには、次の手順に説明されているように、先に監査を使用可能にする必要があります。これらのレポートは、CSVファイルとしてエクスポートできます。『Oracle Enterprise Performance Management Systemユーザー・セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

▶ 監査機能を使用可能にするには:

1. EPM Workspaceから、「ナビゲート」、「管理」、「**Shared Services Console**」の順に選択します。
2. Shared Services Consoleから、「管理」、「**監査の構成**」を順に選択します。

監査構成画面が表示されます。

Select Tasks	
<input checked="" type="checkbox"/> Shared Services	
<input checked="" type="checkbox"/> BPMA-11.1.2	
<input checked="" type="checkbox"/> Analytic Server -11.1.2	
<input checked="" type="checkbox"/> Analytic Services Application -11.1.2	
<input checked="" type="checkbox"/> Profitability-11.1.2	
<input checked="" type="checkbox"/> Stage	
<input checked="" type="checkbox"/> Driver	
<input checked="" type="checkbox"/> POV	
<input checked="" type="checkbox"/> Driver selection	
<input checked="" type="checkbox"/> Assignment	
<input checked="" type="checkbox"/> Cubes	
<input checked="" type="checkbox"/> Scripts	
<input checked="" type="checkbox"/> Group operations	
<input checked="" type="checkbox"/> Group import operations	
<input checked="" type="checkbox"/> Deployment Metadata	

3. 監査の使用可能を選択します。

「グローバル設定の上書きを許可」および「タスクの選択」リストがアクティブ化されます。

4. タスクの選択で、監査を使用可能にするアプリケーションの領域を選択します。領域全体を選択することも、各オプションを展開して監視する手順を個別に選択することもできます。



注:

これらのタスクの大部分は標準および詳細Profitabilityアプリケーションに対してのみ適用されます。

表5 Profitability and Cost Managementの監査タスク

監査領域	使用可能な監査タスク
ステージ	<ul style="list-style-type: none">• ステージの作成• ステージの変更• ステージの削除• ステージのエクスポート• ステージのインポート
ドライバ	<ul style="list-style-type: none">• ドライバの作成• ドライバの変更• ドライバの削除• ドライバのエクスポート• ドライバのインポート
POV	<ul style="list-style-type: none">• POVの作成• POVの変更• POVの削除• POVのエクスポート• POVのインポート
ドライバの選択	<ul style="list-style-type: none">• ドライバ選択の作成• ドライバ選択の変更• ドライバ選択の削除
割当て	<ul style="list-style-type: none">• 割当ての作成• 割当ての変更• 割当ての削除
割当てルール	<ul style="list-style-type: none">• 割当てルールの作成• 割当てルールの変更• 割当てルールの削除• ルール選択の作成• ルール選択の削除
キューブ(標準Profitabilityのみ)	<ul style="list-style-type: none">• 計算キューブのデプロイ• レポート・キューブのデプロイ• データの転送
系統(標準Profitabilityのみ)	系統の計算
スクリプト	<ul style="list-style-type: none">• 配賦スクリプトのデプロイ

監査領域	使用可能な監査タスク
	<ul style="list-style-type: none"> • 系統スクリプトのデプロイ • POVコピー・スクリプトのデプロイ • 配賦スクリプトの実行 • 系統スクリプトの実行 • POVコピー・スクリプトの実行
操作のグループ化	<ul style="list-style-type: none"> • 割当てのコピー • 割当ての削除 • 割当てルールの選択の削除 • ドライバ選択のコピー • ドライバ選択のルールの削除 • ドライバ選択例外の削除
インポート操作のグループ化	<ul style="list-style-type: none"> • ステージのインポート • POVのインポート • ドライバのインポート • ドライバ選択のインポート • 割当てのインポート
エクスポート操作のグループ化	<ul style="list-style-type: none"> • ステージのエクスポート • POVのエクスポート • ドライバのエクスポート • ドライバ選択のエクスポート • 割当てのエクスポート
ライフサイクル管理(LCM)	<ul style="list-style-type: none"> • ファイルからのLCMロード • ファイルへのLCM保存 • LCMエクスポート • LCMインポート

5. 「OK」をクリックします。

監査構成が保存されたことを確認するメッセージが表示されます。

6. 「はい」をクリックします。

7. **オプション:** *Oracle Enterprise Performance Management Systemユーザー・セキュリティ管理ガイド*の説明に従って、監査結果を確認する監査レポートを生成します。

出力ログ・ファイル

管理者は、EPM Workspace全体を通じてログ・ファイルを生成して、技術者がシステムまたは環境の問題を識別したり、開発者がレポートまたはAPIの問題をデバッグするのに役立てることができます。

Profitability and Cost Managementに関する情報は、次のログ・ファイルで調べることができます:

表6 Profitability and Cost Managementのログ・ファイル

ログ・ファイル	説明
hpcm.log	Profitability and Cost Managementは、アプリケーションまたはサーバーから送信されるアプリケーション固有のメッセージを収集するアプリケーション、サーバー側のログ・ファイルを生成します。 このログ・ファイルは、デフォルトではC:\oracle\Middleware\user_projects\domains\EPMSystem\servers\Profitability0\logsにあります。 このログ・ファイルへのアクセスについては、システム管理者にお問い合わせください。
SharedServices_Security_Client.log	Shared Servicesのクライアント側のログ・ファイルで、Profitability and Cost ManagementとCommon Security Servicesとのハンドシェイクに関する詳細を提供します。このログ・ファイルは、デフォルトではC:\oracle\Middleware\user_projects\domains\EPMSystem\servers\Profitability0\logsにあります。

関連する製品とアプリケーションのその他のログ・ファイルについては、*Oracle Enterprise Performance Management System*インストールおよび構成ガイドを参照してください。

ログ・ファイルで取得する詳細のレベルを変更するには、『*Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System*インストールおよび構成トラブルシューティング・ガイド』のシステム・ログの使用に関する項を参照してください。

Oracle Diagnostic Logging (ODL)ファイル

各EPM Workspace製品のすべての構成ロギング・ファイルについて、WebアプリケーションのOracle Diagnostic Logging (ODL)の場所は一元化されています。

Profitability and Cost Managementの場合、構成ロギング・ファイルは次の場所にあります：

C:\oracle\Middleware\user_projects\domains\EPMSystem\config\fmwconfig\servers\Profitability0。ファイル名はlogging.xmlです。

構成ロギング・ファイルの追加情報については、『*Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System*インストールおよび構成トラブルシューティング・ガイド』のEPMログの使用に関する項を参照してください。

パート II

標準Profitabilityアプリケーションの操作

目次

ドキュメントのアクセシビリティについて	9
ドキュメントのフィードバック	10
3. 標準Profitabilityについて	37
4. Profitability and Cost Managementの標準的なディメンションおよびメンバーの操作	41
5. Performance Management Architectを使用した標準Profitabilityアプリケーションおよびディメンションの管理	61
6. 標準Profitabilityのインポート・ステージング表	87
7. 標準Profitabilityのモデル定義データのエクスポート	103

3

標準Profitabilityについて

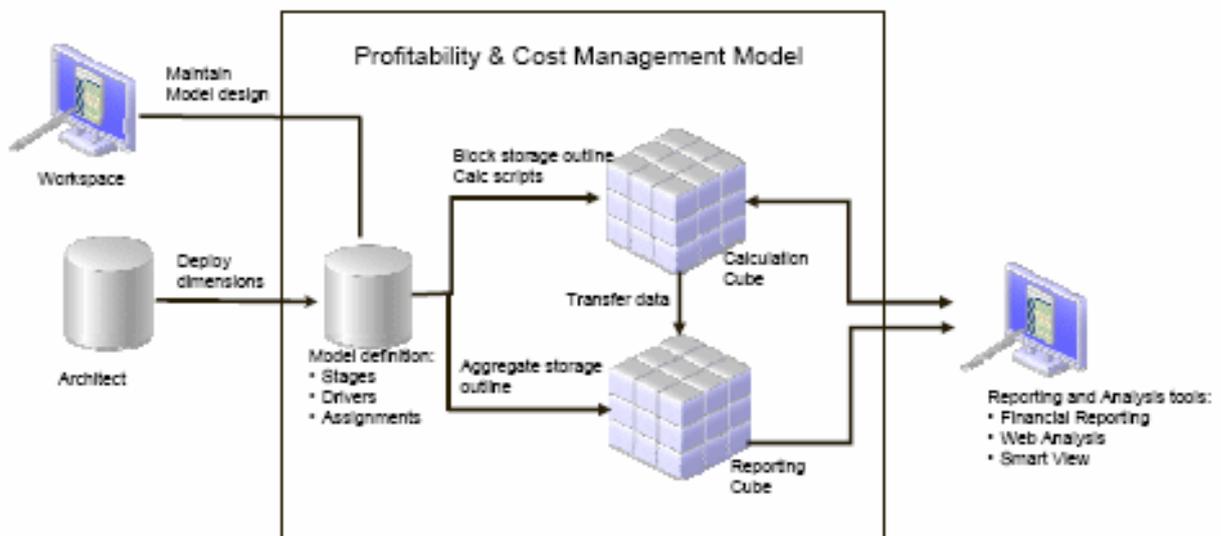
この項の内容:

標準Profitabilityの製品アーキテクチャの理解	37
標準Profitabilityでのデータベースの操作	38

標準Profitabilityの製品アーキテクチャの理解

EPM Workspaceを介してアクセスされるProfitability and Cost Managementは、Essbase上の分析ツールです。ビジネス・ユーザーは、このアプリケーションを使用して、収益性および費用管理を目的としてビジネスをモデリングできます。このモデル情報を使用することにより、スクリプト言語を理解しなくても、収益性および費用分析用として調整可能なEssbaseデータベースを作成できます。

図1 Profitability and Cost Managementの標準的な製品アーキテクチャ



Profitability and Cost Managementでは、アプリケーションのメタデータとセキュリティを一元的に管理するためにPerformance Management ArchitectとShared Servicesを使用します。

アプリケーション管理者は、Performance Management Architectを使用してProfitability and Cost Managementディメンションを作成します。ユーザー・アクセスは、Shared Servicesを使用して一元的に管理され

ます。ディメンション・メタデータは、準備が整うと、Profitability and Cost Managementアプリケーションまたはモデルにデプロイされます。Performance Management Architectのディメンションは、複数のモデルが共有できます。

モデル設計には、モデルのEssbaseコンポーネントに必要なEssbaseのアウトラインおよび計算スクリプトを生成するのに必要な情報が含まれます。各モデルは、次のデータベースにアクセスする必要があります：

- Performance Management Architectから配置されるディメンション・メタデータを含むモデル設計が保管されるリレーショナル・データベース
- 計算データベース(BSO)およびレポート・データベース(ASO)を含むEssbaseデータベース。



注：

複数のモデルを保管するのに必要なデータベースは1つのみです。

レポート用データベースの結果は、Financial Reporting、Web AnalysisおよびSmart Viewなどのレポート・ツールや分析ツールで表示できます。

標準Profitabilityでのデータベースの操作

Profitability and Cost Managementでは、リレーショナル・データベースとEssbaseデータベースの両方が必要です。これらのデータベースおよび接続情報の詳細は、アプリケーションの「モデルの要約」の「システム情報」タブで指定します。詳細は、『Oracle Hyperion Profitability and Cost Management ユーザー・ガイド』を参照してください。

アプリケーションをデプロイすると、Performance Management Architectにより、Profitability and Cost Managementのリレーショナル・データベースに表と適切な値が移入されます。Essbaseアプリケーションは、モデルのデプロイメント中にProfitability and Cost Managementに作成されます。各データベースには、[38ページの表 7](#)に示すように、特定の情報が保管されます。

表7 Profitability and Cost Managementのデータベース

データベース・タイプ	保管される情報のタイプ
Essbase	<ul style="list-style-type: none"> • ディメンション階層 • 費用データ • 収益データ • ドライバ・データ • 通貨レート • 計算スクリプト
製品リレーショナル・データベース	<ul style="list-style-type: none"> • ディメンション • ステージ定義 • POV定義 • ドライバ定義 • ドライバ選択

データベース・タイプ	保管される情報のタイプ
	<ul style="list-style-type: none"> • 割当て • 割当てルール • 割当てルールの選択 • モデル・プリファレンス

Profitability and Cost Managementでは、リレーショナル・データベースに定義されているドライバの定義、ドライバの選択および割当ての情報を使用して、Essbaseアプリケーションで計算スクリプトを作成します。この計算スクリプトは、必要なデータ配賦を実行します。

4

Profitability and Cost Managementの標準的なディメンションおよびメンバーの操作

この項の内容:

標準的なProfitabilityのディメンションとメタデータについて	41
ディメンション・タイプ	43
メジャー・ディメンション	43
AllocationTypeディメンション	52
別名ディメンション	53
ビジネス・ディメンション	55
POVディメンション	56
属性ディメンション	56
ディメンション・ソート順および密度の設定	57

標準的なProfitabilityのディメンションとメタデータについて

ディメンションおよびメタデータは、Profitability and Cost Management管理者によって、Performance Management ArchitectまたはProfitabilityアプリケーションを使用して作成および管理されます。Profitability and Cost Managementでは、一般的なディメンションおよびメンバーを使用することにより、Planningなどの他の製品で一般的なデータを使用および転送し、時間と労力を節減し、正確さを増すことができます。ディメンションとメタデータの作成および管理の詳細は、*Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect管理ガイド*、Profitabilityアプリケーションを使用している場合は『*Oracle Hyperion Profitability and Cost Managementユーザーガイド*』を参照してください。

Profitability and Cost Managementでは、Performance Management Architectで作成されたディメンションおよびメンバーを使用して、ビジネス・モデルの様々な構造要素を表します:

- AllocationTypeディメンション。直接配賦データと配賦系統データの両方を保管します
- ディメンション。ソースや宛先のメジャー・ディメンションなどのモデルおよびシナリオの構造を実現します。
- ビジネス・ディメンション。部署、一般会計の勘定科目、アクティビティ、顧客、製品などの、ビジネス固有のモデル要素を表します
- 視点(POV)ディメンション。期間、シナリオおよびバージョンなど
- 別名ディメンション(必要な場合)
- 属性ディメンション(必要な場合)

ディメンションごとに、ディメンション・タイプとディメンション名の両方を指定する必要があります:

- デイメンション・タイプは、選択したデイメンションに定義された機能を使用可能にするデイメンションのプロパティです。[43ページのデイメンション・タイプ](#)を参照してください。
- デイメンション名は、組織およびビジネスに関してデイメンションのコンテンツを識別するために割り当てられます。たとえば、「勘定科目タイプ」のデイメンションには、「一般会計」や「勘定科目表」などのデイメンション名を付ける場合があります。デイメンション名にデイメンション・タイプを反映する必要はありませんが、反映することもできます。命名の制限については、[253ページの付録F「Essbase命名規則」](#)を参照してください。

Performance Management Architectを使用することにより、デイメンションはアプリケーション内に共有またはローカルとして存在できます：

- 共有デイメンションは、Performance Management Architectの共有ライブラリ内に存在し、複数の製品およびアプリケーションが使用できます。
- ローカル・デイメンションは、Profitability and Cost Managementタイプのアプリケーションなどの1つのアプリケーション・インスタンス内にのみ存在する、分離された独立デイメンションです。これらのデイメンションは、これらが作成されているアプリケーション内でのみ使用され、同じタイプの別のアプリケーションであっても表示または使用できません。

Performance Management Architectを介して、別の製品内に存在するデイメンションおよびメンバーを選択したり、そのモデル専用の新しいデイメンションおよびメンバーを作成します。Profitability and Cost Managementモデルに対してデイメンションおよびメンバーが選択された後、これらはデイメンション・ライブラリで自動的に使用可能になります。デプロイメント後は、Profitability and Cost Managementアプリケーションでデイメンションおよびメンバーを使用できます。

Performance Management Architectには、システム生成とユーザー定義の両方のデイメンションおよびメンバーが存在する必要があります。デイメンションには、英数字や計算値が含まれる場合があります。



注意

作成できるデイメンションおよびメンバーの数に制限はありませんが、デイメンシヨナル構造が大きくなると、パフォーマンス上の問題が発生します。

Profitability and Cost Managementモデルのデイメンションのソート順は、処理および計算機能を最大限に高めるために特定の順序で設定する必要があります。[58ページのデイメンション・ソート順の設定](#)を参照してください。

デイメンションとメンバーを作成および管理する手順の詳細は、*Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect管理ガイド*を参照してください。デイメンションおよびメンバーの命名規則については、[253ページの付録F「Essbase命名規則」](#)を参照してください。

Profitability and Cost Managementのデイメンションの詳細は、次の各項を参照してください：

- [43ページのメジャー・デイメンション](#)
- [52ページのAllocationTypeデイメンション](#)
- [53ページの別名デイメンション](#)
- [55ページのビジネス・デイメンション](#)
- [56ページのPOVデイメンション](#)

- [56ページの属性ディメンション](#)

ディメンション・タイプ

- システム・ディメンション(メジャー・ディメンションやAllocationTypeディメンションなど)は、この項に記載されている要件に基づいて作成する必要があります:
 - [43ページのメジャー・ディメンション](#)
 - [52ページのAllocationTypeディメンション](#)
- 別名ディメンションは、ディメンションの定義に役立つ代替の名前、説明、言語またはその他のアイテムを割り当てるために使用されます。
- ビジネス・ディメンションは、部署、総勘定元帳の勘定科目、アクティビティ、顧客または製品などのモデル内のビジネス要素を説明するために作成されます。 [55ページのビジネス・ディメンション](#)を参照してください。
- 属性ディメンションを使用すると、ディメンション・メンバーの属性または品質に基づく分析が可能になります。属性は、製品のサイズや色など、データの特徴を示します。
- ユーザー定義属性(UDA)を使用すると、関連付けられた別のディメンションのメンバーの分類に使用できるテキスト属性に基づいた分析が可能になります。たとえば、New ProductsというUDAを追加できます。
- POVディメンションは、年、シナリオまたは期間など、モデルに固有の視点またはバージョンを示します。モデルごとに少なくとも1つのPOVディメンションが必要です。

また、バージョン・ディメンション・タイプを作成して、同じPOVの異なるバージョンを保持できます。バージョンは、同じモデルの異なるバージョンの追跡に使用され、変更やモデルに対する異なる戦略の影響を評価できます。

- 一部のPerformance Management Architectのディメンション・タイプは、Profitability and Cost Managementのモデルで使用できます:
 - 勘定科目
 - エンティティ
 - 国
 - 通貨

これらのディメンション・タイプの使用については、*Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect管理ガイド*を参照してください。



注:

ディメンショナル・アウトラインを定義する場合、命名用として使用できない制限文字があります。『Oracle Essbaseデータベース管理者ガイド』のEssbase命名規則に関する項を参照することをお勧めします。

メジャー・ディメンション

メジャー・ディメンションには、モデルの構築、検証および計算に必要なメンバーが含まれています。

メジャー・ディメンションは、次の2つのいずれかの方法を使用してPerformance Management Architectで作成されます:

- ユーザーがアプリケーション・ウィザードを使用してProfitability and Cost Managementアプリケーションを作成し、「ローカル・ディメンションの自動作成」オプションを選択します。これにより、メジャー・タイプ・ディメンションが自動的に生成されます。
- ユーザーがアプリケーション・ウィザードから「ブランク・アプリケーションの作成」を選択することにより、アプリケーションを手動で作成します。ユーザー独自のディメンションを作成し、メジャー・ディメンション・タイプを選択する必要があります。

メジャー・ディメンションに必要な変更できないメンバー以外にも、ユーザーは、メンバー「UserDefinedDriverMeasures」の下の階層にユーザー定義のドライバ・メジャー(つまりサブ階層)を追加できます。これらのディメンション・メンバーはユーザーが変更できます。



注:

必要であれば、メジャー・タイプ・ディメンションに別の名前を指定できます。

メジャー・ディメンション内では、メジャーのタイプを次のカテゴリに分けることができます:

- ドライバ・メジャーは、ドライバのタイプと式の作成に使用されます。44ページの[ドライバ・メジャー](#)を参照してください
- 費用レイヤー配賦メジャーは、計算済費用および入力済費用の配賦の制御に使用されます。46ページの[費用レイヤー配賦メジャー](#)を参照してください。
- 収入レイヤー配賦メジャーは、計算済収入および入力済収入の配賦の制御に使用されます。49ページの[収益レイヤー配賦メジャー](#)を参照してください。
- レポート・メジャーは、計算済の値および入力済の値を使用して、モデルの総費用および総収益のレポートを生成するために使用します。レベル0以外のすべてのレポート・メジャーが計算されます。51ページの[レポート・メジャー](#)を参照してください。

ドライバ・メジャー

表8 ドライバ・メジャー

メンバー名	別名	説明	計算済または入力
FixedDriverValue	FixedDV	固定ドライバ値パラメータを必要とするドライバ・タイプで使用するデフォルトのメジャー	入力
Rate	Rate	レート・パラメータを必要とするドライバ・タイプで使用するデフォルトのメジャー	入力
Quantity	Qty	数量パラメータを必要とするドライバ・タイプで使用するデフォルトのメジャー	入力
Weight	Weight	加重パラメータを必要とするドライバ・タイプで使用するデフォルトのメジャー	入力

メンバー名	別名	説明	計算済または入力
Percentage	Percent	パーセンテージ・ドライバ・タイプで使用するデフォルトのメジャー	入力
CalculatedDriverValue	CDV	割当てで使用されるドライバ式の結果であるメジャー	計算済
TotalDriverValue	TDV	配賦式DV/TDVの分母として使用されるメジャー	計算済
EffectiveTotalDriverValue	EffTDV	ドライバの定義時に「アイドルを許可」ボックスが選択されているドライバの有効なドライバ合計を保管するために使用されるメジャー。	計算済
OverrideTotalDriverValue	OvrdrTDV	配賦式の分母としてTotalDriverValueメジャーを上書きするユーザー入力値です。	入力
TotalDriverValueAfterReciprocity	TDVaftrRcp	相互割当てにソースが含まれるときに非相互ステージ内配賦およびステージ後配賦の配賦式の分母として使用されるメジャー	計算済
IdleDriverValue	IdleDV	IdleCostの計算用のドライバ値(DV)として使用されるメジャー	計算済
UserDefinedDriverMeasure	N/A	メンバー UserDefinedDriverMeasuresは、アプリケーション固有のユーザー定義のドライバ・メジャーが保管される場所です。ASOMemberDataStorageおよびBSOMemberDataStorageプロパティは、次のように設定します: - このメンバーに子がない場合、 StoreData に設定します。 - このメンバーにメンバーが子として追加されるときに、これらの子に集計記号IGNOREがある場合、 LabelOnly に設定します。	N/A

メンバー名	別名	説明	計算済または入力
		<p>注:</p> <p>すべてのドライバ・メジャーはアウトライン内で一意である必要があります。アウトライン内のディメンションでは既存のドライバ・メジャーの名前を他のメンバーの名前として使用しないでください(システム・ディメンション、POVディメンションおよびビジネス・ディメンションを含む); これらを使用すると、「データの入力」画面に値が正しく表示されません。</p>	

費用レイヤー配賦メジャー

表9 費用レイヤー配賦メジャー

メンバー名	別名	説明	計算済または入力
UnassignedCost	UnAsgCost	すべての割当ておよびアイドル計算が完了した後のソース交差の費用の残り。	計算済
CostAssigned	CostAsg	ソースからステージ後宛先および非相互ステージ内宛先へ割り当てられる費用合計	計算済
CostAssignedIntraStage	CostAsgInt	相互宛先を除く、ステージ内宛先へ割り当てられる費用合計	計算済
CostAssignedPostStage	CostAsgPost	ステージ後宛先へ割り当てられる費用合計	計算済
OverDrivenCost	OverDrivenCost	標準基準ドライバの場合、割り当てられる費用合計がNetCostForAssignmentより大きい場合、超過した金額はOverDrivenCostに転記されます。	計算済
IdleCost	IdleCost	アイドル費用は、ドライバのタイプによって異なる方法で生成されます:	計算済

メンバー名	別名	説明	計算済または入力
		<ul style="list-style-type: none"> 実績基準ドライバの場合、アイドル費用は次の配賦式を使用して生成されます: IdleDriverValue/ OverrideTotalDriverValue 標準基準ドライバの場合、割り当てられる費用合計が NetCostForAssignment より小さいとアイドル費用が生成されます。 	
NetCostForAssignment	NetCostAsg	<p>前ステージ割当て、ステージ内割当ておよび相互割当てをすべて計上した後で割当てに使用できる総費用</p> <p>DataStorage (BSO)プロパティをStoreDataに設定します。</p>	計算済
GrossReceivedCost	GrRecCost	<p>相互費用およびユーザー入力費用を除く、ステージ前割当ておよびステージ内割当てから割り当てられたすべての費用合計</p> <p>DataStorage (BSO)プロパティをStoreDataに設定します。</p>	計算済
StandardCostRate	StandardCostRate	<p>標準基準ドライバの場合、ユーザーは標準の費用レートを割り当て、標準基準の費用ドライバの計算で使用する値を次のように入力します: CostReceivedPriorStage =StandardCostRate * TotalDriverValue</p>	入力
CostInput	CostInput	交差のユーザー入力の費用値	入力
CostReceived	CostRec	相互割当てから発生した費用を除く、ステージ前割当ておよびステージ内割当てに	計算済

メンバー名	別名	説明	計算済または入力
		よって交差に割り当てられたすべての費用合計 DataStorage (BSO)プロパティを StoreData に設定します。	
CostReceivedPriorStage	CostRecPri	ステージ前からの割当て時に受け取られた費用合計	計算済
CostReceivedIntraStage	CostRecInt	相互割当てを除く、ステージ内割当て時に受け取られたすべての費用合計	計算済
NetReciprocalCost	NetRcpCost	ステージ後宛先および非相互ステージ内宛先へ割当て可能な金額に対する相互割当ての正味の影響 DataStorage (BSO)プロパティを StoreData に設定します。	計算済
ReciprocalCostAssigned	RcpCostAsg	相互割当てから受け取る費用を除く、相互宛先へ割り当てられる費用合計	計算済
ReciprocalCostReceived	RcpCostRec	相互宛先から受け取る費用合計	計算済
ReciprocalIntermediate Cost	RcpIntCost	同時等式が適用された後だが相互調整が行われる前に交差について計算される中間値	計算済
CostPerDrvUnit	Cost Per Driver Unit	このメジャーは、AllocationMeasuresの子です。 この式では、割当て費用(CostAssigned)を全ドライバ値の合計(TotalDriverValue)で除算して、ドライバ値の1単位当たりの費用を計算します。	計算済
UnitCost	Unit Cost。	このメジャーは、AllocationMeasuresの子です。	計算済

メンバー名	別名	説明	計算済または入力
		この式では、ソース交差の費用金額 (NetCostForAssignment) をユーザーが入力した数量で除算して、1単位当たりの費用を計算します。	

収益レイヤー配賦メジャー

表10 収益レイヤー配賦メジャー

メンバー名	別名	説明	計算済/入力
UnassignedRevenue	UnAsgRev	すべての割当ておよびアイドル計算が完了した後のソース交差の収益の残り	計算済
RevenueAssigned	RevAsg	ソースからステージ後宛先および非相互ステージ内宛先へ割り当てられる収益合計	計算済
OverDrivenRevenue	OverDrivenRevenue	標準基準ドライバの場合、収益合計がNetRevenueForAssignmentより大きい場合、超過した金額はOverDrivenRevenueに転記されます。	計算済
RevenueAssignedIntraStage	RevAsgInt	相互宛先を除く、ステージ内宛先へ割り当てられる収益合計	計算済
RevenueAssignedPostStage	RevAsgPos	ステージ後宛先へ割り当てられる収益合計	計算済
IdleRevenue	IdleRev	アイドル収益は、ドライバのタイプによって異なる方法で生成されます: <ul style="list-style-type: none"> 実績基準ドライバの場合、アイドル収益は次の配賦式を使用して生成されます: IdleDriverValue/ OverrideTotalDriverValue. 標準基準ドライバの場合、割り当てられる費用合計がNetRevenueForAssignmentよ 	計算済

メンバー名	別名	説明	計算済/入力
		り小さいと収益費用が生 成されます。	
NetRevenueForAssignment	NetRevAsg	前ステージ割当て、ステージ 内割当ておよび相互割当て をすべて計上した後に使用 可能な総収入 DataStorage (BSO)プロパ ティを StoreData に設定しま す。	計算済
GrossReceivedRevenue	GrRecRev	相互割当て収益およびユー ザー入力収益を除く、ステー ジ前割当ておよびステージ 内割当てから割り当てられ たすべての収益合計 DataStorage (BSO)プロパ ティを StoreData に設定しま す。	計算済
StandardRevenueRate	StandardRevenueRate	標準基準ドライバの場 合、ユーザーは標準の収 益レートを割り当て、標 準基準の収益ドライバ の計算で使用する値を 次のように入力します: RevenueReceivedPriorStage = StandardRevenueRate * TotalDriverValue	入力
RevenueInput	RevInput	交差のユーザー入力の収益 値 収益カテゴリ を RevenueInput 下の階層 として定義し、保管します。 DataStorage (BSO)プロパ ティを StoreData に設定しま す。	入力
RevenueReceived	RevRec	相互費用から発生した収益 を除く、ステージ前割当てお よびステージ内割当てによっ て交差に割り当てられたす べての収益合計	計算済

メンバー名	別名	説明	計算済/入力
		DataStorage (BSO)プロパティを StoreData に設定します。	
RevenueReceivedPriorStage	RevRecPri	ステージ前からの割当て時に受け取られた収益合計	計算済
RevenueReceivedIntraStage	RecRecInt	相互割当てを除く、ステージ内割当て時に受け取られたすべての収益合計	計算済
NetReciprocalRevenue	NetRcpRev	ステージ後宛先および非相互ステージ内宛先へ割当て可能な収益金額に対する相互割当ての正味の影響 DataStorage (BSO)プロパティを StoreData に設定します。	計算済
ReciprocalRevenueAssigned	RcpRevAsg	相互割当てから受け取る収益を除く、相互宛先へ割り当てられる収益合計	計算済
ReciprocalRevenueReceived	RcpRevRec	相互宛先から受け取る収益合計	計算済
ReciprocalIntermediateRevenue	RcpIntRev	同時等式が適用された後だが相互調整が行われる前に交差について計算される中間値	計算済

レポート・メジャー

表11 レポート・メジャー

メンバー名	別名	説明	計算済または入力
Profit	Profit	選択した交差について計算された収益の値。この値は、次の計算の結果です: NetRevenueForAssignment - NetCostForAssignment	計算済
GrossCost	GrossCost	使用可能なすべての入力を含む、交差の費用合計: <ul style="list-style-type: none"> • 入力値 • ステージ前割当て 	計算済

メンバー名	別名	説明	計算済または入力
		<ul style="list-style-type: none"> 相互割当てを含むステージ内割当て。 <p>この計算は、交差の真の費用合計を表します。</p>	
StandardCost		標準基準ドライバの場合、StandardCostRate * TotalDriverValueで計算された費用	計算済
StandardRevenue		標準基準ドライバの場合、StandardRevenueRate * TotalDriverValueで計算された収益	計算済
InitialCost	InitialCost	入力費用およびステージ前からの割当て時に受け取られた費用を含む、ステージ内費用または相互費用が計算される前の交差の費用。	計算済
NetCostAfterIntraStage	NetCostAftInt	すべてのステージ内費用割当てを含む、交差の費用	計算済
GrossRevenue	GrossRev	<p>使用可能なすべての入力を含む、交差の収益合計:</p> <ul style="list-style-type: none"> 入力値 ステージ前割当て 相互割当てを含むステージ内割当て。 <p>この計算は、交差の真の収益合計を表します。</p>	計算済
InitialRevenue	InitialRev	入力収益およびステージ前からの割当て時に受け取られた収益を含む、ステージ内収益または相互収益が計算される前の交差の収益。	計算済
NetRevenueAfterIntraStage	NetRevAftInt	すべてのタイプのステージ内収益割当てを計上した後の交差の収益	計算済

AllocationTypeディメンション

AllocationTypeディメンションは、直接配賦データと配賦システムデータの両方を保管するために使用します。レポートを作成する場合、AllocationTypeディメンションを使用して、取得する配賦データのタイプを指定できます。



注:

必要であれば、AllocationTypeタイプのディメンションに別の名前を指定できます。

ユーザーがウィザードを使用してアプリケーションを作成し、「ローカル・ディメンションの自動作成」を選択すると、AllocationTypeディメンションは自動的に生成されます。「ブランク・アプリケーションの作成」を選択する場合、ユーザー独自のディメンションを作成し、AllocationTypeディメンション・タイプを選択する必要があります。

このディメンションは変更できず、Performance Management ArchitectまたはProfitability and Cost Managementでは表示されません。

Profitability and Cost Managementによって作成されるEssbaseアウトラインでは、AllocationTypeディメンションには次のメンバーが含まれます:

- **AllAllocations**には、次の子メンバーが含まれます:
 - **DirectAllocation**には、モデル内で指定したソース交差と宛先交差間で直接配賦された計算済データが保管されます。直接配賦は、ユーザーによって割当てとして定義される必要があります。
 - **GenealogyAllocation**には、モデル内の様々な関連交差間の間接リンクで計算された配賦系統が保管されます。

系統配賦は、ユーザーによって直接は定義されませんが、複数の直接配賦のために存在します。たとえば、A-B-C配賦系統データが存在するのは、AからB(A-B)およびBからC(B-C)への直接配賦が存在するためです。
- **SysAllocVar1**には、仮想リンクでのステージ内割当ての値が保管されます。この値は、同じステージの別のノードに配賦されており、DirectAllocationメンバーですでに使用可能な値の一部です。
- **SysAllocVar2**は、DirectAllocation、Genealogy AllocationおよびSysAllocVar1のソース・リンクの合計を取得するために使用されます。
- **SysAllocVar3**には、システム内で使用される計算済系統データが保管されます。このメンバーは、レポートには使用しないでください。
- **TotalAllocation**は、DirectAllocation、GenealogyAllocationおよびSysAllocVar3のソース・リンクの合計を動的に計算します。
- **IndirectAllocation**は、GenealogyAllocationおよびSysAllocVar3のソース・リンクの合計を動的に計算します。



注意

このディメンションのシステム・メンバーは編集しないでください。変更を行うと、データの損失やモデルの破損が生じる可能性があります。

別名ディメンション

別名は、ディメンションの定義に役立つ代替の名前、説明、言語またはその他のアイテムです。たとえば、システム内で顧客番号を参照できますが、画面上に顧客名を表示する別名を割り当てることにより、この顧客を簡単に識別で

きるようになります。1つ以上の別名を勘定科目、通貨、エンティティ、シナリオ、期間、バージョン、年およびユーザー定義のディメンション・メンバーに割り当てることができます。



注:

同じディメンション内で重複するメンバー名または別名は使用できません。

Profitability and Cost Managementでは、別名をPerformance Management Architectに設定する必要があります。別名ディメンションを作成する手順の詳細は、*Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect管理ガイド*を参照してください。



注意

アプリケーションがProfitability and Cost Managementに再デプロイされるまでは、別名の関連付けをPerformance Management Architectで削除しても、モデルからは削除されません。

インストール後、Default別名表が使用可能になります。再デプロイメント後は、「ドライバの選択」や「割当て」など、共通メンバー・セレクトアを使用するすべての画面で別名を表示できます。別名を検索およびフィルタ処理するには、先にコンテキスト・メニューで「別名の表示」を選択します。



注:

別名ビューは「ドライバの選択」セレクトアには含まれません(このセレクトアには、ドライバの選択を追加または変更するときに、「ドライバ定義」画面または「ドライバの選択」画面からアクセスできます)。

特定のディメンションがEssbaseで複製されている場合、別名が複製される場合があります。

▶ 別名を表示するには:

1. アプリケーションから、共通メンバー・セレクトアを使用する任意の画面(「ドライバの選択」、「割当て」、「データの入力」、「配賦のトレース」など)を選択します。共通メンバー・セレクトアを含む該当する画面が表示され、使用可能なすべてのメンバーが表示されます。
2. オプション: メンバーを選択するには:

- 「ドライバの選択」で、「選択」または「追加」をクリックします。
- 「ドライバ・ルール」タブおよび「例外」タブで、「新規例外の追加」をクリックし、ディメンションを選択してから「選択」をクリックします。
- 「配賦のトレース」で、「選択」をクリックします。

「メンバーの選択」ダイアログ・ボックスが開き、使用可能なすべてのメンバーが表示されます。

3. 共通メンバー・セレクトアで、「コンテキスト・メニュー」ボタンをクリックし、「別名の表示」を選択します。別名がメンバー・リストに表示されます。



注:

「コンテキスト・メニュー」から「別名の表示」を選択したときに、別名が割り当てられていない場合、メンバー名が大かっこで囲まれて表示されます。たとえば、メンバー名Productは、[Product]と表示されます。

ビジネス・ディメンション

ビジネス・ディメンションは、製品、顧客、地域、従業員など、モデルの各ステージ内のビジネス固有のオブジェクトを示します。これらのディメンションおよびメンバーは、Performance Management Architectで作成されます。

ビジネス・ディメンションは、次のディメンション・タイプの一部または全部を使用し、1つ以上のステージまたはモデルに適用される場合があります:

- 汎用
- 勘定科目
- エンティティ
- 国

Essbaseアウトラインがデプロイされると、Profitability and Cost Managementアプリケーションでビジネス・ディメンションがタイプのない基本ディメンションまたは汎用ディメンションとして作成されます。この機能を使用すると、Profitability and Cost Managementで、Planningなどの他のアプリケーションで定義されているディメンション・メンバーおよび階層を再利用できます。



注:

このディメンション・タイプは、集約ストレージ・アウトラインには適用されません。

ビジネス・ディメンションを作成する場合、次の要件が適用されます:

- ディメンションのGen1メンバーの次のプロパティはLABEL_ONLYに設定する必要があります:
 - DataStorage(BSO)
 - DataStorage(ASO)
- 通常、Gen1ディメンション名の下にある最初の世代2の子は、ALLメンバーに設定されます。たとえば、Departmentsディメンションの場合はAllDepartmentsになります。

プライマリ階層は、最初の世代2の子の下でホストされます。割当モデリングでは最初の世代2階層のみが使用され、この階層に共有メンバーを含めることはできません。

- 追加の世代2メンバーは代替階層をホストできますが、これらの階層は割当モデリングでは使用されません。ディメンションが代替階層をホストする場合は、ディメンションの階層タイプを「使用可能」に設定し、最初の世代2メンバーの階層タイプを「保管済」、共有メンバーを含む代替階層の世代2メンバーを「動的」に設定します。

これらの代替階層は、Profitability and Cost Managementモデリング画面には表示されず、Essbaseでのみ表示できます。

- NoMemberメンバーが必要です。階層内の最後の世代2の子は常にNoMemberであるとともに、集計がIGNORE (-)に設定されている必要があります。



注:

NoMemberメンバーは、Performance Management Architectによって自動的に追加されるため、ADSファイルまたはフラット・ファイルに作成する必要はありません。このメンバーは削除しないでください。

POVディメンション

POVディメンションは、年、シナリオまたは期間など、モデルに固有の視点またはバージョンを示します。ディメンションは、組織の要件を反映するようにカスタマイズできます。たとえば、四半期、月、季節ごとのグループなどでPOVを構成できます。

各モデルには1つ以上のPOVディメンションが必要で、最大4つのPOVディメンションを作成できます。POVディメンションは、モデルのPerformance Management Architectプロパティ・グリッドで設定します。

バージョン・ディメンションも使用可能で、モデルの異なるインスタンスの作成に使用されます。このバージョンは、仮定シナリオを実行して、戦略やビジネス・オプションを試行できるよう変更可能です。バージョンを変更することで、機能を実装し、最善の方策を決定するために結果を比較できます。

属性ディメンション

属性ディメンションは、ビジネス・ディメンションに関連付けられたディメンションの特殊なタイプで、関連付けられたその他のディメンションのメンバーを分類する際に使用可能なメンバーが含まれます。属性ディメンションは、製品のサイズ、色など、データの特性を示します。

これらの属性を使用して、ディメンション・メンバーの属性または品質に基づいてデータを分析できます。属性ディメンションは、割当てルールの作成時に宛先交差のフィルタ処理にも使用されます。



注:

命名の制限については、[253ページの付録F「Essbase命名規則」](#)を参照してください。

2つの属性ディメンション・タイプがPerformance Management Architectに存在します:

- 属性ディメンション:
 - ブール、日付、数値、テキストなど、異なる構造を使用して属性を作成できます。
 - 属性には階層があり、集計値にロールアップすることができます。
 - 所定の属性ディメンションの1つの属性のみを1つのメンバーに関連付けできます。
- ユーザー定義属性ディメンション(UDA):

- 属性は、テキストを使用して作成する必要があります。
- UDAには階層がないため、合計を生成するためのレポートに容易に使用することはできません。
- 複数のUDAを1つのメンバーに関連付けることができます。

モデルやレポートの要件により、属性ディメンションの利点はタイプごとに異なります。属性ディメンションの操作の詳細は、『Oracle Essbaseデータベース管理者ガイド』を参照してください。

これらの属性を使用して、ディメンション・メンバーの属性または品質に基づいてデータを分析できます。属性ディメンションは、割当てルールの作成時に宛先交差のフィルタ処理にも使用されます。

命名の制限については、[253ページの付録F「Essbase命名規則」](#)を参照してください。

ディメンション・ソート順および密度の設定

Dimension Sort Orderプロパティは、Profitability and Cost Managementによって生成されるEssbaseアウトラインにおけるディメンションの順序を制御します。ディメンション・ソート順は、別名またはUDAを除く、モデル内のすべてのディメンションに対して設定する必要があります。



注意

ディメンションのソート順を空のままにすると、検証は失敗します。

Dimension Sort Orderプロパティは、Performance Management Architectで設定され、Essbaseアウトラインの生成に使用するためのデプロイメント時にProfitability and Cost Managementに渡されます。詳細は、[58ページのディメンション・ソート順の設定](#)を参照してください。

モデルのディメンション・ソート順設定は、Performance Management Architectで検証されます。[77ページの標準Profitabilityアプリケーションの設定の変更](#)を参照してください。

「ディメンションのソート順設定」ダイアログ・ボックスから、ディメンションの密度を設定することもできます。

ディメンション・ソート順の推奨事項

次の推奨事項を参照して、ディメンション・ソートを設定することをお勧めします：

- ・ 別名とUDAを除く、モデル内のすべてのディメンション・ソート順が設定されている。



注：

別名ディメンションとUDAディメンションは、Profitability and Cost ManagementとEssbaseにはディメンションとして存在しないため、ディメンション・ソート順では無視されている。

- ・ ディメンション・ソート順が連続しており、一意かつ1以上である必要があります。
- ・ メジャー・ディメンションがデフォルトで1に設定されている。

- AllocationTypeディメンションがデフォルトで2に設定されている。
- ビジネス・ディメンションとPOVディメンションが3以上に設定されている。
- 属性ディメンションが常に最後のディメンションとしてソートされている。たとえば、12個の連続したディメンションのうち4個が属性ディメンションである場合、属性ディメンションは9、10、11および12に設定する必要があります。

ディメンション・ソート順の設定

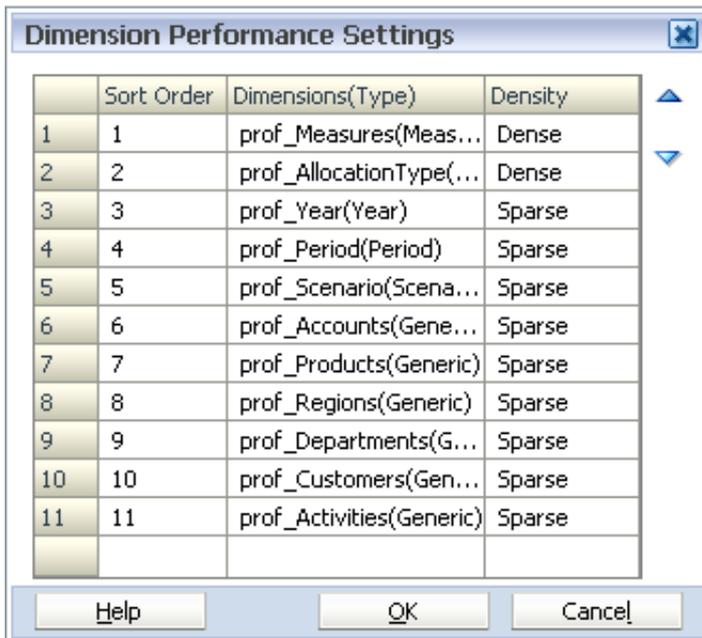
モデル内のすべてのディメンションの処理順序は、Dimension Sort Orderプロパティを使用してディメンション・レベルで設定する必要があります。ディメンション・ソート順の制限を満たす必要があります; 制限を満たさない場合、モデルの検証は失敗します。制限の完全なリストについては、[57ページのディメンション・ソート順の推奨事項](#)を参照してください。

Performance Management Architectでディメンション・ソート順を設定する方法は2つあります:

- すべてのディメンションのソート順を一度に設定するには、「ディメンション・パフォーマンスの設定」ダイアログ・ボックスを使用します。
- 1つのディメンションの個々のディメンション・ソート順を一度に設定するには、ディメンション・ライブラリのプロパティ・グリッドを使用します。

▶ ディメンション・パフォーマンスの設定ダイアログ・ボックスを使用してディメンション・ソート順を設定するには:

1. EPM Workspaceから、「ナビゲート」、「管理」、「ディメンション・ライブラリ」の順に選択し、共有ライブラリを表示します。
2. アプリケーション名を右クリックし、ディメンション・パフォーマンスの設定を選択します。



3. [ディメンション・ソート順の推奨事項](#) で説明されているように、ディメンションを選択し、上矢印 [58ページのディメンション・ソート順の設定](#) 下矢印を使用して各ディメンションを正しいソート順に移動します。「ソート順」に、ディメンションの元の場所の番号が表示されます。
4. オプション: 選択したディメンションの「密度」で、オプションを表示するセルをダブルクリックし、ディメンションの適切な密度を選択します。 [62ページのEssbaseのディメンション設定の最適化](#)を参照してください。

5. 「OK」をクリックします。
- ▶ 個々のディメンションのディメンション・ソート順を設定するには:
 1. EPM Workspaceから、「ナビゲート」、「管理」、「ディメンション・ライブラリ」の順に選択します。
 2. Profitability and Cost Managementアプリケーションで、ディメンション・ソート順を設定するディメンションを選択します。
 3. プロパティ・グリッドで、Dimension Sort Orderプロパティを選択し、「値」にソートの順序に必要な数字を入力します。58ページのディメンション・ソート順の設定を参照してください。
 4. 「保存」アイコン  をクリックします。

5

Performance Management Architectを使用した標準 Profitabilityアプリケーションおよびディメンションの管理

この項の内容:

標準Profitabilityアプリケーションおよびディメンションの操作	61
Essbaseのディメンション設定の最適化	62
メタデータのインポート	63
Profitability and Cost Managementのディメンション・プロパティおよびメンバー・プロパティ	64
階層タイプ・プロパティの設定	70
標準Profitabilityアプリケーションの作成	71
標準Profitabilityのディメンションの選択	72
標準Profitabilityアプリケーションの設定の変更	77
Performance Management Architectでの標準Profitabilityアプリケーションの検証とデプロイ	82
データの同期	86

標準Profitabilityアプリケーションおよびディメンションの操作

Profitability and Cost Managementでは、Performance Management ArchitectまたはProfitabilityアプリケーションを使用して、Profitabilityモデルに使用されるEssbaseアウトラインを構築するためのディメンションを選択します。すべてのディメンションおよびメンバーは、Performance Management Architectで作成され、モデルを構築するためにProfitability and Cost Managementアプリケーションにインポートされます。



注:

ライフサイクル管理は、モデル・データのインポートやエクスポートだけでなく、Performance Management Architect内のアプリケーションのインポートやエクスポートにも使用できます。

Performance Management Architectでは、次のタスクを実行できます:

- ディメンションの作成、編集およびコピー
- 別名の設定
- ディメンションの関連付けの作成、表示および削除
- メンバーの作成、表示、名前変更および削除
- プロパティ値の編集

- Profitability and Cost Managementへのアプリケーションのデプロイ
- トランザクション・ログの表示
- Profitability and Cost Managementと他のアプリケーション、Essbaseデータベース(ASOおよびBSO)、外部ソース(フラット・ファイル)、およびインタフェース表間のデータの同期化

Performance Management Architectを使用したメタデータおよびディメンションの操作の詳細は、次の項を参照してください:

- [62ページのEssbaseのディメンション設定の最適化](#)
- [63ページのメタデータのインポート](#)
- [64ページのProfitability and Cost Managementのディメンション・プロパティおよびメンバー・プロパティ](#)
- [71ページの標準Profitabilityアプリケーションの作成](#)
- [82ページのPerformance Management Architectでの標準Profitabilityアプリケーションの検証とデプロイ](#)
- [86ページのデータの同期](#)

Essbaseのディメンション設定の最適化

一般的な標準Profitability and Cost Managementアプリケーションには、1つのメジャー・ディメンション、1つのAllocationTypeディメンション、複数のPOVディメンション、および多数のビジネス・ディメンションが含まれます。Profitability and Cost Managementでは、ビジネス・ディメンションが複数のステージで使用される場合、ビジネス・ディメンションが重複します。このプロセスにより、アプリケーションによって生成されるEssbase計算キューブ・アウトラインはより疎になり、計算スクリプトの実行時のパフォーマンスに影響を与える可能性があります。

Oracle Essbase Administration Services (EAS)コンソールを使用して、生成された計算キューブ・アウトラインのディメンション・ストレージ・タイプを直接変更することにより、ある程度の最適化は簡単に実現できます。



注意

「ディメンション・ストレージ・タイプ」プロパティの変更は、データベース管理者(DBA)のみが実行する必要があります。指示の詳細は、『Oracle Essbase Administration Services開発者ガイド』を参照してください。

各ディメンションの「ディメンション・ストレージ・タイプ」プロパティの設定に関するデフォルトの推奨事項は、次のとおりです:

- メジャー・ディメンションおよびAllocationTypeディメンションは密に設定します
- ビジネス・ディメンションおよびPOVディメンションはすべて疎に設定します

このデフォルト設定の場合、Essbase計算キューブのブロック・サイズは約3Kになり、疎ディメンションのディメンションナリティに基づく多数の潜在的なブロックが発生します。最大ステージの最も密なディメンション(データの存在に基づく)は密に設定する必要があります。その場合、AllocationTypeディメンションおよびメジャー・ディメンションは疎に設定する必要があります。



注:

このブロック・サイズは、Essbaseのベスト・プラクティスの推奨事項の制限内に収まる必要があります。詳細は、『Oracle Essbase Administration Services開発者ガイド』を参照してください。

標準Profitabilityの例

最大ステージは、ステージ内の潜在的なノードの最大数によって定義されます。

一般的なProfitability and Cost Managementモデルの最後のステージが顧客X製品(顧客x製品の収益性の計算用)として定義されており、これが最大ステージである場合、このステージ内の顧客ディメンションまたは製品ディメンションを密に設定できます。関連するメジャー・ディメンションおよびAllocationTypeディメンションは疎に設定します。顧客を密に設定するか製品を密に設定するかの決定は、管理しているドライバのデータの密度に基づいて行います。

たとえば、前のステージ内の様々なソースからこのステージに配賦するために使用するドライバが販売量であり、製品ディメンションより顧客ディメンションのほうにより密なデータが含まれる(多くの顧客に対して少ない製品が販売される)場合、顧客を密に設定できます。少ない顧客に対して多くの製品が販売される場合、製品を密に設定できます。いずれの場合も、Essbaseブロック・サイズは、Essbaseのベスト・プラクティスの推奨事項の制限内に収まる必要があります。



注:

属性の関連付けがあるディメンションは密に設定できません。Essbaseでは、属性の関連付けは疎ディメンションとしてのみ設定できます。

メタデータのインポート

Performance Management Architectのディメンション・ライブラリは、ディメンションおよび階層を表示、作成および管理するための、管理者用の中心的な場所です。他のアプリケーションと共有する既存のディメンションを使用することも、自分のモデル専用のローカル・ディメンションを作成することもできます。

ディメンション・ライブラリを使用するには、ディメンション・エディタのセキュリティの役割がある必要があります。この役割では、ディメンションおよびメンバーの作成、削除、変更、インポート・プロファイルの作成、トランザクション・ログの実行などのすべてのディメンション・ライブラリ機能へのアクセスが可能です。『Oracle Enterprise Performance Management Systemユーザー・セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

Performance Management Architectには、2つのタイプのディメンションがあります:

- 共有ディメンションは、共有ライブラリにリンクされており、ディメンションに対して行われたすべての変更を継承します。

- ローカル・ディメンションは、共有ライブラリからアプリケーションへコピーされます。ローカル・ディメンションは、共有ライブラリ内のディメンションに対して行われる将来の変更を継承しません。



注意

Profitability and Cost Managementのすべてのプロパティはローカル値です。プロパティが他の階層に存在する場合に、この値を変更しても自動的に継承されません。1つの階層でプロパティを変更しても、他の階層に値が継承されるとは仮定できません。

ディメンション・ライブラリからこれらのプロパティを編集できます:

- アプリケーション
- ディメンション
- メンバー



注:

時間、通貨および国用の標準ディメンションは、すべての製品を対象としてPerformance Management Architectで使用できます。

- ▶ ディメンション・ライブラリにアクセスするには、「ナビゲート」、「管理」、「ディメンション・ライブラリ」の順に選択します。

ディメンションおよびメンバーを操作する手順の詳細は、*Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect管理ガイド*を参照してください。

Profitability and Cost Managementのディメンション・プロパティおよびメンバー・プロパティ

Profitability and Cost Managementのディメンションおよびメンバーのプロパティは、[65ページの表 12](#)にアルファベット順で表示され、次の情報が含まれます:

- プロパティ・ラベル。プロパティにわかりやすい表示名を提供します。該当する場合、関連データベース・タイプが名前に付加されます(ASOまたはBSO)。データベース・タイプが指定されていない場合、プロパティは両方のタイプに適用されます。
- 各プロパティの説明
- プロパティに一意の識別子を提供し、インポートおよびバッチ・クライアントでデータを更新する際に使用するプロパティ名。

ディメンション・ライブラリでプロパティを選択すると、ドロップダウン・リストまたはデータ入力ボックスを表すプロパティを変更できます。

ディメンションおよびメンバーを操作する手順の詳細は、*Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect管理ガイド*を参照してください。



注意

Profitability and Cost Managementのすべてのプロパティはローカル値です。ある階層でプロパティを変更しても、他の階層に値が継承されるわけではありません。

表12 標準Profitability and Cost Managementのディメンション・プロパティおよびメンバー・プロパティ

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
別名	<p>選択したディメンション・メンバーの別名を入力します。別名は、デプロイしたアプリケーションに表示される代替ディメンション・メンバー名です。</p> <ul style="list-style-type: none">現在のディメンション・メンバーのデフォルトの別名を割り当てるかまたは変更する場合は、既存の別名をクリックして新規名前を入力します。適切な命名規則に従います。すべてのデータベースには、「Default」という別名表があります。現在のディメンション・メンバーの別名を割り当てるかまたは変更する場合は、別名表の横にある既存の別名をクリックして新規名前を入力します。適切な命名規則に従います。	
アプリケーション・タイプ	<p>アプリケーション・タイプを選択します:</p> <ul style="list-style-type: none">標準Profitabilityの場合は「全般」詳細Profitabilityの場合は「詳細」	ApplicationType
属性	<p>ディメンション・メンバーの特性を入力します。</p> <p>たとえば、従業員ディメンション・メンバーには、名前、年齢、または住所の各属性がある場合があります。Productディメンションのメンバーはサイズ、味などの複数の属性を持つ場合があります。</p>	Attributes
属性タイプ	<p>属性タイプを選択したメンバーに関連付けます。メンバーの問合せおよびフィルタに使用できるディメンション・メンバーに割り当てられた属性の属性値を作成します。属性タイプ:</p> <ul style="list-style-type: none">テキストブール日付数値 <p>たとえば、「カフェイン入り」の属性タイプはブール値になります。データ値はTrueまたはFalseです。</p>	AttributeDataType
コメント	<p>ディメンションまたはメンバーのコメントを入力します。コメントには最大255文字を指定できます。デフォルトでは、テキスト・ボックスには現在のコメントが表示されます(存在する場</p>	コメント

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
	<p>合)。属性ディメンションまたはメンバーにコメントを割り当てられません。</p> <p>注:</p> <p>Unicode使用可能データベースでは、最大80文字まで許可されます。</p>	
集計	<p>メンバー集計プロパティは、子を親にロールアップする方法を指定します。現在のメンバーがディメンションまたは属性ではない場合は、そのメンバーに割り当てる集計演算子を選択します:</p> <ul style="list-style-type: none"> • + (加算) - デフォルト • - (減算) • * (乗算) • / (除算) • % (パーセント) • ^ (集計では無視する) • ^ (集計しない) • NotUsed <p>注:</p> <p>集約ストレージ・アウトラインでは、連結演算子の使用に一部制限があります。詳細は、『Oracle Essbaseデータベース管理者ガイド』を参照してください。</p>	Consolidation
データ・ストレージ(ASO)	<p>ディメンションおよびメンバーのASOストレージ・オプションを選択します:</p> <ul style="list-style-type: none"> • StoreData - データはディメンションとともに保管されます。 • ShareData - このメンバーに関連付けられているデータは共有できます。ShareDataプロパティは、メンバーのみに適用されます。ディメンション・ルート・メンバーは共有できません。 • NeverShare - このディメンションに関連付けられているデータは、単一の子を持つ親などのように、暗黙の共有関係がある場合にも共有できません。この場合、データは親および子で複製されます。 <p>注:</p> <p>このオプションは、集約ストレージ・アウトラインに保管された階層には適用されません。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • ASODimensionDataStorage (ディメンション・ルート・メンバーの場合) • ASOMemberDataStorage (ディメンション・メンバーの場合)

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
	<ul style="list-style-type: none"> LabelOnly - このディメンションに関連付けられているデータはありません。 	
データ・ストレージ(BSO)	<p>ディメンションおよびメンバーのBSOストレージ・オプションを選択します:</p> <ul style="list-style-type: none"> StoreData - データはディメンションとともに保管されます。 ShareData - このメンバーに関連付けられているデータは共有できます。ShareDataプロパティは、メンバーのみに適用されます。ディメンション・ルート・メンバーは共有できません。 NeverShare - このディメンションに関連付けられているデータは、単一の子を持つ親などのように、暗黙の共有関係がある場合にも共有できません。この場合、データは親および子で複製されます。 LabelOnly - このディメンションに関連付けられているデータはありません。 DynamicCalcAndStore - このディメンションに関連付けられているデータは、ユーザーが要求するまで計算されません。計算された後、データは保管されます。 DynamicCalc - このディメンションに関連付けられているデータは、ユーザーが要求するまで計算されません。データは保管されず、要求の処理が完了した後に破棄されます。 	<ul style="list-style-type: none"> BSODimensionDataStorage (ディメンション・ルート・メンバー用) BSOMemberDataStorage (ディメンション・メンバー用)
ディメンション式(ASO)	<p>セルをダブルクリックし、セレクト・ボタンをクリックして、メモ・エディタを開きます。式を入力し、「OK」をクリックします。</p> <p>適切なASO MDX構文を使用します。</p>	ASODimensionFormula (ディメンション・ルート・メンバー用)
ディメンション式(BSO)	<p>セルをダブルクリックし、セレクト・ボタンをクリックして、メモ・エディタを開きます。式を入力し、「OK」をクリックします。</p> <p>適切なBSO CALCULATOR構文を使用します。</p>	BSODimensionFormula (ディメンション・ルート・メンバー用)
ディメンション解決順	<p>選択したディメンションのソリューション・シーケンスに数値を入力します。たとえば、このディメンションを2番目に解決する場合は、「2」を入力します。</p>	DimensionSolveOrder
ディメンション・ソート順	<p>数値を順番に入力してProfitability and Cost Managementによって生成されたEssbaseアウトライン内のディメンションの順序を設定します。</p> <p>たとえば、このディメンションがEssbaseアウトラインの2番目のディメンションである場合は、2を入力します。</p>	DimensionSortOrder

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
	<p>ディメンション・ソート順は、別名ディメンションとUDAディメンションを除き、モデル内のすべてのディメンションに設定されている必要があります。</p> <p>ディメンション・ソート順が連続しており、一意かつ1以上である必要があります。</p> <p>58ページのディメンション・ソート順の設定に概略されているように、ソート順を設定します。</p>	
ディメンション・ストレージ・タイプ	<p>「ディメンション・ストレージ・タイプ」プロパティは、Essbaseのブロック・ストレージ(BSO)データベースにのみ使用されず。ディメンションに必要なストレージのタイプを選択します:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 密 • 疎 	DimensionStorageType
階層タイプ (ディメンションのみ)	<p>「階層タイププロパティは、Essbaseの集約ストレージ(ASO)データベースにのみ使用されます。レポート用データベースがProfitability and Cost Managementによって生成されます。ディメンションの階層のタイプを設定します:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 次の集計記号を使用するディメンション・メンバーには「保管済」を選択します: <ul style="list-style-type: none"> ○+ (加算) ○~ (無視) <p>注:</p> <p>メンバーの親がLABEL_ONLYに設定されている場合、非集計演算子または無視(~)は、保管済階層にのみ使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 加算や無視などの集計記号を使用するディメンション・メンバーの場合、またはディメンション・メンバーに式が含まれる場合は「動的」を選択します。 • 代替階層をサポートする場合は、「使用可能」を選択します 	DimensionHierarchyType
階層タイプ (メンバーのみ)	<p>メンバー元の階層のタイプを設定します:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 保管(最初のGen2の子用) • 動的(2番目以降のGen2の子用。2番目のGen2メンバーは代替階層をホスト可能) • なし(使用不可) 	HierarchyType
集約でのレベルの使用	<p>このプロパティは、ASOアウトライン内の保管済階層をホストするGen1またはGen2の階層メンバーに適用されます。</p> <p>DEFAULTに設定します</p>	

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
	このプロパティの追加情報については、『Oracle Essbase データベース管理者ガイド』を参照してください。	
メンバー式(ASO)	セルをダブルクリックし、セクタ・ボタンをクリックして、メモ・エディタを開きます。式を入力し、「OK」をクリックします。 適切なASO MDX構文を使用します。	ASOMemberFormula
メンバー式(BSO)	セルをダブルクリックし、セクタ・ボタンをクリックして、メモ・エディタを開きます。式を入力し、「OK」をクリックします。 適切なBSO (BSO CALCULATOR)構文を使用します。	BSOMemberFormula
メンバー解決順 (メンバーのみ)	選択したメンバーのソリューション・シーケンスに数値を入力します。たとえば、このメンバーを2番目に解決する場合は、「2」を入力します。 このプロパティは、ASOデータベースのみに適用されます。 解決順が0のメンバーは、そのディメンションの解決順序を継承します。 解決順が同じメンバーは、ディメンション・ソート順プロパティで別の値が指定されていないかぎり、そのディメンションがデータベース・アウトラインに出現する順序で評価されます。 解決順のないメンバーは、解決順のあるメンバーの後に評価されます。	MemberSolveOrder
POVディメンション	このディメンションを選択したモデルのPOVディメンションとして設定する場合は、このチェック・ボックスを選択します。	IsPOVDimension
POV表示順	複数のPOVディメンションがある場合は、1、2、3などの数値を入力して、各POVディメンションの表示順を設定します。	POVDisplayOrder
プライマリ・レベルの加重	プライマリ・レベルの加重は、集約操作中のビュー選択エンジンで選択できるレベルを制限します。これらの設定は、Essbase (ASO)アプリケーションのみに適用されます。次のオプションのいずれかを選択します： <ul style="list-style-type: none"> • Default - ビュー選択エンジンは選択するレベルを自由に決定できます。これは、新規の階層に対する初期値です。 • AllLevels - ビュー選択エンジンは階層のすべてのレベルを集約対象とみなします。 • NoAggregation - ビュー選択エンジンはどのレベルも集約用に選択できません。 • TopLevelOnly - ビュー選択エンジンはディメンションの最上位レベルのみを集約対象とみなします。 • BottomaTop - ビュー選択エンジンは、ディメンションの最上位レベルおよび最下位レベルのみを集約対象とみなします。 	PrimaryLevelWeighting

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
	<ul style="list-style-type: none"> • BottomLevelOnly – ビュー選択エンジンはディメンションの最下位レベルのみを集約対象とみなします。 	
2パス計算 (ディメンションのみ)	BSOデータベースの場合のみ、このチェック・ボックスを選択すると、アウトラインを介した2番目のパスのメンバーが計算されます。	TwoPassCalc (ディメンション・ルート・メンバー用)
2パス計算 (メンバーのみ)	BSOデータベースのみの場合、アウトラインを通じて2番目のパスでメンバーを計算するためのチェック・ボックスを選択します。	TwoPassCalc
UDA	<p>選択したメンバーのUDAメンバーを選択します。UDAディメンションは、Performance Management Architectに存在し、UDAが追加される先のベースに関連付けられている必要があります。最大80文字(英数字)のUDAメンバーを選択できます。</p> <p>注: Unicode使用可能データベースでは、最大80文字まで許可されます。</p>	UDA
Unicode	「 Unicode 」を選択して、アプリケーションをUnicodeモードに設定します。Unicodeモードのアプリケーションは複数の文字セットをサポートします。	Unicode

階層タイプ・プロパティの設定

「Hierarchy Type」プロパティは、Essbaseの集約ストレージ・データベースにのみ使用されます。(レポート・キューブがProfitability and Cost Managementによって生成されます。)

その他の集計タイプ記号(加算および無視以外)を使用できるようにするには、階層タイプを「動的」に設定する必要があります。



注:

ディメンション・メンバーに式がある場合は、階層タイプを「動的」に設定する必要があります。

▶ 階層タイプを設定するには:

1. EPM Workspaceから、「ナビゲート」、「管理」、「ディメンション・ライブラリ」の順に選択します。
2. アプリケーションの下でディメンションを選択します(「別名」、「属性」、「UDA」を除く)。
3. プロパティ・グリッドで、適切な階層タイプ・プロパティを選択します:

- 次の集計記号を使用するディメンション・メンバーには「保管済」を選択します:

○+ ADDITION

○~ IGNORE (LABEL ONLYメンバーの下のみ。)

- サポートされているすべての集計記号を使用する必要のあるディメンション・メンバー、または式のあるディメンション・メンバーを含むディメンションには「動的」を選択します。

4. Profitability and Cost Management、Essbaseの順にアプリケーションを再デプロイします。

標準Profitabilityアプリケーションの作成

次の2つの方法のいずれかを使用して、Performance Management Architectで標準Profitabilityアプリケーションを作成できます：

- アプリケーションおよびディメンションを自動的に作成する「アプリケーション・ウィザード」を使用してProfitability and Cost Managementアプリケーションを作成します。
- ブランク・アプリケーションを作成し、ディメンションを手動で選択して名前を付けます。

▶ Profitability and Cost Managementアプリケーションを作成するには：

1. フラット・ファイルのインポートまたはPerformance Management Architectインタフェース表のインポートを使用してPerformance Management Architectに新規共有ライブラリを移入します。



注意

アプリケーションに含めるビジネス・ディメンション(汎用、勘定科目、エンティティ、時間、国など)は、アプリケーションを作成する前に、ディメンション・ライブラリに追加する必要があります；これを行わないと、「アプリケーション・ウィザード」での選択にディメンションを使用できません。

2. EPM Workspaceから、「ナビゲート」、「管理」、「アプリケーション・ライブラリ」の順に選択します。

アプリケーション・ライブラリが表示されます。

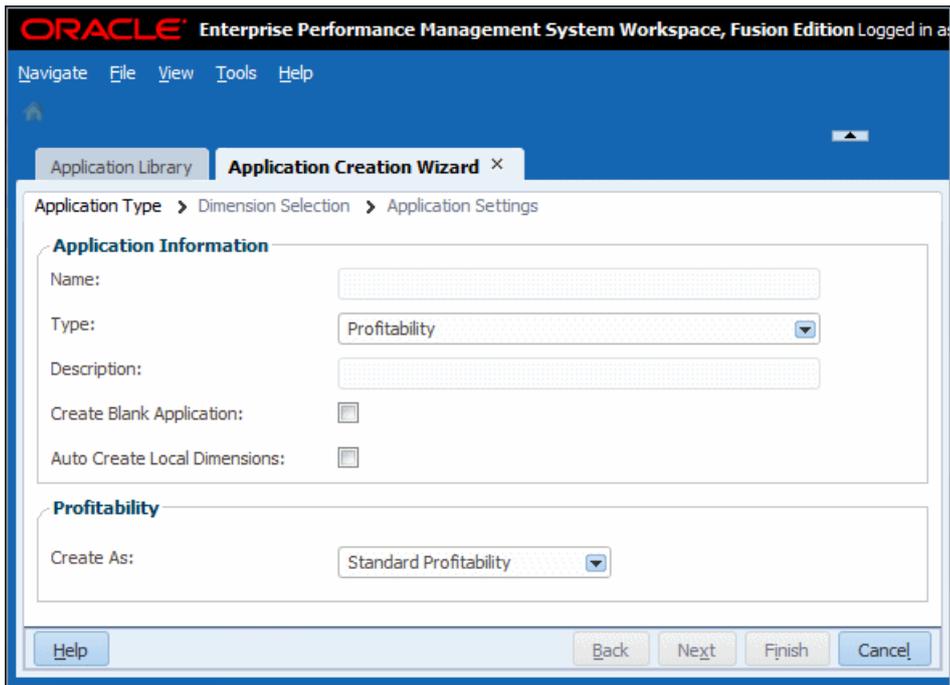
3. 「ファイル」、「新規」、「アプリケーション」の順に選択します

ウィザードの最初の「アプリケーション・タイプ」画面が表示されます。

4. 「名前」で、アプリケーション名を入力します。

名前は7文字以内で命名し、「&」(アンパサンド)を含む特殊文字を使用しないでください。[253ページの付録F「Essbase命名規則」](#)を参照してください。

5. 「タイプ」で、「Profitability」を選択します。



6. オプション: 「説明」に、説明を入力します。
7. オプション: デイメンションを手動でブランク・アプリケーションに追加するには、「ブランク・アプリケーションの作成」を選択し、「終了」をクリックします。76ページの標準Profitabilityデイメンションの手動での追加を参照してください。
8. オプション: すべての必須デイメンションを自動的に作成するには、「ローカル・デイメンションの自動作成」を選択します。

「ローカル・デイメンションの自動作成」を選択すると、アプリケーションに必要なすべてのデイメンションについて新規デイメンションが自動的に作成されます。各新規デイメンションのデイメンション名は、デイメンション・タイプにカッコで囲んだ(新規)が付いた名前になります。

ウィザードの2番目の画面である「デイメンションの選択」が表示されます。

9. 「次」をクリックします。72ページの標準Profitabilityのデイメンションの選択を参照してください。

標準Profitabilityのデイメンションの選択

標準Profitabilityアプリケーションを作成した後、アプリケーションに含めるデイメンションを選択する必要があります。

標準Profitability and Cost Managementアプリケーションに必要なデイメンションは次のとおりです:

- メジャー・デイメンションには、ドライバ・メジャー、レポート・メジャー、配賦メジャーなど、モデルの構築、検証および計算に必要なメンバーが含まれています。ユーザーは、メンバー「UserDefinedDriverMeasures」の下の階層にユーザー定義のドライバ・メジャー(つまりサブ階層)を追加できます。
- AllocationTypeデイメンションは、直接配賦および系統配賦の保管に使用されます。
- POVデイメンションにより、年、ステータス、シナリオなど、選択した期間のモデル情報に関する具体的なビューを参照できます。ユーザーは、少なくとも1つの視点(POV)デイメンションを定義する必要があります。また、POVバージョンを作成することもできます。

- ユーザーは、少なくとも1つのビジネス・ディメンションを定義する必要があります。ビジネス(またはユーザー定義の)ディメンションには、製品タイプ、販売地域、製造プロセス、総勘定元帳、給与計算、部署など、ビジネスまたは組織の要件に特に関連する情報が保管されるメンバーが含まれています。

ビジネス・ディメンションには、次のディメンション・タイプの一部または全部が含まれ、1つ以上のステージまたはモデルに適用される場合があります:

- 汎用
- 勘定科目
- エンティティ
- 時間
- 国



注:

これらのビジネス・ディメンションはProfitability and Cost Managementアプリケーションの一部として含められますが、Essbaseアウトラインがデプロイされると、タイプのない基本または汎用ディメンションとして作成されます。

- 属性ディメンションは、ビジネス・ディメンションに関連付けられた特殊なタイプのディメンションです。属性は、製品のサイズや色など、データの特徴を示します。

Performance Management Architectには、2つの属性ディメンション・タイプがあります:

○属性ディメンション:

- 属性は、Boolean、Date、Numeric、Textなどの異なる構造を使用して作成できます。
- 属性には階層があり、集計値にロールアップすることができます。
- 1つのメンバーに1つの属性のみ関連付けることができます。

○ユーザー定義属性ディメンション(UDA):

- 属性は、テキストを使用して作成する必要があります。
- UDAには階層がないため、合計を生成するためのレポートに容易に使用することはできません。
- 複数のUDAを1つのメンバーに関連付けることができます。

各タイプの属性ディメンションには、モデルの要件とレポート・ニーズに応じて異なる利点があります。属性ディメンションの操作の詳細は、『Oracle Essbaseデータベース管理者ガイド』を参照してください。

- 別名はオプションです。モデルで別名を使用する場合のみ必要です。命名の規則については、[253ページの付録F「Essbase命名規則」](#)を参照してください。



注意

同じディメンション内で重複するメンバー名または別名は使用できません。



注:

モデル・ステージはディメンションではないため、Performance Management Architectでは使用できません。Profitability and Cost Managementでは、ステージはモデルに追加され、ディメンションを論理的な手順またはステージに整理するために使用されます。

アプリケーションを作成した後、適切な手順を使用してアプリケーションに追加するディメンションを選択します:

- ウィザードを使用する場合は、[74ページのウィザードを使用した標準Profitabilityのディメンションの追加](#)を参照してください。
- ブランクのアプリケーションを作成した場合は、[76ページの標準Profitabilityディメンションの手動での追加](#)を参照してください。

ウィザードを使用した標準Profitabilityのディメンションの追加

アプリケーション・ウィザードを使用すると、必要なすべてのディメンションが自動的に表示されます。正確な一致がある場合は、そのディメンション・タイプのディメンション列に自動的に入力されます。Profitability and Cost Managementの必要なディメンション・タイプは、自動的に分類されて、次の影付きヘッダーとともに表示されます:

- メジャー・ディメンション
- AllocationTypeディメンション
- POVディメンション
- 別名ディメンション(オプション)
- ビジネス・ディメンション
- 属性ディメンション(オプション)

「ローカル・ディメンションの自動作成」を選択した場合、必要なディメンションごとに新規ローカル・ディメンションが作成されます。各新規ディメンションの名前は、ディメンション・タイプにかっこで囲まれた(New)が付いたものになります。たとえば、Account (New)となります。

勘定科目、エンティティ、時間、国などアプリケーションに含めるビジネス・ディメンションは、アプリケーションを作成する前にディメンション・ライブラリに追加する必要があります; そうしないと、「アプリケーション・ウィザード」でディメンションを選択できません。名前について制限されている単語および文字を確認するには、[253ページの付録F「Essbase命名規則」](#)を参照してください。

▶ ディメンションを定義するには:

1. 「ディメンションの選択」タブ(アプリケーション・ウィザードの手順2)の「ディメンションのタイプ」で、必要なディメンション・タイプを確認します。

- c. 新規ディメンションの「名前」と「説明」を入力します。「タイプ」は、ディメンション・タイプに基づいて自動的に選択されます。
 - d. 「OK」をクリックします。
5. [75ページのステップ 3](#)と [75ページのステップ 4](#)を繰り返し、新規ディメンションを選択または作成します。



注:

次の画面に移動する前に、すべての必須ディメンションを、ディメンションまたは[該当なし]にマップする必要があります。

6. オプション: ディメンションをローカル・ディメンションとして指定するには、各行の最後にある「ローカル・ディメンション」チェック・ボックスを選択します。
7. 「次」をクリックします。
「アプリケーション設定」画面が表示されます。
8. 必要に応じて、アプリケーション設定を変更します。[77ページの標準Profitabilityアプリケーションの設定の変更](#)を参照してください。

標準Profitabilityディメンションの手動での追加

ブランク・アプリケーションを作成する場合は、ディメンション・ライブラリを使用してディメンションを選択します。

ディメンション・ビューには、次の3つのペインがあります:

- 共有ライブラリ - 左側に表示されます。共有ライブラリで現在使用可能なすべてのディメンションが表示されます。
- アプリケーション - 中央部に表示され、展開すると現在のアプリケーションのすべてのディメンションの名前がリスト表示されます。
- プロパティ・グリッド - 右側に表示されます。選択したディメンションまたはメンバーのすべてのプロパティを表示します。

ディメンション・ライブラリの使用の詳細は、*Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect管理ガイド*を参照してください。

▶ ブランク・アプリケーションにディメンションを追加するには:

1. ディメンション・ライブラリで、共有ライブラリからアプリケーションにディメンションをドラッグします。
「ディメンションのコピー」ダイアログ・ボックスが表示されます。



ヒント:

新規ローカル・ディメンションを作成するには、アプリケーション・ビューでアプリケーション名を右クリックし、「ディメンションの作成」を選択します。「新規ディメンションの追加」ダイアログ・ボックスが表示されます。

2. 「ローカル・ディメンション」または「共有ディメンション」を選択します。



ヒント:

アプリケーションにメンバーのみを追加するには、共有ライブラリでディメンションを右クリックして、「アプリケーション・ビューに追加」を選択します。

3. 必要なすべてのディメンションをアプリケーションに追加します。(メジャー、AllocationType、POVなど)
展開されたアプリケーションにすべてのディメンションが表示されます。



ヒント:

共有ライブラリにメンバーを追加し、アプリケーションにディメンションを追加した場合、「リフレッシュ」ボタン  をクリックすると、アプリケーションに新規メンバーが表示されます。

4. **NoMember**の**Consolidation**プロパティ値を~(無視)に設定します。
5. ディメンションを順序変更して、**NoMember**が最後の世代2の位置に移動されるようにします。[80ページの子メンバーの順序変更](#)を参照してください。
6. 必要に応じて、アプリケーション設定を変更します。[77ページの標準Profitabilityアプリケーションの設定の変更](#)を参照してください。

標準Profitabilityアプリケーションの設定の変更

サブトピック

- [ディメンション・ライブラリを使用したアプリケーション設定の変更](#)
- [アプリケーション・ウィザードを使用したアプリケーション設定の変更](#)
- [POVディメンションのプロパティの設定](#)
- [子メンバーの順序変更](#)

ディメンションを作成して選択した後で、アプリケーションのプロパティ、関連付けおよび他のアプリケーション設定を更新します。ブランク・アプリケーションを作成し、ディメンション・ライブラリを使用してアプリケーション設定を変更する場合、変更を加えるためにウィザードではなくディメンション・ライブラリを使用するという点を除けば、同様のオプションを使用できます。



注:

ディメンションの関連付けは、共有階層に必要ですが、すべてのモデルで必要というわけではありません。

アプリケーション設定を変更する次の各手順を参照してください:

- ブランク・アプリケーションの場合はディメンション・ライブラリを使用します。[78ページのディメンション・ライブラリを使用したアプリケーション設定の変更](#)を参照してください。
- 自動生成アプリケーションの場合は「アプリケーション・ウィザード」を使用します。[78ページのアプリケーション・ウィザードを使用したアプリケーション設定の変更](#)を参照してください。

ディメンション・ライブラリを使用したアプリケーション設定の変更

ディメンション・ライブラリには、共有ライブラリ、アプリケーションおよびプロパティ・グリッドが表示されます。右クリック・メニューを使用して、アプリケーション・ディメンションを変更し、次のアクションを実行します:

- Profitability and Cost Managementモデルの場合は、次のタスクを実行します:
 - POVディメンションのプロパティ、および必要に応じて、複数のPOVディメンションのPOV表示順を設定します。
[79ページのPOVディメンションのプロパティの設定](#)を参照してください。
 - すべてのモデル・ディメンションのディメンション・ソート順を設定します。
[58ページのディメンション・ソート順の設定](#)を参照してください。
 - NoMemberの順序を変更し、このメンバーをリスト上の最終世代2のメンバーとして表示します。
[80ページの子メンバーの順序変更](#)を参照してください
- 必要に応じて、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect管理者ガイド』に記載されている手順を使用してディメンションを変更します:

アプリケーション・ウィザードを使用したアプリケーション設定の変更

ウィザードを使用してアプリケーションを作成する場合、アプリケーションのディメンションおよびメンバーが左側に表示され、プロパティ・グリッドが右側に表示され、検証およびデプロイメント・オプションが下部に表示されます。

右クリック・メニューを使用してアプリケーション・ディメンションを変更し、次のタスクを実行します:

- Profitability and Cost Managementモデルの場合は、次のタスクを実行します:
 - POVディメンションのプロパティ、および必要に応じて、複数のPOVディメンションのPOV表示順を設定します。
[79ページのPOVディメンションのプロパティの設定](#)を参照してください。

○すべてのモデル・ディメンションのディメンション・ソート順を設定します。

[58ページのディメンション・ソート順の設定](#)を参照してください。

○NoMemberの順序を変更し、このメンバーをリスト上の最終世代2のメンバーとして表示します。

[80ページの子メンバーの順序変更](#)を参照してください

- 必要に応じて、*Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect*管理ガイドに記載されている手順を使用してディメンションを変更します:
 - ディメンション別名を設定します。
 - アプリケーション・メンバーシップを表示します。
 - ディメンションの関連付けを表示します。
 - ディメンションを同期化します。
 - メンバーを作成します。
 - 共有メンバーを挿入します。
 - 孤立メンバーを管理します。

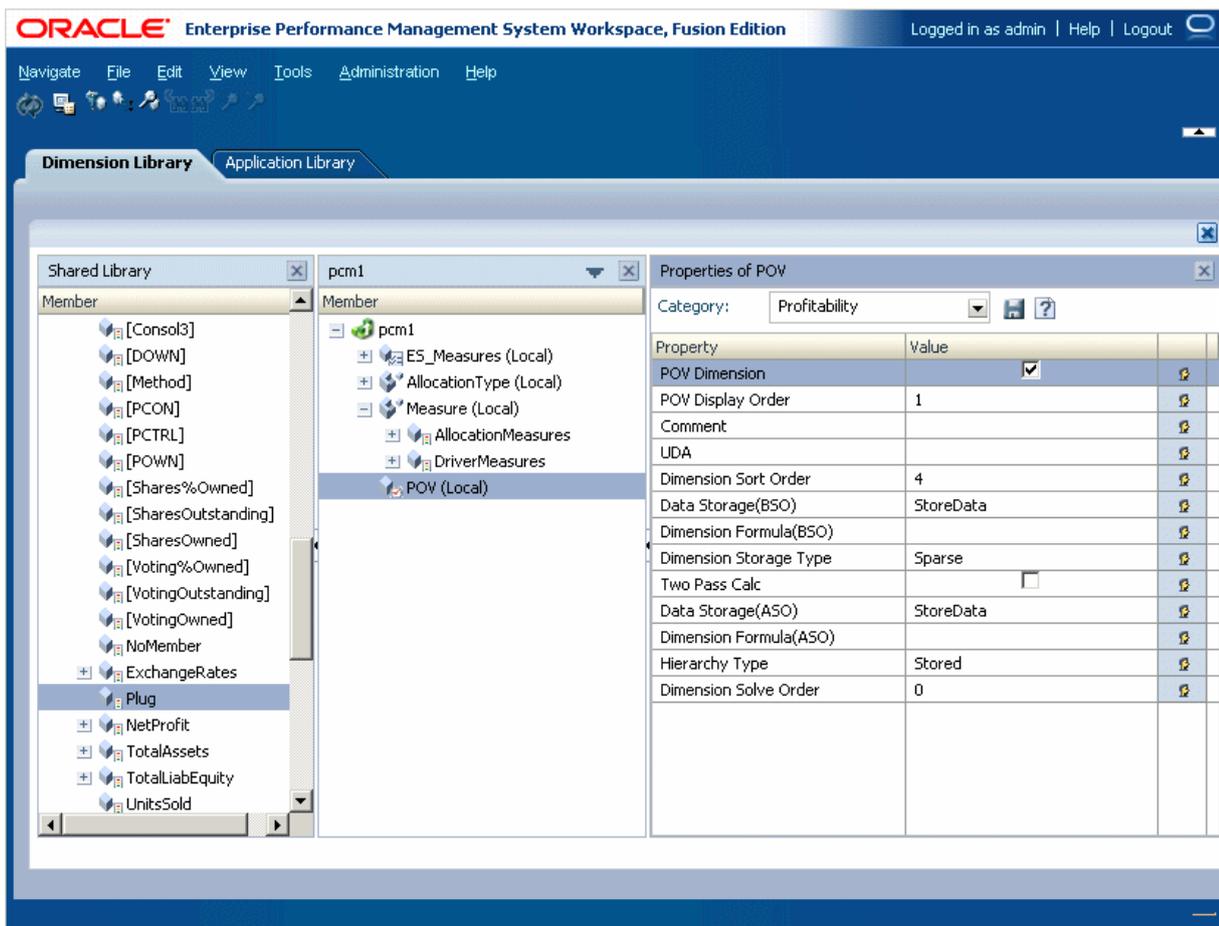
POVディメンションのプロパティの設定

Profitability and Cost Managementモデルごとに、少なくとも1つのPOV(視点)ディメンションを設定する必要があります。POVディメンションは、任意のカスタム値に設定できますが、通常は、年、期間、シナリオなどの期間を示します。また、POVバージョンを作成することもできます。

複数のPOVディメンションが指定されている場合、POVの表示順序も設定してこれらのディメンションの計算にシーケンスを付ける必要があります。Performance Management Architectで設定されたPOVの表示順序は、Profitability and Cost Managementで自動的に取得されます。

▶ POVディメンション・プロパティを設定するには:

1. ディメンション・ライブラリで、最初のPOVディメンション(年など)を選択します。
2. プロパティ・グリッドで「カテゴリ」の下の「収益性」を選択します。
3. 「POVディメンション」を選択します。



- オプション: 期間やシナリオなど、他のPOVディメンションを選択するには、79ページのステップ 1 から 79ページのステップ 3を繰り返します。
- オプション: 複数のPOVディメンションが選択された場合、POVディメンションごとにPOVの表示順序を設定します。

「POVの表示順序」セルをダブルクリックして、選択したPOVディメンションのシーケンス番号を入力します。たとえば、年、期間およびシナリオがPOVディメンションとして設定されている場合、年のPOVの表示順序に1、期間に2、およびシナリオに3を表示順序として設定します。

子メンバーの順序変更

モデル内のすべてのビジネス・ディメンションについては、NoMemberがメンバー・リストの最後の世代2メンバーとして表示されるようにリストを順序変更する必要があります; これを行わないと、モデルの検証は失敗します。

NoMemberが最後の位置に残っていれば、特定の要件にあわせてメンバーの順序も変更できます。



注:

この手順はビジネス・ディメンションのみで必要です。

▶ 子を順序変更するには:

- EPM Workspaceから、「ナビゲート」、「管理」、「ディメンション・ライブラリ」の順に選択し、共有ライブラリを表示します。

2. 次の説明に従って、記録するディメンションを選択します:

- 共有ディメンションの場合、「共有ライブラリ」の下で、順序変更するディメンションを右クリックして「子の順序変更」を選択します。
- ローカル・ディメンションの場合、「アプリケーション」列の下で、順序変更するディメンションを右クリックして「子の順序変更」を選択します。

「子の順序変更」ダイアログ・ボックスが表示されます。

Member	Sort Order
[None]	1
ALL	2
NoMember	3
AllDepartments	4

3. 「ソート順」で、メンバーの順序を変更するセルをダブルクリックし、新しいソート順の場所の番号を入力します。

Member	Sort Order
[None]	1
ALL	2
NoMember	4
AllDepartments	3



注:

NoMemberディメンションが最後の世代2メンバーとしてリストの最後に移動したことを確認します; 最後がない場合、デプロイメントは失敗します。

4. 81ページのステップ 3を繰り返して、すべてのメンバーを順序付けます。

5. 変更をプレビューするには、「プレビュー」をクリックします。
6. 「保存」をクリックします。

Performance Management Architectでの標準 Profitabilityアプリケーションの検証とデプロイ

Performance Management ArchitectでProfitability and Cost Managementアプリケーションを作成した後、アプリケーションを検証してProfitability and Cost Managementにデプロイする必要があります。

次の項を参照してください:

- [82ページのProfitability and Cost Managementの検証](#)
- [83ページのウィザードを使用したアプリケーションの検証とデプロイ](#)
- [84ページのPerformance Management Architectを使用したアプリケーションの検証とデプロイ](#)



注:

アプリケーションの再デプロイメント時に個別メンバー、複数のメンバーまたはメンバーの組合せの追加、名前変更、親変更または削除が可能です。

Profitability and Cost Managementアプリケーションを作成およびデプロイするためにPerformance Management Architectを操作する手順の詳細は、*Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect管理ガイド*を参照してください。

Profitability and Cost Managementの検証

Profitability and Cost Managementでは、次の条件が検証されます:

表13 Profitabilityの検証

検証レベル	検証
アプリケーション	<ul style="list-style-type: none"> • アプリケーションの名前は7文字以下にする必要があります、特殊文字は使用できません。 • 少なくとも1つのディメンションをPOVタイプに設定する必要があります。最大4つのディメンションをPOVディメンションとしてマークできます。各POVディメンション・クラスは1回のみ使用できます。 • 少なくとも1つのビジネス・ディメンションが定義されている必要があります。 • 少なくとも1つのメジャー・ディメンションが定義されている必要があります。 • 少なくとも1つのAllocationTypeディメンションが定義されている必要があります。 • タイプが勘定科目のディメンションが1つしかありません。 • タイプがエンティティのディメンションが1つしかありません。 • アプリケーション名にEssbaseの特殊文字および予約語が含まれていません。
ディメンション	<ul style="list-style-type: none"> • ビジネス・ディメンションのルート・メンバーには、LabelOnlyに設定されたASOおよびBSOデータ・ストレージが必要です。 • ディメンション・ソート順が、別名ディメンションとUDAディメンションを除き、モデル内のすべてのディメンションに設定されており、次の条件を満たしています:

検証レベル	検証
	<p>○別名ディメンションとUDAディメンションを除く、モデル内のすべてのディメンションにディメンション・ソート順が設定されている必要があります。</p> <p>注:</p> <p>別名ディメンションとUDAディメンションは、ディメンション・ソート順では無視されます。</p> <p>○ディメンション・ソート順は連続している必要があります。</p> <p>○メジャー・ディメンションがデフォルトで1に設定されています。</p> <p>○AllocationTypeディメンションがデフォルトで2に設定されています。</p> <p>○POVディメンションとビジネス・ディメンションが3以上に設定されています。</p> <p>○属性ディメンションは最後のディメンションとしてソートされています。</p> <p>たとえば、12個の連続したディメンションのうち4個が属性ディメンションである場合、属性ディメンションは9、10、11および12に設定する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ビジネス・ディメンションには少なくとも2つの世代2メンバーが必要です。 • POVディメンションには少なくとも1つのメンバーが必要です。 • 属性ディメンションは次の条件を満たす必要があります: <ul style="list-style-type: none"> ○属性ディメンションのレベル0のメンバーのみが属性として割当て可能です。 ○属性は基本ディメンションの同じレベルのメンバーにのみ割当て可能です。 ○属性ディメンションは疎ディメンションにのみ関連付けられます。
メンバー	<ul style="list-style-type: none"> • ASOおよびBSOデータ・ストレージのみを定義できます。 • 共有メンバーは、最初の世代2メンバーでは許可されていません。 • 共有メンバーは、アウトライン順序で常に対応する基本メンバーの後に表示される必要があります。 • NoMemberは、すべてのビジネス・ディメンションに対して最後の世代2メンバーとして設定する必要があります、プロパティ・グリッドで「無視(~)」に設定する必要があります。 <p>注:</p> <p>この要件は、POV、メジャー、AllocationType、別名、UDAまたは属性ディメンションに適用されません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 次のいずれかの方法によって、共有メンバーを動的階層に置く必要があります: <ul style="list-style-type: none"> ○世代1メンバーがHierarchyType=dynamicです ○世代1メンバーがHierarchyType=HierarchiesEnabledであり、共有メンバーの世代2の祖先がHierarchyType=dynamicです • ディメンションのメンバーに重複するメンバー名または別名はありません。 • メンバー名にEssbaseの特殊文字および予約語が含まれていません。

ウィザードを使用したアプリケーションの検証とデプロイ

アプリケーション・ウィザードを使用している場合は、アプリケーションの作成を終了する前にアプリケーションを検証して、すべてのエラーを修正します。必要に応じて、ウィザードの検証およびデプロイメント・オプションを使用せずに、後でデプロイメント・オプションをアプリケーション・ライブラリで使用することもできます。

▶ ウィザードを使用してアプリケーションを検証およびデプロイするには:

1. アプリケーション・ウィザードの「アプリケーション設定」画面で、「検証」をクリックします。

すべてのエラーはグリッドに表示され、エラー・タイプとエラー・メッセージが表示されます。

2. オプション: 検証後にアプリケーションをデプロイするには、「終了時にデプロイ」を選択します。
3. 検証エラーが発生した場合、アプリケーションをデプロイする前にすべての問題を修正します。
4. 「終了」をクリックします。

「終了時にデプロイ」を選択した場合、「デプロイ」ダイアログ・ボックスが表示されます。



注:

共有ディメンションを変更した場合、その共有ディメンションを使用するすべてのアプリケーションが影響を受けます。変更内容を適用するには、アプリケーションを再デプロイする必要があります。

5. アプリケーションをデプロイします。

Performance Management Architectを使用したアプリケーションの検証とデプロイ

▶ Profitability and Cost ManagementアプリケーションをPerformance Management Architectで検証およびデプロイするには:

1. EPM Workspaceから、「ナビゲート」、「管理」、「アプリケーション・ライブラリ」の順に選択し、アプリケーション・ライブラリを表示します。
2. アプリケーション名を右クリックし、「検証」を選択して、Performance Management Architectに新たに作成したProfitability and Cost Managementアプリケーションを検証します。Profitability and Cost Managementの検証条件は、[82ページのProfitability and Cost Managementの検証](#)を参照してください。

検証が完了すると、「ジョブ・タスク」ダイアログ・ボックスが表示され、関連付けられたジョブ番号が表示されます。

3. 関連付けられたジョブのリンクをクリックすると、ジョブ・コンソールが表示されます。
4. ジョブ・コンソールの要約を確認します。エラーがある場合、「添付ファイル」の下にある検証ログのリンクをクリックして、すべての検証エラーまたはメッセージの完全リストを表示します。
5. 検証ログ内のエラーをすべて修正します。
6. エラーがなくなり検証に成功するまで、[84ページのステップ 2](#)から [84ページのステップ 5](#)を繰り返すと、アプリケーションの配置に成功します。

これで、アプリケーションはデプロイ可能になりました。

7. アプリケーション・ライブラリで、アプリケーション名を右クリックし、ドロップダウン・リストから「デプロイ」を選択します。

アプリケーションは、デプロイ前に検証されます。検証エラーは、すべてジョブ・コンソールに表示されます。デプロイ前にすべての検証エラーを修正する必要があります。検証が完了すると、「デプロイ」ダイアログ・ボックスが表示されます。

8. デプロイメントに必要な情報を指定します:

- オプション: 「ノート」で、このアプリケーションのデプロイメントに関する備考を追加します。これらの備考はジョブ・コンソールのジョブの説明に追加されます。このテキスト・フィールドには200文字まで入力でき、任意の文字を含めることができます。
- 「インスタンス名」で、アプリケーションのデプロイ先のProfitability and Cost Managementインストール名を選択します。

Profitability and Cost Managementアプリケーションは、単一マシンまたはクラスタの一部として複数のマシンにインストールできます。各インストールまたはインスタンスは、「インスタンス名」ドロップダウン・リストに表示されます。初回インストール時には、コンフィグレータ・ツールで使用されるインスタンスの名前がデフォルトで指定されます。

- 「アプリケーション・サーバー」を選択します。
- 「**Shared Services**プロジェクト」で、このアプリケーションを割り当てる「Profitability and Cost Management」アプリケーション・グループを選択します。
- オプション: 次のようにして、「完全デプロイ」を選択するかどうかを決定します:
 - アプリケーションの初めてのデプロイメントの場合、Performance Management ArchitectはすべてのディメンションをProfitability and Cost Managementに自動的に送信するため、「完全デプロイメント」チェックボックスは無効になっています。
 - 後続のデプロイメントで「完全デプロイメント」が選択されている場合、Performance Management ArchitectはすべてのディメンションをProfitability and Cost Managementに送信します。
 - 「完全デプロイ」が選択されていない場合、Performance Management Architectは変更されたディメンションのみをProfitability and Cost Managementに送信します。ディメンションが変更されていない場合、そのディメンションはデプロイメントに含まれません。

9. 「デプロイ」をクリックします。

検証ジョブが送信されたことを確認するジョブ・タスク・ウィンドウが表示され、ジョブIDが表示されます。

10. ジョブ・タスク・ウィンドウでリンクをクリックすると、ジョブ・ステータスが表示されます。

ジョブを完了すると、新規アプリケーションが作成され、Profitability and Cost Managementにデプロイされたことを示すメッセージが「詳細」に表示されます。新規アプリケーションを選択できるようになります。



注:

アプリケーションのデプロイメントが正常に終了していない場合、アプリケーション・ライブラリでアプリケーション名を右クリックしてアプリケーションのクリーンアップを選択します。このオプションにより、Shared ServicesとProfitability and Cost Managementの両方に対して強制的に削除コールが実行され、アプリケーションのすべてのトレースが削除されて、Performance Management Architect内のアプリケーションが未デプロイの状態にリセットされます。

データの同期

データの同期によって、Oracleアプリケーション、インタフェース表および外部ファイル間でデータを同期およびマップできます。

Performance Management Architectのデータの同期モジュールを使用して、宛先としてのOracle Hyperion Financial Management、Planning、Profitability and Cost Management、Essbase(ASOおよびBSO)、および次のソース間でデータを同期化できます:

- Oracle Hyperion Financial Management
- Planning
- Profitability and Cost Management
- Essbase(ASOおよびBSO)
- 外部ソース(フラット・ファイル)
- インタフェース表

データの同期は現在、BSOデータベースからのデータ転送のみをサポートしています。



注:

Essbaseアプリケーションとデータベースの名前は、Profitability and Cost Managementアプリケーションの初回デプロイメント後、最初に指定された名前です。BSOデータベースの場合、データベース名はアプリケーション名に"C"を付加したものです。この名前ではない場合、データの同期は失敗します。

データを同期する詳細な手順は、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architectバッチクライアント・ユーザー・ガイド』を参照してください。

6

標準Profitabilityのインポート・ステージング表

この項の内容:

インポート・ステージング表の使用	87
標準Profitabilityのインポート・データベース表の作成	88
HPM_STG_STAGE	88
HPM_STG_POV	89
HPM_STG_DRIVER	91
HPM_STG_DRIVER_SEL	94
HPM_STG_DRIVER_EXCEP	96
HPM_STG_ASSIGNMENT	97
HPM_STG_ASGN_RULE_SEL	99

インポート・ステージング表の使用

リレーショナル・データベースからProfitability and Cost Managementにモデル・データをインポートするには、Profitability and Cost Management製品スキーマとは別のデータベース・スキーマに一連のステージング表を作成する必要があります。(詳細Profitabilityのモデル・データ・スキーマとして使用されるスキーマを再利用することもできます)。これらのステージング表に、インポートされるアプリケーション・アーティファクトの詳細を移入します。



注意

製品スキーマを変更しないでください。

データベースのステージング・スクリプトはMicrosoft SQL ServerおよびOracle Databaseで使用できます。適したスクリプトを使用して、新しいデータベースにステージング表を作成します:

この付録のスキーマ表を使用してプロシージャとステージング表を作成します:

- [88ページの標準Profitabilityのインポート・データベース表の作成](#)
- [88ページのHPM_STG_STAGE](#)
- [89ページのHPM_STG_POV](#)
- [91ページのHPM_STG_DRIVER](#)
- [94ページのHPM_STG_DRIVER_SEL](#)
- [97ページのHPM_STG_ASSIGNMENT](#)
- [99ページのHPM_STG_ASGN_RULE_SEL](#)

標準Profitabilityのインポート・データベース表の作成

データベースのステージング・スクリプトはMicrosoft SQL ServerおよびOracle Databaseで使用できます。標準Profitabilityで表を作成するには、create_staging.sqlスクリプトを使用します。

▶ ステージング表を作成するには:

1. 製品スキーマの外部に、新しいOracleまたはMicrosoft SQL Serverデータベース・スキーマを作成します。
2. データベースのタイプに応じて、デフォルトの場所で適切なSQLスクリプトの場所にナビゲートします:
 - %EPM_ORACLE_HOME%/products/Profitability/database/Common/MSSQLServer
 - %EPM_ORACLE_HOME%/products/Profitability/database/Common/Oracle
3. create_staging.sqlスクリプトを実行します。

HPM_STG_STAGE

HPM_STG_STAGE表は、モデル内のステージのリストを示し、各ステージの表示順、接頭辞、関連するディメンションおよびドライバ・ディメンションを確認できます。

依存関係: なし

表14 HPM_STG_STAGE

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	必須	説明
id	identity	integer(38,0)	はい	一意のレコードID
name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい	モデル・ステージの名前。
description	nvarchar (255)	varchar2(255 CHAR)		ステージの目的の簡単な説明。
stage_order	identity (38,0)	integer(38,0)	はい	計算スクリプトの生成および計算において、モデリング(割当ておよびルール作成)時に選択したステージがモデル内で使用されるシーケンス位置。
stage_prefix	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい	ステージ名を区別するための接頭辞。
dim1_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい	ステージに含まれる最初のディメンションの名前。
dim2_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		ステージに含まれる2番目のディメンションの名前(該当する場合)。
dim3_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		ステージに含まれる3番目のディメンション

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	必須	説明
				の名前(該当する場合)。
driver_dim_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい	ステージのドライバとして選択されたディメンションの名前。
Is_intra	nvarchar (1)	varchar2(255 CHAR)	はい	モデル・ステージ内でステージ内割当てを可能にするには、「Y」(はい)を入力します。 デフォルトは「N」(いいえ)です。このフィールドは、アプリケーションから移入されます。
last_upload_date	timestamp (6)	timestamp (6)		最後のインポートの日付と時刻。
exception	nvarchar (255)	varchar2(255 CHAR)		この表のインポート時に発生したエラーを詳述するメッセージ。
created_userid	nvarchar (32)	varchar2(32 CHAR)	更新時にインポート・プログラムによって移入されます。	最後のインポートを開始したユーザーのID。
created_timestamp	timestamp (6)	timestamp (6)	更新時にインポート・プログラムによって移入されます。	最後のインポートの日付と時刻。この値は、更新時にインポート・プログラムによって移入されます。
modified_userid	nvarchar(32)	varchar2(32 CHAR)	更新時にインポート・プログラムによって移入されます。	最後のインポートを変更したユーザーのID。
modified_timestamp	timestamp (6)	timestamp (6)	更新時にインポート・プログラムによって移入されます。	変更されたインポートの日付と時刻。

HPM_STG_POV

HPM_STG_POV表には、視点(POV)に含まれるディメンション・メンバーの各組合せの状態が保管されます。

依存関係: なし

表15 HPM_STG_POV

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	必須	説明
id	identity	integer(38,0)	はい	Unique record ID

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	必須	説明
pov_dim1_member_name	varchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい	最初のPOVディメンション・メンバーの名前。
pov_dim2_member_name	varchar (80)	varchar2(80 CHAR)		2番目のPOVディメンション・メンバーの名前 (該当する場合)。
pov_dim3_member_name	varchar (80)	varchar2(80 CHAR)		3番目のPOVディメンション・メンバーの名前 (該当する場合)。 必要に応じて、別のディメンションおよびメンバー名を追加できます。
pov_dim4_member_name	varchar (80)	varchar2(80 CHAR)		4番目のPOVディメンション・メンバーの名前 (該当する場合)。 必要に応じて、別のディメンションおよびメンバー名を追加できます。
pov_state	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい	POVの現在のステータス: <ul style="list-style-type: none"> • ドラフト • 発行済 • アーカイブ済
last_upload_date	timestamp (6)	timestamp (6)		最後のインポートの日付と時刻。
exception	nvarchar (255)	varchar2(255 CHAR)		この表のインポート時に発生したエラーを詳述するメッセージ。
created_userid	nvarchar (32)	varchar2(32 CHAR)	更新時にインポート・プログラムによって移入されます。	最後のインポートを開始したユーザーのID。
created_timestamp	timestamp (6)	timestamp (6)	更新時にインポート・プログラムによって移入されます。	最後のインポートの日付と時刻。この値は、更新時にインポート・プログラムによって移入されます。

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	必須	説明
modified_userid	nvarchar(32)	varchar2(32 CHAR)	更新時にインポート・プログラムによって移入されます。	最後のインポートを変更したユーザーのID。
modified_timestamp	timestamp (6)	timestamp (6)	更新時にインポート・プログラムによって移入されます。	変更されたインポートの日付と時刻。

HPM_STG_DRIVER

HPM_STG_DRIVER表は、ドライバ・タイプ、表示順序、レイヤーおよびメジャー・ディメンションのメンバーなど、ドライバに関する詳細を示します。

依存関係: なし

表16 HPM_STG_DRIVER

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	必須	説明
id	identity	integer(38,0)	はい	一意のレコードID
name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい	ドライバの名前。
description	nvarchar (255)	varchar2(255 CHAR)		選択したドライバの目的の説明。
driver_type	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい	ドライバ・タイプ: <ul style="list-style-type: none"> • 均等 • 標準 • 標準加重 • 標準可変 • 加重可変 • 固定および可変 • パーセンテージ • カスタム
fixed_member	nvarchar (80)	varchar2(80)		標準ドライバ・メジャーFixedDriverValueに対応するメジャー・ディメンションのメンバー。
fixed_location	nvarchar (30)	varchar2(30)		標準ドライバ・メジャーFixedDriverValueの場所。
rate_member	nvarchar (80)	varchar2(80)		標準ドライバ・メジャーRateに対応するメジャー・ディメンションのメンバー。

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	必須	説明
rate_location	nvarchar (30)	varchar2(30)		標準ドライバ・メジャーRateの場所。
weight_member	nvarchar (80)	varchar2(80)		標準ドライバ・メジャーWeightに対応するメジャー・ディメンションのメンバー。
weight_location	nvarchar (30)	varchar2(30)		標準ドライバ・メジャーWeightの場所。
volume_member	nvarchar (80)	varchar2(80)		標準ドライバ・メジャーVolumeに対応するメジャー・ディメンションのメンバー。
volume_location	nvarchar (30)	varchar2(30)		標準ドライバ・メジャーVolumeの場所。
custom_formula	nvarchar (500)	varchar2(500 CHAR)		ユーザーによって作成されたドライバの式。この式は、Essbase計算スクリプト構文を使用して作成する必要があります。『Oracle Hyperion Profitability and Cost Managementユーザーガイド』を参照してください。
cost_layer	nvarchar (30)	varchar2(30 CHAR)		「はい」を入力して、ドライバ・レイヤーを「費用」に設定します。これにはモデルの費用値が含まれます。 注： cost_layer、revenue_layer、またはその両方を選択する必要があります。
revenue_layer	nvarchar (30)	varchar2(30 CHAR)		「はい」を入力して、ドライバ・レイヤーを「収益」に設定します。これにはモデルの収益値が含まれます。

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	必須	説明
				注: cost_layer、revenue_layer、 またはその両方を選択する必要があります。
allow_idle_cost	nvarchar (1)	varchar2(1 CHAR)		このドライバでアイドル費用を使用可能にするかどうかを決定する適切な値を入力します: <ul style="list-style-type: none"> このドライバでアイドル費用を使用可能にする場合、「Y」(はい)を入力します。 このドライバでアイドル費用を使用不可能にする場合、「N」(いいえ)を入力します。これがデフォルトです。
driver_basis_type	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい	必要なドライバ基準を選択します: <ul style="list-style-type: none"> 実績基準 標準基準 注: 標準基準ドライバは、均等または「パーセンテージ」のドライバ・タイプでは使用できません。
priority	identity	integer(38,0)	はい	ステージ内の配賦を指定した順序で実行できるようにドライバの計算の優先度を入力します。 優先度が最低のドライバが最初に処理されます。デフォルトでは、優先度は100に設定

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	必須	説明
				されており、最も高い優先度は1です。数値は連続していなくてもかまいません。優先度が同じドライバは特定の順序で実行されるわけではありません。正の整数のみが有効です。
last_upload_date	timestamp (6)	timestamp (6)		最後のインポートの日付と時刻。
exception	nvarchar (255)	varchar2(255 CHAR)		この表のインポート時に発生したエラーを詳述するメッセージ。
created_userid	nvarchar (32)	varchar2(32 CHAR)	更新時にインポート・プログラムによって移入されます。	最後のインポートを開始したユーザーのID。
created_timestamp	timestamp (6)	timestamp (6)	更新時にインポート・プログラムによって移入されます。	最後のインポートの日付と時刻。この値は、更新時にインポート・プログラムによって移入されます。
modified_userid	nvarchar(32)	varchar2(32 CHAR)	更新時にインポート・プログラムによって移入されます。	最後のインポートを変更したユーザーのID。
modified_timestamp	timestamp (6)	timestamp (6)	更新時にインポート・プログラムによって移入されます。	変更されたインポートの日付と時刻。

HPM_STG_DRIVER_SEL

HPM_STG_DRIVER_SEL表には、選択したドライバ・ルールについて、POVとソース・ステージ・ドライバ・ディメンション・メンバーに関する詳細が示されます。

依存関係:

- HPM_STG_DRIVER
- HPM_STG_STAGE
- HPM_STG_POV

表17 HPM_STG_DRIVER_SEL

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	必須	説明
id	identity	integer(38,0)	はい	一意のレコードID

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	必須	説明
pov_dim1_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい	選択した視点(POV)の最初のディメンション・メンバーの名前。
pov_dim2_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		視点(POV)の2番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)。
pov_dim3_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		視点(POV)の3番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)。
pov_dim4_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		視点(POV)の4番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)。
driver_dim_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい	選択したドライバ・ディメンションのメンバーの名前
layer_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい	選択した視点(POV)のレイヤーの名前: <ul style="list-style-type: none"> • 費用収益 • 収益
src_stage_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい	選択した視点(POV)のモデル・ステージの名前。
driver_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい	選択したドライバ・ディメンション・メンバーのドライバの名前。
last_upload_date	timestamp (6)	timestamp (6)		最後のインポートの日付と時刻。
import_exception	nvarchar (255)	varchar2 (255 CHAR)		この表のインポート時に発生したエラーを詳述するメッセージ。
created_userid	nvarchar (32)	varchar2 (32 CHAR)	更新時にインポート・プログラムによって移入されます。	最後のインポートを開始したユーザーのID。
created_timestamp	timestamp (6)	timestamp (6)	更新時にインポート・プログラムによって移入されます。	最後のインポートが開始された日付と時刻。この値は、更新時にインポート・プログラムによって移入されます。

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	必須	説明
modified_userid	nvarchar(32)	varchar2 (32 CHAR)	更新時にインポート・プログラムによって移入されます。	最後のインポートを変更したユーザーのID。
modified_timestamp	timestamp (6)	timestamp (6)	更新時にインポート・プログラムによって移入されます。	変更されたインポートの日付と時刻。

HPM_STG_DRIVER_EXCEP

HPM_STG_DRIVER_EXCEP表には、選択したドライバ例外について、POVとソース・ステージ交差に関する詳細が示されます。

表18 HPM_STG_DRIVER_EXCEP

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	必須	説明
id	identity	integer(38,0)	はい	一意のレコードID
pov_dim1_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい	選択した視点(POV)の最初のディメンション・メンバーの名前。
pov_dim2_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		視点(POV)の2番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)。
pov_dim3_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		視点(POV)の3番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)。
pov_dim4_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		視点(POV)の4番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)。
src_dim1_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい	ソース・ステージの最初のディメンション・メンバーの名前
src_dim2_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		ソース・ステージの2番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)。
src_dim3_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		ソース・ステージの3番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)。

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	必須	説明
layer_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい	選択した視点(POV)のレイヤーの名前: <ul style="list-style-type: none"> 費用収益 収益
src_stage_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい	選択した視点(POV)のソース・ステージの名前。
driver_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい	選択した交差のドライバの名前。
last_upload_date	timestamp (6)	timestamp (6)		最後のインポートの日付と時刻。
import_exception	nvarchar (255)	varchar2 (255 CHAR)		この表のインポート時に発生したエラーを詳述するメッセージ。
created_userid	nvarchar (32)	varchar2 (32 CHAR)	更新時にインポート・プログラムによって移入されます。	最後のインポートを開始したユーザーのID。
created_timestamp	timestamp (6)	timestamp (6)	更新時にインポート・プログラムによって移入されます。	最後のインポートが開始された日付と時刻。この値は、更新時にインポート・プログラムによって移入されます。
modified_userid	nvarchar(32)	varchar2 (32 CHAR)	更新時にインポート・プログラムによって移入されます。	最後のインポートを変更したユーザーのID。
modified_timestamp	timestamp (6)	timestamp (6)	更新時にインポート・プログラムによって移入されます。	変更されたインポートの日付と時刻。

HPM_STG_ASSIGNMENT

HPM_STG_ASSIGNMENT表は、各割当てに関する詳細を示します。これには、ソース・ステージ、POV、レイヤー、ソース・ディメンション・メンバー、宛先ステージおよび宛先ディメンション・メンバーが含まれます。

依存関係:

- HPM_STG_POV
- HPM_STG_STAGE
- HPM_STG_DRIVER

表19 HPM_STG_ASSIGNMENT

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	必須	説明
id	identity	integer(38,0)	はい	一意のレコードID
pov_dim1_member_name	varchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい	選択した視点(POV)の最初のディメンション・メンバーの名前。
pov_dim2_member_name	varchar (80)	varchar2(80 CHAR)		視点(POV)の2番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)。
pov_dim3_member_name	varchar (80)	varchar2(80 CHAR)		視点(POV)の3番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)。
pov_dim4_member_name	varchar (80)	varchar2(80 CHAR)		視点(POV)の4番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)。
layer_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい	選択した視点(POV)のレイヤーの名前: <ul style="list-style-type: none"> • 費用収益 • 収益 注: 「費用」または「収益」を選択する必要があります。
src_stage_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい	割当てのソース・ステージの名前。
src_dim1_member_name	varchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい	ソース・ステージの最初のディメンション・メンバーの名前。
src_dim2_member_name	varchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい(ソース・ステージ/ 宛先ステージにこの ディメンションがある 場合)	ソース・ステージの2番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)。
src_dim3_member_name	varchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい(ソース・ステージ/ 宛先ステージにこの ディメンションがある 場合)	ソース・ステージの3番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)。

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	必須	説明
dst_stage_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい	割当ての宛先ステージの名前。
dst_dim1_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい	宛先ステージの最初のディメンション・メンバーの名前。
dst_dim2_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		宛先ステージの2番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)。
dst_dim3_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		宛先ステージの3番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)。
last_upload_date	timestamp (6)	timestamp (6)		最後のインポートの日付と時刻。
import_exception	nvarchar (255)	varchar2 (255 CHAR)		この表のインポート時に発生したエラーを詳述するメッセージ。
created_userid	nvarchar (32)	varchar2 (32 CHAR)	更新時にインポート・プログラムによって移入されます。	最後のインポートを開始したユーザーのID。
created_timestamp	timestamp (6)	timestamp (6)	更新時にインポート・プログラムによって移入されます。	最後のインポートが開始された日付と時刻。この値は、更新時にインポート・プログラムによって移入されます。
modified_userid	nvarchar(32)	varchar2 (32 CHAR)	更新時にインポート・プログラムによって移入されます。	最後のインポートを変更したユーザーのID。
modified_timestamp	timestamp (6)	timestamp (6)	更新時にインポート・プログラムによって移入されます。	変更されたインポートの日付と時刻。

HPM_STG_ASGN_RULE_SEL

HPM_STG_ASGN_RULE_SEL表には、選択したステージの割当てを制御するルールのソース・ステージおよびディメンション・メンバーに関する詳細が保管されます。

依存関係:

- HPM_STG_POV
- HPM_STG_STAGE

表20 HPM_STG_ASSGN_RULE_SEL

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	必須	説明
id	identity	integer(38,0)	はい	一意のレコードID
pov_dim1_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい	選択した視点(POV)の最初のディメンション・メンバーの名前。
pov_dim2_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		視点(POV)の2番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)。
pov_dim3_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		視点(POV)の3番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)。
pov_dim4_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		視点(POV)の4番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)。
layer_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい	選択した視点(POV)のレイヤーの名前: <ul style="list-style-type: none"> ・ 費用収益 ・ 収益 注: 「費用」または「収益」が必須です。
src_stage_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい	割当てルール選択のソース・ステージの名前。
src_dim1_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい	ソース・ステージの最初のディメンション・メンバーの名前。
src_dim2_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい(ソース・ステージに適切なディメンションがある場合)。	ソース・ステージの2番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)。
src_dim3_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい(ソース・ステージに適切なディメンションがある場合)。	ソース・ステージの3番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)。

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	必須	説明
rule_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい	選択した割当てを制御するルールの名前。このルールは、ターゲット・データベース内に存在する必要があります。
last_upload_date	timestamp (6)	timestamp (6)		最後のインポートの日付。
import_exception	nvarchar (255)	varchar2 (255 CHAR)		この表のインポート時に発生したエラーを詳述するメッセージ。
created_timestamp	timestamp (6)	timestamp (6)	更新時にインポート・プログラムによって移入されます。	最後のインポートの日付と時刻。
created_userid	nvarchar (32)	varchar2 (32 CHAR)	更新時にインポート・プログラムによって移入されます。	最後のインポートを開始したユーザーのID。
modified_userid	nvarchar (32)	varchar2 (32 CHAR)	更新時にインポート・プログラムによって移入されます。	再インポートを開始したユーザーのID。
modified_timestamp	timestamp (6)	timestamp (6)	更新時にインポート・プログラムによって移入されます。	再インポートの日付と時刻。

7

標準Profitabilityのモデル定義データのエクスポート

この項の内容:

HPM_EXP_STAGE	103
HPM_EXP_POV	104
HPM_EXP_DRIVER	105
HPM_EXP_DRIVER_SEL	107
HPM_EXP_DRIVER_EXCEP	108
HPM_EXP_ASSIGNMENT	109
HPM_EXP_ASGN_RULE_SEL	111

モデルを作成したら、データベース・ビューの出力として、モデル・アーティファクトを表示するようデータベースに問い合わせできます。

管理者は、ステージング表で使用される列をミラー化するデータベース・ビューをシステム・データベース内に作成できます。このビューは、システムに保管されるモデル・データを示します:

- ステージ(HPM_EXP_STAGE)
- POV(HPM_EXP_POV)
- ドライバ(HPM_EXP_DRIVER)
- ドライバ選択(HPM_EXP_DRIVER_SEL)
- ドライバ例外(HPM_EXP_DRIVER_EXCEP)
- 割当て(HPM_EXP_ASSIGNMENT)
- 割当てルール選択(HPM_EXP_ASGN_RULE_SEL)

HPM_EXP_STAGE

HPM_EXP_STAGEビューは、すべてのアプリケーションのモデル内で定義されたステージのリストを取得します。このビューには、ステージに対して定義されているすべてのその他の属性も表示されます。

表21 HPM_EXP_STAGE

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	説明
application_name	nvarchar (80)	varchar2 (80)	アプリケーションの名前
id	identity	integer(38,0)	Profitability and Cost Managementデータベースに保存されたステージID
name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	モデル・ステージの名前。

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	説明
description	nvarchar (255)	varchar2(255 CHAR)	ステージの目的の簡単な説明。
stage_order	integer	integer	計算スクリプトの生成および計算において、モデリング(割当ておよびルール作成)時に選択したステージがモデル内で使用されるシーケンス位置。
stage_prefix	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	ステージ名を区別するための接頭辞。
dim1_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	ステージに含まれる最初のディメンションの名前。
dim2_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	ステージに含まれる2番目のディメンションの名前(該当する場合)。
dim3_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	ステージに含まれる3番目のディメンションの名前(該当する場合)。
driver_dim_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	ステージのドライバとして選択されたディメンションの名前。
Is_intra	nvarchar (1)	varchar2 (1 CHAR)	ステージ内割当てが許可されているかどうかを決定する次のフラグ: <ul style="list-style-type: none"> • 「Y」(はい)は、モデル・ステージ内でステージ内割当てを使用できることを示します。 • 「N」(いいえ)は、モデル・ステージ内でステージ内割当てを使用できないことを示します。

HPM_EXP_POV

HPM_EXP_POVビューは、視点(POV)に含まれるディメンション・メンバーの各組合せの状態を取得します。

表22 HPM_EXP_POV

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	説明
application_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	アプリケーションの名前

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	説明
id	identity	integer(38,0)	Profitability and Cost Managementの製品データベースに保存されたPOVディメンション・メンバーのグループID
pov_dim1_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	最初のPOVディメンション・メンバーの名前。
pov_dim2_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	2番目のPOVディメンション・メンバーの名前(該当する場合)。
pov_dim3_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	3番目のPOVディメンション・メンバーの名前(該当する場合)。 必要に応じて、別のディメンションおよびメンバー名を追加できます。
pov_dim4_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	4番目のPOVディメンション・メンバーの名前(該当する場合)。 必要に応じて、別のディメンションおよびメンバー名を追加できます。
pov_state	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	POVの現在のステータス: <ul style="list-style-type: none"> • ドラフト • 発行済 • アーカイブ済

HPM_EXP_DRIVER

HPM_EXP_DRIVERビューは、ドライバ・タイプ、式およびレイヤーを含む、ドライバに関する詳細を取得します。

表23 HPM_EXP_DRIVER

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	説明
application_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	アプリケーションの名前
id	identity	integer	Profitability and Cost Managementデータベースに保存されたドライバID
driver_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	ドライバの名前。

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	説明
description	nvarchar (255)	varchar2 (255 CHAR)	選択したドライバの目的の説明。
display_order	integer	integer	モデル内のすべてのドライバのリスト内のドライバの表示位置。
driver_type	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	ドライバ・タイプ: <ul style="list-style-type: none"> • 均等 • 標準 • 標準加重 • 標準可変 • 加重可変 • 固定および可変 • パーセンテージ • カスタム
complete_formula	nvarchar (500)	varchar2 (4000 CHAR)	ユーザーによってドライバ・タイプのために作成された式、または事前定義済ドライバ・タイプの変換済の式。この式は、Essbase計算スクリプト構文を使用して作成する必要があります。『Oracle Hyperion Profitability and Cost Management ユーザー・ガイド』を参照してください。
cost_layer	nvarchar (30)	varchar2 (3 CHAR)	ドライバ・レイヤーは、モデルの費用値が含まれる費用レイヤーに設定されます。 注: cost_layer、revenue_layer、またはその両方を選択する必要があります。
revenue_layer	nvarchar (30)	varchar2 (3 CHAR)	ドライバ・レイヤーは、モデルの収入値が含まれる収入レイヤーに設定されます。 注: cost_layer、revenue_layer、またはその両方を選択する必要があります。

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	説明
allow_idle_cost	nvarchar (1)	varchar2 (1 CHAR)	このドライバにアイドル費用が許可されているかどうかを決定するフラグ: <ul style="list-style-type: none"> 「Y」(はい)は、このドライバにアイドル費用が許可されていることを示します。 「N」(いいえ)は、このドライバにアイドル費用が許可されないことを示します。
driver_basis_type	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	必要なドライバ基準を選択します: <ul style="list-style-type: none"> 実績基準 標準基準 注: 標準基準ドライバは、均等または「パーセンテージ」のドライバ・タイプでは使用できません。
priority	integer	integer(38,0)	ステージ内の配賦を指定した順序で実行できるようドライバの計算の優先度を入力します。 優先度が最低のドライバが最初に処理されます。デフォルトでは、優先度は100に設定されており、最低(または最初)の優先度は0です。数値は連続していなくてもかまいません。優先度が同じドライバは特定の順序で実行されるわけではありません。正の整数のみが有効です。

HPM_EXP_DRIVER_SEL

HPM_EXP_DRIVER_SELビューは、すべてのアプリケーションのモデル内で定義されたドライバ選択ルールに関する情報を取得します。

表24 HPM_EXP_DRIVER_SEL

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	説明
application_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	アプリケーションの名前
id	identity	integer(38,0)	一意のレコードID
pov_dim1_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	選択した視点(POV)の最初のディメンション・メンバーの名前。
pov_dim2_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	視点(POV)の2番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)。
pov_dim3_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	視点(POV)の3番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)。
pov_dim4_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	視点(POV)の4番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)。
driver_dim_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	ドライバ・ディメンション・メンバーの名前
layer_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	選択した視点(POV)のレイヤーの名前: <ul style="list-style-type: none"> • 費用収益 • 収益
src_stage_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	選択した視点(POV)のモデル・ステージの名前。
driver_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	選択したドライバ・ディメンション・メンバーのドライバの名前。

HPM_EXP_DRIVER_EXCEP

HPM_EXP_DRIVER_EXCEPビューは、すべてのアプリケーションのモデル内に定義されているドライバ選択の例外を取得します。

表25 HPM_EXP_DRIVER_EXCEP

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	説明
application_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	アプリケーションの名前
id	identity	integer(38,0)	Profitability and Cost Managementデータベースに保存されたドライバ選択の例外。

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	説明
pov_dim1_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	選択した視点(POV)の最初のディメンション・メンバーの名前。
pov_dim2_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	視点(POV)の2番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)。
pov_dim3_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	視点(POV)の3番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)。
pov_dim4_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	視点(POV)の4番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)。
layer_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	選択した視点(POV)のレイヤーの名前: <ul style="list-style-type: none"> • 費用収益 • 収益
src_stage_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	選択した視点(POV)のモデル・ステージの名前。
src_dim1_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	選択したステージの最初のディメンションのメンバー名。
src_dim2_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	選択したステージの2番目のディメンションのメンバー名(該当する場合)。
src_dim3_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	選択したステージの3番目のディメンションのメンバー名(該当する場合)。
driver_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	選択した交差のドライバの名前。

HPM_EXP_ASSIGNMENT

HPM_EXP_ASSIGNMENTビューは、各割当てに関する詳細を取得します。これには、ソース・ステージ、POV、レイヤー、ソース・ディメンション・メンバー、宛先ステージおよび宛先ディメンション・メンバーが含まれます。

表26 HPM_EXP_ASSIGNMENT

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	説明
application_name	nvarchar (80)	varchar2 (80)	アプリケーションの名前
id	identity	integer(38,0)	Profitability and Cost Managementデータベースに保存された割当てID

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	説明
pov_dim1_member_name	nvarchar (80)	varchar2 (80)	選択した視点(POV)の最初のディメンション・メンバーの名前。
pov_dim2_member_name	nvarchar (80)	varchar2 (80)	視点(POV)の2番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)。
pov_dim3_member_name	nvarchar (80)	varchar2 (80)	視点(POV)の3番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)。
pov_dim4_member_name	nvarchar (80)	varchar2 (80)	視点(POV)の4番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)。
layer_name	nvarchar (80)	varchar2 (80)	選択した視点(POV)のレイヤーの名前: <ul style="list-style-type: none"> • 費用 • 収益
src_stage_name	nvarchar (80)	varchar2 (80)	割当てのソース・ステージの名前。
src_dim1_member_name	nvarchar (80)	varchar2 (80)	ソース・ステージの最初のディメンション・メンバーの名前。
src_dim2_member_name	nvarchar (80)	varchar2 (80)	ソース・ステージの2番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)。
src_dim3_member_name	nvarchar (80)	varchar2 (80)	ソース・ステージの3番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)。
dst_stage_name	nvarchar (80)	varchar2 (80)	割当ての宛先ステージの名前。
dst_dim1_member_name	nvarchar (80)	varchar2 (80)	宛先ステージの最初のディメンション・メンバーの名前。
dst_dim2_member_name	nvarchar (80)	varchar2 (80)	宛先ステージの2番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)。
dst_dim3_member_name	nvarchar (80)	varchar2 (80)	宛先ステージの3番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)。

HPM_EXP_ASGN_RULE_SEL

HPM_EXP_ASGN_RULE_SELビューは、選択したステージの割当てを制御するルールのソース・ステージおよびディメンション・メンバーに関する詳細を取得します。

表27 HPM_EXP_ASGN_RULE_SEL

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	説明
application_name	nvarchar (80)	varchar2 (80)	アプリケーションの名前
id	identity	integer(38,0)	一意のレコードID
pov_dim1_member_name	nvarchar (80)	varchar2 (80)	選択した視点(POV)の最初のディメンション・メンバーの名前。
pov_dim2_member_name	nvarchar (80)	varchar2 (80)	視点(POV)の2番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)。
pov_dim3_member_name	nvarchar (80)	varchar2 (80)	視点(POV)の3番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)。
pov_dim4_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80)	視点(POV)の4番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)。
layer_name	nvarchar (80)	varchar2(80)	選択した視点(POV)のレイヤーの名前: <ul style="list-style-type: none"> • 費用 • 収益
src_stage_name	nvarchar (80)	varchar2(80)	割当てルールのソース・ステージの名前。
src_dim1_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80)	ソース・ステージの最初のディメンション・メンバーの名前。
src_dim2_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80)	ソース・ステージの2番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)。
src_dim3_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80)	ソース・ステージの3番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)。
rule_name	nvarchar (80)	varchar2(80)	選択した割当てのソース組合せを制御する割当てルールの名前。Profitability and Cost Management データベースに割当てルール

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	説明
			があらかじめ定義されている必要があります。

パート III

詳細Profitabilityアプリケーションの操作

目次

ドキュメントのアクセシビリティについて	9
ドキュメントのフィードバック	10
8. 詳細Profitabilityの製品アーキテクチャの理解	115
9. 詳細Profitabilityデータベースの操作	117
10. 製品スキーマ	119
11. 詳細Profitabilityのモデル・データ・スキーマ	121
12. 詳細Profitability and Cost Managementのディメンションとメタデータの操作	125
13. Performance Management Architectを使用した詳細Profitabilityアプリケーションおよびディメンションの管理	133
14. 詳細Profitabilityの計算	157
15. 詳細Profitabilityのステージング表のインポート	163
16. 詳細Profitabilityのモデル定義データのエクスポート	179

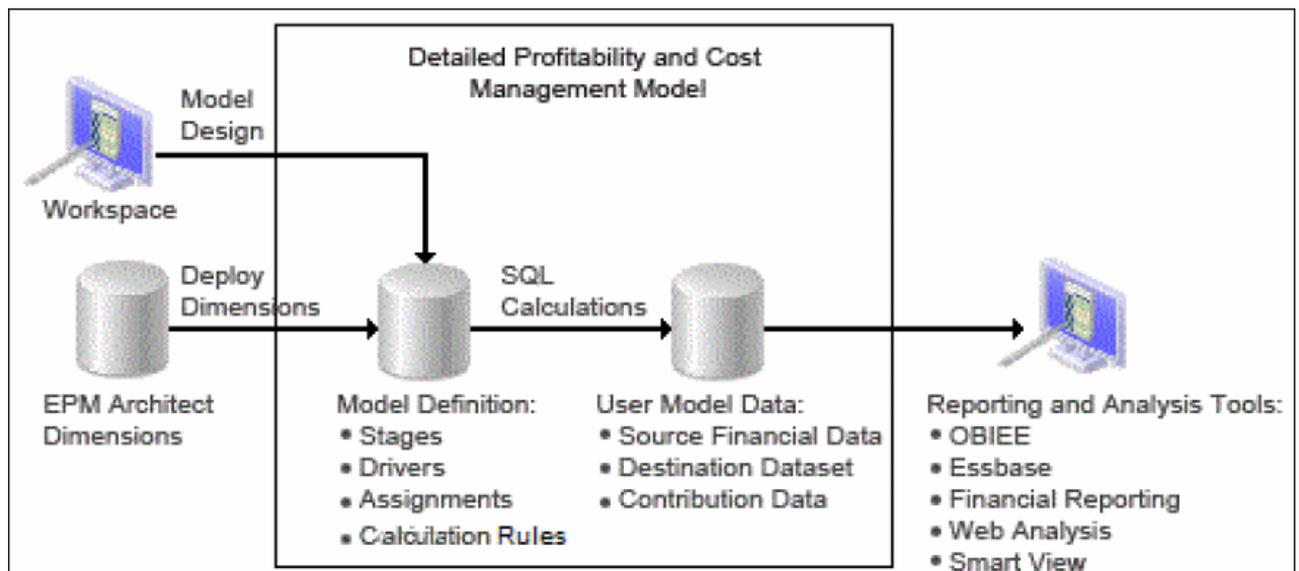
8

詳細Profitabilityの製品アーキテクチャの理解

詳細Profitabilityは、EPM Workspaceからアクセスされ、リレーショナル・データベースのデータを使用する分析アプリケーションです。ビジネス・ユーザーはこのアプリケーションを使用して、Profitability and Cost Managementのためにビジネスをモデル化することができます。そのモデル情報を使用して、モデル情報、既存データ、およびアプリケーションによる計算結果が格納されるリレーショナル・データベースを作成することができます。詳細Profitabilityモデルで入力および計算されるデータはどちらも、リレーショナル・データベースに格納されます。

Profitability and Cost Managementでは、アプリケーションのメタデータとセキュリティを一元的に管理するためにPerformance Management ArchitectとShared Servicesを使用します(115ページの図 2)。

図2 詳細Profitabilityのアーキテクチャ



アプリケーション管理者は、Performance Management Architectを使用してProfitability and Cost Managementディメンションを作成します。ユーザー・アクセスは、Shared Servicesを使用して一元的に管理されます。ディメンション・メタデータは、準備が整うと、Profitability and Cost Managementアプリケーションまたはモデルにデプロイされます。Performance Management Architectのディメンションは、複数のモデルが共有できます。

モデル設計には、データベース内で計算を実行する際に必要なSQL文を生成するために必要な情報が含まれます。各モデルは、データベース内の次のスキーマにアクセスできる必要があります。

- Performance Management Architectからデプロイされたディメンション・メタデータなどのモデル設計が格納されている、「製品スキーマ」と呼ばれるスキーマ。119ページの第10章「製品スキーマ」を参照してください。

- 既存のデータとモデル計算の結果が格納される、モデル・データ・スキーマと呼ばれるスキーマ。121ページの第11章「詳細Profitabilityのモデル・データ・スキーマ」を参照してください。

9

詳細Profitability データベースの操作

詳細Profitabilityアプリケーションの場合、ディメンショナル・データとモデル定義は、標準Profitabilityアプリケーションのディメンショナル・データとモデル定義を格納するのと同じリレーショナル・データベースのスキーマに格納されます。このスキーマは製品スキーマと呼ばれ、Profitability and Cost Managementのインストール時に作成されます。ディメンショナル・データは、Performance Management Architectからアプリケーションをデプロイするとき、製品スキーマに移入されます。モデル定義は、モデルを構築する際にこのスキーマに格納されます。

詳細Profitabilityアプリケーションの場合、配賦が実行される対象のビジネス・データも、リレーショナル・データベースに格納されます(標準Profitabilityアプリケーションのように、Essbaseには格納されない)。このデータが配置されるのは、モデル・データ・スキーマという別のデータベース・スキーマです。モデル・データ・スキーマはユーザー定義であり、製品スキーマと同じデータベース・インスタンスにある必要があります。OracleデータベースとMicrosoft SQL Serverデータベースのみがサポートされます。

Performance Management Architectからアプリケーションをデプロイした後で、ディメンションおよびメンバーが列にマッピングされ、Profitability and Cost Managementのアプリケーション表に登録されます。詳細Profitabilityのディメンションの詳細は、[125ページの第12章「詳細Profitability and Cost Managementのディメンションとメタデータの操作」](#)を参照してください。

表28 詳細Profitability and Cost Managementデータベース・スキーマ

スキーマ・タイプ	保管される情報のタイプ
モデル・データ・スキーマ	<ul style="list-style-type: none">ディメンション階層費用データ収益データドライバ・データ収益オブジェクト・データ通貨レート
製品スキーマ	<ul style="list-style-type: none">ディメンションステージ定義POV定義ドライバ定義ドライバ選択割当てルール割当てルールの選択モデル・プリファレンス

スキーマ・タイプ	保管される情報のタイプ
	<ul style="list-style-type: none">• 表登録• 計算ルール

10

製品スキーマ

標準Profitabilityおよび詳細Profitabilityアプリケーションは、Profitability and Cost Managementのシステム表を保持し、インストール中に作成される同じ製品スキーマを共有します。Profitability and Cost ManagementのUIと詳細Profitability計算エンジンがこのスキーマに接続します。レポート・ビューは、モデルの開発およびモデルの計算中に製品スキーマに作成されます。

このスキーマへのアクセスは通常、アプリケーション管理者とデータベース管理者に制限されます。レポート・ビューの権限がモデル・データ・スキーマに自動的に付与され、そのシノニムがモデル・データ・スキーマに自動的に作成されます。シノニムは、その製品スキーマに対する権限を付与することなく、そのスキーマにアクセスするユーザーに権限を公開します。

インストール後、詳細Profitabilityでは次のシステム権限(またはそれを含む役割)を製品スキーマに付与する必要があります。

- Oracleデータベースの場合、詳細Profitabilityでは次のシステム権限(またはそれを含む役割)を製品スキーマに付与する必要があります。
 - CREATE TABLE
 - CREATE VIEW
 - CREATE ANY SYNONYM
 - DROP ANY SYNONYM
- MSSQL Serverの場合、詳細Profitabilityでは次のシステム権限(またはそれを含む役割)を製品スキーマに付与する必要があります。
 - CREATE TABLE
 - CREATE VIEW
 - 製品スキーマに対するモデル・データ・スキーマのALTERまたはCONTROL(製品スキーマがモデル・データ・スキーマのオブジェクトを変更できる)

例外: 製品スキーマが管理者ユーザーdboまたはsaである場合、これらの権限がすでにあります。この場合、次の付与を実行する必要はありません。



注:

HPCM製品スキーマに関連付けられているユーザーにSYSADMIN役割を付与しないでください。これにより、そのユーザーのデフォルト・スキーマが変更されますが、デフォルト・スキーマはHPCM製品スキーマに設定しておく必要があります。

CREATE TABLE権限とCREATE VIEW権限を付与すると、Profitability and Cost Managementで、モデルの開発中およびモデルの計算中にシステム生成の表とレポート・ビューを作成できるようになります。

CREATE ANY SYNONYM権限とDROP ANY SYNONYM権限を付与すると、Profitability and Cost Managementで、製品スキーマに作成されるシステム生成のレポート・ビューに対するモデル・データ・スキーマのシノニムを管理できるようになります。



注:

これらのシステム権限を付与することが、組織でセキュリティ上問題になる場合は、これらの権限を留保し、システム生成のレポート・ビューに対するモデル・データ・スキーマに、手動でシノニムを作成することも可能です。このオプションを使用すると、モデル・データ・スキーマのみにアクセスするビジネス・データ・ユーザーにそれらを公開できます。

11

詳細Profitabilityのモデル・データ・スキーマ

この項の内容:

製品スキーマへのモデル・データ・スキーマ表権限の付与	121
モデル・データ・スキーマの表構造要件	122
データベース・ビューの登録	122

モデル・データ・スキーマは、既存のスキーマの場合も、詳細Profitabilityアプリケーションをサポートするためにデータベース管理者によって作成されたスキーマの場合もあります。このスキーマには、詳細Profitabilityアプリケーションが配賦を実行する対象のビジネス・データを含む表およびビューが保持されています。Profitability and Cost Managementは製品スキーマにのみ直接接続します。アプリケーションで表またはビューを表示するためには、データベース管理者が製品スキーマにそれぞれの表権限を付与する必要があります。

製品スキーマへのモデル・データ・スキーマ表権限の付与

「モデル・データの登録」でモデル・データ・スキーマのデータベース・オブジェクトを表示するには、まず表権限をProfitability and Cost Management製品スキーマに付与する必要があります。次の表のように各表タイプの権限を付与します:

表タイプ	権限
ソース・ステージ表(水平または垂直)	GRANT SELECT ON <table_name or view_name> TO <hpm_product_schema> WITH GRANT OPTION
宛先ステージ表	GRANT SELECT, UPDATE ON <table_name or view_name> TO <hpm_product_schema>
すべてのタイプの参照表	GRANT SELECT ON <table_name or view_name> TO <hpm_product_schema>



注:

Oracleデータベースの場合はdbms_statsのEXECUTE権限を付与する必要があります。デフォルトでは、この権限はパブリックに付与されます。企業において統計の収集が制限されており、この権限がパブリックから取り消されている場合は、この権限を製品スキーマに割り当てる必要があります。

Performance Management Architectからアプリケーションをデプロイした後、詳細Profitabilityアプリケーションで使用するモデル・データ・スキーマに表を登録する必要があります。

Performance Management Architectで定義したディメンションとメジャーにその列をマッピングします。詳細Profitabilityのディメンションの詳細は、[125ページの第12章「詳細Profitability and Cost Managementのディメンションとメタデータの操作」](#)を参照してください。

モデル・データ・スキーマの表構造要件

詳細Profitabilityアプリケーションで使用するためにモデル・データ・スキーマの表を登録するには、次の要件を満たす必要があります：

- **データベース・オブジェクト名:** 大文字である必要があります。数字0-9および記号「_」と「\$」を使用できます。小文字および他の記号はサポートされません。小文字や他の記号を含む既存のデータベース・オブジェクト名がある場合は、表、ビューおよび列の名前を変更するために、許可された識別子を使用してビューを作成します。基礎となる表のかわりにビューを登録することができます。
- **宛先ステージ表のみ:** 「WORKING」(大文字)という数値列を含む必要があります。
- **宛先ステージ表のみ:** 表の一意性を強制するために主キー制約が定義されている必要があります。

データベース・ビューの登録

製品スキーマに適切な権限が付与されている場合には、モデル・データ・スキーマからデータベース・ビューを登録することもできます。任意の有効なデータベース・ビューを、ステージ表または参照表として登録できます。宛先ステージ表として登録できるのは、単純な単一表の更新可能なビューのみです。

データベース・ビューは次のような理由で役立ちます。

- モデル・データ・スキーマに格納されていない表にアクセスする場合。これは特に参照表で役に立ちます。
- 詳細Profitabilityアプリケーションに公開されないように、基礎となる表で行をフィルタ処理する、または列を非表示にする場合。
- 読取り専用表のビュー定義で複雑な結合を非表示にし、アプリケーションでの使用を単純にする場合。

モデルの開発およびモデルの計算中に、Profitability and Cost Managementはシステム生成のレポート・ビューを製品スキーマに作成します。Profitability and Cost Managementはモデル・データ・スキーマに対するSELECT権限も付与し、モデル・データ・スキーマにそのシノニムを作成しようとします。これにより、通常は管理者のみのアクセス用に予約されている製品スキーマに対する権限がないユーザーでも、スキーマにアクセスできるようになります。モデルの開発者とレポート開発者に、このスキーマに対するアクセス権が付与されるのは、Profitability and Cost Managementで必要とされるすべての表登録タスクと、使用するレポート・ツールでの物理モデルの設定を管理者が実行する予定ではない場合のみです。



注:

Oracleではデータベース・ユーザーとデータベース・スキーマは同一ですが、Microsoft SQL Serverではそれぞれ別です。Microsoft SQL Serverを使用する場合、モデル・データ・スキーマと同じ名前のユーザーを作成し、モデル・データ・スキーマへのアクセス権をそのユーザーに付与する必要があります。Profitability and Cost Managementによって付与されたシステム生成ビューに対する権限は、モデル・データ・ユーザーを参照します。作成されたシノニムはモデル・データ・スキーマに追加されます。

SQL Serverの場合、Profitability and Cost Management製品およびドキュメントでのモデル・データ・スキーマの参照は、スキーマまたはユーザー(あるいは両方)を指します。



注:

SQL Server: 宛先ステージ表と参照表に、丸めエラーを防ぐために小数点以下が4桁以上であるメジャー列を作成する必要があります。



注意

データまたはアーティファクトをインポートする前にモデル・データ・スキーマのバックアップを作成する必要があります。Oracle Enterprise Performance Management Systemバックアップおよびリカバリガイドを参照してください。

12

詳細Profitability and Cost Managementのディメンションとメタデータの操作

この項の内容:

詳細Profitabilityのディメンションとメタデータについて	125
詳細Profitabilityのディメンション・タイプ	126
別名ディメンション	127
ビジネス・ディメンション	128
POVディメンション	129
属性ディメンション	130
ディメンション・ソート順および密度の設定	130

詳細Profitabilityのディメンションとメタデータについて

詳細Profitabilityでは、詳細Profitabilityアプリケーションの開始点として既存のリレーショナル・データベースを使用できます。

ディメンションおよびメタデータは、Profitability and Cost Management管理者によってPerformance Management Architectを使用して作成および管理されます。Profitability and Cost Managementでは、一般的なディメンションおよびメンバーを使用することにより、Planningなどの他の製品で一般的なデータを使用および転送し、時間と労力を削減し、正確さを増すことができます。ディメンションとメタデータの作成および管理の詳細は、*Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect管理ガイド*を参照してください。

Profitability and Cost Managementでは、Performance Management Architectで作成されたディメンションおよびメンバーを使用して、ビジネス・モデルの様々な構造要素を表します。詳細Profitabilityアプリケーションの作成時に、次のディメンションが選択されます。

- MeasuresDetailed (必須)
- 少なくとも1つのPerformance Management Architect POVディメンション(必須)
- 少なくとも1つのビジネス・ディメンション(必須)
- 別名ディメンション(オプション)
- 属性ディメンション(オプション)

ディメンションごとに、ディメンション・タイプとディメンション名の両方を指定する必要があります:

- ディメンション・タイプは、選択したディメンションに定義された機能を使用可能にするディメンションのプロパティです。[43ページのディメンション・タイプ](#)を参照してください。
- ディメンション名は、組織およびビジネスに関してディメンションのコンテンツを識別するために割り当てられます。たとえば、「勘定科目タイプ」のディメンションには、「一般会計」や「勘定科目表」などのディメンション名を付ける

場合があります。ディメンション名にディメンション・タイプを反映する必要はありませんが、反映することもできます。命名の制限については、[253ページの付録F「Essbase命名規則」](#)を参照してください。

Performance Management Architectを使用することにより、ディメンションはアプリケーション内に共有またはローカルとして存在できます:

- 共有ディメンションは、Performance Management Architectの共有ライブラリ内に存在し、複数の製品およびアプリケーションが使用できます。
- ローカル・ディメンションは、Profitability and Cost Managementタイプのアプリケーションなどの1つのアプリケーション・インスタンス内にのみ存在する、分離された独立ディメンションです。これらのディメンションは、これらが作成されているアプリケーション内でのみ使用され、同じタイプの別のアプリケーションであっても表示または使用できません。
- MeasuresDetailedは、貸借一致などの検証アクティビティに必要な配賦メンバーが含まれている予約済のディメンションです。このディメンションには、ドライバ・メジャーが含まれていません。
- ディメンション。メジャー・ディメンションなどのモデルおよびシナリオの構造を実現します。
- ビジネス・ディメンション。部署、一般会計の勘定科目、アクティビティ、顧客、製品などの、ビジネス固有のモデル要素を表します
- 視点(POV)ディメンション。期間、シナリオおよびバージョンなど
- 別名ディメンション(必要な場合)
- 属性ディメンション(必要な場合)

Performance Management Architectを介して、別の製品内に存在するディメンションおよびメンバーを選択したり、そのモデル専用の新しいディメンションおよびメンバーを作成します。詳細Profitability and Cost Managementモデルに対してディメンションおよびメンバーが選択された後、これらはディメンション・ライブラリで自動的に使用可能になります。デプロイメント後は、Profitability and Cost Managementアプリケーションでディメンションおよびメンバーを使用できます。

Performance Management Architectには、システム生成とユーザー定義の両方のディメンションおよびメンバーが存在する必要があります。ディメンションには、英数字や計算値が含まれる場合があります。



注意

作成できるディメンションおよびメンバーの数に制限はありませんが、ディメンショナル構造が大きくなると、パフォーマンス上の問題が発生します。アプリケーションのデプロイ後に追加のディメンションまたはメンバーを作成する場合、新しいオブジェクトを使用するにはモデル・データ登録の再登録が必要になる場合があります。

ディメンションとメンバーを作成および管理する手順の詳細は、*Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect管理ガイド*を参照してください。

詳細Profitabilityのディメンション・タイプ

詳細Profitability and Cost Managementでは、次のタイプのディメンションを使用できます:

- MeasuresDetailedは、貸借一致などの検証アクティビティに必要な配賦メンバーが含まれている制限付きのディメンションです。
- 別名ディメンションは、ディメンションの定義に役立つ代替の名前、説明、言語またはその他のアイテムを割り当てるために使用されます。これはオプションのディメンションであり、モデルで別名を使用する場合のみ必要です。



注:

重複メンバー名または別名は使用できません。

- ビジネス・ディメンションは、部署、総勘定元帳の勘定科目、アクティビティ、顧客または製品などのモデル内のビジネス要素を説明するために作成されます。アプリケーションに少なくとも1つのビジネス・ディメンションが必要です。
- 属性ディメンションを使用すると、ディメンション・メンバーの属性または品質に基づく分析が可能になります。属性は、製品のサイズや色など、データの特徴を示します。
- 一部のPerformance Management Architectのディメンション・タイプは、Profitability and Cost Managementのモデルで使用できます:
 - 勘定科目
 - エンティティ
 - 国
 - 通貨

これらのディメンション・タイプの使用については、*Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect管理ガイド*を参照してください。



注:

ディメンショナル・アウトラインを定義する場合、命名用として使用できない制限文字があります。『Oracle Essbaseデータベース管理者ガイド』のEssbase命名規則に関する項を参照することをお勧めします。

別名ディメンション

別名は、ディメンションの定義に役立つ代替の名前、説明、言語またはその他のアイテムです。たとえば、システム内で顧客番号を参照できますが、画面上に顧客名を表示する別名を割り当てることにより、この顧客を簡単に識別できるようになります。1つ以上の別名を勘定科目、通貨、エンティティ、シナリオ、期間、バージョン、年およびユーザー定義のディメンション・メンバーに割り当てることができます。



注:

同じディメンション内で重複するメンバー名または別名は使用できません。

Profitability and Cost Managementでは、別名をPerformance Management Architectに設定する必要があります。別名ディメンションを作成する手順の詳細は、*Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect管理ガイド*を参照してください。



注意

アプリケーションがProfitability and Cost Managementに再デプロイされるまでは、別名の関連付けをPerformance Management Architectで削除しても、モデルからは削除されません。

インストール後、Default別名表が使用可能になります。再デプロイメント後は、ドライバの選択、割当て、データ入力およびトレーサビリティを含む共通メンバー・セクタを使用するすべての画面で別名を表示できます。別名を検索およびフィルタ処理するには、先にコンテキスト・メニューで「別名の表示」を選択します。



注:

別名ビューは「ドライバの選択」セクタには含まれません(このセクタには、ドライバの選択を追加または変更するときに、「ドライバ定義」画面または「ドライバの選択」画面からアクセスできます)。

特定のディメンションがEssbaseで複製されている場合、別名が複製される場合があります。

▶ 別名を表示するには:

1. アプリケーションから、共通メンバー・セクタを使用する任意の画面(「ドライバの選択」、「割当て」、「データの入力」、「配賦のトレース」など)を選択します。共通メンバー・セクタを含む該当する画面が表示され、使用可能なすべてのメンバーが表示されます。
2. 共通メンバー・セクタで、「コンテキスト・メニュー」ボタン  をクリックし、「別名の表示」を選択します。

別名がメンバー・リストに表示されます。



注:

「コンテキスト・メニュー」から「別名の表示」を選択したときに、別名が割り当てられていない場合、メンバー名が大かっこで囲まれて表示されます。たとえば、メンバー名Productは、[Product]と表示されます。

ビジネス・ディメンション

ビジネス・ディメンションは、製品、顧客、地域、従業員など、モデルの各ステージ内のビジネス固有のオブジェクトを示します。これらのディメンションおよびメンバーは、Performance Management Architectで作成されます。

ビジネス・ディメンションは、次のディメンション・タイプの一部または全部を使用し、1つ以上のステージまたはモデルに適用される場合があります:

- 汎用

- ・ 勘定科目
- ・ エンティティ
- ・ 国

Essbaseアウトラインが配置されると、Profitability and Cost Managementアプリケーションでビジネス・ディメンションがタイプのない基本ディメンションまたは汎用ディメンションとして作成されます。この機能を使用すると、Profitability and Cost Managementで、Planningなどの他のアプリケーションで定義されているディメンション・メンバーおよび階層を再利用できます。



注:

このディメンション・タイプは、集約ストレージ・アウトラインには適用されません。

ビジネス・ディメンションを作成する場合、次の要件が適用されます:

- ・ ディメンションのGen1メンバーの次のプロパティはLABEL_ONLYに設定する必要があります:
 - DataStorage(BSO)
 - DataStorage(ASO)
- ・ 通常、Gen1ディメンション名の下にある最初の世代2の子は、ALLメンバーに設定されます。たとえば、Departmentsディメンションの場合はAllDepartmentsになります。

プライマリ階層は、最初の世代2の子の下でホストされます。割当モデリングでは最初の世代2階層のみが使用され、この階層に共有メンバーを含めることはできません。

- ・ 追加の世代2メンバーは代替階層をホストできますが、これらの階層は割当モデリングでは使用されません。ディメンションが代替階層をホストする場合は、ディメンションの階層タイプを「使用可能」に設定し、最初の世代2メンバーの階層タイプを「保管済」、共有メンバーを含む代替階層の世代2メンバーを「動的」に設定します。

これらの代替階層は、Profitability and Cost Managementモデリング画面には表示されず、Essbaseでのみ表示できます。

- ・ NoMemberメンバーが必要です。階層内の最後の世代2の子は常にNoMemberであるとともに、集計がIGNORE (-)に設定されている必要があります。



注:

NoMemberメンバーは、Performance Management Architectによって自動的に追加されるため、ADSファイルまたはフラット・ファイルに作成する必要はありません。このメンバーは削除しないでください。

POVディメンション

POVディメンションは、年、シナリオまたは期間など、モデルに固有の視点またはバージョンを示します。ディメンションは、組織の要件を反映するようにカスタマイズできます。たとえば、四半期、月、季節ごとのグループなどでPOVを構成できます。

各モデルには1つ以上のPOVディメンションが必要で、最大4つのPOVディメンションを作成できます。POVディメンションは、モデルのPerformance Management Architectプロパティ・グリッドで設定します。

バージョン・ディメンションも使用可能で、モデルの異なるインスタンスの作成に使用されます。このバージョンは、仮定シナリオを実行して、戦略やビジネス・オプションを試行できるよう変更可能です。バージョンを変更することで、機能を実装し、最善の方策を決定するために結果を比較できます。

属性ディメンション

属性ディメンションは、ビジネス・ディメンションに関連付けられたディメンションの特殊なタイプで、関連付けられたその他のディメンションのメンバーを分類する際に使用可能なメンバーが含まれます。属性ディメンションは、製品のサイズ、色など、データの特性を示します。

これらの属性を使用して、ディメンション・メンバーの属性または品質に基づいてデータを分析できます。属性ディメンションは、割当てルールの作成時に宛先交差のフィルタ処理にも使用されます。



注:

命名の制限については、[253ページの付録F「Essbase命名規則」](#)を参照してください。

2つの属性ディメンション・タイプがPerformance Management Architectに存在します:

- 属性ディメンション:
 - ブール、日付、数値、テキストなど、異なる構造を使用して属性を作成できます。
 - 属性には階層があり、集計値にロールアップすることができます。
 - 所定の属性ディメンションの1つの属性のみを1つのメンバーに関連付けできます。
- ユーザー定義属性ディメンション(UDA):
 - 属性は、テキストを使用して作成する必要があります。
 - UDAには階層がないため、合計を生成するためのレポートに容易に使用することはできません。
 - 複数のUDAを1つのメンバーに関連付けることができます。

モデルやレポートの要件により、属性ディメンションの利点はタイプごとに異なります。属性ディメンションの操作の詳細は、『*Oracle Essbaseデータベース管理者ガイド*』を参照してください。

これらの属性を使用して、ディメンション・メンバーの属性または品質に基づいてデータを分析できます。属性ディメンションは、割当てルールの作成時に宛先交差のフィルタ処理にも使用されます。

命名の制限については、[253ページの付録F「Essbase命名規則」](#)を参照してください。

ディメンション・ソート順および密度の設定

Dimension Sort Orderプロパティは、Profitability and Cost Managementによって生成されるEssbaseアウトラインにおけるディメンションの順序を制御します。ディメンション・ソート順は、別名またはUDAを除く、モデル内のすべてのディメンションに対して設定する必要があります。



注意

ディメンションのソート順を空のままにすると、検証は失敗します。

Dimension Sort Orderプロパティは、Performance Management Architectで設定され、Essbaseアウトラインの生成に使用するためのデプロイメント時にProfitability and Cost Managementに渡されます。詳細は、[58ページのディメンション・ソート順の設定](#)を参照してください。

モデルのディメンション・ソート順設定は、Performance Management Architectで検証されま
す。[77ページの標準Profitabilityアプリケーションの設定の変更](#)を参照してください。

「ディメンションのソート順設定」ダイアログ・ボックスから、ディメンションの密度を設定することもできます。

ディメンション・ソート順の推奨事項

次の推奨事項を参照して、ディメンション・ソートを設定することをお勧めします:

- 別名とUDAを除く、モデル内のすべてのディメンション・ソート順が設定されている。



注:

別名ディメンションとUDAディメンションは、Profitability and Cost ManagementとEssbase
にはディメンションとして存在しないため、ディメンション・ソート順では無視されている。

- ディメンション・ソート順が連続しており、一意かつ1以上である必要があります。
- メジャー・ディメンションがデフォルトで1に設定されている。
- AllocationTypeディメンションがデフォルトで2に設定されている。
- ビジネス・ディメンションとPOVディメンションが3以上に設定されている。
- 属性ディメンションが常に最後のディメンションとしてソートされている。たとえば、12個の連続したディメンションのうち4個が属性ディメンションである場合、属性ディメンションは9、10、11および12に設定する必要があります。

ディメンション・ソート順の設定

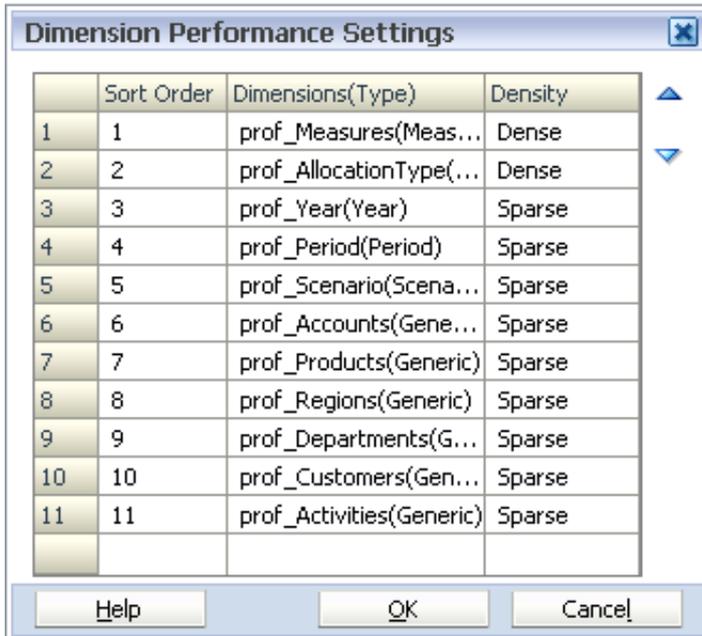
モデル内のすべてのディメンションの処理順序は、Dimension Sort Orderプロパティを使用してディメンション・レベルで設定する必要があります。ディメンション・ソート順の制限を満たす必要があります; 制限を満たさない場合、モデルの検証は失敗します。制限の完全なリストについては、[57ページのディメンション・ソート順の推奨事項](#)を参照してください。

Performance Management Architectでディメンション・ソート順を設定する方法は2つあります:

- すべてのディメンションのソート順を一度に設定するには、「ディメンション・パフォーマンスの設定」ダイアログ・ボックスを使用します。

- 1つのディメンションの個々のディメンション・ソート順を一度に設定するには、ディメンション・ライブラリのプロパティ・グリッドを使用します。

- ▶ ディメンション・パフォーマンスの設定ダイアログ・ボックスを使用してディメンション・ソート順を設定するには:
 1. EPM Workspaceから、「ナビゲート」、「管理」、「ディメンション・ライブラリ」の順に選択し、共有ライブラリを表示します。
 2. アプリケーション名を右クリックし、ディメンション・パフォーマンスの設定を選択します。



3. ディメンション・ソート順の推奨事項 で説明されているように、ディメンションを選択し、上矢印 [58ページのディメンション・ソート順の設定](#) 下矢印を使用して各ディメンションを正しいソート順に移動します。「ソート順」に、ディメンションの元の場所の番号が表示されます。
4. オプション: 選択したディメンションの「密度」で、オプションを表示するセルをダブルクリックし、ディメンションの適切な密度を選択します。 [62ページのEssbaseのディメンション設定の最適化](#) を参照してください。
5. 「OK」をクリックします。

- ▶ 個々のディメンションのディメンション・ソート順を設定するには:
 1. EPM Workspaceから、「ナビゲート」、「管理」、「ディメンション・ライブラリ」の順に選択します。
 2. Profitability and Cost Managementアプリケーションで、ディメンション・ソート順を設定するディメンションを選択します。
 3. プロパティ・グリッドで、Dimension Sort Orderプロパティを選択し、「値」にソートの順序に必要な数字を入力します。 [58ページのディメンション・ソート順の設定](#) を参照してください。
 4. 「保存」アイコン をクリックします。

13

Performance Management Architectを使用した詳細 Profitabilityアプリケーションおよびディメンションの管理

この項の内容:

アプリケーションおよびディメンションの操作	133
Essbaseの詳細Profitabilityディメンション設定の最適化	134
詳細Profitabilityのメタデータのインポート	135
詳細Profitability and Cost Managementのディメンション・プロパティおよびメンバー・プロパティ	136
詳細Profitabilityアプリケーションの作成	141
Performance Management Architectでの詳細Profitabilityアプリケーションの検証とデプロイ	151

アプリケーションおよびディメンションの操作

Profitability and Cost Managementでは、Performance Management ArchitectまたはProfitabilityアプリケーションを使用して、Profitabilityモデルに使用されるEssbaseアウトラインを構築するためのディメンションを選択します。すべてのディメンションおよびメンバーは、Performance Management Architectで作成され、モデルを構築するためにProfitability and Cost Managementアプリケーションにインポートされます。



注:

ライフサイクル管理は、モデル・データのインポートやエクスポートだけでなく、Performance Management Architect内のアプリケーションのインポートやエクスポートにも使用できます。

Performance Management Architectでは、次のタスクを実行できます:

- ディメンションの作成、編集およびコピー
- 別名の設定
- ディメンションの関連付けの作成、表示および削除
- メンバーの作成、表示、名前変更および削除
- プロパティ値の編集
- Profitability and Cost Managementへのアプリケーションのデプロイ
- トランザクション・ログの表示
- Profitability and Cost Managementと他のアプリケーション、外部ソース(フラット・ファイル)、およびインタフェース表間のデータの同期化

Performance Management Architectを使用したメタデータおよびディメンションの操作の詳細は、次の項を参照してください:

- [134ページのEssbaseの詳細Profitabilityディメンション設定の最適化](#)
- [135ページの詳細Profitabilityのメタデータのインポート](#)
- [136ページの詳細Profitability and Cost Managementのディメンション・プロパティおよびメンバー・プロパティ](#)
- [141ページの詳細Profitabilityアプリケーションの作成](#)
- [151ページのPerformance Management Architectでの詳細Profitabilityアプリケーションの検証とデプロイ](#)

Essbaseの詳細Profitabilityディメンション設定の最適化

一般的なProfitability and Cost Managementアプリケーションには、1つのMeasuresDetailedディメンション、複数のPOVディメンション、および多数のビジネス・ディメンションが含まれます。Profitability and Cost Managementでは、ビジネス・ディメンションが複数のステージで使用される場合、ビジネス・ディメンションが重複します。このプロセスにより、アプリケーションによって生成されるEssbase計算キューブ・アウトラインはより疎になり、計算スクリプトの実行時のパフォーマンスに影響を与える可能性があります。

Oracle Essbase Administration Services (EAS)コンソールを使用して、生成された計算キューブ・アウトラインのディメンション・ストレージ・タイプを直接変更することにより、ある程度の最適化は簡単に実現できます。



注意

「ディメンション・ストレージ・タイプ」プロパティの変更は、データベース管理者(DBA)のみが実行する必要があります。指示の詳細は、『Oracle Essbase Administration Services開発者ガイド』を参照してください。

各ディメンションの「ディメンション・ストレージ・タイプ」プロパティの設定に関するデフォルトの推奨事項は、次のとおりです:

- メジャー・ディメンションおよびAllocationTypeディメンションは密に設定します
- ビジネス・ディメンションおよびPOVディメンションはすべて疎に設定します

このデフォルト設定の場合、Essbase計算キューブのブロック・サイズは約3Kになり、疎ディメンションのディメンションナリティに基づく多数の潜在的なブロックが発生します。最大ステージの最も密なディメンション(データの存在に基づく)は密に設定する必要があります。その場合、AllocationTypeディメンションおよびメジャー・ディメンションは疎に設定する必要があります。



注:

このブロック・サイズは、Essbaseのベスト・プラクティスの推奨事項の制限内に収まる必要があります。詳細は、『Oracle Essbase Administration Services開発者ガイド』を参照してください。

例

最大ステージは、ステージ内の潜在的なノードの最大数によって定義されます。

一般的なProfitability and Cost Managementモデルの最後のステージが顧客X製品(顧客x製品の収益性の計算用)として定義されており、これが最大ステージである場合、このステージ内の顧客ディメンションまたは製品ディメンションを密に設定できます。関連するメジャー・ディメンションおよびAllocationTypeディメンションは疎に設定します。顧客を密に設定するか製品を密に設定するかの決定は、管理しているドライバのデータの密度に基づいて行います。

たとえば、前のステージ内の様々なソースからこのステージに配賦するために使用するドライバが販売量であり、製品ディメンションより顧客ディメンションのほうにより密なデータが含まれる(多くの顧客に対して少ない製品が販売される)場合、顧客を密に設定できます。少ない顧客に対して多くの製品が販売される場合、製品を密に設定できます。いずれの場合も、Essbaseブロック・サイズは、Essbaseのベスト・プラクティスの推奨事項の制限内に収まる必要があります。



注:

属性の関連付けがあるディメンションは密に設定できません。Essbaseでは、属性の関連付けは疎ディメンションとしてのみ設定できます。

詳細Profitabilityのメタデータのインポート

Performance Management Architectのディメンション・ライブラリは、ディメンションおよび階層を表示、作成および管理するための、管理者用の中心的な場所です。他のアプリケーションと共有する既存のディメンションを使用することも、自分のモデル専用のローカル・ディメンションを作成することもできます。

ディメンション・ライブラリを使用するには、ディメンション・エディタのセキュリティの役割がある必要があります。この役割では、ディメンションおよびメンバーの作成、削除、変更、インポート・プロファイルの作成、トランザクション・ログの実行などのすべてのディメンション・ライブラリ機能へのアクセスが可能です。『Oracle Enterprise Performance Management Systemユーザー・セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

Performance Management Architectには、2つのタイプのディメンションがあります:

- 共有ディメンションは、共有ライブラリにリンクされており、ディメンションに対して行われたすべての変更を継承します。
- ローカル・ディメンションは、共有ライブラリからアプリケーションへコピーされます。ローカル・ディメンションは、共有ライブラリ内のディメンションに対して行われる将来の変更を継承しません。



注意

Profitability and Cost Managementのすべてのプロパティはローカル値です。プロパティが他の階層に存在する場合に、この値を変更しても自動的に継承されません。1つの階層でプロパティを変更しても、他の階層に値が継承されるとは仮定できません。

ディメンション・ライブラリからこれらのプロパティを編集できます:

- アプリケーション
- デイメンション
- メンバー



注:

時間、通貨および国用の標準デイメンションは、すべての製品を対象としてPerformance Management Architectで使用できます。

- ▶ デイメンション・ライブラリにアクセスするには、「ナビゲート」、「管理」、「デイメンション・ライブラリ」の順に選択します。

デイメンションおよびメンバーを操作する手順の詳細は、*Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect管理ガイド*を参照してください。

詳細Profitability and Cost Managementのデイメンション・プロパティおよびメンバー・プロパティ

Profitability and Cost Managementのデイメンションおよびメンバーのプロパティは、136ページの表 29にアルファベット順で表示され、次の情報が含まれます:

- プロパティ・ラベル。プロパティにわかりやすい表示名を提供します。該当する場合、関連データベース・タイプ (ASO)が名前に付加されます。データベース・タイプが指定されていない場合、プロパティは両方のタイプに適用されます。
- 各プロパティの説明
- プロパティに一意の識別子を提供し、インポートおよびバッチ・クライアントでデータを更新する際に使用するプロパティ名。

デイメンション・ライブラリでプロパティを選択すると、ドロップダウン・リストまたはデータ入力ボックスを表すプロパティを変更できます。

デイメンションおよびメンバーを操作する手順の詳細は、*Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect管理ガイド*を参照してください。



注意

Profitability and Cost Managementのすべてのプロパティはローカル値です。ある階層でプロパティを変更しても、他の階層に値が継承されるわけではありません。

表29 詳細Profitability and Cost Managementのデイメンション・プロパティおよびメンバー・プロパティ

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
別名	選択したデイメンション・メンバーの別名を入力します。別名は、デプロイしたアプリケーションに表示される代替デイメンション・メンバー名です。	

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
	現在のディメンション・メンバーのデフォルトの別名を割り当てるかまたは変更する場合は、既存の別名をクリックして新規名前を入力します。適切な命名規則に従います。すべてのデータベースには、「Default」という別名表があります。	
アプリケーション・タイプ	アプリケーション・タイプを選択します: <ul style="list-style-type: none"> • 標準Profitabilityの場合は「全般」 • 詳細Profitabilityの場合は「詳細」 	ApplicationType
属性	色、サイズ、モデルなどディメンション・メンバーの特性を入力します。 たとえば、従業員ディメンション・メンバーには、名前、年齢、または住所の各属性がある場合があります。Productディメンションのメンバーはサイズ、味などの複数の属性を持つ場合があります。	Attributes
属性タイプ	属性タイプを選択したメンバーに関連付けます。メンバーの間合せおよびフィルタに使用できるディメンション・メンバーに割り当てられた属性の属性値を作成します。 テキスト・タイプのみ現在はサポートされています。	AttributeDataType
コメント	ディメンションまたはメンバーのコメントを入力します。コメントには最大255文字を指定できます。デフォルトでは、テキスト・ボックスには現在のコメントが表示されます(存在する場合)。属性ディメンションまたはメンバーにコメントを割り当てられません。 注: Unicode使用可能データベースでは、最大80文字まで許可されます。	コメント
集計	メンバー集計プロパティは、子を親にロールアップする方法を指定します。現在のメンバーがディメンションまたは属性ではない場合は、そのメンバーに割り当てる集計演算子を選択します:	Consolidation

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
	<ul style="list-style-type: none"> • + (加算) - デフォルト • - (減算) • * (乗算) • / (除算) • % (パーセント) • ~ (集計では無視する) • ^ (集計しない) • NotUsed 	
データ・ストレージ(ASO)	<p>ディメンションおよびメンバーのASOストレージ・オプションを選択します:</p> <ul style="list-style-type: none"> • StoreData - データはディメンションとともに保管されます。 • NeverShare - このディメンションに関連付けられているデータは、単一の子を持つ親などのように、暗黙の共有関係がある場合にも共有できません。この場合、データは親および子で複製されます。 <p>注:</p> <p>このオプションは、集約ストレージ・アウトラインに保管された階層には適用されません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • LabelOnly - このディメンションに関連付けられているデータはありません。 • ShareData - このメンバーに関連付けられているデータは共有できます。ShareDataプロパティは、メンバーのみに適用されます。ディメンション・ルート・メンバーは共有できません。 	<ul style="list-style-type: none"> • ASODimensionDataStorage (ディメンション・ルート・メンバーの場合) • ASOMemberDataStorage (ディメンション・メンバーの場合)
ディメンション式(ASO)	<p>セルをダブルクリックし、セクタ・ボタンをクリックして、メモ・エディタを開きます。式を入力し、「OK」をクリックします。</p> <p>適切なASO MDX構文を使用します。</p>	ASODimensionFormula (ディメンション・ルート・メンバー用)
ディメンション解決順	<p>選択したディメンションのソリューション・シーケンスに数値を入力します。たとえば、このディメンションを2番目に解決する場合は、「2」を入力します。</p>	DimensionSolveOrder

プロパティラベル	説明	プロパティ名
ディメンション・ソート順	<p>数値を順番に入力してProfitability and Cost Managementによって生成されたEssbaseアウトライン内のディメンションの順序を設定します。</p> <p>たとえば、このディメンションがEssbaseアウトラインの2番目のディメンションである場合は、2を入力します。</p> <p>ディメンション・ソート順は、別名ディメンションとUDAディメンションを除き、モデル内のすべてのディメンションに設定されている必要があります。</p> <p>ディメンション・ソート順が連続しており、一意かつ1以上である必要があります。</p> <p>58ページのディメンション・ソート順の設定に概略されているように、ソート順を設定します。</p>	DimensionSortOrder
階層タイプ (ディメンションのみ)	<p>「階層タイププロパティは、Essbaseの集約ストレージ(ASO)データベースにのみ使用されます。</p> <p>詳細Profitabilityの場合、この値は「使用不可」に設定されます。</p>	DimensionHierarchyType
階層タイプ (メンバーのみ)	<p>詳細Profitabilityの場合、この値は「使用不可」に設定されます。</p>	HierarchyType
集約でのレベルの使用	<p>このプロパティは、ASOアウトライン内の保管済階層をホストするGen1またはGen2の階層メンバーに適用されます。</p> <p>詳細Profitabilityの場合、この値は「デフォルト」に設定されます。</p>	
メンバー式(ASO)	<p>セルをダブルクリックし、セクタ・ボタンをクリックして、メモ・エディタを開きます。式を入力し、「OK」をクリックします。</p> <p>適切なASO MDX構文を使用します。</p>	ASOMemberFormula
メンバー解決順	<p>選択したメンバーのソリューション・シーケンスに数値を入力します。たとえば、</p>	MemberSolveOrder

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
(メンバーのみ)	<p>このメンバーを2番目に解決する場合は、「2」を入力します。</p> <p>このプロパティは、ASOデータベースのみに適用されます。</p> <p>解決順が0のメンバーは、そのディメンションの解決順序を継承します。</p> <p>解決順が同じメンバーは、ディメンション・ソート順プロパティで別の値が指定されていないかぎり、そのディメンションがデータベース・アウトラインに出現する順序で評価されます。</p> <p>解決順のないメンバーは、解決順のあるメンバーの後に評価されます。</p>	
POVディメンション	このディメンションを選択したモデルのPOVディメンションとして設定する場合は、このチェック・ボックスを選択します。	IsPOVDimension
POV表示順	複数のPOVディメンションがある場合は、1、2、3などの数値を入力して、各POVディメンションの表示順を設定します。	POVDisplayOrder
プライマリ・レベルの加重	<p>プライマリ・レベルの加重は、集約操作中のビュー選択エンジンで選択できるレベルを制限します。これらの設定は、Essbase (ASO)アプリケーションのみに適用されます。次のオプションのいずれかを選択します:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Default - ビュー選択エンジンは選択するレベルを自由に決定できます。これは、新規の階層に対する初期値です。 • AllLevels - ビュー選択エンジンは階層のすべてのレベルを集約対象とみなします。 • NoAggregation - ビュー選択エンジンはどのレベルも集約用に選択できません。 • TopLevelOnly - ビュー選択エンジンはディメンションの最上位レベルのみを集約対象とみなします。 	PrimaryLevelWeighting

プロパティ・ラベル	説明	プロパティ名
	<ul style="list-style-type: none"> • BottomaTop - ビュー選択エンジンは、ディメンションの最上位レベルおよび最下位レベルのみを集約対象とみなします。 • BottomLevelOnly - ビュー選択エンジンはディメンションの最下位レベルのみを集約対象とみなします。 	
UDA	<p>選択したメンバーのUDAメンバーを選択します。UDAディメンションは、Performance Management Architectに存在し、UDAが追加される先のベースに関連付けられている必要があります。最大80文字(英数字)のUDAメンバーを選択できます。</p> <p>注:</p> <p>Unicode使用可能データベースでは、最大80文字まで許可されます。</p>	UDA
Unicode	<p>アプリケーション・レベルで「Unicode」を選択し、アプリケーションをUnicodeモードに設定します。Unicodeモードのアプリケーションは複数の文字セットをサポートします。</p>	Unicode

詳細Profitabilityアプリケーションの作成

次の2つの方法のいずれかを使用して、Performance Management Architectで詳細Profitabilityアプリケーションを作成できます:

- アプリケーションおよびディメンションを自動的に作成する「アプリケーション・ウィザード」を使用して詳細 Profitability and Cost Managementアプリケーションを作成します。
- ブランクの詳細Profitabilityアプリケーションを作成し、ディメンションを手動で選択して名前を付けます。

次の項では、詳細Profitabilityアプリケーションの作成方法を順を追って説明します:

- [141ページの詳細Profitabilityアプリケーションのタイプの選択](#)
- [142ページの詳細Profitabilityのディメンションの選択](#)
- [147ページのアプリケーション設定の変更](#)

詳細Profitabilityアプリケーションのタイプの選択

- Profitability and Cost Managementアプリケーションを作成するには:

1. フラット・ファイルのインポートまたはPerformance Management Architectインタフェース表のインポートを使用してPerformance Management Architectに新規共有ライブラリを移入します。



注意

アプリケーションに含めるビジネス・ディメンション(汎用、勘定科目、エンティティ、時間、国など)は、アプリケーションを作成する前に、ディメンション・ライブラリに追加する必要があります; これを行わないと、「アプリケーション・ウィザード」での選択にディメンションを使用できません。

2. EPM Workspaceから、「ナビゲート」、「管理」、「アプリケーション・ライブラリ」の順に選択します。

アプリケーション・ライブラリが表示されます。

3. 「ファイル」、「新規」、「アプリケーション」の順に選択します。

ウィザードの最初の「アプリケーション・タイプ」画面が表示されます。

4. 「名前」で、アプリケーション名を入力します。

名前は7文字以内で命名し、「&」(アンパサンド)を含む特殊文字を使用しないでください。[253ページの付録F「Essbase命名規則」](#)を参照してください。

5. 「タイプ」で、「**Profitability**」を選択します。
6. オプション: 「説明」に、説明を入力します。
7. オプション: ディメンションを手動でブランク・アプリケーションに追加するには、「**ブランク・アプリケーションの作成**」を選択し、「終了」をクリックします。[146ページの詳細Profitabilityディメンションの手動での追加](#)を参照してください。
8. オプション: ディメンションを作成するには、「**ローカル・ディメンションの自動作成**」を選択します。

「ローカル・ディメンションの自動作成」を選択すると、MeasuresDetailedディメンションが自動的に作成されます。

ウィザードの2番目の画面である「ディメンションの選択」が表示されます。

9. 「**Profitability**」で、「**Detailedアプリケーションとして作成**」を選択します。
10. 「次」をクリックします。[142ページの詳細Profitabilityのディメンションの選択](#)を参照してください。

詳細Profitabilityのディメンションの選択

アプリケーションを作成した後、アプリケーションに含めるディメンションを選択する必要があります。

Profitability and Cost Managementアプリケーションに必要なディメンションは次のとおりです:

- MeasuresDetailedは、ステージの貸借一致および計算に必要な予約済のディメンションです。AllocationMeasuresが含まれますが、ドライバ・メジャーは含まれません。



注意

このディメンションは編集しないでください。変更を行うと、データの損失やモデルの破損が生じる可能性があります。

- ユーザーは、少なくとも1つの視点ディメンション(POV)を定義する必要があります。モデルPOVにより、選択したPOVまたは期間のモデル情報に関する具体的なビューを参照できます。たとえば、POVディメンション・タイプには次のようなディメンションがいくつか含まれる場合があります:

- 年
- 時間
- 期間
- シナリオ
- 月
- 財務四半期
- 季節

- ユーザーは、少なくとも1つのビジネス・ディメンションを定義する必要があります。ビジネス・ディメンションは、ビジネス固有の部署、総勘定元帳の勘定科目、アクティビティ、場所、顧客または製品などのモデル内のビジネス要素を説明するために作成されます。

ビジネス・ディメンションには、次のディメンション・タイプの一部または全部が含まれ、1つ以上のステージまたはモデルに適用される場合があります:

- 汎用
- 勘定科目
- エンティティ
- 時間
- 国



注:

これらのビジネス・ディメンションはProfitability and Cost Managementアプリケーションの一部として含められますが、Essbaseアウトラインがデプロイされると、タイプのない基本または汎用ディメンションとして作成されます。

- 属性ディメンションは、ビジネス・ディメンションに関連付けられた特殊なタイプのディメンションです。属性は、製品のサイズや色など、データの特性を示します。

Performance Management Architectには、2つの属性ディメンション・タイプがあります:

○属性ディメンション:

- 属性は、テキストを使用して作成されます。
- 属性には階層があり、集計値にロールアップすることができます。
- 1つのメンバーに1つの属性のみ関連付けることができます。

○ユーザー定義属性ディメンション(UDA):

- 属性は、テキストを使用して作成する必要があります。
- UDAには階層がないため、合計を生成するためのレポートに容易に使用することはできません。
- 複数のUDAを1つのメンバーに関連付けることができます。

属性ディメンションの操作の詳細は、『Oracle Essbaseデータベース管理者ガイド』を参照してください。

- 別名はオプションです。モデルで別名を使用する場合のみ必要です。命名の規則については、[253ページの付録F「Essbase命名規則」](#)を参照してください。



注意

同じディメンション内で重複するメンバー名または別名は使用できません。



注:

モデル・ステージはディメンションではないため、Performance Management Architectでは使用できません。Profitability and Cost Managementでは、ステージはモデルに追加され、ディメンションを論理的な手順またはステージに整理するために使用されます。

アプリケーションを作成した後、適切な手順を使用してアプリケーションに追加するディメンションを選択します:

- ウィザードを使用する場合は、[144ページのウィザードを使用した詳細Profitabilityのディメンションの追加](#)を参照してください。
- ブランクのアプリケーションを作成した場合は、[146ページの詳細Profitabilityディメンションの手動での追加](#)を参照してください。

ウィザードを使用した詳細Profitabilityのディメンションの追加

アプリケーション・ウィザードを使用すると、必要なすべてのディメンションが自動的に表示されます。正確な一致がある場合は、そのディメンション・タイプのディメンション列に自動的に入力されます。Profitability and Cost Managementの必要なディメンション・タイプは、自動的に分類されて、次の影付きヘッダーとともに表示されます:

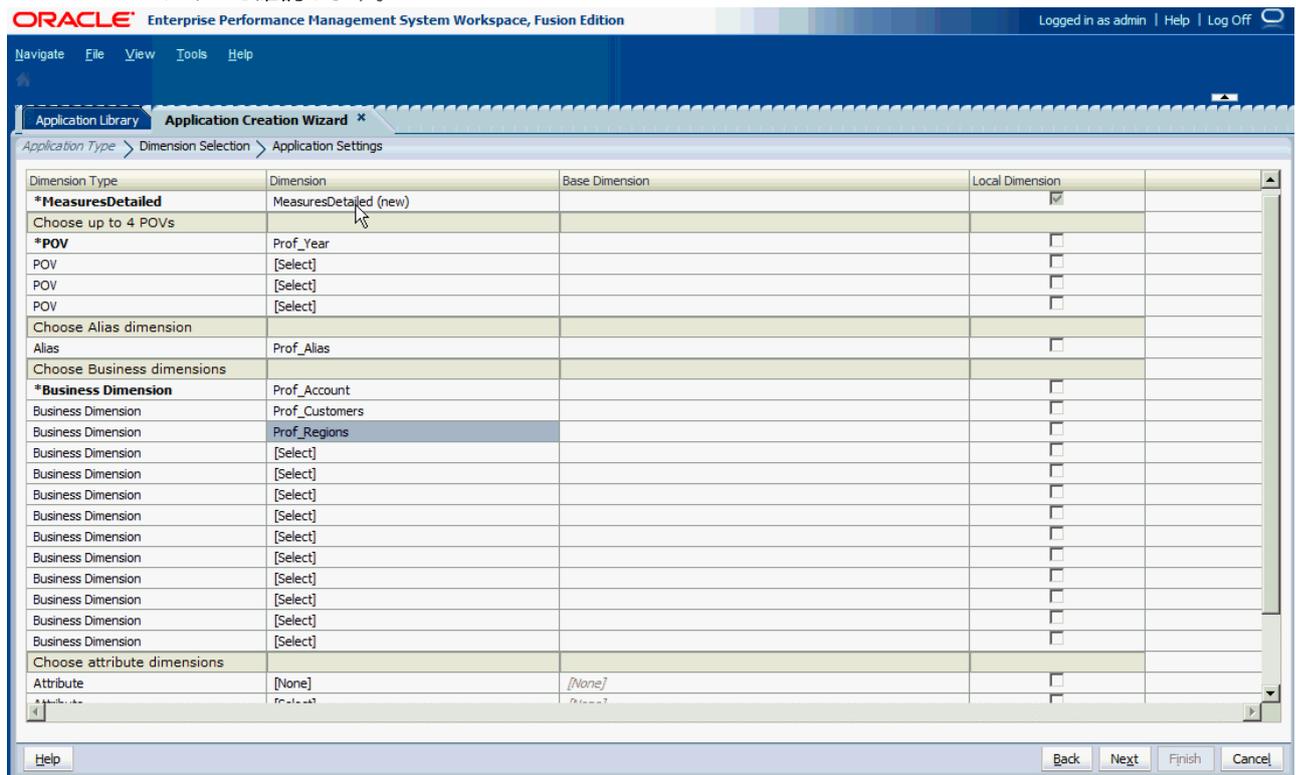
- MeasuresDetailedディメンション
- POVディメンション
- 別名ディメンション(オプション)
- ビジネス・ディメンション
- 属性ディメンション(オプション)

「ローカル・ディメンションの自動作成」を選択した場合、必要なディメンションごとに新規ローカル・ディメンションが作成されます。各新規ディメンションの名前は、ディメンション・タイプにかっこで囲まれた(New)が付いたものになります。たとえば、Account (New)となります。

勘定科目、エンティティ、時間、国などアプリケーションに含めるビジネス・ディメンションは、アプリケーションを作成する前にディメンション・ライブラリに追加する必要があります; そうしないと、「アプリケーション・ウィザード」でディメンションを選択できません。名前について制限されている単語および文字を確認するには、[253ページの付録F「Essbase命名規則」](#)を参照してください。

▶ ディメンションを定義するには:

1. 「ディメンションの選択」タブ(アプリケーション・ウィザードの手順2)の「ディメンションのタイプ」で、必要なディメンション・タイプを確認します。



2. MeasuresDetailedを選択します。



注意

このディメンションは、詳細Profitabilityアプリケーションに必須ですが、変更する必要があります。変更しないとアプリケーションが破損する可能性があります。

3. 既存の各ディメンションをアプリケーションに追加するには、「ディメンション」列の[選択]をクリックすると、そのディメンション・タイプに使用可能なディメンションのドロップダウン・リストが表示されます。

関連ディメンション・タイプのディメンションのみが表示されます。たとえば、ディメンションをメジャー・ディメンション・タイプにマッピングしている場合は、メジャー・ディメンションのみがリストに表示されます。

4. ドロップダウン・リストからディメンションを選択します。
5. オプション: 新規ディメンションを作成します。新規ディメンションを作成するには:
 - a. 「ディメンション」列で、[選択]をクリックすると、そのディメンション・タイプに使用可能なディメンションのドロップダウン・リストが表示されます。
 - b. ドロップダウン・リストから、[新規ディメンションの作成]を選択します。

「新規ディメンションの追加」ダイアログ・ボックスが表示されます。

- c. 新規ディメンションの「名前」と「説明」を入力します。「タイプ」は、ディメンション・タイプに基づいて自動的に選択されます。
 - d. 「OK」をクリックします。
6. [145ページのステップ 2](#)から [145ページのステップ 4](#)を繰り返し、新規ディメンションを選択または作成します。



注:

次の画面に移動する前に、すべての必須ディメンションを、ディメンションまたは[該当なし]にマップする必要があります。

7. オプション: ディメンションをローカル・ディメンションとして指定するには、各行の最後にある「ローカル・ディメンション」チェック・ボックスを選択します。
8. 「次」をクリックします。
「アプリケーション設定」画面が表示されます。
9. 必要に応じて、アプリケーション設定を変更します。 [147ページのアプリケーション設定の変更](#)を参照してください。

詳細Profitabilityディメンションの手動での追加

ブランク・アプリケーションを作成する場合は、ディメンション・ライブラリを使用してディメンションを選択します。

ディメンション・ビューには、次の3つのペインがあります:

- 共有ライブラリ - 左側に表示されます。共有ライブラリで現在使用可能なすべてのディメンションが表示されます。
- アプリケーション - 中央部に表示され、展開すると現在のアプリケーションのすべてのディメンションの名前がリスト表示されます。
- プロパティ・グリッド - 右側に表示されます。選択したディメンションまたはメンバーのすべてのプロパティを表示します。

ディメンション・ライブラリの使用の詳細は、*Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect*管理ガイドを参照してください。

▶ ブランク・アプリケーションにディメンションを追加するには:

1. ディメンション・ライブラリで、共有ライブラリからアプリケーションにディメンションをドラッグします。

「ディメンションのコピー」ダイアログ・ボックスが表示されます。



ヒント:

新規ローカル・ディメンションを作成するには、アプリケーション・ビューでアプリケーション名を右クリックし、「ディメンションの作成」を選択します。「新規ディメンションの追加」ダイアログ・ボックスが表示されます。

2. 「ローカル・ディメンション」または「共有ディメンション」を選択します。



ヒント:

アプリケーションにメンバーのみを追加するには、共有ライブラリでディメンションを右クリックして、「アプリケーション・ビューに追加」を選択します。

3. 必要なすべてのディメンションをアプリケーションに追加します。

展開されたアプリケーションにすべてのディメンションが表示されます。



ヒント:

共有ライブラリにメンバーを追加し、アプリケーションにディメンションを追加した場合、「リフレッ

シュ」ボタン  をクリックすると、アプリケーションに新規メンバーが表示されます。

4. **NoMember**の**Consolidation**プロパティ値を~(無視)に設定します。
5. ディメンションを順序変更して、**NoMember**が最後の世代2の位置に移動されるようにします。 [149ページの子メンバーの順序変更](#)を参照してください。
6. 必要に応じて、アプリケーション設定を変更します。 [147ページのアプリケーション設定の変更](#)を参照してください。

アプリケーション設定の変更

サブトピック

- [ディメンション・ライブラリを使用したアプリケーション設定の変更](#)
- [アプリケーション・ウィザードを使用したアプリケーション設定の変更](#)
- [POVディメンションのプロパティの設定](#)
- [子メンバーの順序変更](#)

アプリケーションの作成の次の手順は、アプリケーションのプロパティ、関連付けおよび他のアプリケーション設定の変更です。ブランク・アプリケーションを作成し、ディメンション・ライブラリを使用してアプリケーション設定を変更する場合、変更を加えるためにウィザードではなくディメンション・ライブラリを使用するという点を除けば、同様のオプションを使用できます。



注:

ディメンションの関連付けは、共有階層に必要ですが、すべてのモデルで必要というわけではありません。

アプリケーション設定を変更する次の各手順を参照してください:

- ブランク・アプリケーションの場合はディメンション・ライブラリを使用します。[148ページのディメンション・ライブラリを使用したアプリケーション設定の変更](#)を参照してください。
- 自動生成アプリケーションの場合は「アプリケーション・ウィザード」を使用します。[148ページのアプリケーション・ウィザードを使用したアプリケーション設定の変更](#)を参照してください。

ディメンション・ライブラリを使用したアプリケーション設定の変更

ディメンション・ライブラリには、共有ライブラリ、アプリケーションおよびプロパティ・グリッドが表示されます。右クリック・メニューを使用して、アプリケーション・ディメンションを変更し、次のアクションを実行します:

- Profitability and Cost Managementモデルの場合は、次のタスクを実行します:
 - POVディメンションのプロパティ、および必要に応じて、複数のPOVディメンションのPOV表示順を設定します。
[149ページのPOVディメンションのプロパティの設定](#)を参照してください。
 - すべてのモデル・ディメンションのディメンション・ソート順を設定します。
[130ページのディメンション・ソート順および密度の設定](#)を参照してください
 - NoMemberの順序を変更し、このメンバーをリスト上の最終世代2のメンバーとして表示します。
[149ページの子メンバーの順序変更](#)を参照してください
- 必要に応じて、*Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect*管理ガイドに記載されている手順を使用してディメンションを変更します:
 - ディメンション別名を設定します。
 - アプリケーション・メンバーシップを表示します。
 - ディメンションの関連付けを表示します。
 - ディメンションを同期化します。
 - メンバーを作成します。
 - 共有メンバーを挿入します。
 - 孤立メンバーを管理します。

アプリケーション・ウィザードを使用したアプリケーション設定の変更

ウィザードを使用してアプリケーションを作成する場合、アプリケーションのディメンションおよびメンバーが左側に表示され、プロパティ・グリッドが右側に表示され、検証およびデプロイメント・オプションが下部に表示されます。

右クリック・メニューを使用してアプリケーション・ディメンションを変更し、次のタスクを実行します:

- Profitability and Cost Managementモデルの場合は、次のタスクを実行します:
 - POVディメンションのプロパティ、および必要に応じて、複数のPOVディメンションのPOV表示順を設定します。

[149ページのPOVディメンションのプロパティの設定](#)を参照してください。
 - すべてのモデル・ディメンションのディメンション・ソート順を設定します。

[130ページのディメンション・ソート順および密度の設定](#)を参照してください
 - NoMemberの順序を変更し、このメンバーをリスト上の最終世代2のメンバーとして表示します。

[149ページの子メンバーの順序変更](#)を参照してください
- 必要に応じて、*Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect*管理ガイドに記載されている手順を使用してディメンションを変更します:

POVディメンションのプロパティの設定

少なくとも1つのPOV(視点)ディメンションを、詳細Profitability and Cost Managementモデルごとに設定する必要があります。POVディメンションは、任意のカスタム値に設定できますが、通常は、年、期間、シナリオなどの期間を示します。また、POVバージョンを作成することもできます。

複数のPOVディメンションが指定されている場合、POVの表示順序も設定してこれらのディメンションの計算にシーケンスを付ける必要があります。Performance Management Architectで設定されたPOVの表示順序は、Profitability and Cost Managementで自動的に取得されます。

▶ POVディメンション・プロパティを設定するには:

1. ディメンション・ライブラリで、最初のPOVディメンション(年など)を選択します。
2. プロパティ・グリッドで「カテゴリ」の下の「収益性」を選択します。
3. 「POVディメンション」を選択します。
4. オプション: 期間やシナリオなど、他のPOVディメンションを選択するには、[149ページのステップ 1](#)から[149ページのステップ 3](#)を繰り返します。
5. オプション: 複数のPOVディメンションが選択された場合、POVディメンションごとに**POVの表示順序**を設定します。

「POVの表示順序」セルをダブルクリックして、選択したPOVディメンションのシーケンス番号を入力します。たとえば、年、期間およびシナリオがPOVディメンションとして設定されている場合、年のPOVの表示順序に1、期間に2、およびシナリオに3を表示順序として設定します。

子メンバーの順序変更

モデル内のすべてのビジネス・ディメンションについては、NoMemberがメンバー・リストの最後の世代2メンバーとして表示されるようにリストを順序変更する必要があります; これを行わないと、モデルの検証は失敗します。

NoMemberが最後の位置に残っていれば、特定の要件にあわせてメンバーの順序も変更できます。



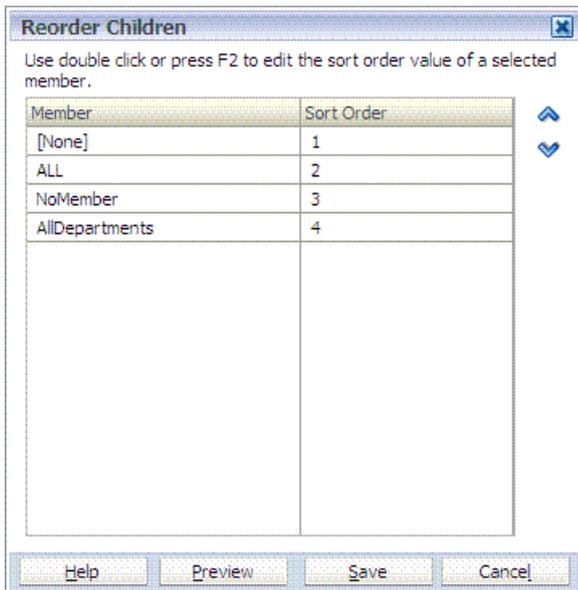
注:

この手順は、別名、AllocationType、メジャー、期間、シナリオ、年などのシステム・ディメンションでは必要ありません。

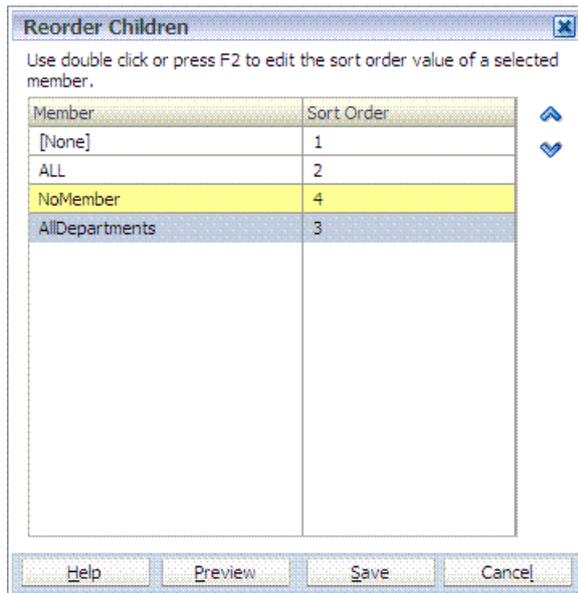
▶ 子を順序変更するには:

1. EPM Workspaceから、「ナビゲート」、「管理」、「ディメンション・ライブラリ」の順に選択し、共有ライブラリを表示します。
2. 次の説明に従って、記録するディメンションを選択します:
 - 共有ディメンションの場合、「共有ライブラリ」の下で、順序変更するディメンションを右クリックして「子の順序変更」を選択します。
 - ローカル・ディメンションの場合、「アプリケーション」列の下で、順序変更するディメンションを右クリックして「子の順序変更」を選択します。

「子の順序変更」ダイアログ・ボックスが表示されます。



3. 「ソート順」で、メンバーの順序を変更するセルをダブルクリックし、新しいソート順の場所の番号を入力します。



注:

NoMemberディメンションが最後の世代2メンバーとしてリストの最後に移動したことを確認します; 最後がない場合、デプロイメントは失敗します。

4. [150ページのステップ 3](#)を繰り返して、すべてのメンバーを順序付けます。
5. 変更をプレビューするには、「[プレビュー](#)」をクリックします。
6. 「[保存](#)」をクリックします。

Performance Management Architectでの詳細 Profitabilityアプリケーションの検証とデプロイ

Performance Management Architectで詳細Profitability and Cost Managementアプリケーションを作成したら、アプリケーションを検証して詳細Profitabilityにデプロイする必要があります。

次の項を参照してください:

- [152ページの詳細Profitability and Cost Managementの検証](#)
- [153ページのウィザードを使用したアプリケーションの検証とデプロイ](#)
- [153ページのPerformance Management Architectを使用したアプリケーションの検証とデプロイ](#)



注:

アプリケーションの再デプロイメント時に個別メンバー、複数のメンバーまたはメンバーの組合せの追加、名前変更、親変更または削除が可能です。

詳細なProfitability and Cost Managementアプリケーションを作成およびデプロイするためにPerformance Management Architectを操作する手順の詳細は、*Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect管理ガイド*を参照してください。

詳細Profitability and Cost Managementの検証

Profitability and Cost Managementでは、次の条件が検証されます:

表30 詳細Profitabilityの検証

検証レベル	検証
アプリケーション	<ul style="list-style-type: none"> アプリケーションの名前は7文字以下にする必要があります、特殊文字は使用できません。 少なくとも1つのディメンションをPOVタイプに設定する必要があります。最大4つのディメンションをPOVディメンションとしてマークできます。各POVディメンション・クラスは1回のみ使用できます。 少なくとも1つのビジネス・ディメンションが定義されている必要があります。 少なくとも1つのMeasuresDetailedディメンションが定義されている必要があります。 タイプが勘定科目のディメンションが1つしかありません。 タイプがエンティティのディメンションが1つしかありません。 アプリケーション名にEssbaseの特殊文字および予約語が含まれていません。
ディメンション	<ul style="list-style-type: none"> ビジネス・ディメンションのルート・メンバーには、LabelOnlyに設定されたASOデータ・ストレージが必要です。 ディメンション・ソート順が、別名ディメンションとUDAディメンションを除き、モデル内のすべてのディメンションに設定されており、次の条件を満たしています: <ul style="list-style-type: none"> ○別名ディメンションとUDAディメンションを除く、モデル内のすべてのディメンションにディメンション・ソート順が設定されている必要があります。 <p>注:</p> <p>別名ディメンションとUDAディメンションは、ディメンション・ソート順では無視されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ディメンション・ソート順は連続している必要があります。 ○メジャー・ディメンションがデフォルトで1に設定されています。 ○POVディメンションとビジネス・ディメンションが3以上に設定されています。 ○属性ディメンションは最後のディメンションとしてソートされています。 <p>たとえば、12個の連続したディメンションのうち4個が属性ディメンションである場合、属性ディメンションは9、10、11および12に設定する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ビジネス・ディメンションには少なくとも2つの世代2メンバーが必要です。 POVディメンションには少なくとも1つのメンバーが必要です。 属性ディメンションは次の条件を満たす必要があります: <ul style="list-style-type: none"> ○属性ディメンションのレベル0のメンバーのみが属性として割当て可能です。 ○属性は基本ディメンションの同じレベルのメンバーにのみ割当て可能です。 ○属性ディメンションは疎ディメンションにのみ関連付けられます。
メンバー	<ul style="list-style-type: none"> ASOデータ・ストレージのみを定義できます。 共有メンバーは、最初の世代2メンバーでは許可されていません。 共有メンバーは、アウトライン順序で常に対応する基本メンバーの後に表示される必要があります。

検証レベル	検証
	<ul style="list-style-type: none"> • NoMemberは、すべてのビジネス・ディメンションに対して最後の世代2メンバーとして設定する必要があり、プロパティ・グリッドで「無視(~)」に設定する必要があります。 <p>注:</p> <p>この要件は、POV、メジャー、別名、UDAまたは属性ディメンションに適用されません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 次のいずれかの方法によって、共有メンバーを動的階層に置く必要があります: <ul style="list-style-type: none"> ○ 世代1メンバーがHierarchyType=dynamicです ○ 世代1メンバーがHierarchyType=HierarchiesEnabledであり、共有メンバーの世代2の祖先がHierarchyType=dynamicです • ディメンションのメンバーに重複するメンバー名または別名はありません。 • メンバー名にEssbaseの特殊文字および予約語が含まれていません。

ウィザードを使用したアプリケーションの検証とデプロイ

アプリケーション・ウィザードを使用している場合は、アプリケーションの作成を終了する前にアプリケーションを検証して、すべてのエラーを修正します。必要に応じて、ウィザードの検証およびデプロイメント・オプションを使用せずに、後でデプロイメント・オプションをアプリケーション・ライブラリで使用することもできます。

▶ ウィザードを使用してアプリケーションを検証およびデプロイするには:

1. アプリケーション・ウィザードの「アプリケーション設定」画面で、「検証」をクリックします。

すべてのエラーはグリッドに表示され、エラー・タイプとエラー・メッセージが示されます。

2. オプション: 検証後にアプリケーションをデプロイするには、「終了時にデプロイ」を選択します。
3. 検証エラーが発生した場合、アプリケーションをデプロイする前にすべての問題を修正します。
4. 「終了」をクリックします。

「終了時にデプロイ」を選択した場合、「デプロイ」ダイアログ・ボックスが表示されます。



注:

共有ディメンションを変更した場合、その共有ディメンションを使用するすべてのアプリケーションが影響を受けます。変更内容を適用するには、アプリケーションを再デプロイする必要があります。

5. アプリケーションをデプロイします。153ページのPerformance Management Architectを使用したアプリケーションの検証とデプロイを参照してください。

Performance Management Architectを使用したアプリケーションの検証とデプロイ

▶ Profitability and Cost ManagementアプリケーションをPerformance Management Architectで検証およびデプロイするには:

1. EPM Workspaceから、「ナビゲート」、「管理」、「アプリケーション・ライブラリ」の順に選択し、アプリケーション・ライブラリを表示します。
2. アプリケーション名を右クリックし、「検証」を選択して、Performance Management Architectに新たに作成したProfitability and Cost Managementアプリケーションを検証します。Profitability and Cost

ManagementProfitabilityの検証条件は、[152ページの詳細Profitability and Cost Managementの検証](#)を参照してください。

検証が完了すると、「ジョブ・タスク」ダイアログ・ボックスが表示され、関連付けられたジョブ番号が表示されます。

3. 関連付けられたジョブのリンクをクリックすると、ジョブ・コンソールが表示されます。
4. ジョブ・コンソールの要約を確認します。エラーがある場合、「添付ファイル」の下にある検証ログのリンクをクリックして、すべての検証エラーまたはメッセージの完全リストを表示します。
5. 検証ログ内のエラーをすべて修正します。
6. エラーがなくなり検証に成功するまで、[153ページのステップ 2](#)から [154ページのステップ 5](#)を繰り返します。

これで、アプリケーションはデプロイ可能になりました。

7. アプリケーション・ライブラリで、アプリケーション名を右クリックし、ドロップダウン・リストから「デプロイ」を選択します。

アプリケーションは、デプロイ前に検証されます。検証エラーは、すべてジョブ・コンソールに表示されます。デプロイ前にすべての検証エラーを修正する必要があります。検証が完了すると、「デプロイ」ダイアログ・ボックスが表示されます。

8. デプロイメントに必要な情報を指定します:

- **オプション:** 「ノート」で、このアプリケーションのデプロイメントに関する備考を追加します。これらの備考はジョブ・コンソールのジョブの説明に追加されます。このテキスト・フィールドには200文字まで入力でき、任意の文字を含めることができます。
- 「インスタンス名」で、アプリケーションのデプロイ先のProfitability and Cost Managementインストール名を選択します。

Profitability and Cost Managementアプリケーションは、単一マシンまたはクラスタの一部として複数のマシンにインストールできます。各インストールまたはインスタンスは、「インスタンス名」ドロップダウン・リストに表示されます。初回インストール時には、コンフィグレータ・ツールで使用されるインスタンスの名前がデフォルトで指定されます。

- 「アプリケーション・サーバー」を選択します。
- 「**Shared Services**プロジェクト」で、このアプリケーションを割り当てる「Profitability and Cost Management」アプリケーション・グループを選択します。
- **オプション:** 次のようにして、「完全デプロイ」を選択するかどうかを決定します:
 - アプリケーションの初めてのデプロイメントの場合、Performance Management ArchitectはすべてのディメンションをProfitability and Cost Managementに自動的に送信するため、「完全デプロイメント」チェックボックスは無効になっています。
 - 後続のデプロイメントで「完全デプロイメント」が選択されている場合、Performance Management ArchitectはすべてのディメンションをProfitability and Cost Managementに送信します。
 - 「完全デプロイ」が選択されていない場合、Performance Management Architectは変更されたディメンションのみをProfitability and Cost Managementに送信します。ディメンションが変更されていない場合、そのディメンションはデプロイメントに含まれません。

9. 「デプロイ」をクリックします。

検証ジョブが送信されたことを確認するジョブ・タスク・ウィンドウが表示され、ジョブIDが表示されます。

10. ジョブ・タスク・ウィンドウでリンクをクリックすると、ジョブ・ステータスが表示されます。

ジョブを完了すると、新規アプリケーションが作成され、Profitability and Cost Managementに配置されたことを示すメッセージが「詳細」に表示されます。新規アプリケーションを選択できるようになります。



注:

アプリケーションの配置が正常に終了していない場合、アプリケーション・ライブラリでアプリケーション名を右クリックしてアプリケーションのクリーンアップを選択します。このオプションにより、Shared ServicesとProfitability and Cost Managementの両方に対して強制的に削除コールが実行され、アプリケーションのすべてのトレースが削除されて、Performance Management Architect内のアプリケーションが未配置の状態にリセットされます。

14

詳細Profitabilityの計算

この項の内容:

計算前および計算後のカスタム・スクリプト	157
データ転送を行うためのODBCデータ・ソースの作成	160
高度な計算オプション	160
その他のプロセス・タイプ	161

モデルの検証後、モデルを計算できます。

「計算の管理」画面で、詳細Profitabilityのユーザーは「カスタム・スクリプト」または「データPOV」などの処理オプションを選択します。

基本的な計算機能に加えて、管理ユーザーには追加の演算およびプロセス・タイプも表示されます。

計算前および計算後のカスタム・スクリプト

アプリケーションの計算前または計算後にタスクを実行する計算前および計算後のカスタム・スクリプトを作成し、モデルまたはステージ・データを操作できます。

カスタム・スクリプトは、次のように実行されます。

- 計算前のSQLスクリプトは、モデル計算の前に実行されます。
- 計算後のSQLスクリプトは、モデル計算の後に実行されます。

カスタム・スクリプトは、モデル計算の前に配賦を準備する、またはモデル計算後のレポートの結果を強化するために実行されます。

SQL Developerまたはサードパーティ製の任意のSQLツールを使用して、単純な一連のSQL文を、区切り文字で区切って作成します。カスタム・スクリプトは、製品スキーマ内で、データベースのHPM_SQL_SCRIPT表のSCRIPT列に格納されます。

計算パラメータを作成するとき、カスタム・スクリプトを選択します。「タスク領域」から、「計算」、「計算の管理」の順に選択し、必要な計算前または計算後のスクリプトを選択します。詳細な手順は、『Oracle Hyperion Profitability and Cost Managementユーザー・ガイド』を参照してください。

次の項を参照してください:

- [158ページのHPM_SQL_SCRIPT](#)
- [159ページのカスタム・スクリプトの作成](#)

HPM_SQL_SCRIPT

この表には、計算前および計算後のカスタム・スクリプトが格納されます。表の1行ごとに、ステージ・モデルで実行できる1つまたは複数のSQL文が格納されます。



注:

HPM_SQL_SCRIPTに直接、スクリプトを入力しないでください。[159ページのカスタム・スクリプトの作成](#)を参照してください。

表31 HPM_SQL_SCRIPT

列	データ型	NULL許容	説明
NAME	Varchar2 (80)	いいえ	カスタム・スクリプトの名前
APPLICATION_NAME	Varchar2 (8)	いいえ	このカスタム・スクリプトが作成された対象のアプリケーションの名前
MODEL_POV_NAME	Varchar2 (80)	はい	<p>選択したPOVが"Year": "2012", "Period": "January", "..."というフォーマットで表示されます。</p> <p>注意: この列をNULLに設定した場合、どの「モデルPOV」にもスクリプトを使用できます。</p> <p>特定のPOVを選択した場合、スクリプトはそのPOVにのみ使用できます。</p>
SCRIPT_TYPE	Varchar2 (80)	はい	<p>適切なスクリプト・タイプを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • PRE (事前スクリプトを表示) • POST (事後スクリプトを表示) • EITHER (事前スクリプトまたは事後スクリプトを表示) • スクリプト・タイプが指定されなかった場合は、EITHERと想定されます。
DESCRIPTION	Varchar2 (255)	はい	スクリプトの目的または内容の説明を入力します。

列	データ型	NULL許容	説明
SCRIPT	LONG	いいえ	カスタム・スクリプトをここに 入力します。 スクリプトの作成手順について は、 159ページのカスタ ム・スクリプトの作成 を参照 してください。

カスタム・スクリプトの作成

カスタム・スクリプトは、メモ帳、Textpad、Oracle SQL Developerなどのテキスト・エディタで作成できます。スクリプトは、SQL文1つだけの場合もありますが、それより長い場には、文と文の間に区切り文字が必要です。必要な区切り文字はスラッシュ(/)で、それだけを独立した行に指定します。このスクリプトではストアード・プロシージャを実行できます。

スクリプトは、[158ページ](#)の[HPM_SQL_SCRIPT](#)で説明されているように、HPM_SQL_SCRIPT表のSCRIPT列に貼り付けるか、その他の方法でロードします。HPM_SQL_SCRIPTに直接、スクリプトを入力しないでください。



注意

事前および事後のスクリプトを作成できるのは、HPM製品スキーマに対するパスワードを持つシステム管理者みです。

▶ カスタム・スクリプトを作成してロードするには:

1. メモ帳、Textpad、Oracle SQL Developerなどのテキスト・エディタでカスタム・スクリプトを作成します。
2. Oracle SQL Developerを使用して、HPM_SQL_SCRIPT表を開きます。表は、HPM製品スキーマ内で、製品表と同じ場所にある必要があります。
3. 新しい行を挿入します。
4. スクリプト・タイプなど、必要な値を表に入力します。[158ページ](#)の[HPM_SQL_SCRIPT](#)を参照してください。
5. 「編集」ダイアログのSCRIPT列に、次のようにスクリプトをコピーします。
 - Oracle SQL Developerの場合、テキスト・エディタからスクリプトをコピーして貼り付けるか、更新文を使用してSCRIPT列に移入します。これはOracleに対するSQLスクリプトの例です:

```

update my_table set my_column =5
/
update your_table set your_column =6
/
begin execute my_proc end
/

```

- SQL Studioを使用するMicrosoft SQL Serverの場合、Update文を使用してSCRIPT列に移入します。これはSQL Serverに対するSQLスクリプトの例です:

```
update my_table set my_column =5
/  
update your_table set your_column =6  
/  
begin myproc; end  
/
```



注意

同じスクリプトで複数のSQL文を指定する場合は、区切り文字「/」を間に含める必要があります。"/ "文字は、各文の終わりごとに独立した行として入力してください。

データ転送を行うためのODBCデータ・ソースの作成

「計算の管理」タブの「データ転送」オプションでは、**PROFITABILITY_DS**というODBCデータ・ソースが必要です。これが、Profitability and Cost Managementインスタンスをサポートする、OracleまたはMicrosoft SQL Serverデータベース内の製品スキーマに接続します。

▶ このODBCデータ・ソースを作成するには:

1. アプリケーション・サーバーで、ODBC管理ユーティリティを開きます: コマンドラインでodbcad32コマンドを実行します。
2. システムDSNタブを選択し、「追加」をクリックします。
3. 適切なODBCドライバを選択し、「次へ」をクリックします。
4. 「データ・ソース名」に**PROFITABILITY_DS**を入力し、製品スキーマに接続するための接続の詳細を設定します。

高度な計算オプション

「計算の管理」画面で、管理者には「ドライバ操作タイプ」および「その他のプロセス・タイプ」タブが表示されますが、基本ユーザーは使用できません。

- [161ページのドライバ操作タイプ](#)
- [161ページのその他のプロセス・タイプ](#)



注意

これらのオプションは、経験豊富なデータベース管理者のみが使用するようになっています。「ドライバ操作タイプ」または「その他のプロセス・タイプ」のタイプを変更すると、アプリケーションに大きく影響したり、モデルまたはデータを破損したりする場合があります。

ドライバ操作タイプ

「計算の管理」画面の「ドライバ操作タイプ」タブには、詳細Profitabilityの現在のドライバ操作タイプが表示されます。



注意

このタブでは新しいドライバ操作タイプを作成しないでください。このタブは、経験豊富なデータベース管理者のみが使用するようにしてください。変更すると、アプリケーションに大きく影響したり、モデルまたはデータを破損したりする場合があります。

「ドライバ操作タイプ」は、サポートされるドライバ操作を拡張するための管理機能です。パフォーマンスの問題や一意ドライバの課題を解決することができます。これを使用するには、高度なSQLの知識があり、データベース管理や、Profitability and Cost Managementの詳細Profitabilityアプリケーションのドキュメント化されていない機能について深く理解していることが必要です。カスタマ・サービスのリクエストに応じてOracleから求められないかぎりこの機能は使用しないでください。

その他のプロセス・タイプ

このリリースの詳細Profitabilityでは、2つの代替計算プロセス・タイプを使用できます。

- Oracle Database 11g (デフォルト)
- Oracle Database 10g

Oracle Database 10gを使用するように構成されているシステムの場合は、「その他のプロセス・タイプ」タブを使用して、データベースに適した計算プロセス・タイプを選択します。



注意

「その他のプロセス・タイプ」タブは、経験豊富なデータベース管理者のみが使用するようにしてください。「その他のプロセス・タイプ」ではその他の変更を行わないようにしてください。アプリケーションに大きく影響したり、モデルまたはデータを破損したりする場合があります。

詳細Profitabilityで使用しているOracle Databaseのバージョンに応じ、この画面を使用してデータベースを正しいバージョンに変更してください。

▶ ご使用のOracle Databaseのバージョンを変更するには:

1. EPM Workspaceで、「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、Oracle Databaseのバージョンを変更するアプリケーションを選択します。
2. 「タスク領域」から、「計算」、「計算の管理」の順に選択し、「その他のプロセス・タイプ」タブを選択します。



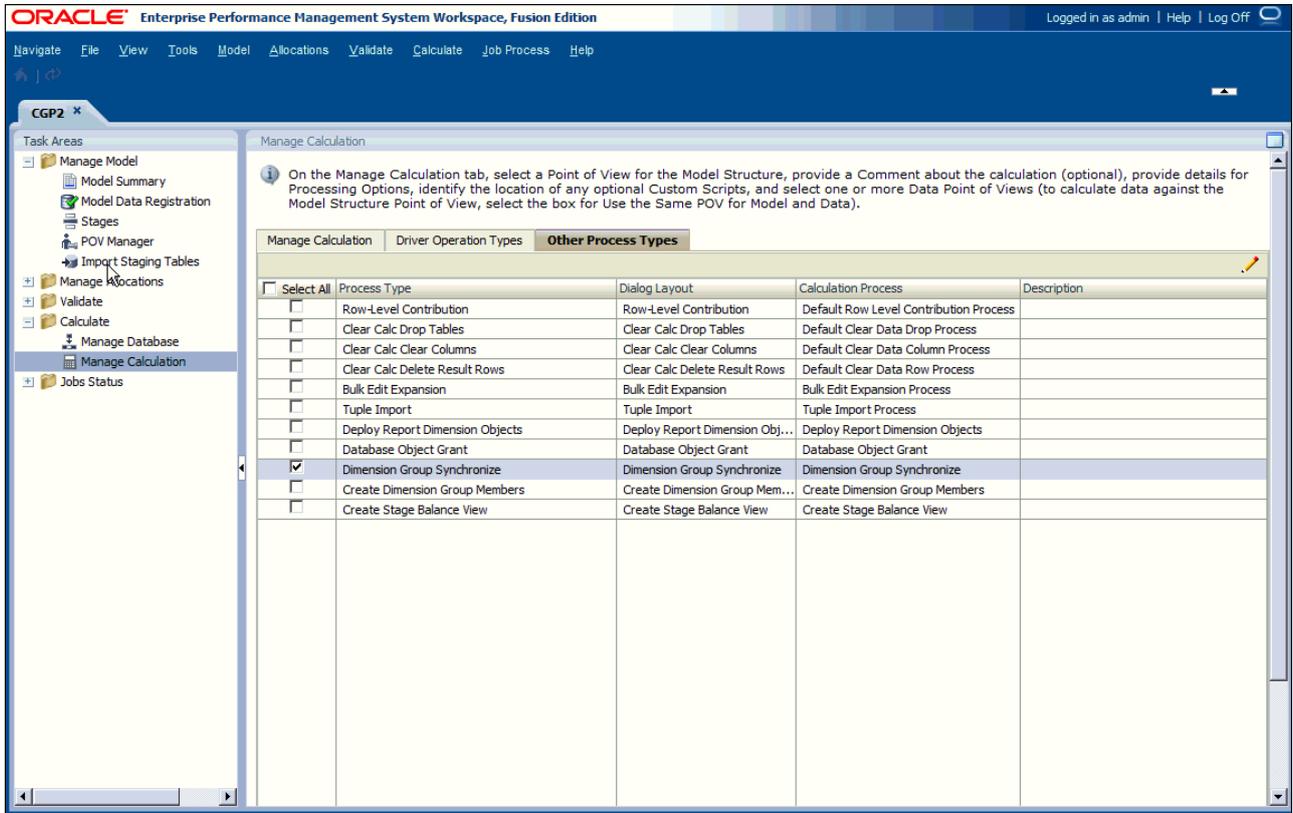
注:

このタブが表示されるのは、管理者ユーザーの役割が割り当てられている場合のみです。

3.

ディメンション・グループの同期を選択し、「編集」ボタン  をクリックします。

「その他のプロセス・タイプの定義」ダイアログ・ボックスが表示されます。



4. 「計算プロセス」で、使用しているOracle Databaseの適切なオプションを選択します。

- ディメンション・グループの同期(Oracle 11g)
- ディメンション・グループの同期 10G (Oracle 10g)

5. 「OK」をクリックして変更を保存します。

15

詳細Profitabilityのステージング表のインポート

この項の内容:

詳細Profitabilityのインポート・データベース表の作成	164
HPM_STGD_POV	164
HPM_STGD_DRIVER	165
HPM_STGD_DRIVER_SEL	167
HPM_STGD_DRIVER_EXCEP	168
HPM_STGD_ASGN_RULE_SEL	169
HPM_STGD_CALCRLU_SNGLSRC	171
HPM_STGD_CALCRLU_CALCMSRS	173
HPM_STGD_CALCRLU_MULTISRC	175

リレーショナル・データベースからProfitability and Cost Managementにモデル・データをインポートするには、Profitability and Cost Management製品スキーマとは別のデータベース・スキーマに一連のステージング表を作成する必要があります。(詳細Profitabilityのモデル・データ・スキーマとして使用されるスキーマを再利用することもできます)。これらのステージング表に、インポートされるアプリケーション・アーティファクトの詳細を移入します。



注意

製品スキーマを変更しないでください。

データベースのステージング・スクリプトはMicrosoft SQL ServerおよびOracle Databaseで使用できます。適したスクリプトを使用して、新しいデータベースにステージング表を作成します:

この付録のスキーマ表を使用してプロシージャとステージング表を作成します:

- [164ページの詳細Profitabilityのインポート・データベース表の作成](#)
- [164ページのHPM_STGD_POV](#)
- [165ページのHPM_STGD_DRIVER](#)
- [167ページのHPM_STGD_DRIVER_SEL](#)
- [168ページのHPM_STGD_DRIVER_EXCEP](#)
- [169ページのHPM_STGD_ASGN_RULE_SEL](#)
- [171ページのHPM_STGD_CALCRLU_SNGLSRC](#)
- [173ページのHPM_STGD_CALCRLU_CALCMSRS](#)
- [175ページのHPM_STGD_CALCRLU_MULTISRC](#)

詳細Profitabilityのインポート・データベース表の作成

データベースのステージング・スクリプトはMicrosoft SQL ServerおよびOracle Databaseで使用できます。詳細Profitabilityで表を作成するには、create_dp_staging.sqlスクリプトを使用します。

▶ ステージング表を作成するには:

1. 製品スキーマの外部に、新しいOracleまたはMicrosoft SQL Serverデータベース・スキーマを作成します。
2. データベースのタイプに応じて、デフォルトの場所でcreate_dp_staging.sqlを検索します:

- %EPM_ORACLE_HOME%/products/Profitability/database/Common/MSSQLServer
- %EPM_ORACLE_HOME%/products/Profitability/database/Common/Oracle

3. create_dp_staging.sqlスクリプトを実行します。

HPM_STGD_POV

HPM_STGD_POV表には、視点(POV)に含まれるディメンション・メンバーの各組合せの状態が保管されます。

表32 HPM_STGD_POV

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	必須	説明
id	identity	integer(38,0)	はい	一意のレコードID
pov_dim1_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい	選択したPOVの最初のディメンション・メンバーの名前
pov_dim2_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		選択したPOVの2番目のディメンション・メンバーの名前
pov_dim3_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		選択したPOVの3番目のディメンション・メンバーの名前
pov_dim4_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		選択したPOVの4番目のディメンション・メンバーの名前
pov_state	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい	POVの現在のステータス: <ul style="list-style-type: none"> • ドラフト • 発行済 • アーカイブ済
last_upload_date	timestamp (6)	timestamp (6)		最後のインポートの日付と時刻
exception	nvarchar (255)	varchar2(255 CHAR)		この表のインポート時に発生したエラーを詳述するメッセージ。

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	必須	説明
created_userid	nvarchar (32)	varchar2(32 CHAR)	更新時にインポート・プログラムによって移入されます	最後のインポートを開始したユーザーのID
created_timestamp	timestamp (6)	timestamp (6)		最後のインポートの日付と時刻
modified_userid	nvarchar (32)	varchar2(32 CHAR)	更新時にインポート・プログラムによって移入されます	最後のインポートを変更したユーザーのID
modified_timestamp	timestamp (6)	timestamp (6)		変更されたインポートの日付と時刻

HPM_STGD_DRIVER

HPM_STGD_DRIVER表は、ドライバ・タイプ、表示順序および式を含む、ドライバに関する詳細を示します。

表33 HPM_STGD_DRIVER

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	必須	説明
id	identity	integer(38,0)	はい	一意のレコードID
name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい	選択したドライバの名前
description	nvarchar (255)	varchar2(255 CHAR)		選択したドライバの目的の説明
式	nvarchar (500)	varchar2(500 CHAR)	はい	ユーザーによって作成されたドライバの式。この式はSQL構文と、数学的に正しい演算を使用して作成する必要があります。
allow_idle_cost	nvarchar (1)	varchar2 (1 CHAR)		このドライバでアイドル費用を使用可能にするかどうかを決定する適切な値を入力します: <ul style="list-style-type: none"> このドライバでアイドル費用を使用可能にする場合、「Y」(はい)を入力します。 このドライバでアイドル費用を使用不可能にする場合、

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	必須	説明
				「N」(いいえ)を入力します。このオプションがデフォルトです。
priority	integer(38,0)	integer(38,0)	はい	<p>ステージ内の配賦を指定した順序で実行できるようにドライバの計算の優先度を入力します。</p> <p>優先度が最低のドライバが最初に処理されます。デフォルトでは、優先度は100に設定されており、最も高い優先度は1です。数値は連続していなくてもかまいません。</p> <p>優先度が同じドライバは特定の順序で実行されるわけではありません。正の整数のみが有効です。</p>
volume_formula	nvarchar (4000)	varchar2(4000 CHAR)		式にレートとボリューム式の両方が定義されている、レートベースのドライバの場合のみ。
dst_measure_member	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい	宛先表におけるメジャーの名前
tdv_measure_member	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		配賦式Driver Value/ TotalDriverValue (DV/TDV)で分母として使用されるメジャー
operation_type	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい	<p>ドライバ用に選択された操作のタイプ:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ レートベースの配賦 ・ 比率ベースの配賦 ・ 計算済メジャー
last_upload_date	timestamp (6)	timestamp (6)		最後のインポートの日付と時刻

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	必須	説明
exception	nvarchar (255)	varchar2(255 CHAR)		この表のインポート時に発生したエラーを詳述するメッセージ。
created_userid	nvarchar (32)	varchar2(32 CHAR)	更新時にインポート・プログラムによって移入されます	最後のインポートを開始したユーザーのID
created_timestamp	timestamp (6)	timestamp (6)		最後のインポートの日付と時刻
modified_userid	nvarchar (32)	varchar2(32 CHAR)	更新時にインポート・プログラムによって移入されます	最後のインポートを変更したユーザーのID
modified_timestamp	timestamp (6)	timestamp (6)		変更されたインポートの日付と時刻

HPM_STGD_DRIVER_SEL

HPM_STGD_DRIVER_SEL表には、選択したドライバ・ルールについて、POVとソース・ステージ・ドライバ・ディメンション・メンバーに関する詳細が示されます。

表34 HPM_STGD_DRIVER_SEL

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	必須	説明
id	identity	integer(38,0)	はい	一意のレコードID
pov_dim1_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい	選択したPOVの最初のディメンション・メンバーの名前
pov_dim2_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		選択したPOVの2番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)
pov_dim3_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		選択したPOVの3番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)
pov_dim4_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		選択したPOVの4番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)
driver_dim_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい	選択したドライバ・ディメンションのメンバーの名前

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	必須	説明
driver_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい	選択したドライバの名前
last_upload_date	timestamp (6)	timestamp (6)		最後のインポートの日付と時刻
import_exception	nvarchar (255)	varchar2(255 CHAR)		この表のインポート時に発生したエラーを詳述するメッセージ。
created_userid	nvarchar (32)	varchar2(32 CHAR)	更新時にインポート・プログラムによって移入されます	最後のインポートを開始したユーザーのID
created_timestamp	timestamp (6)	timestamp (6)		最後のインポートの日付と時刻
modified_userid	nvarchar (32)	varchar2(32 CHAR)	更新時にインポート・プログラムによって移入されます	最後のインポートを変更したユーザーのID
modified_timestamp	timestamp (6)	timestamp (6)		変更されたインポートの日付と時刻

HPM_STGD_DRIVER_EXCEP

HPM_STGD_DRIVER_EXCEP表には、選択したドライバ例外について、POVとソース・ステージ交差に関する詳細が示されます。

表35 HPM_STGD_DRIVER_EXCEP

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	必須	説明
id	identity	integer(38,0)	はい	一意のレコードID
pov_dim1_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい	選択したPOVの最初のディメンション・メンバーの名前
pov_dim2_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		選択したPOVの2番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)
pov_dim3_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		選択したPOVの3番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)
pov_dim4_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		選択したPOVの4番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	必須	説明
src_dim1_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい	ソース・ステージの最初のディメンション・メンバーの名前
src_dim2_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		ソース・ステージの2番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)
src_dim3_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		ソース・ステージの3番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)
src_dim4_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		ソース・ステージの4番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)
src_dim5_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		ソース・ステージの5番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)
driver_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい	選択したドライバの名前
last_upload_date	timestamp (6)	timestamp (6)		最後のインポートの日付と時刻
import_exception	nvarchar (255)	varchar2(255 CHAR)		この表のインポート時に発生したエラーを詳述するメッセージ。
created_userid	nvarchar (32)	varchar2(32 CHAR)	更新時にインポート・プログラムによって移入されます	最後のインポートを開始したユーザーのID
created_timestamp	timestamp (6)	timestamp (6)		最後のインポートの日付と時刻
modified_userid	nvarchar (32)	varchar2(32 CHAR)	更新時にインポート・プログラムによって移入されます	最後のインポートを変更したユーザーのID
modified_timestamp	timestamp (6)	timestamp (6)		変更されたインポートの日付と時刻

HPM_STGD_ASGN_RULE_SEL

HPM_STGD_ASGN_RULE_SEL表には、割当てルールの選択に関する詳細が示されます。

表36 HPM_STGD_ASGN_RULE_SEL

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	必須	説明
id	identity	integer(38,0)	はい	一意のレコードID
pov_dim1_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい	選択したPOVの最初のディメンション・メンバーの名前
pov_dim2_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		選択したPOVの2番目のディメンション・メンバーの名前
pov_dim3_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		選択したPOVの3番目のディメンション・メンバーの名前
pov_dim4_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		選択したPOVの4番目のディメンション・メンバーの名前
src_dim1_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい	ソース・ステージの最初のディメンション・メンバーの名前
src_dim2_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		ソース・ステージの2番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)
src_dim3_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		ソース・ステージの3番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)
src_dim4_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		ソース・ステージの4番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)
src_dim5_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		ソース・ステージの5番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)
rule_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい	選択した割当てを制御するルールの名前。このルールは、ターゲット・データベース内に存在する必要があります。
last_upload_date	timestamp (6)	timestamp (6)		最後のインポートの日付と時刻

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	必須	説明
import_exception	nvarchar (255)	varchar2(255 CHAR)		この表のインポート時に発生したエラーを詳述するメッセージ。
created_userid	nvarchar (32)	varchar2(32 CHAR)	更新時にインポート・プログラムによって移入されます	最後のインポートを開始したユーザーのID
created_timestamp	timestamp (6)	timestamp (6)		最後のインポートの日付と時刻
modified_userid	nvarchar (32)	varchar2(32 CHAR)	更新時にインポート・プログラムによって移入されます	最後のインポートを変更したユーザーのID
modified_timestamp	timestamp (6)	timestamp (6)		変更されたインポートの日付と時刻

HPM_STGD_CALCRLULE_SNGLSRC

HPM_STGD_CALCRLULE_SNGLSRC表は、単一ソース計算ルールの作成または更新の詳細を提供します。

表37 HPM_STGD_CALCRLULE_SNGLSRC

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	必須	説明
id	identity	NUMBER(38,0)	はい	各行の一意識別子。任意のシーケンス・ジェネレータの値を使用できます。
name	nvarchar (80)	VARCHAR2(80 CHAR)	はい	計算ルールの名前。
description	nvarchar (255)	varchar2(255 CHAR)		計算ルールの詳しい説明。
pov_dim1_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい	選択したPOVの最初のディメンション・メンバーの名前
pov_dim2_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		選択したPOVの2番目のディメンション・メンバーの名前
pov_dim3_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		選択したPOVの3番目のディメンション・メンバーの名前
pov_dim4_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		選択したPOVの4番目のディメンション・メンバーの名前

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	必須	説明
calculation_sequence	identity	NUMBER(4,0)	はい	計算の際に計算ルールが処理される相対順序を指定する数値。これは0よりも大きくする必要があり、そうでない場合は挿入時にチェック制約エラーが発生します。
tag	nvarchar (255)	VARCHAR2(255)		この列に計算ルールの検索タグを指定します。
enabled_flag	nvarchar (1)	VARCHAR2(1 CHAR)	はい	
first_sequence_priority	identity	NUMBER(38,0)	はい	このルールで実行されるドライバ範囲の最初のドライバ・シーケンス優先度を指定します。これは0よりも大きくする必要があり、そうでない場合は挿入時にチェック制約エラーが発生します。
last_sequence_priority	identity	NUMBER(38,0)	はい	このルールで実行されるドライバ範囲の最後のドライバ・シーケンス優先度を指定します。これは FIRST_SEQUENCE_PRIORITY 以上である必要があり、そうでない場合は挿入時にチェック制約エラーが発生します。
all_drivers_flag	nvarchar (1)	VARCHAR2(1 CHAR)	はい	Yが計算の際に最初のシーケンス優先度フィールドおよび最後のシーケンス優先度フィールドの値を無視する場合。
last_upload_date	timestamp	timestamp		この列はインポートによって入力され、インポートが最後に実行された日付を示します。

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	必須	説明
import_exception	nvarchar (255)	varchar2(255 CHAR)		行のインポートに問題があった場合のエラー・コードが含まれます。NULLは、インポートが正常に完了したことを意味します。
created_userid	nvarchar (32)	varchar2(32 CHAR)		この表のこの行を最初に作成したユーザーを識別します。これはHPCMでは使用されません。
created_timestamp	timestamp (6)	timestamp		この行が最初に作成された日時を識別します。これはHPCMでは使用されません。
modified_userid	nvarchar (32)	varchar2(32 CHAR)		この表のこの行を最初に作成したユーザーを識別します。これはHPCMでは使用されません。
modified_timestamp	timestamp (6)	timestamp		この行が最初に作成された日時を識別します。これはHPCMでは使用されません。

HPM_STGD_CALCRULE_CALCMSRS

HPM_STGD_CALCRULE_CALCMSRS表は、計算済メジャー・ルールの作成または更新の詳細を提供します。

表38 HPM_STGD_CALCRULE_CALCMSRS

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	必須	説明
id	identity	number(38,0)	はい	各行の一意識別子。任意のシーケンス・ジェネレータの値を使用できます。
name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい	計算ルールの名前。
description	nvarchar (255)	varchar2(255 CHAR)		計算ルールの詳しい説明。
pov_dim1_member	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい	選択したPOVの最初のディメンション・メンバーの名前

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	必須	説明
pov_dim2_member_name	varchar (80)	varchar2(80 CHAR)		選択したPOVの2番目のディメンション・メンバーの名前
pov_dim3_member_name	varchar (80)	varchar2(80 CHAR)		選択したPOVの3番目のディメンション・メンバーの名前
pov_dim4_member_name	varchar (80)	varchar2(80 CHAR)		選択したPOVの4番目のディメンション・メンバーの名前
calculation_sequence	number	number(4,0)	はい	計算の際に計算ルールが処理される相対順序を指定する数値。これは0よりも大きくする必要があり、そうでない場合は挿入時にチェック制約エラーが発生します。
tag	nvarchar (255)	varchar2(255)		この列に計算ルールの検索タグを指定します。
enabled_flag	nvarchar (1)	varchar2(1 CHAR)	はい	
driver_name1	nvarchar (1)	varchar2(1 CHAR)	はい	この計算ルールに関連付けるドライバ名。
driver_name2	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		この計算ルールに関連付けるドライバ名。
driver_name3	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		この計算ルールに関連付けるドライバ名。
driver_name4	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		この計算ルールに関連付けるドライバ名。
driver_name5	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		この計算ルールに関連付けるドライバ名。
dest_assign_rule_name1	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい	この計算ルールに関連付ける宛先割当てルール。
dest_assign_rule_name2	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		この計算ルールに関連付ける宛先割当てルール。
dest_assign_rule_name3	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		この計算ルールに関連付ける宛先割当てルール。

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	必須	説明
dest_assign_rule_name4	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		この計算ルールに関連付ける宛先割当てルール。
dest_assign_rule_name5	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		この計算ルールに関連付ける宛先割当てルール。
last_upload_date	timestamp (6)	timestamp		この列はインポートによって入力され、インポートが最後に実行された日付を示します。
import_exception	nvarchar (255)	varchar2(255 CHAR)		行のインポートに問題があった場合のエラー・コードが含まれます。NULLは、インポートが正常に完了したことを意味します。
created_userid	nvarchar (32)	varchar2(32 CHAR)		この表のこの行を最初に作成したユーザーを識別します。これはHPCMでは使用されません。
created_timestamp	timestamp (6)	timestamp		この行が最初に作成された日時を識別します。これはHPCMでは使用されません。
modified_userid	nvarchar (32)	varchar2(32 CHAR)		この表のこの行を最初に作成したユーザーを識別します。これはHPCMでは使用されません。
modified_timestamp	timestamp (6)	timestamp		この行が最初に作成された日時を識別します。これはHPCMでは使用されません。

HPM_STGD_CALCRLULE_MULTISRC

HPM_STGD_CALCRLULE_MULTISRC表は、複数ソース計算ルールの作成または更新の詳細を提供します。

表39 HPM_STGD_CALCRULE_CALCMSRS

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	必須	説明
id	identity	number(38,0)	はい	各行の一意識別子。 任意のシーケンス・ジェネレータの値を使用できます。
name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい	計算ルールの名前。
description	nvarchar (255)	varchar2(255 CHAR)		計算ルールの詳しい説明。
pov_dim1_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい	選択したPOVの最初のディメンション・メンバーの名前
pov_dim2_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		選択したPOVの2番目のディメンション・メンバーの名前
pov_dim3_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		選択したPOVの3番目のディメンション・メンバーの名前
pov_dim4_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		選択したPOVの4番目のディメンション・メンバーの名前
calculation_sequence	number	number(4,0)	はい	計算の際に計算ルールが処理される相対順序を指定する数値。これは0よりも大きくする必要があり、そうでない場合は挿入時にチェック制約エラーが発生します。
tag	nvarchar (255)	varchar2(255)		この列に計算ルールの検索タグを指定します。
enabled_flag	nvarchar (1)	varchar2(1 CHAR)	はい	
driver_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい	この計算ルールに関連付けるドライバ名。
src_assign_rule_name1	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい	この計算ルールに関連付けるソース割当てルール。
src_assign_rule_name2	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		この計算ルールに関連付けるソース割当てルール。

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	必須	説明
src_assign_rule_name3	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		この計算ルールに関連付けるソース割当てルール。
src_assign_rule_name4	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		この計算ルールに関連付けるソース割当てルール。
src_assign_rule_name5	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		この計算ルールに関連付けるソース割当てルール。
dest_assign_rule_name1	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	はい	この計算ルールに関連付ける宛先割当てルール。
dest_assign_rule_name2	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		この計算ルールに関連付ける宛先割当てルール。
dest_assign_rule_name3	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		この計算ルールに関連付ける宛先割当てルール。
dest_assign_rule_name4	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		この計算ルールに関連付ける宛先割当てルール。
dest_assign_rule_name5	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)		この計算ルールに関連付ける宛先割当てルール。
last_upload_date	timestamp (6)	timestamp		この列はインポートによって入力され、インポートが最後に実行された日付を示します。
import_exception	nvarchar (255)	VARCHAR2(255 CHAR)		行のインポートに問題があった場合のエラー・コードが含まれます。NULLは、インポートが正常に完了したことを意味します。
created_userid	nvarchar (32)	varchar2(32 CHAR)		この表のこの行を最初に作成したユーザーを識別します。これはHPCMでは使用されません。
created_timestamp	timestamp (6)	timestamp		この行が最初に作成された日時を識別しま

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	必須	説明
				す。これはHPCMでは使用されません。
modified_userid	nvarchar (32)	varchar2(32 CHAR)		この表のこの行を最初に作成したユーザーを識別します。これはHPCMでは使用されません。
modified_timestamp	timestamp (6)	timestamp		この行が最初に作成された日時を識別します。これはHPCMでは使用されません。

16

詳細Profitabilityのモデル定義データのエキスポート

この項の内容:

HPM_EXPDP_STAGE	179
HPM_EXPDP_POV	181
HPM_EXPDP_DRIVER	182
HPM_EXPDP_DRIVER_SEL	184
HPM_EXPDP_DRIVER_EXCEP	184
HPM_EXPDP_ASGN_RUL_SEL	185
HPM_EXPDP_CALCRLU_SNGLSRC	186
HPM_EXPDP_CALCRLU_CALCMSRS	187
HPM_EXPDP_CALCRLU_MULTISRC	189
詳細Profitabilityアプリケーションの統計の生成	190

モデルを作成したら、データベース・ビューの出力として、モデル・アーティファクトを表示するようデータベースに問い合わせできます。

管理者は、ステージング表で使用される列をミラー化するデータベース・ビューをシステム・データベース内に作成できます。このビューは、システムに保管されるモデル・データを示します。

HPM_EXPDP_STAGE

HPM_EXPDP_STAGEビューは、ステージの名前と順序、アプリケーション名、ソース・ステージおよび宛先ステージのディメンションを取得します。

表40 HPM_EXPDP_STAGE

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	説明
application_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	選択したアプリケーションの名前
id	identity	integer(38,0)	Profitability and Cost Managementデータベースで使用されるステージID
name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	選択したソース・ステージの名前
description	nvarchar (255)	varchar2(255 CHAR)	選択したステージの目的の説明
stage_order	integer	number (38,0)	計算スクリプトの生成および計算において、モデリング

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	説明
			(割当ておよびルール作成)時に選択したステージがモデル内で使用されるシーケンス位置。
stage_prefix	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	ステージ名を区別するための接頭辞。
driver_dim_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	選択したドライバ・ディメンションの名前
Is_intra	nvarchar (1)	varchar2(1 CHAR)	ステージ内割当てが許可されているかどうかを決定するフラグ: <ul style="list-style-type: none"> ・「Y」(はい)は、モデル・ステージ内でステージ内割当てを使用できることを示します。 ・「N」(いいえ)は、モデル・ステージ内でステージ内割当てを使用できないことを示します。
dim1_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	ステージの最初のディメンションの名前
dim2_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	ステージに含まれる2番目のディメンションの名前(該当する場合)。
dim3_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	ステージに含まれる3番目のディメンションの名前(該当する場合)。
dim4_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	ステージに含まれる4番目のディメンションの名前(該当する場合)。
dim5_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	ステージに含まれる5番目のディメンションの名前(該当する場合)。
dim6_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	宛先ステージのディメンションの名前
dim7_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	宛先ステージのディメンションの名前
dim8_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	宛先ステージのディメンションの名前

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	説明
dim9_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	宛先ステージのディメンションの名前
dim10_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	宛先ステージのディメンションの名前
dim11_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	宛先ステージのディメンションの名前
dim12_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	宛先ステージのディメンションの名前
dim13_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	宛先ステージのディメンションの名前
dim14_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	宛先ステージのディメンションの名前
dim15_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	宛先ステージのディメンションの名前
dim16_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	宛先ステージのディメンションの名前
dim17_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	宛先ステージのディメンションの名前
dim18_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	宛先ステージのディメンションの名前
dim19_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	宛先ステージのディメンションの名前
dim20_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	宛先ステージのディメンションの名前
dim21_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	宛先ステージのディメンションの名前
dim22_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	宛先ステージのディメンションの名前
dim23_name	nvarchar (80)	vvarchar2(80 CHAR)	宛先ステージのディメンションの名前
dim24_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	宛先ステージのディメンションの名前
dim25_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	宛先ステージのディメンションの名前

HPM_EXPD_POV

HPM_EXPD_POVビューは、視点(POV)に含まれるディメンション・メンバーの各組合せの状態を取得します。

表41 HPM_EXPD_POV

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	説明
application_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	選択したアプリケーションの名前
id	identity	integer(38,0)	一意のレコードID
pov_dim1_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	選択したPOVの最初のディメンション・メンバーの名前
pov_dim2_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	選択したPOVの2番目のディメンション・メンバーの名前
pov_dim3_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	選択したPOVの3番目のディメンション・メンバーの名前
pov_dim4_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	選択したPOVの4番目のディメンション・メンバーの名前
pov_state	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	POVの現在のステータス: <ul style="list-style-type: none"> • ドラフト • 発行済 • アーカイブ済

HPM_EXPD_DRIVER

HPM_STGD_DRIVERビューは、ドライバ・タイプ、表示順序および式を含む、ドライバに関する詳細を取得します。

表42 HPM_EXPD_DRIVER

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	説明
application_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	選択したアプリケーションの名前
id	identity	integer(38,0)	一意のレコードID
name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	選択したドライバの名前
description	nvarchar (255)	varchar2 (255 CHAR)	選択したドライバの目的の説明
display_order	integer(38,0)	integer(38,0)	モデル内のすべてのドライバのリスト内のドライバの表示位置
式	nvarchar (4000)	varchar2 (4000 CHAR)	ユーザーによって作成されたドライバの式。この式はSQL構文と、数学的に正しい演算を使用して作成する必要があります。

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	説明
allow_idle_cost	nvarchar (1)	varchar2 (1 CHAR)	このドライバにアイドル費用が許可されているかどうかを決定するフラグ: <ul style="list-style-type: none"> 「Y」(はい)は、このドライバにアイドル費用が許可されていることを示します。 「N」(いいえ)は、このドライバにアイドル費用が許可されないことを示します。
priority	integer	number (38,0)	ステージ内の配賦を指定した順序で実行できるようにドライバの計算の優先度を入力します。 優先度が最低のドライバが最初に処理されます。デフォルトでは、優先度は100に設定されており、最も高い優先度は1です。数値は連続していてもかまいません。 優先度が同じドライバは特定の順序で実行されるわけではありません。正の整数のみが有効です。
volume_formula	nvarchar (4000)	varchar2(4000 CHAR)	レートベースのドライバの場合のみ、レートとボリューム式の両方が定義されている式。
dst_measure_member_name	nvarchar (2000)	varchar2(2000 CHAR)	宛先表におけるメジャーの名前
tdv_measure_member_name	nvarchar (80)	varchar2(2000 CHAR)	配賦式Driver Value/ TotalDriverValue (DV/ TDV)で分母として使用されるメジャー
operation_type	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	ドライバ用に選択された操作のタイプ: <ul style="list-style-type: none"> レートベースの配賦 比率ベースの配賦 計算済メジャー

HPM_EXPD_DRIVER_SEL

HPM_EXPD_DRIVER_SELビューは、POVに関する詳細とドライバ選択を取得します。

表43 HPM_EXPD_DRIVER_SEL

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	説明
application_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	選択したアプリケーションの名前
id	identity	integer(38,0)	一意のレコードID
pov_dim1_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	選択したPOVの最初のディメンション・メンバーの名前
pov_dim2_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	選択したPOVの2番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)
pov_dim3_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	選択したPOVの3番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)
pov_dim4_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	選択したPOVの4番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)
driver_dim_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	選択したドライバ・ディメンションの名前
driver_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	選択したドライバの名前

HPM_EXPD_DRIVER_EXCEP

HPM_EXPD_DRIVER_EXCEPビューは、選択したドライバ例外について、POVに関する詳細とソース・ステージを取得します。

表44 HPM_EXPD_DRIVER_EXCEP

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	説明
application_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	選択したアプリケーションの名前
id	identity	integer(38,0)	一意のレコードID
pov_dim1_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	選択したPOVの最初のディメンション・メンバーの名前
pov_dim2_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	選択したPOVの2番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)
pov_dim3_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	選択したPOVの3番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	説明
pov_dim4_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	選択したPOVの4番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)
src_dim1_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	ソース・ステージの最初のディメンション・メンバーの名前
src_dim2_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	ソース・ステージの2番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)
src_dim3_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	ソース・ステージの3番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)
src_dim4_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	ソース・ステージの4番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)
src_dim5_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	ソース・ステージの5番目のディメンション・メンバーの名前(該当する場合)
driver_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	選択したドライバの名前

HPM_EXPD_ASGN_RULE_SEL

HPM_EXPD_ASGN_RULE_SELビューは、割当てルールの選択に関する詳細を取得します。

表45 HPM_EXPD_ASGN_RULE_SEL

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	説明
application_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	選択したアプリケーションの名前
id	identity	integer(38,0)	一意のレコードID
pov_dim1_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	選択したPOVの最初のディメンション・メンバーの名前
pov_dim2_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	選択したPOVの2番目のディメンション・メンバーの名前
pov_dim3_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	選択したPOVの3番目のディメンション・メンバーの名前
pov_dim4_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	選択したPOVの4番目のディメンション・メンバーの名前

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	説明
src_dim1_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	ソース・ステージの最初の ディメンション・メンバーの名 前
src_dim2_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	ソース・ステージの2番目の ディメンション・メンバーの名 前
src_dim3_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	ソース・ステージの3番目の ディメンション・メンバーの名 前
src_dim4_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	ソース・ステージの4番目の ディメンション・メンバーの名 前
src_dim5_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	ソース・ステージの5番目の ディメンション・メンバーの名 前
rule_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	選択した割当てを制御する ルールの名前。このルール は、ターゲット・データベース 内に存在する必要があります。

HPM_EXPD_CALCRULE_SNGLSRC

HPM_EXPD_CALCRULE_SNGLSRCビューは、単一ソース計算ルールの詳細を取得します。

表46 HPM_EXPD_CALCRULE_SNGLSRC

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	説明
application_name		VARCHAR2(80 CHAR)	選択したアプリケーションの 名前
id	identity	NUMBER(38,0)	各行の一意識別子。任意の シーケンス・ジェネレータの値 を使用できます。
name	nvarchar (80)	VARCHAR2(80 CHAR)	計算ルールの名前。
description	nvarchar (255)	varchar2(255 CHAR)	計算ルールの詳しい説明。
pov_dim1_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	選択したPOVの最初のディ メンション・メンバーの名前
pov_dim2_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	選択したPOVの2番目の ディメンション・メンバーの名 前

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	説明
pov_dim3_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	選択したPOVの3番目の ディメンション・メンバーの名 前
pov_dim4_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	選択したPOVの4番目の ディメンション・メンバーの名 前
calculation_sequence	integer	NUMBER(4,0)	計算の際に計算ルールが処 理される相対順序を指定す る数値。これは0よりも大き くする必要があり、そうで ない場合は挿入時にチェッ ク制約エラーが発生しま す。
tag	nvarchar (255)	VARCHAR2(255)	この列に計算ルールの検 索タグを指定します。
enabled_flag	nvarchar (1)	VARCHAR2(1 CHAR)	
first_sequence_priority	integer	NUMBER(38,0)	このルールで実行される ドライバ範囲の最初のドライ バ・シーケンス優先度を指 定します。これは0よりも 大きくする必要があり、そ うでない場合は挿入時に チェック制約エラーが発 生します。
last_sequence_priority	integer	NUMBER(38,0)	このルールで実行される ドライバ範囲の最後のド ライバ・シーケンス優先 度を指定します。これは FIRST_SEQUENCE_PRIORITY 以上である必要があり、 そうでない場合は挿入 時にチェック制約エラー が発生します。
all_drivers_flag	nvarchar (1)	VARCHAR2(1 CHAR)	Yが計算の際に最初のシ ーケンス優先度フィールド および最後のシーケンス 優先度フィールドの値を 無視する場合。

HPM_EXPD_CALCRULE_CALCMSRS

HPM_EXPD_CALCRULE_CALCMSRSビューは、計算済メジャー・ルールの詳細を取得します。

表47 HPM_EXPD_CALCRULE_CALCMSRS

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	説明
application_name	nvarchar (80)	VARCHAR2(80 CHAR)	選択したアプリケーションの名前
id	identity	NUMBER(38,0)	各行の一意識別子。任意のシーケンス・ジェネレータの値を使用できます。
name	nvarchar (80)	VARCHAR2(80 CHAR)	計算ルールの名前。
description	nvarchar (255)	varchar2(255 CHAR)	計算ルールの詳しい説明。
pov_dim1_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	選択したPOVの最初のディメンション・メンバーの名前
pov_dim2_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	選択したPOVの2番目のディメンション・メンバーの名前
pov_dim3_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	選択したPOVの3番目のディメンション・メンバーの名前
pov_dim4_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	選択したPOVの4番目のディメンション・メンバーの名前
calculation_sequence	integer	NUMBER(4,0)	計算の際に計算ルールが処理される相対順序を指定する数値。これは0よりも大きくする必要があり、そうでない場合は挿入時にチェック制約エラーが発生します。
tag	nvarchar (255)	VARCHAR2(255)	この列に計算ルールの検索タグを指定します。
enabled_flag	nvarchar (1)	VARCHAR2(1 CHAR)	
driver_name1	nvarchar (1)	VARCHAR2(1 CHAR)	この計算ルールに関連付けるドライバ名。
driver_name2	nvarchar (80)	VARCHAR2(80 CHAR)	この計算ルールに関連付けるドライバ名。
driver_name3	nvarchar (80)	VARCHAR2(80 CHAR)	この計算ルールに関連付けるドライバ名。
driver_name4	nvarchar (80)	VARCHAR2(80 CHAR)	この計算ルールに関連付けるドライバ名。
driver_name5	nvarchar (80)	VARCHAR2(80 CHAR)	この計算ルールに関連付けるドライバ名。
dest_assign_rule_name1	nvarchar (80)	VARCHAR2(80 CHAR)	この計算ルールに関連付ける宛先割当てルール。

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	説明
dest_assign_rule_name2	nvarchar (80)	VARCHAR2(80 CHAR)	この計算ルールに関連付ける宛先割当てルール。
dest_assign_rule_name3	nvarchar (80)	VARCHAR2(80 CHAR)	この計算ルールに関連付ける宛先割当てルール。
dest_assign_rule_name4	nvarchar (80)	VARCHAR2(80 CHAR)	この計算ルールに関連付ける宛先割当てルール。
dest_assign_rule_name5	nvarchar (80)	VARCHAR2(80 CHAR)	この計算ルールに関連付ける宛先割当てルール。

HPM_EXPD_CALCRULE_MULTISRC

HPM_EXPD_MULTISRCビューは、複数ソース計算ルールの詳細を取得します。

表48 HPM_EXPD_CALCRULE_MULTISRC

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	説明
application_name	nvarchar(80)	VARCHAR2(80 CHAR)	選択したアプリケーションの名前
id	identity	NUMBER(38,0)	各行の一意識別子。任意のシーケンス・ジェネレータの値を使用できます。
name	nvarchar (80)	VARCHAR2(80 CHAR)	計算ルールの名前。
description	nvarchar (255)	varchar2(255 CHAR)	計算ルールの詳しい説明。
pov_dim1_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	選択したPOVの最初のディメンション・メンバーの名前
pov_dim2_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	選択したPOVの2番目のディメンション・メンバーの名前
pov_dim3_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	選択したPOVの3番目のディメンション・メンバーの名前
pov_dim4_member_name	nvarchar (80)	varchar2(80 CHAR)	選択したPOVの4番目のディメンション・メンバーの名前
calculation_sequence	integer	NUMBER(4,0)	計算の際に計算ルールが処理される相対順序を指定する数値。これは0よりも大きくする必要があり、そうでない場合は挿入時にチェック制約エラーが発生します。

フィールド	SQL Serverデータ型	Oracleデータ型	説明
tag	nvarchar (255)	VARCHAR2(255)	この列に計算ルールの検索タグを指定します。
enabled_flag	nvarchar (1)	VARCHAR2(1 CHAR)	
driver_name	nvarchar (80)	VARCHAR2(80 CHAR)	この計算ルールに関連付けるドライバ名。
src_assign_rule_name1	nvarchar (80)	VARCHAR2(80 CHAR)	この計算ルールに関連付けるソース割当てルール。
src_assign_rule_name2	nvarchar (80)	VARCHAR2(80 CHAR)	この計算ルールに関連付けるソース割当てルール。
src_assign_rule_name3	nvarchar (80)	VARCHAR2(80 CHAR)	この計算ルールに関連付けるソース割当てルール。
src_assign_rule_name4	nvarchar (80)	VARCHAR2(80 CHAR)	この計算ルールに関連付けるソース割当てルール。
src_assign_rule_name5	nvarchar (80)	VARCHAR2(80 CHAR)	この計算ルールに関連付けるソース割当てルール。
dest_assign_rule_name1	nvarchar (80)	VARCHAR2(80 CHAR)	この計算ルールに関連付ける宛先割当てルール。
dest_assign_rule_name2	nvarchar (80)	VARCHAR2(80 CHAR)	この計算ルールに関連付ける宛先割当てルール。
dest_assign_rule_name3	nvarchar (80)	VARCHAR2(80 CHAR)	この計算ルールに関連付ける宛先割当てルール。
dest_assign_rule_name4	nvarchar (80)	VARCHAR2(80 CHAR)	この計算ルールに関連付ける宛先割当てルール。
dest_assign_rule_name5	nvarchar (80)	VARCHAR2(80 CHAR)	この計算ルールに関連付ける宛先割当てルール。

詳細Profitabilityアプリケーションの統計の生成

詳細アプリケーション・モデル計算統計スクリプトを詳細Profitabilityアプリケーションと一緒に使用すると、モデルと、モデルの理解やデバッグに役立つモデル計算統計を生成できます。

このスクリプトは、HPCM製品スキーマに表を作成して統計を格納します。この統計は、モデルの計算結果の問題のトラブルシューティング、モデルの形と特徴の説明、およびモデルの計算パフォーマンスの評価に役立ちます。

dpmodecalcstats.sqlスクリプトは次にあります:

```
%EPM_ORACLE_HOME%\OPatch\HPCM_11_1_2_2_351_14845052\files\products\Profitability
\database\Common\Oracle
```

(11.1.2.2.351パッチがインストールされた後)。現在はOracleデータベース・インストールのみで使用できます。

このスクリプトは、SQL Developer内で開いて実行するように設計されています。

▶ リクエストされたアプリケーションの統計を生成するには:

1. Oracle SQL Developerでdpmode1calcstats.sqlを開きます。
2. Oracle Fusion Performance Management製品スキーマの接続を選択します。
3. スクリプトの1行目にカーソルを移動します。
4. 「スクリプトの実行」をクリックするか、[F5]キーを押します。
5. モデル計算統計がリクエストされたアプリケーションの名前を入力します。

スクリプトによって、次の命名ルールを使用する表が製品スキーマ内に作成されます:

HPMD_<Application Name>_DIAGSTAT_<Unique Number>

HPMD_BksDP20_DIAGSTAT_4129表の列の簡略な説明:

APPLICATION: アプリケーションの名前。

ITEM: 行の内容の簡略な説明。

RATIO_DRV_TOT: すべての比率ベース・ドライバに関連するアイテムの合計数。

RATE_DRV_TOT: すべてのレートベース・ドライバに関連するアイテムの合計数。

OBJC_DRV_TOT: すべてのオブジェクト計算ドライバに関連するアイテムの合計数。

TOTAL: すべての割当てに関連するアイテムの合計数。

NAME: アイテムに関連するアーティファクトまたはオブジェクトの名前。

次のタイプの診断統計アイテムが表に含まれます:

配賦表: 指定したアプリケーションの割当ての詳細をすべて含む配賦表の名前。数が1よりも大きい場合、結果が間違っている可能性があります。計算の消去が実行されていないためです。

割当て数: 指定したアプリケーションのモデル内で識別された割当ての数。

ソース・ノード数: モデル内で識別されたソース・ノード(交差)の数。

データを含む割当て数: ソース・ステージ・ビジネス・オブジェクト内の1つ以上の行が潜在的なソース・ノードと一致する割当ての数。

行更新の数: すべての割当てについて実行されたUpdate文によって変更された合計行数。

割当てルールの数: 少なくとも1つの割当てが割当てルールを参照する、モデル内に定義された割当てルール・アーティファクトの数。

ドライバの数: 少なくとも1つの割当てがドライバを参照する、モデル内に定義されたドライバ・アーティファクトの数。

最大宛先行数: 割当てによって宛先内で更新された行の最大数。

宛先行数の中央値: 割当てによって宛先内で更新された行数の中央値。標準

宛先行数の偏差: 割当てによって宛先内で更新された行数の標準偏差。

ドライバ数: 少なくとも1つの割当てによって参照されるドライバごとに1つのドライバ数アイテムがあります。このアイテムには、ドライバ・アーティファクトの名前と割当てによって参照される回数が含まれます。

割当てルール数: 少なくとも1つの割当てによって参照される割当てルールごとに1つの割当てルール数アイテムがあります。このアイテムには、割当てルール・アーティファクトの名前と割当てによって参照される回数が含まれます。

パート IV

管理元帳アプリケーションの操作

目次

ドキュメントのアクセシビリティについて	9
ドキュメントのフィードバック	10
17. 管理元帳Profitabilityアプリケーションのアーキテクチャの理解	195
18. 管理元帳のディメンションの理解	197
19. その他のアプリケーション管理タスクの実行	207

17

管理元帳Profitabilityアプリケーションのアーキテクチャの理解

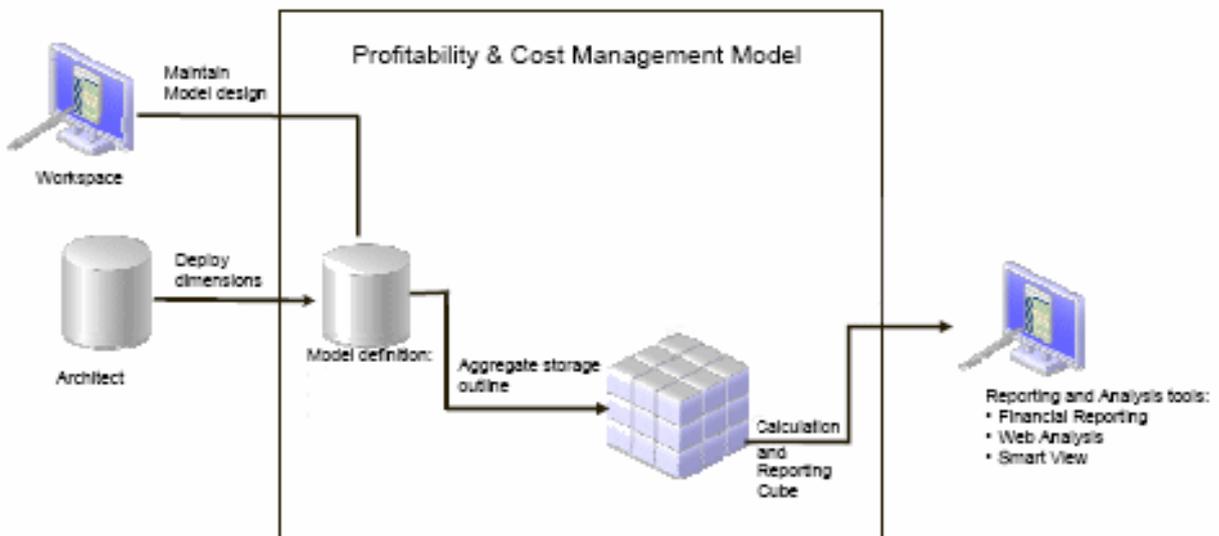
この項の内容:

管理元帳のアーキテクチャについて 195

管理元帳のアーキテクチャについて

EPM Workspaceを介してアクセスされるProfitability and Cost Managementは、Essbase上の分析ツールです。ビジネス・ユーザーは、Profitability and Cost Managementを使用して、収益性および費用管理を目的としてビジネスをモデリングできます。このモデル情報を使用することにより、スクリプト言語を理解しなくても、収益性および費用分析用として調整可能なEssbaseデータベースを作成できます(195ページの図3)。管理元帳Profitabilityの詳細は、15ページの管理元帳Profitabilityを参照してください。

図3 管理元帳Profitability製品のアーキテクチャ



WorkspaceおよびEPM Architectのモデル・メタデータは、Profitability and Cost Managementモデルの作成に使用され、計算結果は様々なレポート・ツールや分析ツールで出力できます。

Profitability and Cost Managementでは、アプリケーションのメタデータとセキュリティを一元的に管理するためにPerformance Management ArchitectとShared Servicesを使用します。

アプリケーション管理者は、Performance Management Architectを使用してProfitability and Cost Managementディメンションを作成します。ユーザー・アクセスは、Shared Servicesを使用して一元的に管理されます。ディメンション・メタデータは、準備が整うと、Profitability and Cost Managementアプリケーションまたはモデルにデプロイされます。Performance Management Architectのディメンションは、複数のモデルが共有できます。

モデル設計には、モデルのEssbaseコンポーネントに必要なEssbaseのアウトラインおよび計算スクリプトを生成するのに必要な情報が含まれます。各モデルは、次のデータベースにアクセスする必要があります：

- Performance Management Architectからデプロイされるディメンション・メタデータを含むモデル設計が保管されるリレーショナル・データベース
- 計算とレポート作成両方のための集約ストレージ(ASO)データベースを含むEssbaseデータベース



注：

複数のモデルを保管するのに必要なデータベースは1つのみです。

結果は、Oracle Hyperion Financial Reporting、Oracle Hyperion Web AnalysisおよびOracle Smart View for Officeなどのレポート・ツールや分析ツールで表示できます。

18

管理元帳のディメンションの理解

この項の内容:

管理元帳のディメンションについて	197
管理元帳のシステム・ディメンション	198
ビジネス・ディメンション	200
POVディメンション	201
属性ディメンション	202
別名ディメンション	202
ディメンション・ソート順および密度の設定	204

管理元帳のディメンションについて

Profitability and Cost Managementは、Performance Management ArchitectまたはEssbaseとProfitabilityアプリケーション機能で作成されたディメンションとメンバーを使用して、ビジネス・モデルの多数の構造要素を表します。

ディメンション・タイプは、事前定義された機能を使用可能にするディメンション・プロパティです。ディメンション・タイプの特定の特性により、ディメンションの動作と機能を管理します。Profitability and Cost Management、Performance Management Architectおよび他のEPM Workspace製品で特定のディメンション・タイプを共有できるため、様々な製品のディメンションの機能を活用できます。

管理元帳Profitabilityアプリケーションには次のディメンションがあります。

- [198ページの管理元帳のシステム・ディメンション](#)
- [200ページのビジネス・ディメンション](#)
- [202ページの属性ディメンション](#)
- [202ページの別名ディメンション](#)

管理元帳ディメンションの要件

データベース・アウトラインは、モデルのデータ構造を提供し、計算指示や式を含んでいます。Essbaseアウトラインのディメンションは階層型です。データはディメンションの交差に格納されます。次に管理元帳Profitabilityディメンションの要件を示します。

- アプリケーションまたはモデルは少なくとも1つのPOVディメンションを含む必要があり、4つまでPOVディメンションを含むことができます。

- アプリケーションは、ルールという名前のシステム・ディメンションを1つのみ含む必要があります。

ユーザーは、ルール・ディメンションの変更やメンバーの追加を行うことができます(たとえば、R1001からR1500)。必要に応じて、このディメンションを編集することもできます。ルール・ディメンションの計算プログラム・メンバーは編集できません。

- アプリケーションは、残高という名前のシステム・ディメンションを1つのみ含む必要があります。

残高ディメンションのシステム・ディメンション・メンバーは編集できません。ただし、ユーザーがかわりの階層を追加することはできます。

- 少なくとも1つのビジネス・ディメンションで、重複したメンバーがプライマリ階層に含まれないようにする必要があります。

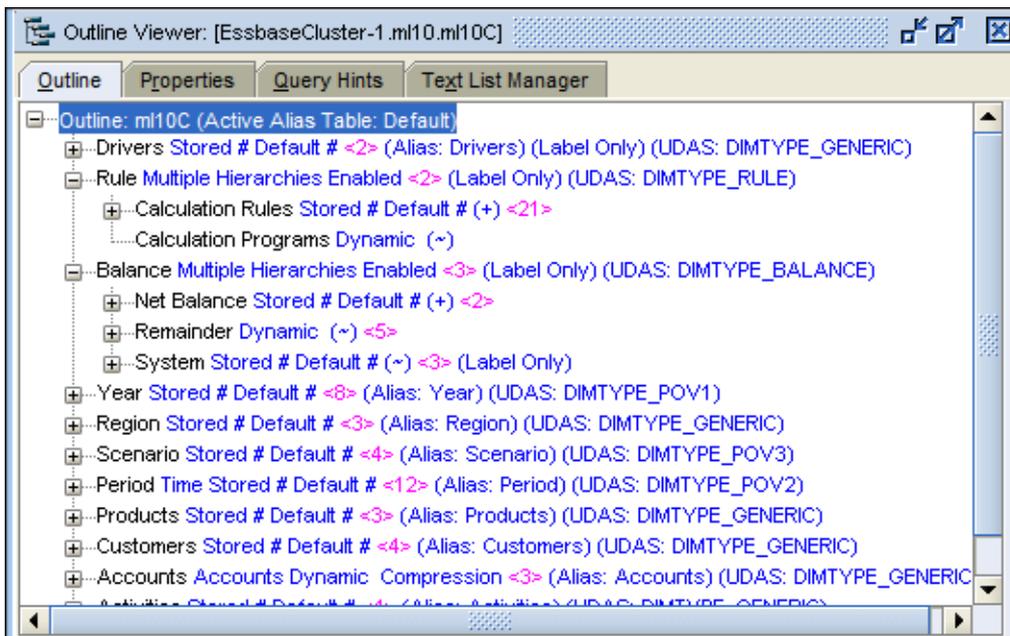


注意

同じディメンション内でメンバーを繰り返すことはできません。ただし、複数のディメンションであればメンバーを繰り返すことができます。

198ページの図 4は、Essbaseコンソールに表示された、管理元帳ProfitabilityデータベースのEssbaseアウトラインの例を示しています。

図4 管理元帳ProfitabilityデータベースのEssbaseアウトライン



管理元帳のシステム・ディメンション

サブトピック

- 管理元帳のルール・ディメンション
- 管理元帳の残高ディメンション

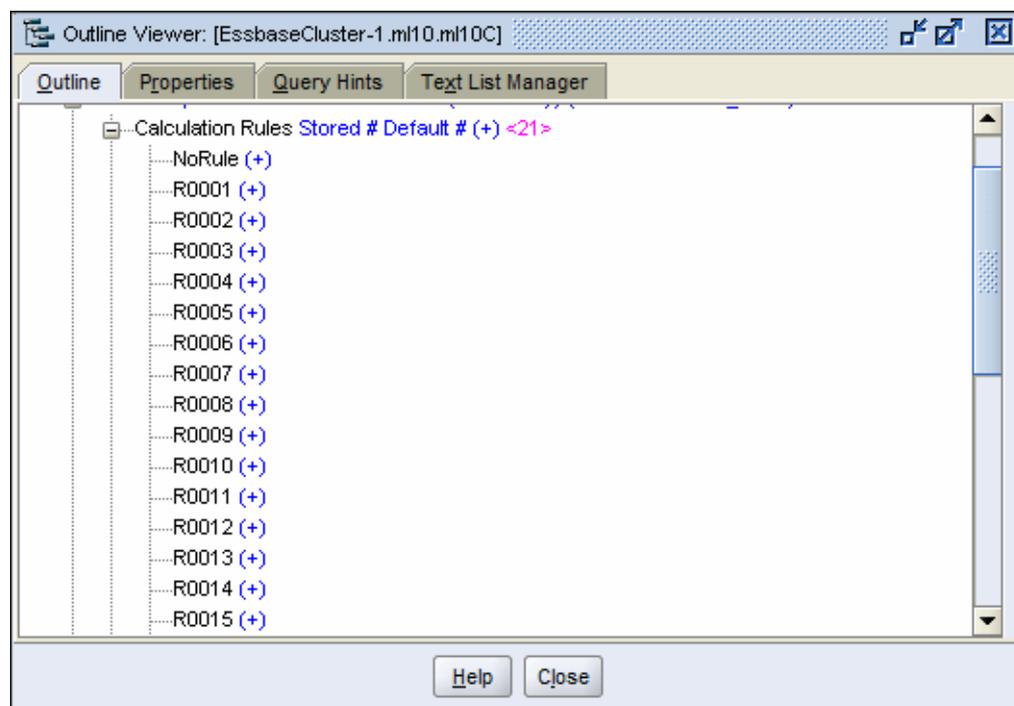
管理元帳アプリケーションは、ルールと残高の2つのシステム・ディメンションを含む必要があります。これらのシステム・ディメンションは、Performance Management ArchitectまたはEssbaseからProfitability and Cost Managementに移入されます。ルールおよび残高ディメンションの詳細は、前述の項とOracle Hyperion Profitability and Cost Management管理者ガイドを参照してください。

ディメンションおよびメンバーの作成と管理の詳細は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect管理ガイドおよび『Oracle Essbaseデータベース管理者ガイド』を参照してください。

管理元帳のルール・ディメンション

ルール・ディメンションには、管理元帳アプリケーションの計算ルールのディメンションが含まれます。199ページの図5に、Essbaseコンソールのルール・ディメンションのアウトラインを示します。これは、「計算ルール」メンバーの図です。

図5 管理元帳のルール・ディメンションのアウトライン



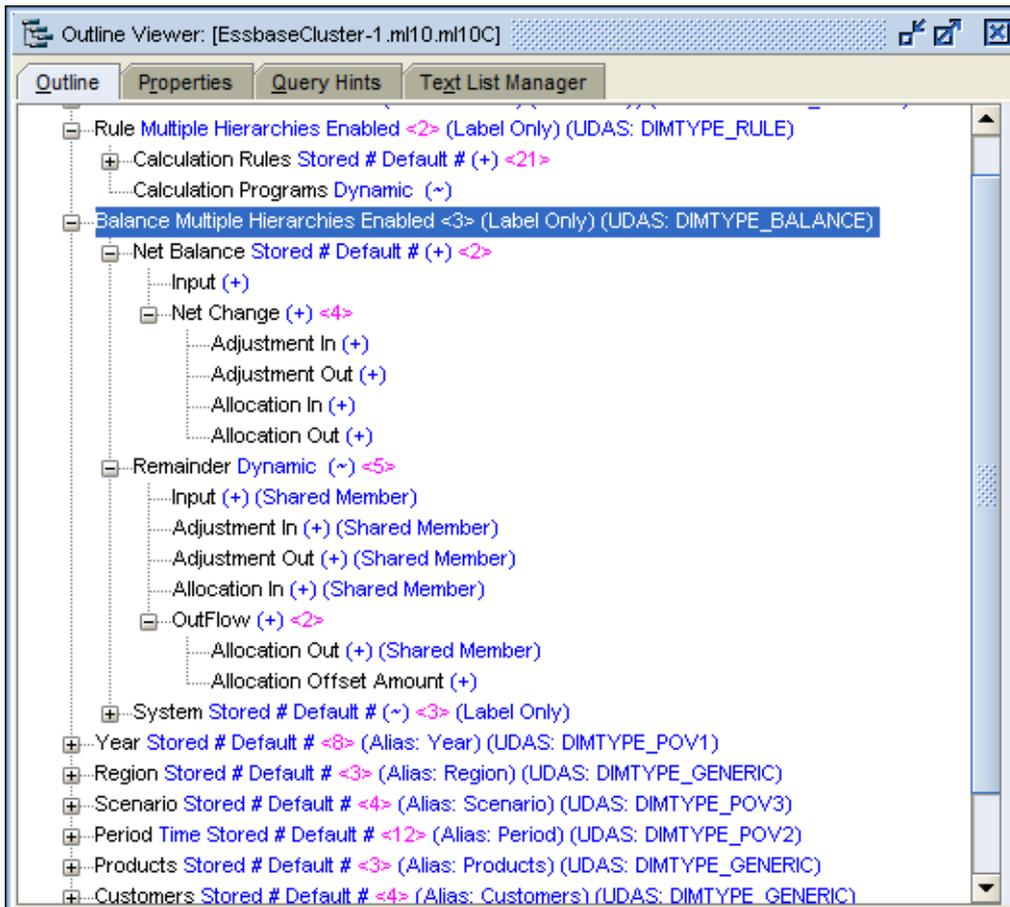
ユーザーは「計算ルール」に対してルールの削除と追加を行うことができますが、適用できるルールはNoRuleのみです。その他すべてはシステムで使用するために予約されています。

198ページの図4には、追加のメンバー、計算プログラムが示されます。このメンバーはシステムによって制御されユーザーは編集できません。

管理元帳の残高ディメンション

200ページの図6に、Essbaseコンソールの残高ディメンションのアウトラインを示します。

図6 管理元帳の残高ディメンションのアウトライン



ユーザーは、純残高の「入力」メンバーにデータを追加できます。メンバーのその他の部分は、ルール・セットとルールによって決まる入力と出力を反映します。調整はドライバ計算の結果、配賦はルール配賦の結果、またオフセットはルール・オフセット定義の結果です。ルール・セット、ルールおよびそれらの定義は、*Oracle Hyperion Profitability and Cost Management* ユーザーズ・ガイドを参照してください。

これらのメンバーの交差に保持されるデータは、「ルール貸借一致」画面で確認できます。

ビジネス・ディメンション

ビジネス・ディメンションは、製品、顧客、地域、従業員など、モデルの各ステージ内のビジネス固有のオブジェクトを示します。これらのディメンションおよびメンバーは、Performance Management Architectで作成されます。

ビジネス・ディメンションは、次のディメンション・タイプの一部または全部を使用し、1つ以上のステージまたはモデルに適用される場合があります：

- 汎用
- 勘定科目
- エンティティ
- 国

Essbaseアウトラインがデプロイされると、Profitability and Cost Managementアプリケーションでビジネス・ディメンションがタイプのない基本ディメンションまたは汎用ディメンションとして作成されます。この機能を使用すると、Profitability and Cost Managementで、Oracle Hyperion Planningなどの他のアプリケーションで定義されているディメンション・メンバーおよび階層を再使用できます。



注:

このディメンション・タイプは、集約ストレージ・アウトラインには適用されません。

ビジネス・ディメンションを作成する場合、次の要件が適用されます:

- ディメンションのGen1メンバーの次のプロパティはLABEL_ONLYに設定する必要があります:
 - DataStorage(BSO)
 - DataStorage(ASO)
- 通常、Gen1ディメンション名の下にある最初の世代2の子は、ALLメンバーに設定されます。たとえば、Departmentsディメンションの場合はAllDepartmentsになります。

プライマリ階層は、最初の世代2の子の下でホストされます。割当モデリングでは最初の世代2階層のみが使用され、この階層に共有メンバーを含めることはできません。

- 追加の世代2メンバーは代替階層をホストできますが、これらの階層は割当モデリングでは使用されません。ディメンションが代替階層をホストする場合は、ディメンションの階層タイプを「使用可能」に設定し、最初の世代2メンバーの階層タイプを「保管済」、共有メンバーを含む代替階層の世代2メンバーを「動的」に設定します。

これらの代替階層は、Profitability and Cost Managementモデリング画面には表示されず、Essbaseでのみ表示できます。

- NoMemberメンバーが必要です。階層内の最後の世代2の子は常にNoMemberであるとともに、集計がIGNORE (-)に設定されている必要があります。



注:

NoMemberメンバーは、Performance Management Architectによって自動的に追加されるため、ADSファイルまたはフラット・ファイルに作成する必要はありません。このメンバーは削除しないでください。

POVディメンション

POVディメンションは、年、シナリオまたは期間など、モデルに固有の視点またはバージョンを示します。ディメンションは、組織の要件を反映するようにカスタマイズできます。たとえば、四半期、月、季節ごとのグループなどでPOVを構成できます。

各モデルには1つ以上のPOVディメンションが必要で、最大4つのPOVディメンションを作成できます。POVディメンションは、モデルのPerformance Management Architectプロパティ・グリッドで設定します。

バージョン・ディメンションも使用可能で、モデルの異なるインスタンスの作成に使用されます。このバージョンは、仮定シナリオを実行して、戦略やビジネス・オプションを試行できるよう変更可能です。バージョンを変更することで、機能を実装し、最善の方策を決定するために結果を比較できます。

属性ディメンション

属性ディメンションは、ビジネス・ディメンションに関連付けられたディメンションの特殊なタイプで、関連付けられたその他のディメンションのメンバーを分類する際に使用可能なメンバーが含まれます。属性ディメンションは、製品のサイズ、色など、データの特性を示します。

これらの属性を使用して、ディメンション・メンバーの属性または品質に基づいてデータを分析できます。属性ディメンションは、割当てルールの作成時に宛先交差のフィルタ処理にも使用されます。



注:

命名の制限については、[253ページの付録F「Essbase命名規則」](#)を参照してください。

2つの属性ディメンション・タイプがPerformance Management Architectに存在します:

- 属性ディメンション:
 - ブール、日付、数値、テキストなど、異なる構造を使用して属性を作成できます。
 - 属性には階層があり、集計値にロールアップすることができます。
 - 所定の属性ディメンションの1つの属性のみを1つのメンバーに関連付けできます。
- ユーザー定義属性ディメンション(UDA):
 - 属性は、テキストを使用して作成する必要があります。
 - UDAには階層がないため、合計を生成するためのレポートに容易に使用することはできません。
 - 複数のUDAを1つのメンバーに関連付けることができます。

モデルやレポートの要件により、属性ディメンションの利点はタイプごとに異なります。属性ディメンションの操作の詳細は、『Oracle Essbaseデータベース管理者ガイド』を参照してください。

これらの属性を使用して、ディメンション・メンバーの属性または品質に基づいてデータを分析できます。属性ディメンションは、割当てルールの作成時に宛先交差のフィルタ処理にも使用されます。

命名の制限については、[253ページの付録F「Essbase命名規則」](#)を参照してください。

別名ディメンション

別名は、ディメンションの定義に役立つ代替の名前、説明、言語またはその他のアイテムです。たとえば、システム内で顧客番号を参照できますが、画面上に顧客名を表示する別名を割り当てることにより、この顧客を簡単に識別できるようになります。1つ以上の別名を勘定科目、通貨、エンティティ、シナリオ、期間、バージョン、年およびユーザー定義のディメンション・メンバーに割り当てることができます。



注:

同じディメンション内で重複するメンバー名または別名は使用できません。

Profitability and Cost Managementでは、別名をPerformance Management Architectに設定する必要があります。別名ディメンションを作成する手順の詳細は、*Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect管理ガイド*を参照してください。



注意

アプリケーションがProfitability and Cost Managementに再デプロイされるまでは、別名の関連付けをPerformance Management Architectで削除しても、モデルからは削除されません。

インストール後、Default別名表が使用可能になります。再デプロイメント後は、「ドライバの選択」や「割当て」など、共通メンバー・セレクトを使用するすべての画面で別名を表示できます。別名を検索およびフィルタ処理するには、先にコンテキスト・メニューで「別名の表示」を選択します。



注:

別名ビューは「ドライバの選択」セレクトには含まれません(このセレクトには、ドライバの選択を追加または変更するときに、「ドライバ定義」画面または「ドライバの選択」画面からアクセスできます)。

特定のディメンションがEssbaseで複製されている場合、別名が複製される場合があります。

▶ 別名を表示するには:

1. アプリケーションから、共通メンバー・セレクトを使用する任意の画面(「ドライバの選択」、「割当て」、「データの入力」、「配賦のトレース」など)を選択します。共通メンバー・セレクトを含む該当する画面が表示され、使用可能なすべてのメンバーが示されます。
2. オプション: メンバーを選択するには:

- 「ドライバの選択」で、「選択」または「追加」をクリックします。
- 「ドライバ・ルール」タブおよび「例外」タブで、「新規例外の追加」をクリックし、ディメンションを選択してから「選択」をクリックします。
- 「配賦のトレース」で、「選択」をクリックします。

「メンバーの選択」ダイアログ・ボックスが開き、使用可能なすべてのメンバーが表示されます。

3. 共通メンバー・セレクトで、「コンテキスト・メニュー」ボタン  をクリックし、「別名の表示」を選択します。別名がメンバー・リストに表示されます。



注:

「コンテキスト・メニュー」から「別名の表示」を選択したときに、別名が割り当てられていない場合、メンバー名が大かっこで囲まれて表示されます。たとえば、メンバー名Productは、[Product]と表示されます。

ディメンション・ソート順および密度の設定

Dimension Sort Orderプロパティは、Profitability and Cost Managementによって生成されるEssbaseアウトラインにおけるディメンションの順序を制御します。ディメンション・ソート順は、別名またはUDAを除く、モデル内のすべてのディメンションに対して設定する必要があります。



注意

ディメンションのソート順を空のままにすると、検証は失敗します。

Dimension Sort Orderプロパティは、Performance Management Architectで設定され、Essbaseアウトラインの生成に使用するための配置時にProfitability and Cost Managementに渡されます。詳細は、[58ページのディメンション・ソート順の設定](#)を参照してください。

モデルのディメンション・ソート順設定は、Performance Management Architectで検証されます。[77ページの標準Profitabilityアプリケーションの設定の変更](#)を参照してください。

「ディメンションのソート順設定」ダイアログ・ボックスから、ディメンションの密度を設定することもできます。

ディメンション・ソート順の推奨事項

次の推奨事項を参照して、ディメンション・ソートを設定することをお勧めします:

- 別名とUDAを除く、モデル内のすべてのディメンション・ソート順が設定されている。



注:

別名ディメンションとUDAディメンションは、Profitability and Cost ManagementとEssbaseにはディメンションとして存在しないため、ディメンション・ソート順では無視されている。

- ディメンション・ソート順が連続しており、一意かつ1以上である必要があります。
- メジャーディメンションがデフォルトで1に設定されている。
- AllocationTypeディメンションがデフォルトで2に設定されている。
- ビジネス・ディメンションとPOVディメンションが3以上に設定されている。

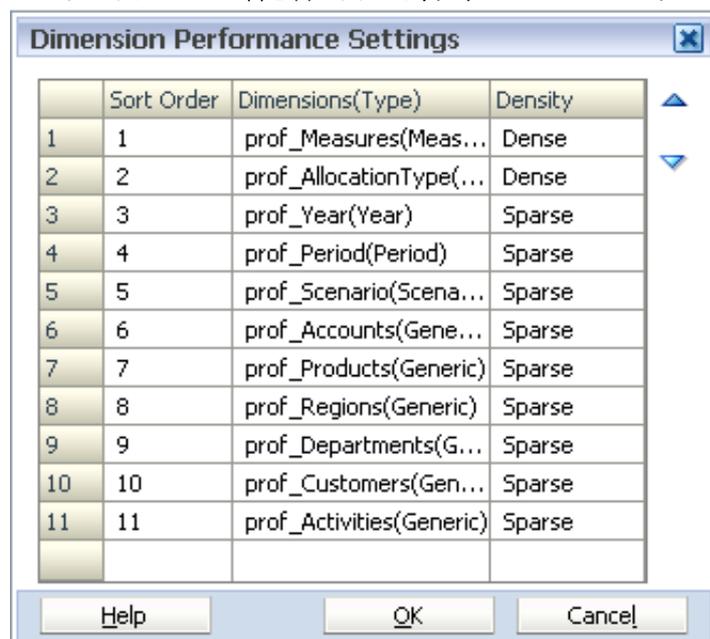
- 属性ディメンションが常に最後のディメンションとしてソートされている。たとえば、12個の連続したディメンションのうち4個が属性ディメンションである場合、属性ディメンションは9、10、11および12に設定する必要があります。

ディメンション・ソート順の設定

モデル内のすべてのディメンションの処理順序は、Dimension Sort Orderプロパティを使用してディメンション・レベルで設定する必要があります。ディメンション・ソート順の制限を満たす必要があります; 制限を満たさない場合、モデルの検証は失敗します。制限の完全なリストについては、[57ページのディメンション・ソート順の推奨事項](#)を参照してください。

Performance Management Architectでディメンション・ソート順を設定する方法は2つあります:

- すべてのディメンションのソート順を一度に設定するには、「ディメンション・パフォーマンスの設定」ダイアログ・ボックスを使用します。
 - 1つのディメンションの個々のディメンション・ソート順を一度に設定するには、ディメンション・ライブラリのプロパティ・グリッドを使用します。
- ▶ ディメンション・パフォーマンスの設定ダイアログ・ボックスを使用してディメンション・ソート順を設定するには:
- EPM Workspaceから、「ナビゲート」、「管理」、「ディメンション・ライブラリ」の順に選択し、共有ライブラリを表示します。
 - アプリケーション名を右クリックし、ディメンション・パフォーマンスの設定を選択します。



- ▶ [ディメンション・ソート順の推奨事項](#) で説明されているように、ディメンションを選択し、上矢印 [58ページのディメンション・ソート順の設定](#) 下矢印を使用して各ディメンションを正しいソート順に移動します。「ソート順」に、ディメンションの元の場所の番号が表示されます。

4. オプション: 選択したディメンションの「密度」で、オプションを表示するセルをダブルクリックし、ディメンションの適切な密度を選択します。 [62ページのEssbaseのディメンション設定の最適化](#)を参照してください。

5. 「OK」をクリックします。

▶ 個々のディメンションのディメンション・ソート順を設定するには:

1. EPM Workspaceから、「ナビゲート」、「管理」、「ディメンション・ライブラリ」の順に選択します。
2. Profitability and Cost Managementアプリケーションで、ディメンション・ソート順を設定するディメンションを選択します。
3. プロパティ・グリッドで、Dimension Sort Orderプロパティを選択し、「値」にソートの順序に必要な数字を入力します。[58ページのディメンション・ソート順の設定](#)を参照してください。
4. 「保存」アイコン  をクリックします。

19

その他のアプリケーション 管理タスクの実行

この項の内容:

Performance Management Architectによる管理元帳Profitabilityアプリケーションの管理	207
ウィザードを使用した管理元帳アプリケーションの検証とデプロイ	214

Performance Management Architectによる管理元帳 Profitabilityアプリケーションの管理

管理元帳アプリケーションおよびディメンションの操作

Profitability and Cost Managementでは、Performance Management ArchitectまたはProfitabilityアプリケーションを使用して、Profitabilityモデルに使用されるEssbaseアウトラインを構築するためのディメンションを選択します。すべてのディメンションおよびメンバーは、Performance Management Architectで作成され、モデルを構築するためにProfitability and Cost Managementアプリケーションにインポートされます。

Performance Management Architectでは、次のタスクを実行できます:

- ディメンションの作成、編集およびコピー
- 別名の設定
- ディメンションの関連付けの作成、表示および削除
- メンバーの作成、表示、名前変更および削除
- プロパティ値の編集
- Profitability and Cost Managementへのアプリケーションのデプロイ
- トランザクション・ログの表示
- Profitability and Cost Managementと他のアプリケーション、Essbaseデータベース(ASO)、外部ソース(フラット・ファイル)、およびインタフェース表間のデータの同期化

Performance Management Architectを使用したメタデータおよびディメンションの操作の詳細は、次の項を参照してください:

- [62ページのEssbaseのディメンション設定の最適化](#)
- [63ページのメタデータのインポート](#)
- [64ページのProfitability and Cost Managementのディメンション・プロパティおよびメンバー・プロパティ](#)

- 71ページの標準Profitabilityアプリケーションの作成
- 82ページのPerformance Management Architectでの標準Profitabilityアプリケーションの検証とデプロイ
- 86ページのデータの同期

管理元帳Essbaseのディメンション設定の最適化

管理元帳Profitabilityアプリケーションには、1つのルール・ディメンション、1つの残高ディメンション、複数のPOVディメンション、および多数のビジネス・ディメンションが含まれます。



注意

「ディメンション・ストレージ・タイプ」プロパティを変更すると一部の最適化が行われることがあります。このような変更を行うことができるのはデータベース管理者(DBA)のみです。指示の詳細は、『Oracle Essbase Administration Services開発者ガイド』を参照してください。

各ディメンションの「ディメンション・ストレージ・タイプ」プロパティの設定に関するデフォルトの推奨事項は、次のとおりです:

- ルール・ディメンションおよび残高ディメンションは密に設定します。
- ビジネス・ディメンションおよびPOVディメンションはすべて疎に設定します

このデフォルト設定の場合、Essbase計算キューブのブロック・サイズは約3Kになり、疎ディメンションのディメンションナリティに基づく多数の潜在的なブロックが発生します。属性の関連付けがあるディメンションは密に設定できません。Essbaseでは、属性の関連付けは疎ディメンションとしてのみ設定できます。



注:

このブロック・サイズは、Essbaseのベスト・プラクティスの推奨事項の制限内に収まる必要があります。詳細は、『Oracle Essbase Administration Services開発者ガイド』を参照してください。

メタデータのインポート

Performance Management Architectのディメンション・ライブラリは、ディメンションおよび階層を表示、作成および管理するための、管理者用の中心的な場所です。他のアプリケーションと共有する既存のディメンションを使用することも、自分のモデル専用のローカル・ディメンションを作成することもできます。

ディメンション・ライブラリを使用するには、ディメンション・エディタのセキュリティの役割がある必要があります。この役割では、ディメンションおよびメンバーの作成、削除、変更、インポート・プロファイルの作成、トランザクション・ログの実行などのすべてのディメンション・ライブラリ機能へのアクセスが可能です。『Oracle Enterprise Performance Management Systemユーザー・セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

Performance Management Architectには、2つのタイプのディメンションがあります:

- 共有ディメンションは、共有ライブラリにリンクされており、ディメンションに対して行われたすべての変更を継承します。
- ローカル・ディメンションは、共有ライブラリからアプリケーションへコピーされます。ローカル・ディメンションは、共有ライブラリ内のディメンションに対して行われる将来の変更を継承しません。



注意

Profitability and Cost Managementのすべてのプロパティはローカル値です。プロパティが他の階層に存在する場合に、この値を変更しても自動的に継承されません。1つの階層でプロパティを変更しても、他の階層に値が継承されるとは仮定できません。

ディメンション・ライブラリからこれらのプロパティを編集できます:

- アプリケーション
- ディメンション
- メンバー



注:

時間、通貨および国用の標準ディメンションは、すべての製品を対象としてPerformance Management Architectで使用できます。

- ▶ ディメンション・ライブラリにアクセスするには、「ナビゲート」、「管理」、「ディメンション・ライブラリ」の順に選択します。

ディメンションおよびメンバーを操作する手順の詳細は、*Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect管理ガイド*を参照してください。

Profitability and Cost Managementのディメンション・プロパティおよびメンバー・プロパティ

Profitability and Cost Managementのディメンションおよびメンバーのプロパティは、65ページの表 12にアルファベット順で表示され、次の情報が含まれます:

- プロパティ・ラベル。プロパティにわかりやすい表示名を提供します。該当する場合、関連データベース・タイプが名前に付加されます(ASOまたはBSO)。データベース・タイプが指定されていない場合、プロパティは両方のタイプに適用されます。
- 各プロパティの説明
- プロパティに一意の識別子を提供し、インポートおよびバッチ・クライアントでデータを更新する際に使用するプロパティ名。

ディメンション・ライブラリでプロパティを選択すると、ドロップダウン・リストまたはデータ入力ボックスを表すプロパティを変更できます。

ディメンションおよびメンバーを操作する手順の詳細は、*Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect*管理ガイドを参照してください。



注意

Profitability and Cost Managementのすべてのプロパティはローカル値です。ある階層でプロパティを変更しても、他の階層に値が継承されるわけではありません。

階層タイプ・プロパティの設定

「Hierarchy Type」プロパティは、Essbaseの集約ストレージ・データベースにのみ使用されます。

その他の集計タイプ記号(加算および無視以外)を使用できるようにするには、階層タイプを「動的」に設定する必要があります。



注:

ディメンション・メンバーに式がある場合は、階層タイプを「動的」に設定する必要があります。

▶ 階層タイプを設定するには:

1. EPM Workspaceから、「ナビゲート」、「管理」、「ディメンション・ライブラリ」の順に選択します。
2. アプリケーションの下でディメンションを選択します(「別名」、「属性」、「UDA」を除く)。
3. プロパティ・グリッドで、適切な階層タイプ・プロパティを選択します:
 - 次の集計記号を使用するディメンション・メンバーには「保管済」を選択します:
 - + ADDITION
 - ~ IGNORE (LABEL ONLYメンバーの下のみ。)
 - サポートされているすべての集計記号を使用する必要があるディメンション・メンバー、または式のあるディメンション・メンバーを含むディメンションには「動的」を選択します。
4. Profitability and Cost Management、Essbaseの順にアプリケーションを再デプロイします。

管理元帳Profitabilityアプリケーションの作成

次の2つの方法のいずれかを使用して、Performance Management Architectで管理元帳Profitabilityアプリケーションを作成できます。

- アプリケーションおよびディメンションを自動的に作成する「アプリケーション・ウィザード」を使用してProfitability and Cost Managementアプリケーションを作成します。
- ブランク・アプリケーションを作成し、ディメンションを手動で選択して名前を付けます。

▶ 管理元帳Profitabilityアプリケーションを作成するには:

1. フラット・ファイルのインポートまたはPerformance Management Architectインタフェース表のインポートを使用してPerformance Management Architectに新規共有ライブラリを移入します。



注意

アプリケーションに含めるビジネス・ディメンション(汎用、勘定科目、エンティティ、時間、国など)は、アプリケーションを作成する前に、ディメンション・ライブラリに追加する必要があります; これを行わないと、「アプリケーション・ウィザード」での選択にディメンションを使用できません。

2. EPM Workspaceから、「ナビゲート」、「管理」、「アプリケーション・ライブラリ」の順に選択します。

アプリケーション・ライブラリが表示されます。

3. 「ファイル」、「新規」、「アプリケーション」の順に選択します

ウィザードの最初の「アプリケーション・タイプ」画面が表示されます。

4. 「名前」で、アプリケーション名を入力します。

名前は7文字以内で命名し、「&(アンパサンド)」を含む特殊文字を使用しないでください。253ページの付録F「Essbase命名規則」を参照してください。

5. 「タイプ」で、「Profitability」を選択します。

6. オプション: 「説明」に、説明を入力します。
7. オプション: ディメンションを手動でブランク・アプリケーションに追加するには、「ブランク・アプリケーションの作成」を選択し、「終了」をクリックします。76ページの標準Profitabilityディメンションの手動での追加を参照してください。
8. オプション: すべての必須ディメンションを自動的に作成するには、「ローカル・ディメンションの自動作成」を選択します。

「ローカル・ディメンションの自動作成」を選択すると、アプリケーションに必要なすべてのディメンションについて新規ディメンションが自動的に作成されます。各新規ディメンションのディメンション名は、ディメンション・タイプにカッコで囲んだ(新規)が付いた名前になります。

ウィザードの2番目の画面である「ディメンションの選択」が表示されます。

9. 「作成形式」で、作成するProfitability and Cost Managementアプリケーションのタイプを選択します。ここでは、「管理元帳」を選択します。
10. 「次」をクリックします。212ページのウィザードを使用した管理元帳Profitabilityディメンションの追加を参照してください。

ウィザードを使用した管理元帳Profitabilityディメンションの追加

アプリケーション・ウィザードを使用すると、必要なすべてのディメンションが自動的に表示されます。正確な一致がある場合は、そのディメンション・タイプのディメンション列に自動的に入力されます。Profitability and Cost Managementの必要なディメンション・タイプは、自動的に分類されて、次の影付きヘッダーとともに表示されます:

- 残高
- ルール
- POVディメンション
- ビジネス・ディメンション
- 別名ディメンション(オプション)
- 属性ディメンション(オプション)

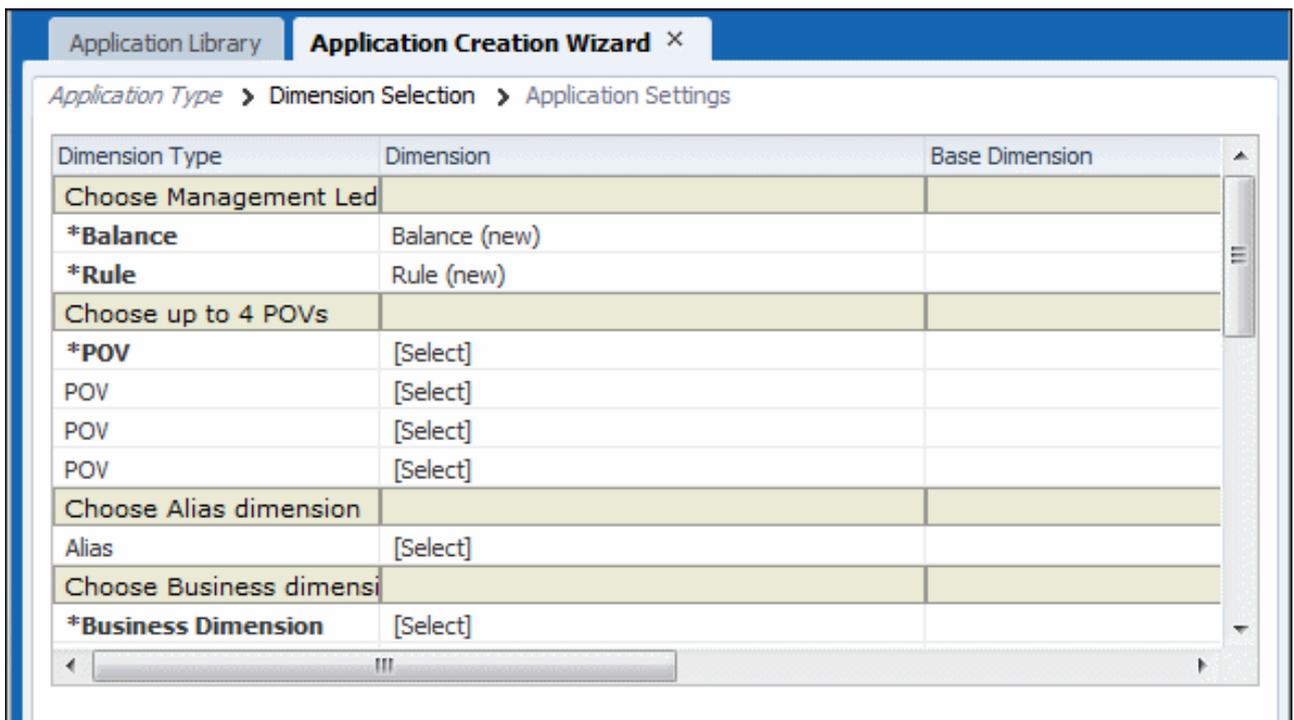
「ローカル・ディメンションの自動作成」を選択した場合、必要なディメンションごとに新規ローカル・ディメンションが作成されます。各新規ディメンションの名前は、ディメンション・タイプにかっこで囲まれた(New)が付いたものになります。たとえば、Account (New)となります。

勘定科目、エンティティ、時間、国などアプリケーションに含めるビジネス・ディメンションは、アプリケーションを作成する前にディメンション・ライブラリに追加する必要があります; そうしないと、「アプリケーション・ウィザード」でディメンションを選択できません。名前について制限されている単語および文字を確認するには、253ページの付録F「Essbase命名規則」を参照してください。

▶ ディメンションを定義するには:

1. 「ディメンションの選択」タブ(アプリケーション・ウィザードの手順2)の「ディメンションのタイプ」で、必要なディメンション・タイプを確認します。

図7 管理元帳「ディメンションの選択」タブの自動移入



2. 既存の各ディメンションをアプリケーションに追加するには、「ディメンション」列の[選択]をクリックすると、そのディメンション・タイプに使用可能なディメンションのドロップダウン・リストが表示されます。
 関連ディメンション・タイプのディメンションのみが表示されます。たとえば、ディメンションをメジャー・ディメンション・タイプにマッピングしている場合は、メジャー・ディメンションのみがリストに表示されます。
3. ドロップダウン・リストからディメンションを選択します。
4. オプション: 新規ディメンションを作成します。新規ディメンションを作成するには:
 - a. 「ディメンション」列で、[選択]をクリックすると、そのディメンション・タイプに使用可能なディメンションのドロップダウン・リストが表示されます。
 - b. ドロップダウン・リストから、[新規ディメンションの作成]を選択します。
 - c. 「新規ディメンションの追加」ダイアログ・ボックスで、「名前」と「説明」に新しいディメンションの情報を入力します。「タイプ」は、ディメンション・タイプに基づいて自動的に選択されます。
 - d. 「OK」をクリックします。
5. 75ページのステップ 3と 75ページのステップ 4を繰り返し、新規ディメンションを選択または作成します。



注:

次の画面に移動する前に、すべての必須ディメンションを、ディメンションまたは[該当なし]にマップする必要があります。

6. オプション: ディメンションをローカル・ディメンションとして指定するには、各行の最後にある「ローカル・ディメンション」チェック・ボックスを選択します。
7. 「次」をクリックします。
 「アプリケーション設定」画面が表示されます。
8. 必要に応じて、アプリケーション設定を変更します。77ページの標準Profitabilityアプリケーションの設定の変更を参照し、管理元帳Profitabilityアプリケーションの手順を調整します。



注:

ディメンションを手動で追加する場合は、[76ページの標準Profitabilityディメンションの手動での追加](#)を参照して、管理元帳のディメンションのプロセスを調整します。

ウィザードを使用した管理元帳アプリケーションの検証とデプロイ

Performance Management ArchitectでProfitability and Cost Managementアプリケーションを作成した後、アプリケーションを検証してProfitability and Cost Managementにデプロイする必要があります。アプリケーション・ウィザードを使用している場合は、アプリケーションの作成を終了する前にアプリケーションを検証して、すべてのエラーを修正します。必要に応じて、ウィザードの検証およびデプロイメント・オプションを使用せずに、後でデプロイメント・オプションをアプリケーション・ライブラリで使用することもできます。

▶ ウィザードを使用してアプリケーションを検証およびデプロイするには:

1. アプリケーション・ウィザードの「アプリケーション設定」画面で、「検証」をクリックします。

すべてのエラーはグリッドに表示され、エラー・タイプとエラー・メッセージが示されます。

2. オプション: 検証後にアプリケーションをデプロイするには、「終了時にデプロイ」を選択します。
3. 検証エラーが発生した場合、アプリケーションをデプロイする前にすべての問題を修正します。
4. 「終了」をクリックします。

「終了時にデプロイ」を選択した場合、「デプロイ」ダイアログ・ボックスが表示されます。



注:

共有ディメンションを変更した場合、その共有ディメンションを使用するすべてのアプリケーションが影響を受けます。変更内容を適用するには、アプリケーションを再デプロイする必要があります。

5. アプリケーションをデプロイします。

Performance Management Architectを使用して検証するには、[84ページのPerformance Management Architectを使用したアプリケーションの検証とデプロイ](#)を参照してください。

パート V

付録

目次

ドキュメントのアクセシビリティについて	9
ドキュメントのフィードバック	10
A. インストール後の最初のProfitability and Cost Managementアプリケーションの作成 ...	217
B. Profitabilityアプリケーション機能を使用したProfitability and Cost Managementアプリケーションの作成	221
C. Profitability and Cost Managementへのデータのインポート	239
D. EPM Systemライフサイクル管理を使用したデータの移行	247
E. Profitability and Cost Managementコンポーネントのバックアップ	251
F. Essbase命名規則	253



インストール後の最初のProfitability and Cost Managementアプリケーションの作成

この項の内容:

最初のアプリケーションの作成について	217
最初のアプリケーションを作成する手順	217

最初のアプリケーションの作成について

Profitability and Cost Managementは、EPM Workspaceの一部であり、共通ソフトウェアを使用してアプリケーションおよびセキュリティを管理します。インストール後に、適切なセキュリティ・プロビジョニングを持つ管理者またはユーザーがいくつかの手順を実行して、最初のProfitability and Cost Managementアプリケーションを作成する必要があります。アプリケーションを作成した後で、データをProfitability and Cost Managementにインポートする必要があります。

次の手順では、Performance Management Architectを使用して最初のアプリケーションを作成する方法を示します。このツールを使用できない場合は、Essbaseでディメンションを作成してから、EPM Workspace内でProfitabilityアプリケーションを使用して、アプリケーションを完成させます。[221ページの付録B「Profitabilityアプリケーション機能を使用したProfitability and Cost Managementアプリケーションの作成」](#)を参照してください。



注:

マルチバイト文字はPerformance Management Architectでは使用できますが、Profitability and Cost Managementではサポートされません。

非Unicodeの標準Profitabilityアプリケーションでは、計算用またはレポート用データベースの名前にマルチバイト文字を使用しないでください。データベース名にはASCII文字のみを使用します。

接頭辞とディメンション名の長さの合計が80文字を超えると、Essbaseへのデプロイメントが失敗します。

最初のアプリケーションを作成する手順

- ▶ インストール後に最初のProfitability and Cost Managementアプリケーションを作成する手順は、次のとおりです:
 1. 次のソフトウェア・コンポーネントのインストールを完了します:

- EPM Workspace
- Shared Services
- Performance Management Architect
- Essbase
- Profitability and Cost Management



注:

このリストは、Profitability and Cost Managementを使用するための最小限のインストール要件を示します。ただし、追加の製品はいつでもインストールできます。

詳しいインストール手順は次を参照してください:

- *Oracle Enterprise Performance Management System*インストール概要
 - 『*Oracle Enterprise Performance Management System*インストールおよび構成ガイド』
2. EPM Workspaceのメイン・メニューで、「ナビゲート」、「管理」、「ディメンション・ライブラリ」の順に選択し、Performance Management Architectにアクセスして、最初のアプリケーションに必要なディメンションを作成します。

ディメンションを作成する手順の詳細は、*Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect* 管理ガイドを参照してください。必要なディメンションの詳細は、このマニュアルで各タイプのProfitabilityアプリケーションに対応する項を参照してください。

3. ディメンションを追加して、「ナビゲート」、「管理」、「アプリケーション・ライブラリ」の順に選択します。
4. 「アプリケーション・ライブラリ」から、「ファイル」、「新規」、「アプリケーション」の順に選択し、新しい標準、詳細または管理元帳Profitability and Cost Managementアプリケーションを作成します。「ディメンション・ライブラリ」から、Profitability and Cost Managementのディメンションを選択します。



注:

新しいProfitability and Cost Managementアプリケーションの名前に外国語の文字が含まれるために名前が長くなる可能性がある場合には、Performance Management Architectにアプリケーションを配置できない場合があります。その場合、短いバージョンのアプリケーション名を使用してアプリケーションを作成するか、名前を英語で入力します。

Profitability and Cost Managementアプリケーションを作成するその他の手順は、*Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect*管理ガイドを参照してください。

5. 「アプリケーション・ライブラリ」から、新しいアプリケーション名を右クリックし、「検証」を選択します。

検証タスクが送信され、メタデータが確認されます。ジョブ・ステータス・メッセージにあるリンクをクリックして検証タスクのジョブ・コンソールを表示し、「添付ファイル」の下にあるログ・ファイル内の警告またはエラーを表示します。アプリケーションをデプロイする前に、エラーを修正する必要があります。
6. アプリケーション・ライブラリで新しいアプリケーション名を右クリックし、「デプロイ」を選択して、次の手順を行います:
 - a. 「デプロイ」の「**Shared Services**プロジェクト」で、「Profitability and Cost Management」アプリケーション・グループの名前を選択します。



注:

Profitability and Cost Managementアプリケーション・グループは、この操作の初回実行時には表示されません。Shared Servicesで、Profitability and Cost Managementアプリケーション・グループまたはプロジェクトを作成する必要があります。『Oracle Enterprise Performance Management Systemユーザー・セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

- b. 「デプロイ」をクリックします。
- c. ジョブ・タスク・ウィンドウでジョブIDのリンクをクリックすると、ジョブ・ステータスが表示されます。
- d. 完了メッセージが表示されたら、ジョブ・タスク・ウィンドウの**詳細**の下に新しいアプリケーションが作成され、Profitability and Cost Managementにデプロイされて、選択できるようになっています。

Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect管理ガイドを参照してください。

7. EPM Workspaceのメイン・メニューで、「ナビゲート」、「アプリケーション」、「収益性」の順に選択します。「リフレッシュ」をクリックして、新しいアプリケーションを選択します。
8. 「タスク領域」で、「モデルの管理」、「ステージング表のインポート」の順に選択し、このマニュアルですでに説明したように、標準または詳細Profitabilityモデルの構築を開始するために必要なデータをインポートします。ステージング表は管理元帳Profitabilityアプリケーションでは使用されません。

B

Profitabilityアプリケーション 機能を使用したProfitability and Cost Management アプリケーションの作成

この項の内容:

Profitability and Cost ManagementのためのEssbaseマスター・アプリケーションの作成	222
Essbaseマスター・アプリケーションの構築	229
Essbaseマスター・アプリケーションからのProfitability and Cost Managementアプリケーションの作成	230
アプリケーションの編集	232
アプリケーションの再登録	233
アプリケーションの複製	234
ディメンションの更新	234
アプリケーションの削除	236
「ジョブ・ライブラリ」のタスクの表示	236

後続アプリケーションのアーティファクトを提供するために、初期アプリケーションを作成する必要があります。217ページの付録A「インストール後の最初のProfitability and Cost Managementアプリケーションの作成」では、Performance Management Architectを使用したこのような初期アプリケーションの作成方法を説明しています。Performance Management Architectを使用できないインスタンスでは、Profitabilityアプリケーション機能をPerformance Management Architectのかわりに使用して、Profitability and Cost Managementアプリケーションおよびディメンションを管理できます。

Profitabilityアプリケーションの場合、Essbaseをディメンション管理システム、またはProfitability and Cost Managementアプリケーションのディメンションのソースとして使用します。管理者プロビジョニングまたは他の適切なセキュリティ・プロビジョニングを持つユーザーは、Essbaseマスター・アプリケーションでディメンションおよびディメンション・メンバーを作成できます。その後、これらはProfitability and Cost Managementアプリケーションにインポートされます。同じマスター・アプリケーションを使用して複数のProfitability and Cost Managementアプリケーションを作成できます。アプリケーション・タイプ(「標準」、「詳細」または「管理元帳」)は、アプリケーションをデプロイするときにウィザードで設定します。Essbaseマスター・アプリケーションからは取得されません。

EssbaseとProfitabilityアプリケーション機能、またはPerformance Management Architectのいずれかを使用してProfitability and Cost Managementアプリケーションを作成しても、アプリケーションの動作に違いはありません。ただし、ソースを変更する場合は、元のディメンション管理システムのみを使用します。

Profitability and Cost ManagementのためのEssbaseマスター・アプリケーションの作成

サブトピック

- [ディメンション・タイプ](#)
- [ユーザー定義属性](#)
- [ASOディメンション・プロパティおよびメンバー・プロパティ](#)
- [BSOおよびメンバーディメンション・プロパティの指定](#)
- [カスタム・メジャーディメンション](#)

Profitabilityアプリケーション機能を使用するには、まずマスター・アプリケーションをEssbaseで作成して、Profitability and Cost Managementのためにディメンションとディメンション・メンバーの情報のソースを提供する必要があります。マスター・アプリケーションはASOアプリケーションです。1つのアプリケーションを複数のProfitability and Cost Managementアプリケーションのソースとして使用できます。



注意

Essbaseマスター・アプリケーションのディメンションを削除する、またはその名前を変更する場合、それらのディメンションを参照する、すでにデプロイ済のProfitability and Cost Managementアプリケーションでは、ディメンションを正しく更新できなくなります。つまり、ディメンション・タイプを定義するUDAは方法にかかわらず変更しないでください。ディメンションを削除または名前を変更する場合、既存のProfitability and Cost Managementアプリケーションを引き続き必要に応じて更新できるように、別のEssbaseマスター・データベースの作成を検討してください。事前更新分析オプションの既存の検証では、これらのケースはレポートされません。

Essbaseマスター・アプリケーションをデプロイするときに、ASOディメンション・メンバーとそのプロパティ(ASOの「ストレージ・タイプ」、ASOの「式」、「階層タイプ」など)は、Essbaseに自動的に読み込まれます。手動の操作は不要です。

BSO特有のディメンションおよびメンバー・プロパティは配置中に自動的に読み込まれます。これを管理するには、BSOディメンション・メンバーおよびプロパティ(「式」、「データ・ストレージ」および「ディメンション・ストレージ・タイプ」など)、特定のPerformance Management Architectディメンションおよびプロパティ(「POVディメンション」など)のユーザー定義の属性ディメンション(UDA)を作成し、BSOデータベースとEssbaseを連携させる必要があります。

Essbaseマスター・アプリケーションのUnicodeプロパティセットにより、マスター・アプリケーションからデプロイされたProfitability and Cost Managementアプリケーションから作成された任意のレポート用データベースまたは計算用データベース・アプリケーションのUnicodeプロパティが決定されます。

ディメンション・タイプ

Essbaseマスター・アプリケーションを作成する場合は、すべてのディメンションをDIMTYPE UDAに割り当てる必要があります。

標準Profitabilityアプリケーションの有効なディメンション・タイプを [223ページの表 49](#)に示します。

表49 標準Profitabilityのディメンション・タイプ

プロパティ・ラベル	プロパティ名	説明
割当てタイプ	DIMTYPE_ALLOCTYPE	<p>標準Profitabilityの場合のみ、次の条件を使用して、AllocationTypeディメンションを作成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Generation1メンバーにUDA値 DIMTYPE_ALLOCTYPEを割り当て、Profitabilityアプリケーションがメンバーを認識できるようにします。メンバー名は何でもかまいませんが、UDA値は説明のとおりを設定する必要があります。 • このディメンションのダミーのメンバーを1つ作成することで、Gen1メンバーに子がない場合に、Essbaseでアウトラインを保存できます。
メジャー	DIMTYPE_MEASURES	<ul style="list-style-type: none"> • 「メジャー」ディメンションを作成し、Generation1メンバーに"DIMTYPE_MEASURES"のUDAの値を割り当てます。メンバー名は何でもかまいませんが、UDA値は説明のとおりを設定する必要があります。 • このディメンションのダミーのメンバーを1つ作成することで、Gen1メンバーに子がない場合に、Essbaseでアウトラインを保存できます。 <p>注:</p> <p>標準Profitabilityの場合のみ、カスタム・メジャーディメンションを使用するには 229ページのカスタム・メジャーディメンションを参照してください。</p>
汎用(ビジネス)	DIMTYPE_GENERIC	<p>ビジネス・ディメンションにDIMTYPE_GENERICのUDAの値を割り当てます。</p>
POV	<ul style="list-style-type: none"> • DIMTYPE_POV1 • DIMTYPE_POV2 • DIMTYPE_POV3 • DIMTYPE_POV4 	<p>最大4つのPOVディメンションに対し、Generation1メンバーの値を番号順に割り当てます。たとえば、DIMTYPE_POV1、DIMTYPE_POV2などがあります。</p>

管理元帳Profitabilityアプリケーションのディメンション・タイプもこれと同様ですが、管理元帳ProfitabilityにはRule (DIMTYPE_RULES)とBalance (DIMTYPE_BALANCES)というシステム・ディメンションがある点が違います。

ユーザー定義属性

ユーザー定義属性(UDA)を使用すると、ディメンション・メンバーのテキスト属性に基づいた分析が可能になります。たとえば、New ProductsというUDAを追加できます。

選択したメンバーのUDA名を入力します。

最大256文字までの英数字を入力できます。80文字の制限がUnicode対応のデータベースに適用されます。

マスター・キューブの属性ディメンションのディメンション名は、ASCII文字(英字と数字)のみを含める必要があり、属性ディメンション名の最初の文字は英字(a-zまたはA-Z)にする必要があります。

すべてのEssbaseアウトラインで、すべてのディメンションの名前が一意であることを確認してください。それ以外の場合は、アウトラインの作成が失敗します。たとえば、属性ディメンション・メンバーに標準のディメンションと同じ名前を付けることはできません。

ASOディメンション・プロパティおよびメンバー・プロパティ

224ページの表 50に表示されるASOディメンション・プロパティおよびメンバー・プロパティは、デプロイメント中にEssbaseに自動的に取り出されます。このプロパティとマスターEssbaseアプリケーションの連携に、手動アクションは必要ありません。

表50 Profitability and Cost Management ASOディメンション・プロパティおよびメンバー・プロパティ

プロパティ・ラベル	プロパティ名	説明
別名	別名	別名は、配置したアプリケーションに表示されるディメンション・メンバー名です。ルート・メンバーを除き、任意のメンバー別名が表示されます。
コメント	コメント	ディメンションまたはメンバーにコメントを入力できます。コメントには最大255文字を指定できます。デフォルトでは、テキスト・ボックスには現在のコメントが表示されます(存在する場合)。
集計	集計	<p>メンバー集計プロパティは、子を親にロールアップする方法を指定します。現在のメンバーがディメンションまたは属性でない場合、次のいずれかの集計演算子がメンバーに割り当てられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • + (加算) - デフォルト • - (減算) • * (乗算) • / (除算) • % (パーセント) • ^ (集計では無視する) • ^ (集計しない) • NotUsed <p>注:</p> <p>集約ストレージ・アウトライン(ASO)では、集計演算子の使用に一部制限があります。『Oracle Essbaseデータベース管理者ガイド』を参照してください。</p>
データ・ストレージ(ASO)	<ul style="list-style-type: none"> • ASODimensionDataStorage (ディメンション・ルート・メンバーの場合) 	<p>ASOディメンションおよびメンバーに使用できるASOストレージ・オプション。</p> <ul style="list-style-type: none"> • StoreData - データはディメンションとともに保管されます。

プロパティ・ラベル	プロパティ名	説明
	ASOMemberDataStoreData (ディメンション・メンバーの場合)	<ul style="list-style-type: none"> ASOMemberDataStoreData - このメンバーに関連付けられているデータは共有できません。ShareDataプロパティは、メンバーのみに適用されます。ディメンション・ルート・メンバーは共有できません。 NeverShare - このディメンションに関連付けられているデータは、単一の子を持つ親などのように、暗黙の共有関係がある場合にも共有できません。この場合、データは親および子で複製されます。 <p>注:</p> <p>このオプションは、集約ストレージ・アウトラインに保管された階層には適用されません。</p> <ul style="list-style-type: none"> LabelOnly - このディメンションに関連付けられているデータはありません。
ディメンション式(ASO)	ASODimensionFormula (ディメンション・ルート・メンバー用)	ディメンションに適用される計算式。
ディメンション解決順	DimensionSolverOrder	このディメンションのソリューション・シーケンスの数値。たとえば、このディメンションを2番目に解決する場合は、「2」を入力します。
階層タイプ (ディメンションのみ)	DimensionHierarchyType	<p>「階層タイプ」プロパティは、Essbaseの集約ストレージ(ASO)データベースにのみ使用されます。ディメンションの階層のタイプは次のいずれかの値に設定されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「保管済」- 次の集計記号を使用するディメンション・メンバーの場合。 <ul style="list-style-type: none"> ○+ (加算) ○~ (無視) <p>注:</p> <p>メンバーの親がLABEL_ONLYに設定されている場合、非集計演算子または無視(~)は、保管済階層にのみ使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「動的」- 「加算」や「無視」などの集計記号を使用するディメンション・メンバーの場合、またはディメンション・メンバーに式が含まれる場合。 「使用可能」- 代替階層をサポートする場合
階層タイプ (メンバーのみ)	HierarchyType	<p>メンバーに使用可能な階層のタイプ:</p> <ul style="list-style-type: none"> 保管済(最初のGen2の子の場合) 動的(2番目以降のGen2の子の場合。2番目のGen2メンバーは代替階層をホスト可能)

プロパティ・ラベル	プロパティ名	説明
		・ なし(使用不可)
メンバー式(ASO)	ASOMemberFormula	メンバーに適用される計算式。
メンバー解決順 (メンバーのみ)	MemberSolveOrder	<p>選択したメンバーのソリューション・シーケンスに数値を入力します。たとえば、このメンバーを2番目に解決する場合は、「2」を入力します。</p> <p>このプロパティは、ASOデータベースのみに適用されます。</p> <p>解決順が0のメンバーは、そのディメンションの解決順序を継承します。</p> <p>解決順が同じメンバーは、ディメンション・ソート順プロパティで別の値が指定されていないかぎり、そのディメンションがデータベース・アウトラインに出現する順序で評価されます。</p> <p>解決順のないメンバーは、解決順のあるメンバーの後に評価されます。</p>
Unicode	Unicode	「Unicode」を選択して、アプリケーションをUnicodeモードに設定します。Unicodeモードのアプリケーションは複数の文字セットをサポートします。

BSOおよびメンバーディメンション・プロパティの指定

Essbaseマスター・アプリケーションはASOアプリケーションです。ASOディメンションおよびメンバーはデプロイメント中に自動的に読み取られます。ただし、BSOデータベースではBSO固有のメンバー・プロパティが必要です。たとえば、標準Profitabilityアプリケーションで使用される場合、つまり自動的に読み取ることができない特殊なディメンションとメンバー(POVなど)を処理する場合です。

これらのBSOおよびPerformance Management ArchitectディメンションおよびメンバーをEssbase BSOデータベースに含めるには、Profitability and Cost Managementに配置される各ディメンションにGeneration1メンバーが必要です。マスター・アウトラインのディメンションの順番は、Profitability and Cost Managementで生成されたアウトラインのディメンションの順序によって決まります。

[227ページの表 51](#)にリストされている各ディメンションおよびメンバーに対してUDAを作成する必要があります。Essbaseの操作に関する追加情報は、『Oracle Essbaseデータベース管理者ガイド』を参照してください。



注意

同じタイプの複数のUDAをEssbaseの特定のメンバーに割り当てることはできません。Profitability and Cost Managementの配置は使用するUDAタイプを認識していないため、整合性のない動作が発生するからです。たとえば、DIMTYPE_POV1とDIMTYPE_POV2の両方を同じメンバーに割り当てないでください。

アプリケーションに手動で割り当てる必要がある特別なUDAを必要とするプロパティについては、[227ページの表 51](#)を参照してください。



注:

UDAを使用してBSOが割り当てられるため、ユーザーが誤ってEssbaseマスター・データベースの互換性のないBSOプロパティを割り当てた場合、その後のProfitability and Cost Managementでのレポート・キューブへの配置の操作が失敗する可能性があります。この状況が発生した場合は、レポート用データベースの配置で生成されたルール・ファイルとデータを手動でロードすることにより、互換性のない割当てを識別できます。

表51 Profitability and Cost Managementのディメンションおよびメンバー・プロパティ

プロパティ・ラベル	プロパティ名	説明
データ・ストレージ(BSO)	<ul style="list-style-type: none"> BSODimensionDataStorage (ディメンション・ルート・メンバー用) BSOMemberDataStorage (ディメンション・メンバー用) 	<p>BSOデータ・ストレージの場合、次のUDAのいずれかを次の子メンバーのGeneration1メンバーに割り当てます。</p> <ul style="list-style-type: none"> BSODS_LABELONLY BSODS_NEVERSHARE BSODS_SHAREDATA BSODS_DYNCALANDSTORE BSODS_DYNCALC BSODS_STOREDATA <p>UDAを設定する場合、BSOデータ・ストレージのプロパティに割り当てられた値が存在しない場合、Profitability and Cost Managementの配置では、次のデフォルト値が割り当てられるとみなします。</p> <ul style="list-style-type: none"> Generation1メンバーは“BSODS_LABELONLY”に割り当てられますが、次の例外があります。 <ul style="list-style-type: none"> ○POV Generation1メンバーが“BSODS_STOREDATA”に設定されている ○メジャーGeneration1メンバーが“BSODS_DYNCALC”に設定されている その他のすべてのメンバーが“BSODS_STOREDATA”に割り当てられている
ディメンション式(BSO)	BSODimensionFormula (ディメンション・ルート・メンバー用)	<p>BSOディメンション式の場合、ユーザーはEssbaseマスター・データベースのBSOディメンション式を指定できません。そのデータベースはASOデータベースである必要がある(したがって、マスター・データベースで使用可能な式属性はASO式である)からです。</p> <p>配置後、BSO式をEssbaseレポート用データベースに表示するには、BSOディメンション式をレポート用データベースに直接手動で入力します。再配置する場合、BSO式を再入力する必要があります。</p> <p>適切なBSO CALCULATOR構文を使用します。</p>

プロパティ・ラベル	プロパティ名	説明
ディメンション・ソート順	DimensionSortOrder	<p>数値を順番に入力してProfitability and Cost Managementによって生成されたEssbaseアウトライン内のディメンションの順序を設定します。</p> <p>たとえば、このディメンションがEssbaseアウトラインの2番目のディメンションである場合は、2を入力します。</p> <p>ディメンション・ソート順は、別名ディメンションとUDAディメンションを除き、モデル内のすべてのディメンションに設定されている必要があります。</p> <p>ディメンション・ソート順が連続しており、一意かつ1以上である必要があります。</p>
ディメンション・ストレージ・タイプ	DimensionStorageType	<p>「ディメンション・ストレージ・タイプ」プロパティは、Essbaseのブロック・ストレージ(BSO)データベースにのみ使用されます。</p> <p>デフォルトでは、値は"SPARSE"に設定されます。</p> <p>DENSE設定が必要な場合は、"DIMSTORETYPE_DENSE"の値を持つUDAをGeneration1メンバーに割り当てます。</p>
メンバー式(BSO)	BSOMemberFormula	<p>BSOメンバー式の場合、ユーザーはEssbaseマスター・キューブのBSOメンバー式を指定できません。そのデータベースはASOデータベースである必要がある(したがって、マスター・キューブで使用可能な式属性はASO式である)からです。</p> <p>配置後、BSO式をEssbaseレポート用データベースに表示するには、BSOディメンション式をレポート用データベースに直接手動で入力します。再配置する場合、BSO式を再入力する必要があります。</p> <p>適切なBSO CALCULATOR構文を使用します。</p>
2パス計算 (ディメンションのみ)	BSO_TWOPASS (ディメンション・ルート・メンバー用)	BSOデータベースの場合のみ、BSO_TWOPASSを指定すると、アウトラインを介した2番目のパスのメンバーが計算されます。
2パス計算 (メンバーのみ)	BSO_TWOPASS	BSOデータベースの場合のみ、BSO_TWOPASSを指定すると、アウトラインを介した2番目のパスのメンバーが計算されます。

メンバー・プロパティに割り当てられたブロック・ストレージ・オプション(BSO)データ・ストレージ値の表示

どのBSOデータ・ストレージ値がメンバーに割り当てられるかを理解するには、HPM_DIM_MEMBER_PROP_Vビューを使用して、BSO計算キューブに対するEssbaseへのデプロイが失敗した日時をデバッグします。

このビューは次の列で構成されています:

APPLICATION_NAME

DIMENSION_NAME

MEMBER_NAME

BSO_DATA_STORAGE

DIMENSION_STORAGE_TYPE

ビューが問合せされると、デプロイされた各Profitability and Cost Managementアプリケーションのディメンション・メンバーごとに1行が戻されます。

カスタム・メジャーディメンション

標準Profitabilityの場合のみ、カスタム・メジャー・メンバーを使用する場合は、ドライバ・メジャーの下にある「UserDefinedDriverMeasures」メンバー名を作成し、そのメンバーの子としてカスタム・メンバーを追加します。Profitabilityアプリケーション機能は、それらのカスタム・メンバーを配置されたメジャー階層でUserDefinedDriverMeasuresの子として挿入します。

メンバーUserDefinedDriverMeasuresは、アプリケーション固有のユーザー定義のドライバ・メジャーが保管される場所です。ASOMember DataStorageおよびBSOMember DataStorageプロパティは、次のように設定します:

- メンバーに子がない場合は、「**StoreData**」に設定します。
- このメンバーに子としてメンバーが追加され、これらのすべての子に集計記号IGNOREがある場合、「**LabelOnly**」に設定します。



注:

すべてのドライバ・メジャーはアウトライン内で一意である必要があります。アウトライン内のディメンションでは既存のドライバ・メジャーの名前を他のメンバーの名前として使用しないでください (システム・ディメンション、POVディメンションおよびビジネス・ディメンションを含む); これらを使用すると、「データの入力」画面に値が正しく表示されません。

Essbaseマスター・アプリケーションの構築

Essbaseを使用して、ディメンションおよびディメンション・メンバーをEssbaseマスター・アプリケーションに作成すると、それをProfitability and Cost Managementアプリケーションにインポートできます。

▶ Essbaseマスター・アプリケーションを作成するには:

1. 次に示す、アプリケーション用のディメンションおよびメンバーを生成するガイドラインを使用して、Profitability and Cost Managementアプリケーション用のEssbaseマスター・データベースを作成します。

- [222ページのディメンション・タイプ](#)
- [224ページのASOディメンション・プロパティおよびメンバー・プロパティ](#)
- [226ページのBSOおよびメンバーディメンション・プロパティの指定](#)

Essbaseのアプリケーションおよびデータベースの作成の詳細は、*Oracle Essbaseデータベース管理者ガイド*を参照してください。

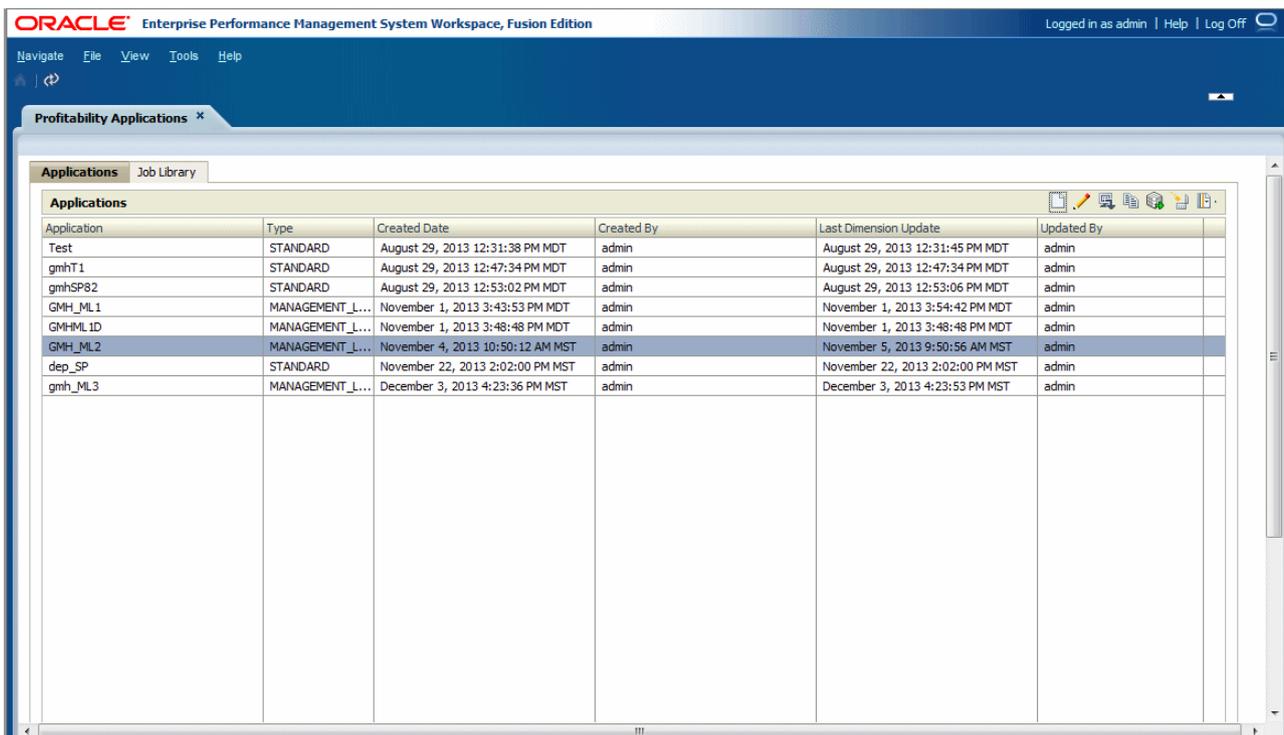
2. Profitability and Cost Managementアプリケーションを作成するユーザーは、管理者(またはアプリケーション作成プロビジョニングを持つ他のユーザー)としてプロビジョニングされていることを確認してください。
3. [230ページのEssbaseマスター・アプリケーションからのProfitability and Cost Managementアプリケーションの作成](#)で説明したように、Profitability and Cost Managementアプリケーションを作成します。

Essbaseマスター・アプリケーションからのProfitability and Cost Managementアプリケーションの作成

▶ マスター・アプリケーションからアプリケーションを作成するには:

1. EPMワークスペースから「ナビゲート」、「管理」、「Profitabilityアプリケーション」の順に選択します。

「Profitabilityアプリケーション」タブが開き、アプリケーションおよびジョブ・ライブラリ・タブが表示されます。この画面には使用できる「タスク領域」がありません。



2. 「追加」ボタン  をクリックしてアプリケーション・ウィザードを開きます。

New Application

Application Properties

Application Name:

Description:

Instance Name:

Web Server:

Essbase Application Server:

Shared Services Project:

Application Type:

< Back Next > Cancel

3. 新規アプリケーション・ウィザードの最初の手順で、次の情報を入力します。

- クエリーの「アプリケーション名」
- オプション: アプリケーションの「説明」
- ドロップダウン・リストから「インスタンス名」を選択します。
- **Web**サーバーのアドレスが表示されます
- ドロップダウンリストから**Essbase**アプリケーション・サーバーを選択します。
- ドロップダウンリストから**Shared Services**プロジェクトを選択します。
- オプション: 必要な場合は詳細**Profitability**を選択します。デフォルトでは、アプリケーション・タイプは標準 Profitabilityだとみなされます。

4. 「次」をクリックします。

新規アプリケーション・ウィザードの手順2が表示されます。

New Application

Dimension Source

Essbase Application: ASOsamp

Available Dimensions:		Selected Dimensions:	
Measures			
Years			
Time			
Transaction Type			
Payment Type			
Promotions			
Age			
Income Level			
Products			
Stores			
Geography			
Store Manager			
Square Footage			
Area Code			

< Back Finish Cancel

5. **Essbase**アプリケーションで、Profitability and Cost Managementアプリケーションに使用するEssbaseアプリケーションを選択します。

6.



「使用可能なディメンション」で、「追加」矢印  を使用して、Profitability and Cost Managementアプリケーションに含まれるディメンション・メンバーを「選択したディメンション」列に移動します。

[Ctrl]キーを使用して複数のディメンションを選択するか、[Shift]キーを使用して、範囲内の最初と最後のメンバーを選択します。

7. 「終了」をクリックします。次のアクションが開始されます。

- 新しいアプリケーションオブジェクトを作成する新規タスク・フローが開始します。「ジョブ・ライブラリ」タブで結果が表示できます。参照
- ソースEssbaseデータベースのディメンションが検証されます。検証に問題がある場合は、タスク・フローが終了します。検証エラーを修正し、新しいアプリケーションを作成する手順を繰り返します。

検証が完了したら、新しいアプリケーションが「アプリケーション」タブに追加されます。

アプリケーションの編集

「アプリケーションの説明」と「Shared Servicesプロジェクト」のみ変更できます。他のアプリケーションに関連する情報を変更する場合は、新しいアプリケーションを作成する必要があります。

▶ アプリケーションを編集するには:

1. EPMワークスペースから「ナビゲート」、「管理」、「**Profitability**アプリケーション」の順に選択します。

「Profitabilityアプリケーション」タブが開き、アプリケーションおよびジョブ・ライブラリ・タブが表示されます。

2. 変更するアプリケーションを選択して、「変更」ボタン  をクリックします。

「アプリケーションの説明」と「Shared Servicesプロジェクト」のみ変更できます。その他すべてのオプションは使用できません。

The screenshot shows the 'Edit Application' window with the following details:

- Application Name:** bgH_ML4
- Description:** (Empty text area)
- Instance Name:** PROFITABILITY_WEB_APP
- Web Server:** slc03qhw.us.oracle.com
- Essbase Application Server:** EssbaseCluster-1
- Shared Services Project:** Default Application Group
- Application Type:** Management Ledger

3. 「アプリケーション・ウィザード」の「編集」ウィンドウで、必要に応じて次の情報を変更します。

- 必要に応じて、「アプリケーションの説明」を変更
- ドロップダウン・リストから別の**Shared Services**プロジェクトを選択します。

4. 「次」をクリックします。

「アプリケーション・ウィザード」の手順2が表示されます。

画面には選択したディメンションが移入され、修正することはできません。

5. 「終了」をクリックします。

アプリケーションの再登録

Oracle Hyperion Shared Services内で新しいアプリケーションの登録は、アプリケーションの配置時に自動的に行われます。ただし、場合によっては、アプリケーションの再登録が必要になります。

▶ アプリケーションを再登録するには:

1. EPMワークスペースから「ナビゲート」、「管理」、「Profitabilityアプリケーション」の順に選択します。

「Profitabilityアプリケーション」タブが開き、アプリケーションおよびジョブ・ライブラリ・タブが表示されます。

2.

登録または再登録が必要なアプリケーションを選択し、「登録」ボタン  をクリックします。

登録を続行するかどうかの確認を要求する確認ダイアログが表示されます。

3. 「OK」をクリックしてアプリケーションを登録します。

アプリケーションが再登録されたという確認メッセージが表示されます。

アプリケーションの登録の詳細は、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect管理者ガイド』を参照してください。

アプリケーションの複製

▶ アプリケーションを複製するには:

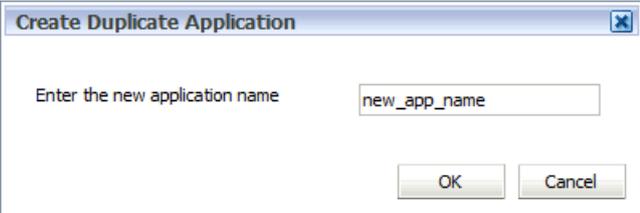
1. EPMワークスペースから「ナビゲート」、「管理」、「Profitabilityアプリケーション」の順に選択します。

「Profitabilityアプリケーション」タブが開き、アプリケーションおよびジョブ・ライブラリ・タブが表示されます。

2.

「アプリケーション」タブで、複製するアプリケーションを選択し、「複製」ボタン  をクリックします。

複製アプリケーションの作成ダイアログ・ボックスが表示されます。



The image shows a dialog box titled "Create Duplicate Application". It contains a text input field with the label "Enter the new application name" and the text "new_app_name" inside. Below the input field are two buttons: "OK" and "Cancel".

3. 新規アプリケーションの名前を入力し、「OK」をクリックします。

「アプリケーション」の下に新しい名前で作成されたアプリケーションが追加されます。

ディメンションの更新

Essbaseデータベースのディメンションまたはディメンション・メンバーに、追加、削除、変更、または名前の変更など、変更が発生している場合、Profitability and Cost Managementアプリケーションのディメンションを更新する必要があります。



注意

Essbaseマスター・アプリケーションのディメンションを削除する、またはその名前を変更する場合、それらのディメンションを参照する、すでに配置済のProfitability and Cost Managementアプリケーションでは、ディメンションを正しく更新できなくなります。ディメンションを削除または名前を変更する場合、既存のProfitability and Cost Managementアプリケーションを引き続き必要に応じて更新できるように、別のEssbaseマスター・データベースの作成を検討してください。

「更新」ダイアログ・ボックスを使用してディメンションを更新するたびに、アプリケーションを検証し、更新するためのジョブ・エントリが「ジョブ・ライブラリ」に自動的に作成されます。

➤ Profitability and Cost ManagementアプリケーションのEssbaseディメンションを更新するには:

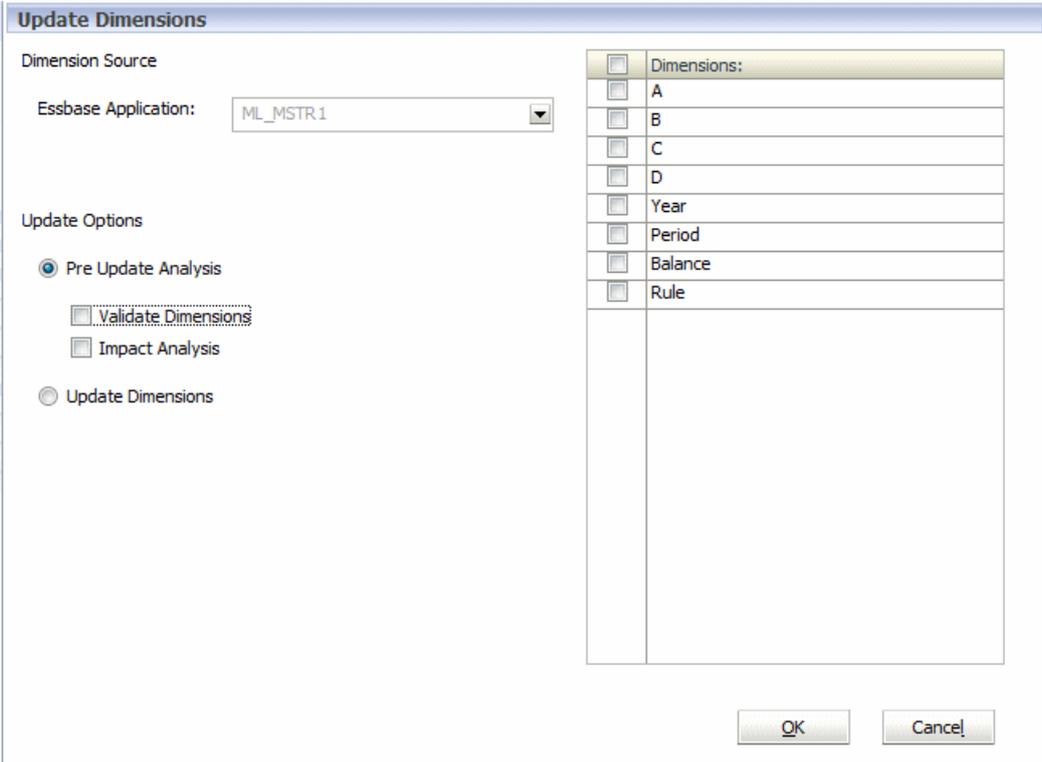
1. EPMワークスペースから「ナビゲート」、「管理」、「Profitabilityアプリケーション」の順に選択します。

「Profitabilityアプリケーション」タブが開き、アプリケーションおよびジョブ・ライブラリ・タブが表示されます。

2. 更新する必要があるディメンションおよびディメンション・メンバーを含むアプリケーションを選択します。
- 3.

「更新」ボタン  をクリックします。

「ディメンションの更新」ダイアログ・ボックスが表示されます。



4. ディメンションのステージング領域として使用されている「Essbaseアプリケーション」を選択します。
5. ディメンションのステージング領域として使用されている「Essbaseデータベース」を選択します。
6. 「ディメンション」の下で、更新する必要があるディメンションを選択します。すべてのディメンションを選択するには、「ディメンション」チェックボックスをオンにします。
7. オプション: **Pre Update Analysis**の下で、ディメンションの検証を選択し、各変更が有効であることを検証します。このオプションは、ディメンションを更新しません。すべてのディメンションが選択されると、このオプションはアプリケーション・レベルのディメンションの検証も実行します。

検証エラーおよび影響分析の結果が「ジョブ・ライブラリ」に表示されます。

8. オプション: **事前更新分析**の下で、**影響分析**を選択し、配置中のモデルとProfitability and Cost Managementの既存のモデル間の比較を実行します。■影響分析|Impact Analysisが選択されている場合は、ディメンションの検証オプションは使用できません。

次の情報が表示されます:

- 新しいメンバー
- 削除されたメンバー
- 親の再設定メンバー
- Level0を持つメンバーの変更

検証エラーおよび影響分析の結果が「ジョブ・ライブラリ」に表示されます。



注意

Essbaseでメンバーの名前が変更された、または親が再設定された場合、影響分析に、削除されたメンバー、および新しいメンバーの両方が表示されます。さらに、名前の変更、または割当てルールを選択、「ドライバの選択」、「ドライバ例外」などの親の再設定操作中に削除されたメンバーを参照する任意のアーティファクトも削除されます。

9. **オプション:** 選択したディメンションの変更を更新するには、「ディメンションの更新」をチェックし、「OK」をクリックします。



注:

変更されたディメンションは検証され、例外がジョブ・ライブラリに報告されます。

アプリケーションの削除

▶ アプリケーションを削除するには:

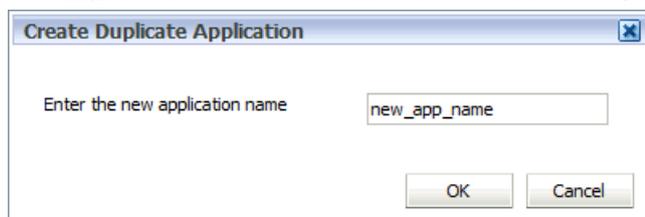
1. 他のユーザーがこのアプリケーションを必要としないことを確認します。
2. EPMワークスペースから「ナビゲート」、「管理」、「Profitabilityアプリケーション」の順に選択します。

「Profitabilityアプリケーション」タブが開き、アプリケーションおよびジョブ・ライブラリ・タブが表示されます。

- 3.

「アプリケーション」タブで、複製するアプリケーションを選択し、「複製」ボタン  をクリックします。

複製アプリケーションの作成ダイアログ・ボックスが表示されます。



- 4.

「問合せリスト」から削除する問合せを選択し、「削除」ボタン  をクリックします。

選択したクエリーの削除を確認するメッセージが表示されます。

5. 「はい」をクリックします。

選択したクエリーが「クエリーの管理」画面から削除されます。

「ジョブ・ライブラリ」のタスクの表示

「ジョブ・ライブラリ」では、既存のアプリケーションに対して実行中のジョブを含む、すべてのジョブのリストを提供します。グリッドをフィルタして、特定のタイプまたは特定のユーザーのジョブを分離できます。

▶ ジョブ・ライブラリを表示するには:

1. EPMワークスペースから「ナビゲート」、「管理」、「Profitabilityアプリケーション」の順に選択します。

「Profitabilityアプリケーション」タブが開き、アプリケーションおよびジョブ・ライブラリ・タブが表示されます。

2. 「ジョブ・ライブラリ」タブを選択します。

The screenshot shows the Oracle EPM Workspace interface. The 'Job Library' tab is active, displaying a table of job listings. The table has columns for Start Date/Time, Application, Job Type, Comment, User, Task Flow ID, and Status Message. Below the table, there are sections for 'Job Details' (Processing Options, Custom Scripts, POV Options) and a 'Job Finished' status bar.

Start Date/Time	Application	Job Type	Comment	User	Task Flow ID	Status Message
December 13, 2011 8:41:15 C...	KCGP1	Apply Bulk Edit	remove ars	admin	KCGP1_BulkEdit_D20111213T084115_79a	Success
December 13, 2011 8:39:44 C...	KCGP1	Apply Bulk Edit	add rs	admin	KCGP1_BulkEdit_D20111213T083944_ab8	Success
December 13, 2011 8:39:19 C...	KCGP1	Apply Bulk Edit	descr	admin	KCGP1_BulkEdit_D20111213T083918_884	Success
December 13, 2011 8:36:22 C...	KCGP2	Allocation Calc - Detailed		admin	KCGP2_RunCalcs_D20111213T083622_52f	Success
December 13, 2011 8:34:42 C...	KCGP2	Allocation Calc - Detailed		admin	KCGP2_RunCalcs_D20111213T083441_be7	Success
December 13, 2011 8:23:11 C...	KCGP1	Allocation Calc - Detailed		admin	KCGP1_RunCalcs_D20111213T082310_7d3	Success
December 13, 2011 8:18:39 C...	KCGP1	Allocation Calc - Detailed		admin	KCGP1_RunCalcs_D20111213T081839_b07	Success
December 13, 2011 8:13:12 C...	KCGP1	Allocation Calc - Detailed		admin	KCGP1_RunCalcs_D20111213T081312_f28	Success
December 13, 2011 8:12:21 C...	KCGP1	Allocation Calc - Detailed		admin	KCGP1_RunCalcs_D20111213T081220_9ac	Success
December 13, 2011 8:08:59 C...	KCGP1	Allocation Calc - Detailed		admin	KCGP1_RunCalcs_D20111213T080859_a03	Success
December 13, 2011 8:07:44 C...	KCGP1	Allocation Calc - Detailed		admin	KCGP1_RunCalcs_D20111213T080744_c4a	Success
December 13, 2011 8:05:03 C...	KCGP1	Allocation Calc - Detailed		admin	KCGP1_RunCalcs_D20111213T080502_2af	Success

3. 「ジョブ・リスト」には、各ジョブの情報が表示されます。

- 「開始日時」には、ジョブが発行された、または実行をスケジュールされた日付と時刻が実行されます。
- 「アプリケーション」には、タスクが実行されているアプリケーションの名前が表示されます。
- 「ジョブ・タイプ」には、実行されるタスクのタイプが表示されます。次のオプションはEssbaseデータベースの更新および検証中、またはProfitability and Cost Managementへのインポート中に開始されたジョブに特有です。
 - アプリケーションの作成
 - ディメンション更新分析
 - POVコピー - POVデータがコピーされています
 - ディメンションの更新
- 「コメント」には、特定のジョブに関してユーザーが入力したメモや詳細が表示されます。コメントはタスクの発行時に入力されます。
- 「ユーザー」には、処理するタスクを発行した個人のユーザーIDが示されます。
- 「タスク・フローID」は、特定のタスクに対してシステム生成されるタスクのIDで、<application name>:<task name><generated taskflow number>.というフォーマットです。

たとえば、**AppMgmt_DeployApplication_D20120824T08520_5ed**、という生成されたタスクフロー番号が表示された場合、**AppMgmt**はアプリケーション名、**DeployApplication**はタスク、**D20120824T08520_5ed**は生成されたタスクフロー・インスタンスIDを表します。

- 「ステータス・メッセージ」には、「実行中」、「成功」または「失敗」などの、タスクフローの現在のステータスに関するメッセージが表示されます。
 - 「エラー」には、発行されたジョブのエラー条件が表示されます。
 - 「警告」には、発行されたジョブの警告が表示されます。
4. オプション:**Job Messages**で、選択したジョブに関する追加の要約レベルの詳細を確認します。ジョブ・メッセージには、クリックするとポップアップ・ダイアログ・ボックスに詳細を表示することができる、ハイパーリンクが含まれることがあります。
 5. オプション: **ジョブ・オプション**の下で、ジョブの開始時に行われた選択を確認します。
 6. オプション: ジョブを検索するには、各列の下部にある「検索」テキスト・ボックスにテキストを入力して検索します。
 7. 「**ジョブの終了**」の下で、ハイライトされたタスクが完了した日時を確認します。
 8. 「**ODLタスクID**」の下で、ハイライトされたジョブのIDを確認すると、エラーや警告メッセージを**hpcm.log**で探しやすいになります。

hpcm.logファイルで、「検索」と「ODLタスクID」を使用して、選択したジョブのロギング詳細テキストの開始を探します。ログ・エントリの開始を見つけたら、下方向に検索して、ファイルで"ERROR"を探します。

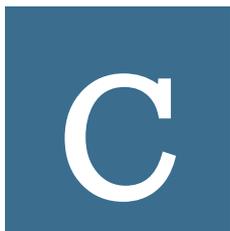
9. オプション: 必要に応じて、「**ジョブの停止**」をクリックして、「実行中」ステータスのハイライトされたタスクを終了します。



注意

ボタンを押した後でタスクフローがすぐに停止する場合は、データの状態が一貫するように、結果に影響するアクティビティに追加の時間が必要なことがあります。

EPM Workspaceタスクフローの使用の詳細は、『*Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspaceユーザー・ガイド*』を参照してください。



Profitability and Cost Management へのデータのインポート

この項の内容:

ステージング表について	239
インポート構成の作成	240
インポート構成の変更	243
インポート構成の削除	243
インポート構成の実行	244
インポートしたデータの確認	244

Profitability and Cost Managementにはデータを直接入力できます; ただし、データ入力には非常に時間がかかる場合があります。アプリケーションの移入を簡単に行うには、一連のインポート・ステージング表やインポート構成を使用してデータをProfitability and Cost Managementに直接インポートできます。

モデル・データは複数のソースからインポートされます:

- モデル・メタデータおよびディメンションは、EPM Workspaceを介してOracle Hyperion EPM Architectのディメンション・ライブラリからインポートされます。*Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect管理ガイド*のメタデータのインポートに関する章を参照してください。
- モデル定義データは、Profitability and Cost Managementにインポートされます。このデータは、Excelなどの別のアプリケーションで作成し、ステージング表を使用してインポートできます。
- モデルおよびエンドユーザー・データはEssbaseから標準Profitabilityアプリケーションに対してのみインポートおよびエクスポートが可能です。『*Oracle Essbaseデータベース管理者ガイド*』を参照してください。
- モデル・データおよびアプリケーションは、ライフサイクル管理を使用してインポートできます。*Oracle Enterprise Performance Management Systemライフサイクル管理ガイド*を参照してください。



注意

データをインポートする前に、EPM WorkspaceおよびEssbaseでデータベースのバックアップ・ディレクトリを作成することをお勧めします。

インポート構成を作成し、インポートする表およびデータを指定する必要があります。この構成を保存することにより、複数回使用して同じデータ・セットをインポートできます。

ステージング表について

データがProfitability and Cost Managementにインポートされると、ユーザーは、インポートを管理するために事前定義された構造を提供するステージング表を作成します。

リレーショナル・データベースからProfitability and Cost Managementにモデル・データをインポートするには、Profitability and Cost Managementデータベース表が作成された場所から、別々のデータベース・スキーマに一連のステージング表を作成し、アプリケーションで使用できるように情報をフォーマットする必要があります。



注意

製品スキーマ内にインポート・ステージング表を作成しないでください。製品スキーマの変更はサポートされていないだけでなく、予測できない結果を招く場合があります。

これらの表は、OracleサーバーやSQL Serverなどのリレーショナル・データベースを使用して作成されます。これらを使用して、アプリケーションに簡単に対応できるフォーマットにデータを編成します。Microsoft SQL ServerおよびOracle Databaseでは、インストール後のインストール・フォルダにステージング・データベース・スクリプトが用意されています。デフォルトでは、この場所は%EPM_ORACLE_HOME%\products\Profitability\database\Common\です。アプリケーション・タイプに適したスクリプトを使用して、新しいデータベースにステージング表を作成します：

- 標準Profitabilityアプリケーションの場合は、`create_staging.sql`スクリプトを使用します。
- 詳細Profitabilityアプリケーションの場合は、`create_dp_staging.sql`スクリプトを使用します。

すべての表を同時に作成することも、インポートする表のみを作成することもできます。次のデータ・グループのうち少なくとも1つを移入する必要があります：

- ステージ(標準Profitabilityのみ)
- POV
- ドライバ
- ドライバの選択
- ドライバ例外
- 割当て(標準Profitabilityのみ)
- ソース割当てルールに関連付け
- 計算ルール(詳細Profitabilityのみ)

ステージング表は、Profitability and Cost Management管理者(*admin*)により、これらのセクションで指定されているフォーマットを使用して作成されます。

- [87ページの第6章「標準Profitabilityのインポート・ステージング表」](#)
- [163ページの第15章「詳細Profitabilityのステージング表のインポート」](#)

データをインポートするには、適切なユーザーの役割およびセキュリティ権限が必要です。『Oracle Enterprise Performance Management Systemユーザー・セキュリティ管理ガイド』を参照してください。

インポート構成の作成

データをインポートできるのは、次のすべての要素が使用可能である場合のみです：

- ソース・データベースおよび関連するステージング表とデータ
- データを受信するターゲット・アプリケーション
- インポートする表およびデータを定義するインポート構成。インポート構成は複数回使用できます。

インポートを合理化するために、異なる情報セットごとに個別の構成を作成することを検討してください。使用するインポート・グループを小さくすると、インポート時間を短縮できる他、静的情報を繰り返し更新しなくて済みます。たとえば、次のように、インポート構成のモデル要素をグループ化できます：

- まれに変更: POVおよびステージ
- 頻繁に変更: ドライバ、ドライバの選択、ドライバ例外、割当て、割当てルールを選択、および計算ルール

構成が作成された後、データをアプリケーションにインポートする構成を実行します。

▶ インポート構成を作成する手順は、次のとおりです：

1. インポートのソースとして使用するデータベースを選択します。

インポート用としてフォーマットされている既存のデータベースをすることも、新しいブランク・データベースを作成することもできます。

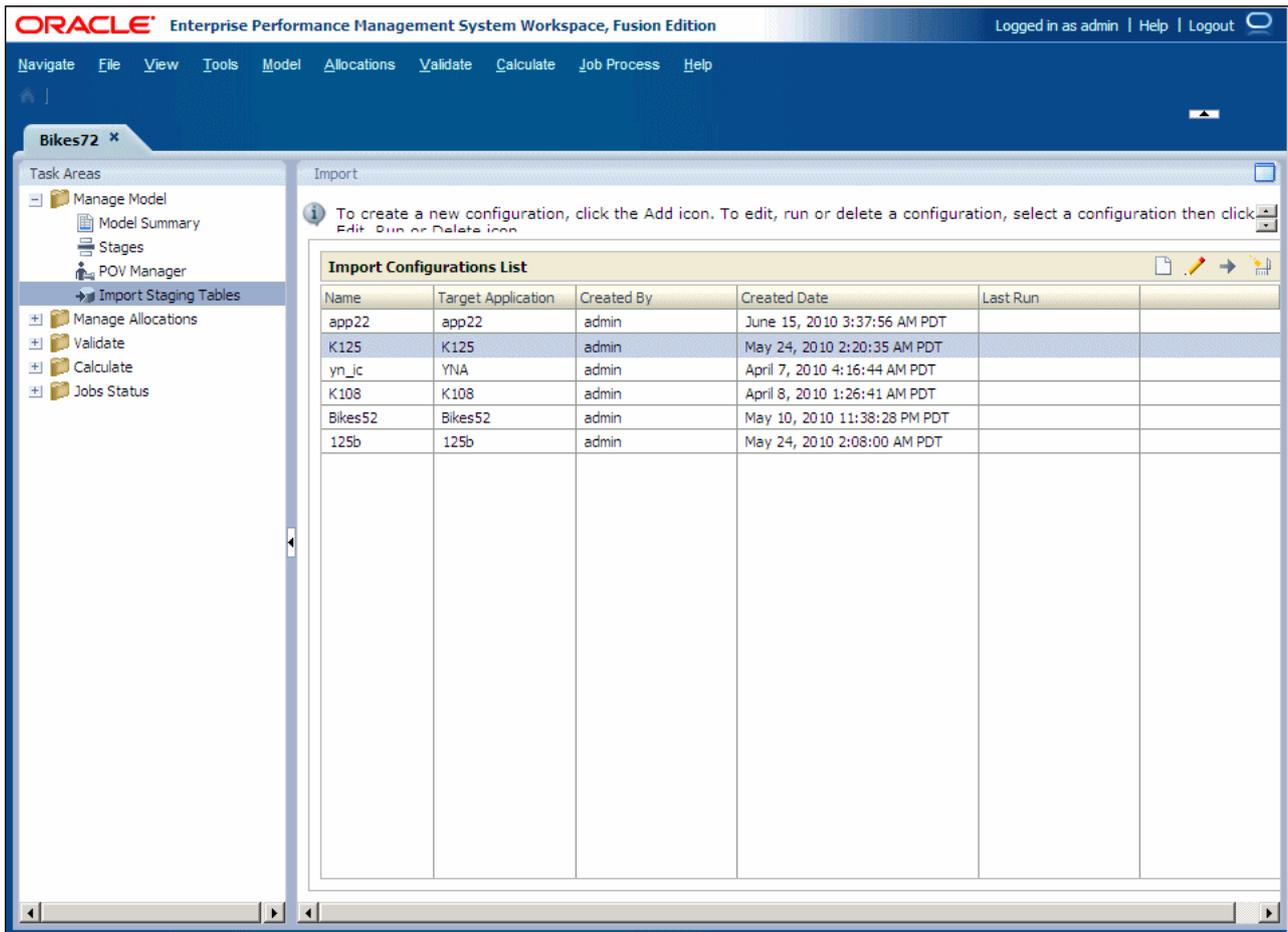
データベースには命名規則はありません。



注意

データまたはアーティファクトをインポートする前に、EPM WorkspaceおよびEssbaseにデータベースのバックアップ・ディレクトリを作成することをお勧めします。支援が必要な場合は、管理者にお問い合わせください。

2. ソース・データベースに対して適切なスクリプトを実行し、ステージング表を自動的に作成します。
 - 標準Profitabilityアプリケーションの場合は、`create_staging.sql`スクリプトを実行します。表は [87ページの第6章「標準Profitabilityのインポート・ステージング表」](#)で提供されたスキーマを使用して生成されます。
 - 詳細Profitabilityアプリケーションの場合は、`create_dp_staging.sql`スクリプトを実行します。表は [163ページの第15章「詳細Profitabilityのステージング表のインポート」](#)で提供されたスキーマを使用して生成されます。
3. モデル・データをソース・ステージング表にロードします。
4. ステージング表のエントリに明白な問題がないことを確認し、ソース・データベースからnull行を削除します。
5. ソース・データベースにアクセスできることを確認します。
6. EPM Workspaceで、「ナビゲート」、「アプリケーション」、「**Profitability**」の順に選択し、Profitability and Cost Managementモデルにアクセスするためのモデル名を選択します。
7. 「タスク領域」で、「モデルの管理」、「ステージング表のインポート」の順に選択します。



8. 「インポート」で、「新規インポート構成の追加」ボタン  をクリックして新しいインポート構成を作成します。
「データのインポート」ダイアログ・ボックスの手順1が表示されます。
9. 「データ・ソースの詳細」で、ソース・ステー징表が存在するサーバーのアクセス詳細を入力します：
 - ・ 「データベース・タイプ」で、ソース・データベースに使用されるデータベースのタイプを選択します。
 - ・ 「ホスト」の下で、ソース・ステー징表が含まれるソース・データベースの場所へのパスを入力します。
 - ・ 「ポート」の下で、ソース・データベースが関連付けられたポートの名前を入力します。
 - ・ 「データベース名」の下で、ソース・データベースの名前を入力します。
10. 必要に応じて、「ログイン情報」の下で、ソース・データベースの権限を持つユーザーの「ユーザー名」および「パスワード」を入力します。
11. 「次へ」をクリックします。
「データのインポート」ダイアログ・ボックスの手順2が表示されます。
12. 「構成」の下で、「ターゲット・アプリケーション」を選択します。
ターゲット・アプリケーションは、データのインポート先のProfitability and Cost Managementアプリケーションです。
13. 「ステーjing表の詳細」の下で、インポートする1つまたは複数のステーjing表を選択します。
既存のステーjing表の名前が「表名」の下にリストされ、各ステーjing表のデータのタイプが「表タイプ」の下に表示されます。

14. 「次」をクリックします。

「データのインポート」ダイアログ・ボックスの手順3が表示されます。

15. 「構成の要約」の下で、このインポート構成を保管する「構成名」を入力します。

この構成に関連付けられたデータベース名が構成名の下に表示されます。構成名は80文字以上にすることはできません。

16. 「終了」をクリックします。

インポート構成が「構成リストのインポート」に追加されます。これを再使用することにより、同じデータ・セットを何回もインポートできます。

17.

オプション: 「構成リストのインポート」からインポート構成を選択し、「インポート構成の実行」ボタン  をクリックして、構成をインポートします。244ページの[インポート構成の実行](#)を参照してください。

インポート構成の変更

インポート構成を更新する際、ターゲット・アプリケーション、一連のステージング表、およびインポート構成名を変更できます。

▶ インポート構成を変更するには:

1. 「タスク領域」で、「モデルの管理」、「ステージング表のインポート」の順に選択します。

インポート・ページが表示されます。

2. 「構成リストのインポート」で、変更するインポート構成を選択します。

3.

「インポート構成の編集」ボタン  をクリックします。

「データのインポート」ダイアログ・ボックスが表示されます。

4. 選択したインポート構成の接続情報およびログイン情報を確認し、「次へ」をクリックします。

5. オプション: 「ターゲット・アプリケーション」の下で、このインポート構成のターゲット・アプリケーションを選択します。

6. オプション: 「ステージング表の詳細」で、インポートするステージング表のセットを変更します。

7. 「次へ」をクリックします。

8. オプション: 「構成の要約」の下で、変更した構成を保管する別々の「構成名」を入力し、接続URLを確認します。

9. 「終了」をクリックします。

変更した構成が保管され、いつでも実行できるようになります。244ページの[インポート構成の実行](#)を参照してください。

インポート構成の削除

▶ インポート構成を削除するには:

1. 「タスク領域」で、「モデルの管理」、「ステージング表のインポート」の順に選択します。

インポート・ページが表示されます。

2. 削除する構成を選択し、「**インポート構成の削除**」ボタン  をクリックします。
削除を確認するメッセージが表示されます。
3. 「はい」をクリックします。
構成が削除されます。

インポート構成の実行

インポート構成が作成された後、データをアプリケーションにインポートする構成を実行できます。

▶ インポート構成を実行するには:

1. ステージング表が存在するリレーショナル・データベースの接続情報があることを確認します。
2. 「**タスク領域**」で、「**モデルの管理**」、「**ステージング表のインポート**」の順に選択します。

インポート・ページが表示されます。

3. 「**構成リストのインポート**」で、実行するインポート構成を選択します。
4. 「**インポート構成の実行**」ボタン  をクリックします。

「データのインポート」ダイアログ・ボックスが表示されます。データ接続の詳細がすべてリストされています。

5. 「**次へ**」をクリックします。
6. 「**構成**」の下で、ターゲット・データベースおよび選択したステージング表が正しいことを確認します。
7. 「**次へ**」をクリックします。

「構成の要約」が表示されます。構成名と接続URIが示されます。

8. 次のいずれかの操作を選択します:

- インポートを即時実行するには、「**今すぐ実行**」をクリックします。
- インポートを実行するのにより都合のよい日付と時間をスケジュールするには、「**後で実行**」をクリックします。

9. 「**終了**」をクリックします。

- 「**今すぐ実行**」を選択した場合、インポートが実行され、選択したデータがターゲット・アプリケーションに移入されます。
- 「**後で実行**」を選択した場合、ジョブは保存されます。保存したインポート・ジョブを実行するには、「**ジョブ・プロセス**」、「**タスクフローの管理**」の順に選択します。この画面で、ジョブを実行したり、より都合のよい日付と時間でジョブを実行するようスケジュールできます。詳細な手順は、『*Oracle Hyperion Profitability and Cost Management ユーザー・ガイド*』を参照してください。

10. インポートが完了したら、インポートしたデータを確認します。 [244ページのインポートしたデータの確認](#)を参照してください。

インポートしたデータの確認

データをターゲット・データベースにインポートした後、データが正しく完全にインポートされたことを確認する必要があります。

▶ インポートしたデータを確認するには:

1. Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspaceで、「ナビゲート」、「アプリケーション」、「Profitability」の順に選択し、Profitability and Cost Managementモデルにアクセスするためのアプリケーション名を選択します。
2. ターゲット・アプリケーションでモデルを開き、インポートされたと推測されるデータを確認します。

たとえば、ステージをインポートした場合、「モデルの管理」、「ステージ」の順に選択し、すべてのステージの情報が存在していて正しいことを確認します。

3. インポートしたステージ表ごとに「例外」列を確認し、エラーや警告があるかどうか確認します。
4. ソース・ステージング表のエラーを修正し、インポートを再実行します。

インポート時にエラーが生成されなくなるまで [245ページのステップ 2](#)から [245ページのステップ 3](#)を繰り返します。



EPM Systemライフサイクル管理を使用したデータの移行

この項の内容:

ライフサイクル管理について	247
ライフサイクル管理に対するデフォルトのタイムアウト設定の変更	248

ライフサイクル管理について

ライフサイクル管理は、製品環境およびオペレーティング・システムでのアプリケーション、リポジトリ、または個々のアーチファクトの移行方法として一貫性のある方法を、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System製品に提供します。

ライフサイクル管理の機能を使用して、次のタスクを実行できます:

- アプリケーションおよびフォルダの表示
- アーティファクトの検索
- アプリケーションから他のアプリケーションへの直接的な移行
- ファイル・システム間の移行
- 移行定義ファイルの保存とロード
- 選択されたアーティファクトの表示
- 移行の監査
- 移行のステータスの表示
- ファイル・システム上で変更をすばやく行うための、個々のアーチファクトのインポートおよびエクスポート

通常、Shared Services Consoleのライフサイクル管理インタフェースは、ライフサイクル管理をサポートするすべてのEPM System製品で一貫していますが、Oracle Enterprise Performance Management System製品の場合、ライフサイクル管理インタフェースでは異なるアーチファクト・リストとエクスポートおよびインポート・オプションが表示されます。

Oracle Hyperion Shared Services Consoleにライフサイクル管理インタフェースを提供する他に、別の方法で移行元から移行先にアーティファクトを移行できる、ライフサイクル管理ユーティリティというコマンドライン・ユーティリティがあります。ライフサイクル管理ユーティリティは、Windowsタスク・スケジューラなどのサードパーティ製のスケジューリング・サービスやOracle Enterprise Managerと併用できます。

最後に、ライフサイクル管理アプリケーション・プログラミング・インタフェース(API)があります。これにより、ユーザーはライフサイクル管理機能のカスタマイズおよび拡張ができます。

ライフサイクル管理と、標準および詳細ProfitabilityのProfitability and Cost Managementのアーティファクトに関する詳細情報については、*Oracle Enterprise Performance Management System* ライフサイクル管理ガイドを参照してください。

ライフサイクル管理に対するデフォルトのタイムアウト設定の変更

Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System ライフサイクル管理を使用して大きいモデルをインポートする場合、Oracle WebLogic Serverのデフォルトのタイムアウト設定で指定された時間よりもインポート・プロセスに時間がかかることがあります。この問題を回避するには、デフォルトのタイムアウト設定をリセットする必要があります。

▶ WebLogic Serverのデフォルトのタイムアウトを変更するには:

1. 次にナビゲート:

```
%Middleware_HOME%\user_projects\epmsystem1\httpConfig\ohs\config\OHS\ohs_component
\mod_wl_ohs.conf
```

2. この構成ファイルでセクション**LocationMatch/profitability**を確認します:

```
        <LocationMatch /profitability>
SetHandler weblogic-handler
PathTrim /
KeepAliveEnabled ON
KeepAliveSecs 20
WLIOTimeoutSecs 3000
Idempotent OFF
WeblogicCluster servername:6756
</LocationMatch>
```

```
SetHandler weblogic-handler
```

```
PathTrim
```

```
KeepAliveEnabled ON
```

```
KeepAliveSecs 20
```

```
WLIOTimeoutSecs 3000
```

```
WeblogicCluster servername:6756
```

3. LocationMatch/profitabilityセクションに次の行を追加します:

```
        WLIOTimeoutSecs 3000
Idempotent OFF
```

4. 次にナビゲート:

```
%Middleware_HOME%\user_projects\epmsystem1\httpConfig\ohs\config\OHS\ohs_component
\httpd.conf
```

5. 次のテキストに示すように、「**Timeout**」を「**3000**」に設定します:

```
# Timeout: The number of seconds before receives and sends time out. Timeout 3000
```



注:

前述のサーバー・タイムアウトは推奨の制限で、使用しているアプリケーション・サーバーのドキュメントに指定されている特定のタイムアウト設定に合うように変更できます。



Profitability and Cost Managementコンポーネントのバックアップ

データの安全性と整合性を確保するために定期的にバックアップする必要があるProfitability and Cost Managementデータベースが複数あります:

- 運用データ・ストア
- インポート・ステージング表
- ブロック・ストレージ・オプション(BSO)データベース

バックアップの頻度は、データベースの変更量や、組織の一般基準によって決まります。

251ページの表 52には、バックアップが必要なデータベース、そのタイプ、およびバックアップ・オプションの提案が記載されています。



注意

現在、ライフサイクル管理(LCM)を使用してインポート・ステージング領域または運用データ・ストアをバックアップすることはできません。

表52 Profitability and Cost Managementデータベースのバックアップ要件

Database	データベース・タイプ	バックアップ・オプション
インポート・ステージング領域	リレーショナル・データベース(RDB)	次のオプションを含む、任意のRDBで使用可能な標準バックアップ技術: <ul style="list-style-type: none">• データベース・スクリプト• スケジューラ・スクリプト• バックアップ・ツール(TOADなど)• SQL ServerまたはOracleからのバックアップ手順。
運用データ・ストア	リレーショナル・データベース(RDB)	次のオプションを含む、任意のRDBで使用可能な標準バックアップ技術: <ul style="list-style-type: none">• データベース・スクリプト• スケジューラ・スクリプト• バックアップ・ツール(TOADなど)• SQL ServerまたはOracleからのバックアップ手順。

Database	データベース・タイプ	バックアップ・オプション
ブロック・ストレージ・オプション(BSO)と集約ストレージ・オプション(ASO)データベースおよび割当てルール(標準Profitabilityの場合のみ)	Essbase	標準Essbaseバックアップ技術を使用する必要があります。バックアップ手順と復元手順の詳細は、『Oracle Essbaseデータベース管理者ガイド』を参照してください。
詳細Profitabilityのモデル・データ・スキーマ	リレーショナル・データベース(RDB)	次のオプションを含む、任意のRDBで使用可能な標準バックアップ技術: <ul style="list-style-type: none"> • データベース・スクリプト • スケジューラ・スクリプト • バックアップ・ツール(TOADなど) • SQL ServerまたはOracleからのバックアップ手順。

バックアップ手順と復元手順の詳細は、Oracle Enterprise Performance Management Systemバックアップおよびリカバリ・ガイドを参照してください。



Essbase命名規則

この項の内容:

生成された計算スクリプトの命名規則	253
アプリケーションとデータベースのEssbase命名規則	254
ディメンション、メンバーおよび別名のEssbase命名規則	255
属性計算ディメンションのEssbase命名規則	258

生成された計算スクリプトの命名規則

Oracle Hyperion Profitability and Cost ManagementによってEssbaseスクリプトが生成される場合、これらのスクリプトは自動的に特定の命名規則を使用して名前が付けられます。ドライバ計算スクリプトと配賦計算スクリプトは、ステージごとに1つのスクリプトに結合されます。スクリプト名は、次のフォーマットで作成されます:

スクリプト名の文字列 = スクリプトの接尾辞 + POV識別子 + ステージ順序番号 + "_" + インデックス;

- スクリプトの接尾辞は、スクリプトのタイプに基づいています。次の表は、接尾辞のリストを示します。

表53 計算スクリプトの接尾辞

スクリプトのタイプ	費用レイヤー	収益レイヤー
ステージ間配賦	"a"	"r"
ステージ内配賦	"i"	"t"

- POV識別子は、POV IDに基づいており、最大3桁まで使用できます。POVごとにスクリプトが生成されて識別されます。
- ステージ順序番号は、ソース・ステージの順序番号です(1、2、3など)。
- スクリプトの分割のために複数のスクリプトが生成される場合、「_インデックス」には、同じタイプ、POV、ステージおよびレイヤーに対して数値シーケンスが表示されます。最初が_01、次が_02のように続きます。

サンプル・スクリプト名

- a3682_01.cscは、POV識別子368、ソース・ステージ2、および費用レイヤーの計算スクリプトを示します。
- t4533_02.cscは、POV識別子453、ソース・ステージ3、および収益レイヤーのステージ内計算スクリプトを示します。

アプリケーションとデータベースのEssbase命名規則

アプリケーションとデータベースの名前を作成する場合、単語を表示するとおりに大文字と小文字を区別して名前を入力します。アプリケーション名またはデータベース名は、入力したとおりに作成されます。たとえば、すべて大文字で名前を入力した場合(例: NEWAPP)、Essbaseによって自動的に、最初が大文字で後は小文字に変換されることはありません(例: Newapp)。



注:

次のリストは、制限の一部を示します。すべての制限の完全なリストについては、『Oracle Essbase データベース管理者ガイド』を参照することをお勧めします:

次の命名規則は、アプリケーションとデータベースに名前を付ける際に適用されます:

- Unicodeモード以外のアプリケーションおよびデータベース名で使用できるのは、8バイト未満です。
- Unicodeモードのアプリケーションおよびデータベース名で使用できるのは、30文字未満です。
- 名前ではスペースを使用しないでください。
- 名前の中に次の特殊文字を使用しないでください:
 - *(アスタリスク)
 - +(プラス記号)
 - ¥(円記号(バックスラッシュ))
 - ?(疑問符)
 - [(大かっこ)
 - "(二重引用符)
 - :(コロン)
 - ;(セミコロン)
 - ,(カンマ)
 - '(一重引用符)
 - =(等号)
 - /(スラッシュ)
 - >(大なり記号)
 - タブ
 - <(小なり記号)
 - |(縦棒)
 - .(ピリオド)
- 集約ストレージ・データベースの場合のみ、アプリケーション名またはデータベース名に次の語を使用しないでください:
 - DEFAULT
 - LOG
 - METADATA
 - TEMP

ディメンション、メンバーおよび別名のEssbase命名規則

ディメンショナル・アウトラインを定義する場合、ディメンション、メンバーおよび別名の命名用として使用できない制限文字があります。この項では、最も一般的な制限文字のリストを示します; ただし、完全なリストについては『Oracle Essbase データベース管理者ガイド』のEssbase命名規則に関する項を参照することをお勧めします。



注:

次のリストは、制限の一部を示します。すべての制限の完全なリストについては、『Oracle Essbase データベース管理者ガイド』を参照することをお勧めします:

ディメンション、メンバーおよび別名を命名する場合は、次の命名規則に従ってください:

- Unicodeモード以外のディメンション、メンバー、または別名では、80バイト未満を使用してください。
- Unicodeモードのディメンション、メンバー、または別名では、80文字未満を使用してください。
- 大/小文字は、大/小文字の区別が使用可能になっている場合のみ区別してください。大/小文字の区別を使用可能にするには、『Oracle Essbase データベース管理者ガイド』のアウトラインのプロパティの設定に関する項を参照してください。
- ディメンション名、メンバー名、別名、説明では、HTMLタグは使用しないでください。
- 名前の中に、引用符、ピリオド、大かっこ、円記号(バックスラッシュ)またはタブを使用しないでください。



注意

大かっこは使用できますが、集約ストレージ・アウトラインに変換する場合にエラーの原因となることがあるため、ブロック・ストレージ・アウトラインでは推奨されていません。

- 同じディメンション内で重複するメンバー名または別名は使用できません。
- ディメンション名またはメンバー名の先頭に、次の文字を使用しないでください:
 - アット・マーク(@)
 - 円記号(バックスラッシュ)(¥)
 - 大かっこ([])
 - カンマ(,)
 - ダッシュ
 - ハイフン
 - マイナス記号(-)
 - 等号(=)
 - 小なり記号(<)
 - 丸かっこ(())
 - ピリオド(.)
 - プラス記号(+)
 - 一重引用符(')
 - 引用符(")

- アンダースコア(_)
- 縦棒(|)
- 名前の先頭または末尾にスペースを入れないでください。Essbaseではこれらは無視されます。
- メンバー名ではスラッシュ(/)は使わないでください。
- カスタム・カレンダーの期間で、接頭辞にスペースは使用できません。
- デイメンション名またはメンバー名に、次のアイテムを使用しないでください。
 - 計算スクリプト・コマンド、演算子またはキーワード。コマンドの完全なリストについては、『Oracle Essbaseデータベース管理者ガイド』を参照してください。
 - レポート・ライターのコマンド
 - 関数名および関数の引数
 - 動的時系列が使用可能な場合、履歴、年、季、期間、四半期、月、週または日は使用しません。
 - 他のデイメンションの名前、他のメンバーの名前(メンバーが共有でない場合)、世代名、レベル名およびデータベースでの別名。
- 次の語を使用しないでください:
 - ALL
 - AND
 - ASSIGN
 - AVERAGE
 - CALC
 - CALCMBR
 - COPYFORWARD
 - CROSSDIM
 - CURMBRNAME
 - DIM
 - DIMNAME
 - DIV
 - DYNAMIC
 - EMPTYPARM
 - EQ
 - EQOP
 - EXCEPT
 - EXP
 - EXPERROR
 - FLOAT
 - FUNCTION
 - GE
 - GEN
 - GENRANGE
 - GROUP

○GT
○ID
○IDERROR
○INTEGER
○LE
○LEVELRANGE
○LOOPBLOCK
○LOOPPARMS
○LT
○MBR
○MBRNAME
○MBRONLY
○MINUS
○MISSING
○MUL
○MULOP
○NE
○NON
○NONINPUT
○NOT
○OR
○PAREN
○PARENPARM
○PERCENT
○PLUS
○RELOP
○SET
○SKIPBOTH
○SKIPMISSING
○SKIPNONE
○SKIPZERO
○TO
○TOLOCALRATE
○TRAILMISSING
○TRAILSUM
○UMINUS
○UPPER
○VARORXMBR

- XMBRONLY
- \$\$UNIVERSE\$\$
- #MISSING
- #MI

属性計算ディメンションのEssbase命名規則

Essbaseによって属性計算ディメンションに作成されるメンバー(Sum、Count、Min、MaxおよびAvg)は、予約語とみなされません。これは、これらの名前を属性計算ディメンションで変更してから、属性ディメンションまたは標準ディメンションで標準名を使用できるためです。

アウトラインに一意のメンバー・アウトラインのタグが付けられている場合、Sum、Count、Min、MaxおよびAvgをメンバー名として使用しないようにしてください。たとえば、Maxを標準ディメンションとして使用してから、属性ディメンションを作成すると、Essbaseによってこの属性計算ディメンションにMaxメンバーが作成され、Essbaseによって重複名が検出され、次のエラー・メッセージが戻されます:

"Analytic Serverエラー(1060115): 属性の計算ディメンション/メンバー名はすでに使用されています。"

アウトラインに重複メンバー・アウトラインのタグが付けられており、Sum、Count、Min、MaxおよびAvgを基本メンバーとして使用する前に属性ディメンション(したがって属性計算ディメンション)が存在している場合、Oracle Essbaseでは重複名が許可されます。ただし、属性ディメンションを作成する前に合計、Sum、Count、Min、MaxおよびAvgを基本メンバーとして使用する場合、重複名は許可されません。